

令和 2 年度

処分場自然共生調査（海生生物生育状況調査）

報 告 書



令和 2 年 9 月

株式会社エヌ・イー サポート 大阪支店

目 次

1 調査概要	1
1-1 調査名称	1
1-2 目 的	1
1-3 調査場所	1
1-4 調査内容	1
1-5 履行期間	1
1-6 請負者	1
2 調査方法	4
2-1 事前周知・手続き等	4
2-2 坪刈りによる付着動植物調査	4
2-3 目視による付着動植物調査	8
2-4 遊泳魚類等調査	9
2-5 水質調査	10
2-6 藻場分布調査	11
3 調査結果	15
3-1 調査実施日	15
3-2 坪刈りによる付着動植物調査	16
3-2-1 植物（海藻）	16
(1) 神戸沖埋立処分場	16
(2) 大阪沖埋立処分場	18
(3) 泉大津沖埋立処分場	20
3-2-2 動物（付着動物）	24
(1) 神戸沖埋立処分場	24
(2) 大阪沖埋立処分場	24
(3) 泉大津沖埋立処分場	25
3-3 目視による付着動植物調査	34
3-3-1 植物（海藻）	34
(1) 神戸沖埋立処分場	34
(2) 大阪沖埋立処分場	38
(3) 泉大津沖埋立処分場	41
3-3-2 動物（付着動物）	46
(1) 神戸沖埋立処分場	46
(2) 大阪沖埋立処分場	49
(3) 泉大津沖埋立処分場	52
3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物）	59
(1) 神戸沖埋立処分場	59
(2) 大阪沖埋立処分場	63
(3) 泉大津沖埋立処分場	67

3-4 遊泳魚類等調査	69
(1) 神戸沖埋立処分場	69
(2) 大阪沖埋立処分場	71
(3) 泉大津沖埋立処分場	73
3-5 水質調査	78
(1) 神戸沖埋立処分場	78
(2) 大阪沖埋立処分場	83
(3) 泉大津沖埋立処分場	88
3-6 藻場分布調査	93
3-6-1 代表地点における目視観察結果	93
(1) 神戸沖埋立処分場	93
(2) 大阪沖埋立処分場	94
3-6-2 代表地点における定量採取結果	96
(1) 神戸沖埋立処分場	96
(2) 大阪沖埋立処分場	98
3-6-3 藻場分布状況	100
(1) 神戸沖埋立処分場	100
(2) 大阪沖埋立処分場	156
4 結果のまとめ	211
4-1 付着動植物の状況	211
(1) 神戸沖埋立処分場	211
(2) 大阪沖埋立処分場	219
(3) 泉大津沖埋立処分場	227
4-2 遊泳魚類等の状況	240
(1) 神戸沖埋立処分場	240
(2) 大阪沖埋立処分場	240
(3) 泉大津沖埋立処分場	240
4-3 水質等の状況	242
(1) 神戸沖埋立処分場	242
(2) 大阪沖埋立処分場	243
(3) 泉大津沖埋立処分場	244
4-4 藻場分布の状況	245
(1) 神戸沖埋立処分場	245
(2) 大阪沖埋立処分場	247
4-5 まとめ(要約)	249
(1) 神戸沖埋立処分場	249
(2) 大阪沖埋立処分場	251
(3) 泉大津沖埋立処分場	252

- ・ 資料編
- ・ 写真集

1 調査概要

1-1 調査名称

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

1-2 目的

本調査は、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場および泉大津沖埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として実施した。

1-3 調査場所

神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場および泉大津沖埋立処分場の護岸（図 1-1）

1-4 調査内容

調査内容を表 1-1 に示す。

表 1-1 調査内容

名 称	項 目	単位	数量	摘 要
計画・準備	計画準備	式	1	
調査実施	坪刈りによる付着動植物調査	地点	5	神戸、大阪 各 1 地点、泉大津 3 地点 1 回
	目視による付着動植物調査	地点	11	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 5 地点 1 回
	遊泳魚類等調査	地点	11	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 5 地点 1 回
	水質調査	地点	9	神戸、大阪、泉大津 各 3 地点 1 回
	藻場分布調査	km	7.1	神戸 3.4km、大阪 3.7km 1 回
解析評価	調査結果等の解析評価	式	1	
	報告書の作成	式	1	

1-5 履行期間

自：令和 2 年 5 月 12 日 ～ 至：令和 2 年 9 月 30 日

1-6 請負者

株式会社エヌ・イー サポート 大阪支店

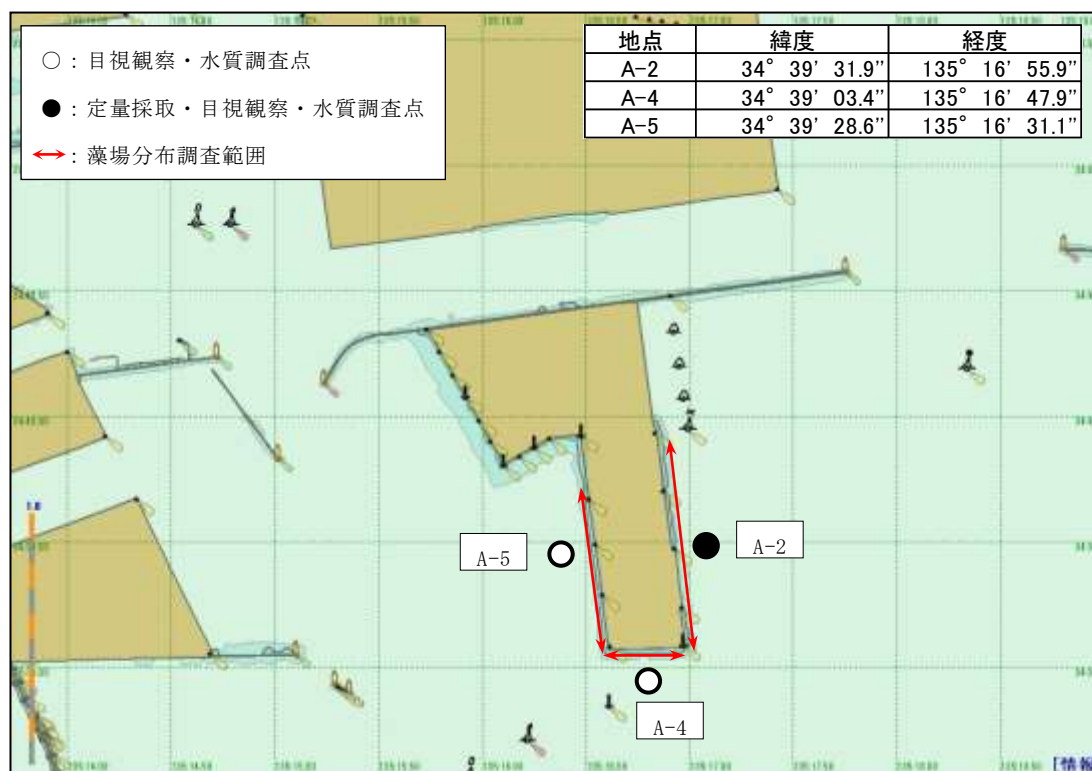


図 1-1 (1) 調査位置図（神戸沖埋立処分場）

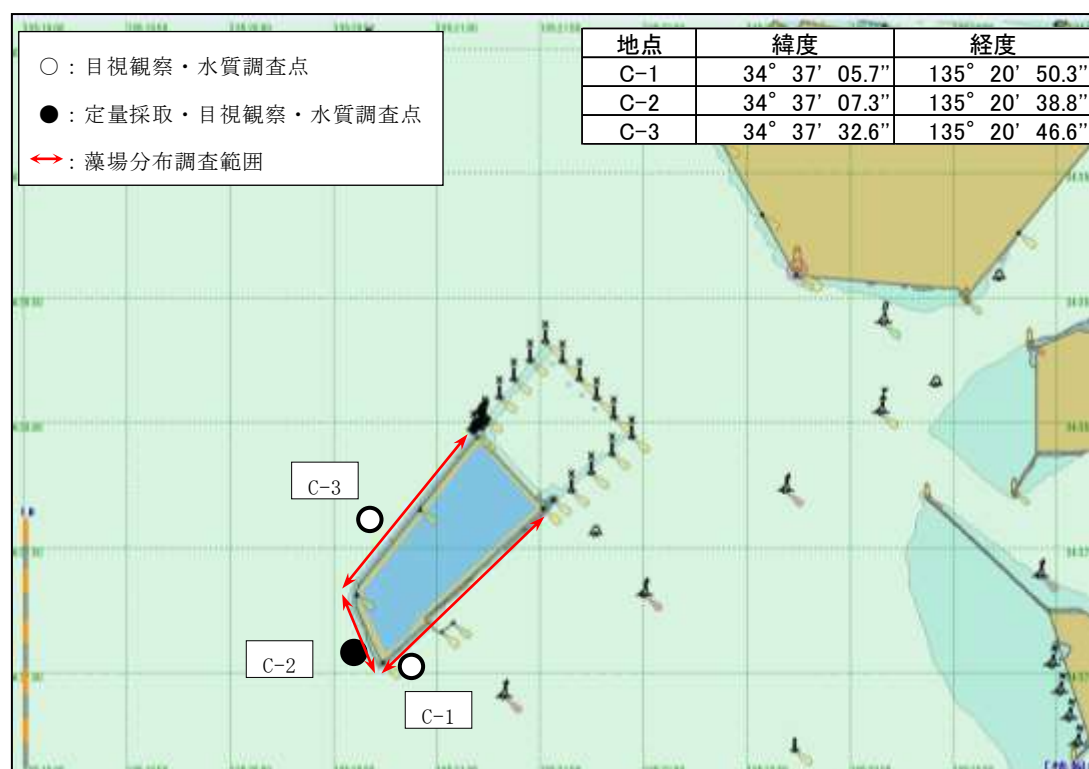


図 1-1 (2) 調査位置図（大阪沖埋立処分場）

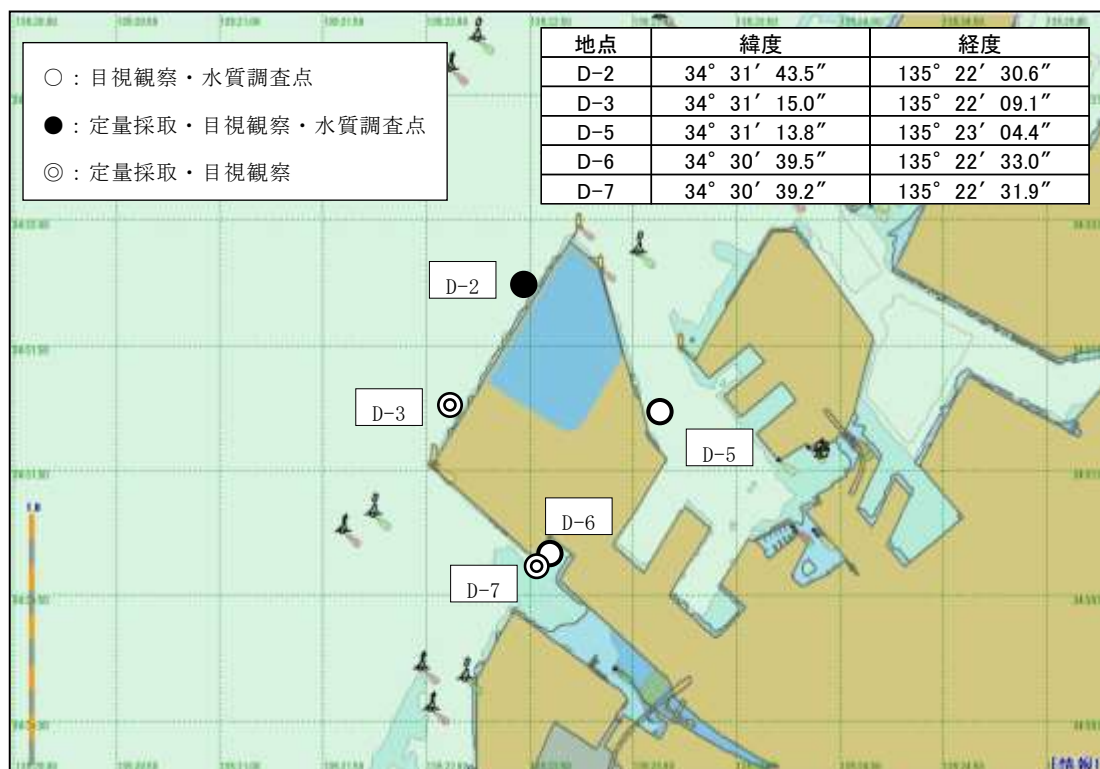


図 1-1 (3) 調査位置図（泉大津沖埋立処分場）

2 調査方法

2-1 事前周知・手続き等

関係機関に対して、調査実施に係る内容説明の周知を行った。また同時に、海上保安部（阪神港長宛）に対する港内作業許可申請、兵庫県および大阪府に対して特別採捕許可の申請を行った。

2-2 坪刈りによる付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 1 点（A-2）、大阪沖埋立処分場 1 点（C-2）、泉大津沖埋立処分場：3 点（D-2、D-3、D-7）の計 5 点において、坪刈りによる動植物の定量採取を行った。

各調査地点で鉛直方向の上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で、50cm×50cm の方形枠を設置し、水中カメラを用いて撮影後、採取した。ただし、泉大津沖の D-7 については Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁の 3 箇所、上層（平均海面±0m）、中層（L. W. L+0.25m）の各箇所 2 層において、パネルに合わせた H20cm×W5cm の方形枠を使用し、他地点と同様に資料採取、カメラ撮影を実施した。採取した試料は現地で 1mm 目のフルイでふるい分けを行った後、試料容器に分取し持ち帰り、植物については種の同定、種類別湿重量の測定、動物については種の同定、種類別個体数の計測、種類別湿重量の測定を行った。

表 2-1 坪刈りによる付着動植物調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
植物（種の同定・種類別湿重量） 動物（種の同定・種類別個体数・湿重量）	坪刈り水深（各点、3 層） 上層：平均海面±0m 中層：平均海面-2m 下層：平均海面-4m	神戸沖埋立処分場：1 点（A-2） 大阪沖埋立処分場：1 点（C-2） 泉大津沖埋立処分場：2 点（D-2、D-3）
	坪刈り箇所（3 箇所） ・ Co 製パネル ・ 鋼製パネル ・ 護岸壁 坪刈り水深（各箇所、2 層） 上層：平均海面±0m 中層：L. W. L+0.25m	泉大津沖埋立処分場：1 点（D-7）

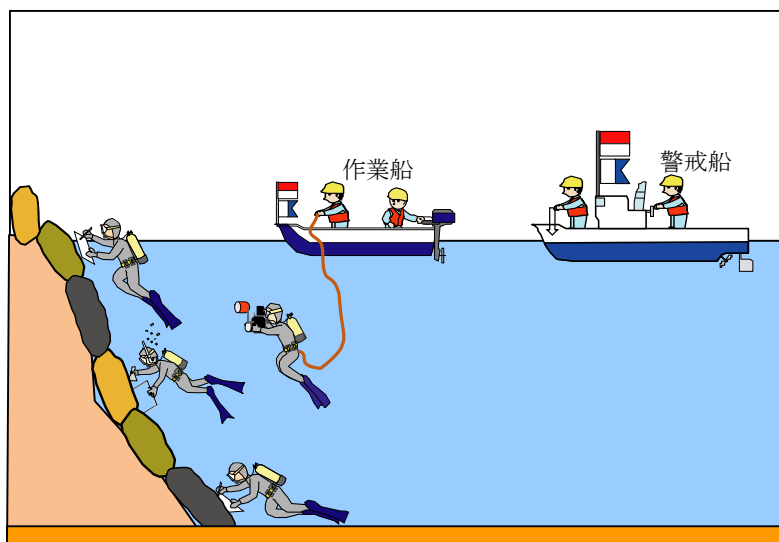


図 2-1 坪刈り、目視等潜水調査 実施状況模式図



写 2-1 泉大津沖エコパネル設置状況

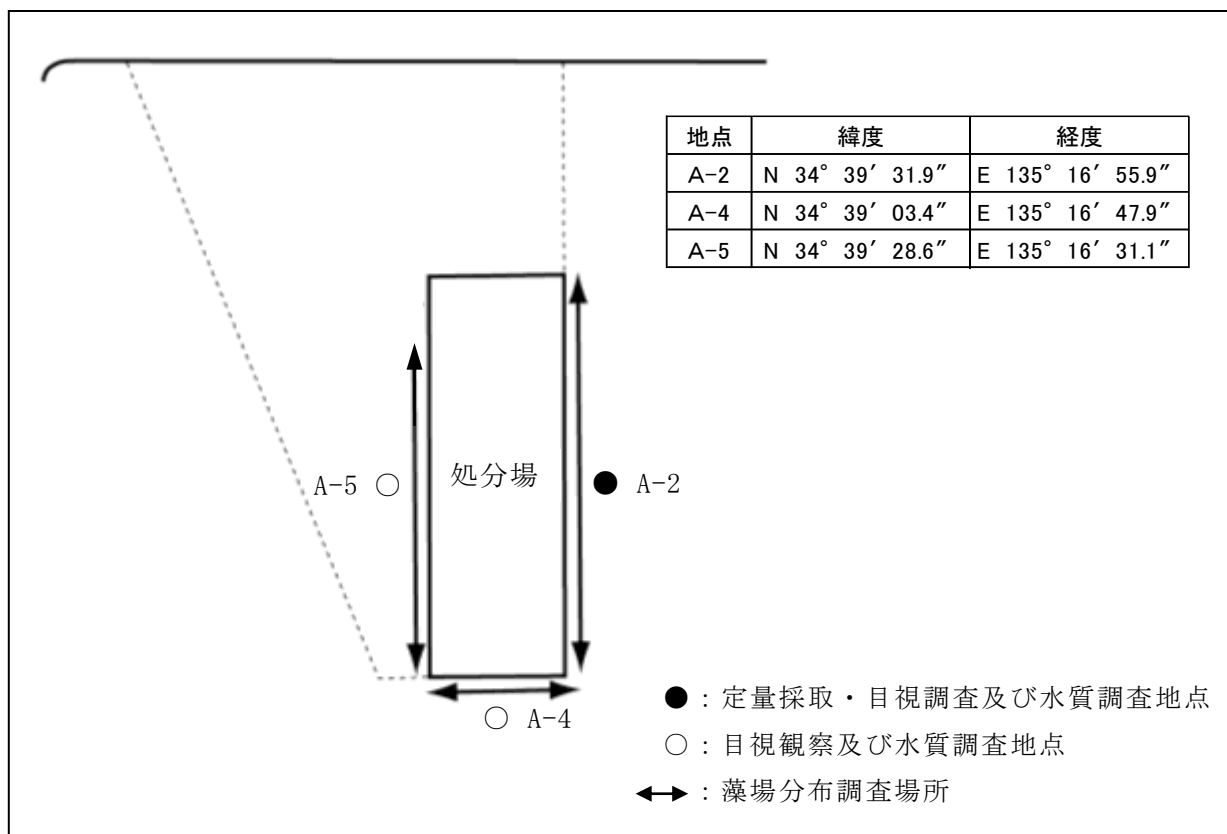


図 2-2(1) 現地調査地点等位置図（神戸沖埋立処分場）

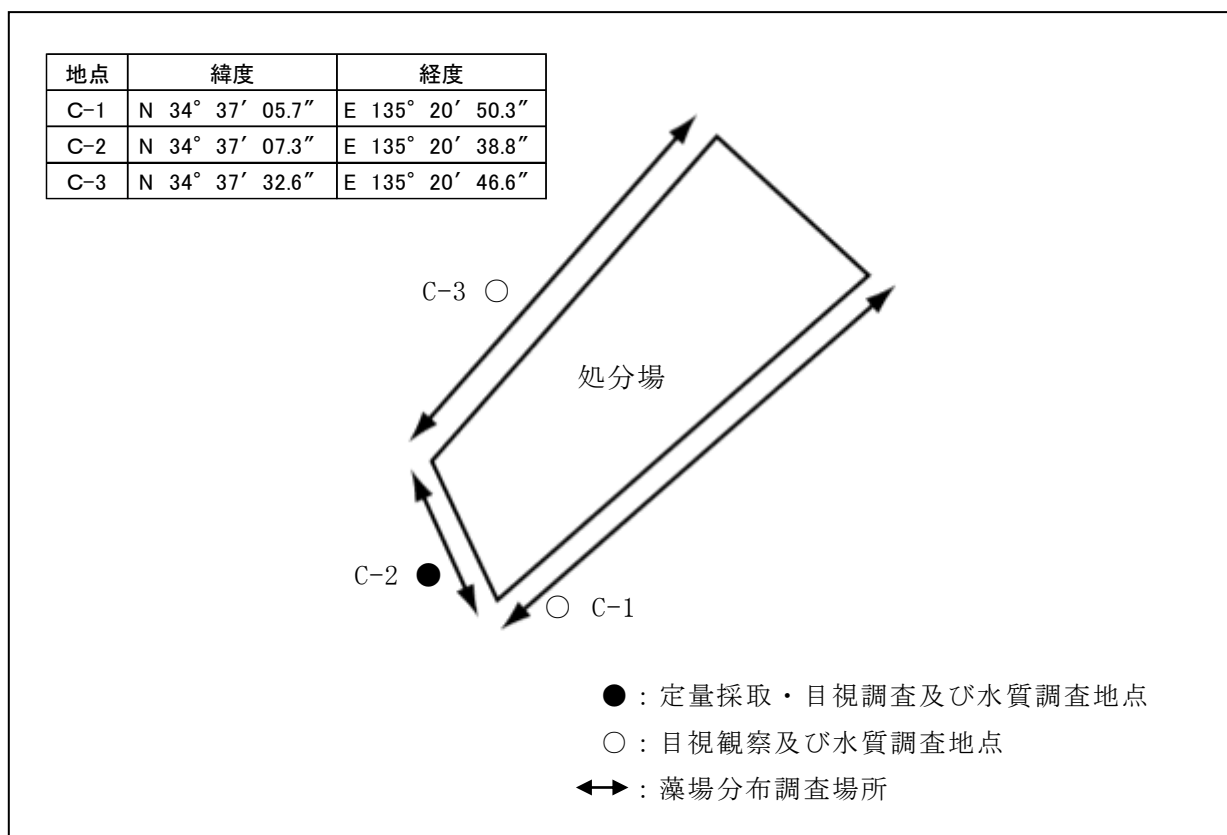


図 2-2(2) 現地調査地点等位置図（大阪沖埋立処分場）

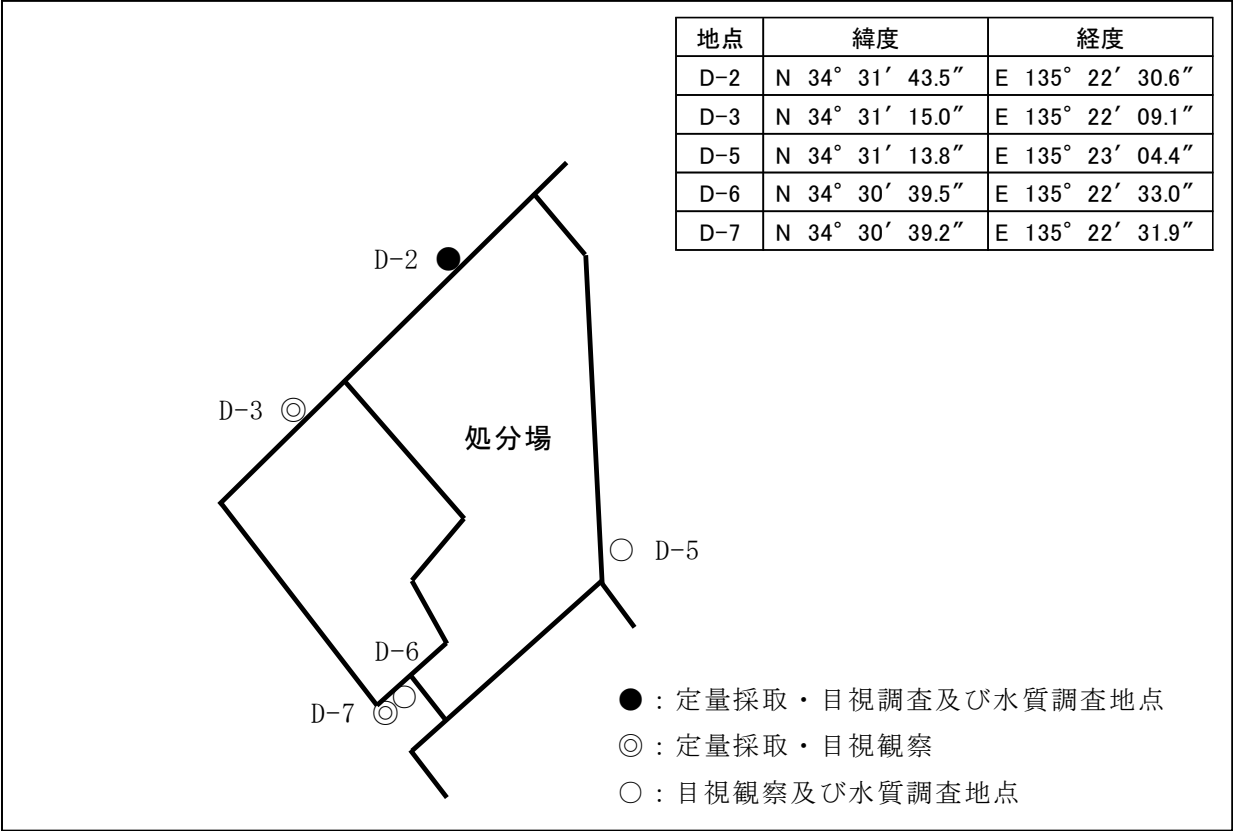


図 2-2 (3) 現地調査地点等位置図（泉大津沖埋立処分場）

2-3 目視による付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 5 点 (D-2、D-3、D-5、D-6、D-7) の計 11 点において、目視観察による動植物の観察を行った。

各調査地点で平均水面+1m から 1m 間隔で海底面まで、水深 1m 毎に 50×50cm の方形枠を設置し、枠内の植物（種類別被度）、動物（種類別被度または個体数）の観察を行った。泉大津沖埋立処分場の 2 地点 (D-5、D-6) については、エコ岸壁が設置されていたため、遊水室内の上面、側面、下面に分けて全体面の観察を実施した。泉大津沖埋立処分場の 1 地点 (D-7) については、護岸壁は平均水面+1m から 1m 間隔で海底面までの観察を、Co 製パネルと鋼製パネルについては設置水深である平均海面±0m と L. W. L+0. 25m の 2 層において、50×50cm の方形枠を設置し、観察を実施した。また、観察箇所については写真撮影による記録を行った。

表 2-2 目視観察による付着動植物調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
目視観察 植物（種類別被度） 動物（種類別被度または個体数）	観察水深帯（各点、1 測線） 平均水面+1m から 1m 間隔 で海底面までを対象	神戸沖埋立処分場：3 点 （A-2、A-4、A-5） 大阪沖埋立処分場：3 点 （C-1、C-2、C-3） 泉大津沖埋立処分場：5 点 （D-2、D-3、D-5、D-6、D-7）

2-4 遊泳魚類等調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 5 点 (D-2、D-3、D-5、D-6、D-7) の計 11 点において、目視観察による遊泳魚類、イカ・タコ類の観察を行った。

各調査地点の護岸周辺に生息している魚類、イカ・タコ類を対象として、潜水目視観察を行い、種類別個体数の記録を行った。なお、個体数は CR 法（表 2-4）によって概略的に把握した。

表 2-3 遊泳魚類等調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
潜水目視観察による種類別個体数 (CR 法※による) の記録	護岸周辺に生息する魚類、イカ・タコ類	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5) 大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：5 点 (D-2、D-3、D-5、D-6、D-7)

※：CR 法 目視観察により確認できた生物の量を段階的に cc (非常に多い) ～rr (非常に少ない) の表記で示す目視観察調査結果の記録方法。

表 2-4 CR 法による個体数区分

記 号	個体数区分
rr	1～2 個体
r	3～10 個体
c	11～50 個体
cc	51 個体以上

2-5 水質調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 3 点 (D-2、D-5、D-6) の計 9 点において、多項目水質計による水質調査を行った。

調査船を GPS 測位により所定の位置に誘導した後、調査船上より透明度板を垂下して透明度を計測した。その後、多項目水質計を用いて水温、塩分、D O、光量子束密度の鉛直測定（海面～海底まで 1m 間隔、海面下 0.5m、海底面上 1m）を行った。

また、調査時の一般気象・海象、水色の記録を行った。

水質調査の調査項目及び方法を表 2-5 に示した。

表 2-5 水質調査 調査方法等

調査項目	調査方法等		調査地点
水温・塩分・D O	多項目水質計による鉛直測定	海面～海底まで 1m 間隔、	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5)
光量子束密度		海面下 0.5m 及び海底面 +1.0m	
透明度	透明度板による測定	透明度は船上から観測	大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：3 点 (D-2、D-5、D-6)

表 2-6 水質調査 使用機器

項 目	使用機器
水温・塩分 溶存酸素 (D O) 光量子束密度	多項目水質計 AAQ176 (JFE アドバンテック社製) 

2-6 藻場分布調査

図 2-3 に示した、神戸沖埋立処分場では陸揚げ栈橋の範囲、北護岸、シルトプロテクターの設置※（写 2-2 参照）により進入不可であった西護岸の北側約 1/4 を除く護岸（3.4km）、大阪沖埋立処分場では東護岸を除く護岸（3.7km）を調査対象として、藻場分布調査を実施した。

調査範囲の護岸に沿って、水中スクーター等を使用して移動しながら藻場の分布状況、構成種の目視観察を行った。

図 2-3、表 2-8 に示した各調査対象護岸で代表的な地点（各 6 地点）で、地点付近の藻場構成種の目視観察と水中写真撮影を行うとともに、方形枠（50 cm×50 cm）内の植物を採取し、持ち帰って種類別湿重量の測定を行った。

藻場分布の分析項目及び分析内容を表 2-7 に示す。

これらの結果と付着動植物調査の結果から、護岸延長を 50m 毎、平均海面から法尻までを 1m 間隔で区切ったメッシュ状の藻場分布図を作成した。

※神戸沖処分場の北側隣接地において浚渫土埋立事業（国事業）に係る護岸建設工事が行われおり、その汚濁防止用に設置されている。

表 2-7 藻場分布調査 調査方法等

調査方法等	分析内容等	調査地点（範囲）
藻場構成種の目視観察を各処分場 6 点（測線）で実施。測線間については、水中スクーターを使用して藻場分布範囲の目視確認を行った。坪刈り調査は、各処分場あたり、6 地点で実施した。	種の同定 種類別湿重量 の測定	神戸沖埋立処分場： 周囲 3.4km 大阪沖埋立処分場： 周囲 3.7km



写 2-2 神戸沖西護岸シルトプロテクター設置状況

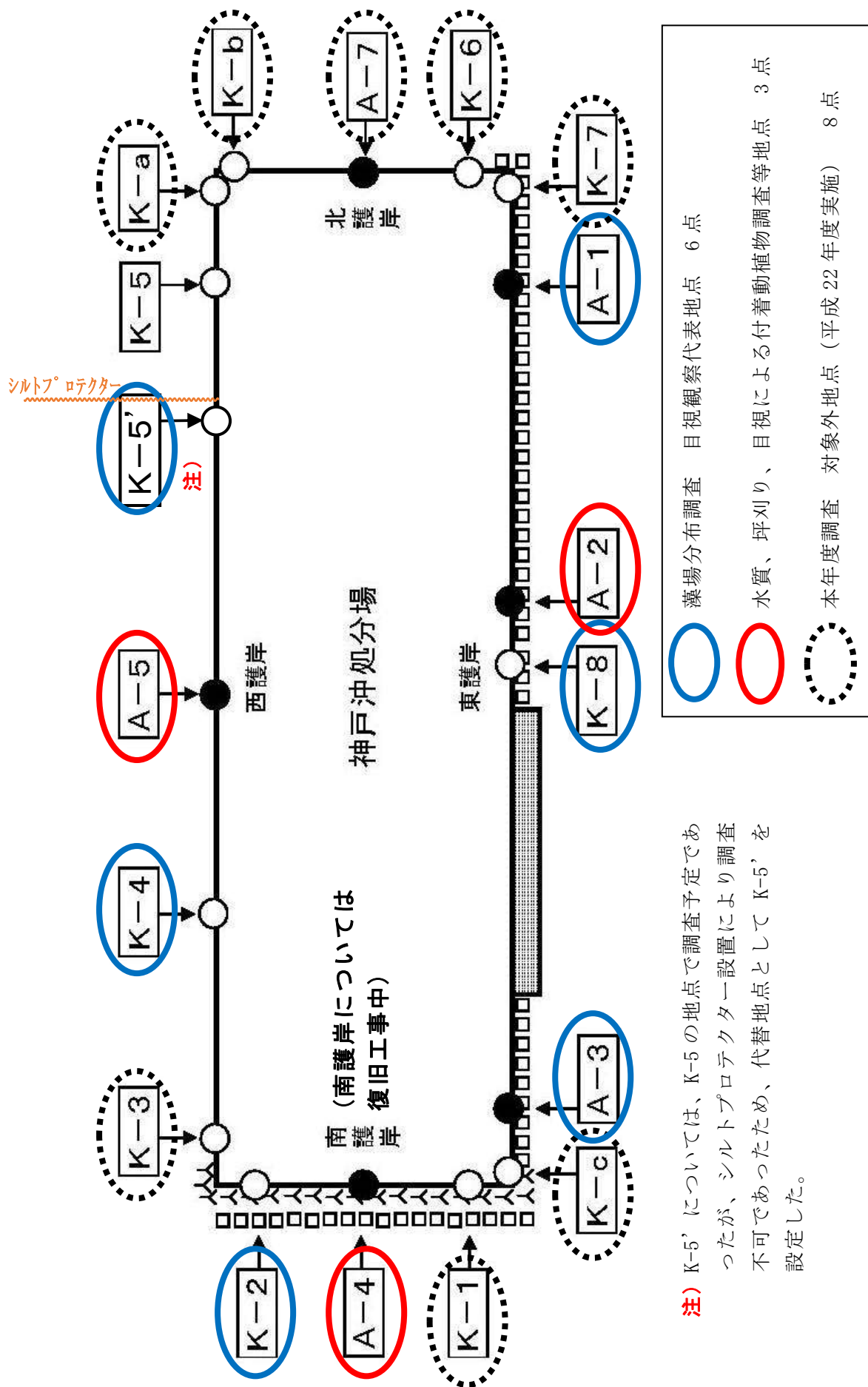


図 2-3 (1) 藻場分布調査 目視観察 代表地点位置図 神戸沖埋立処分場

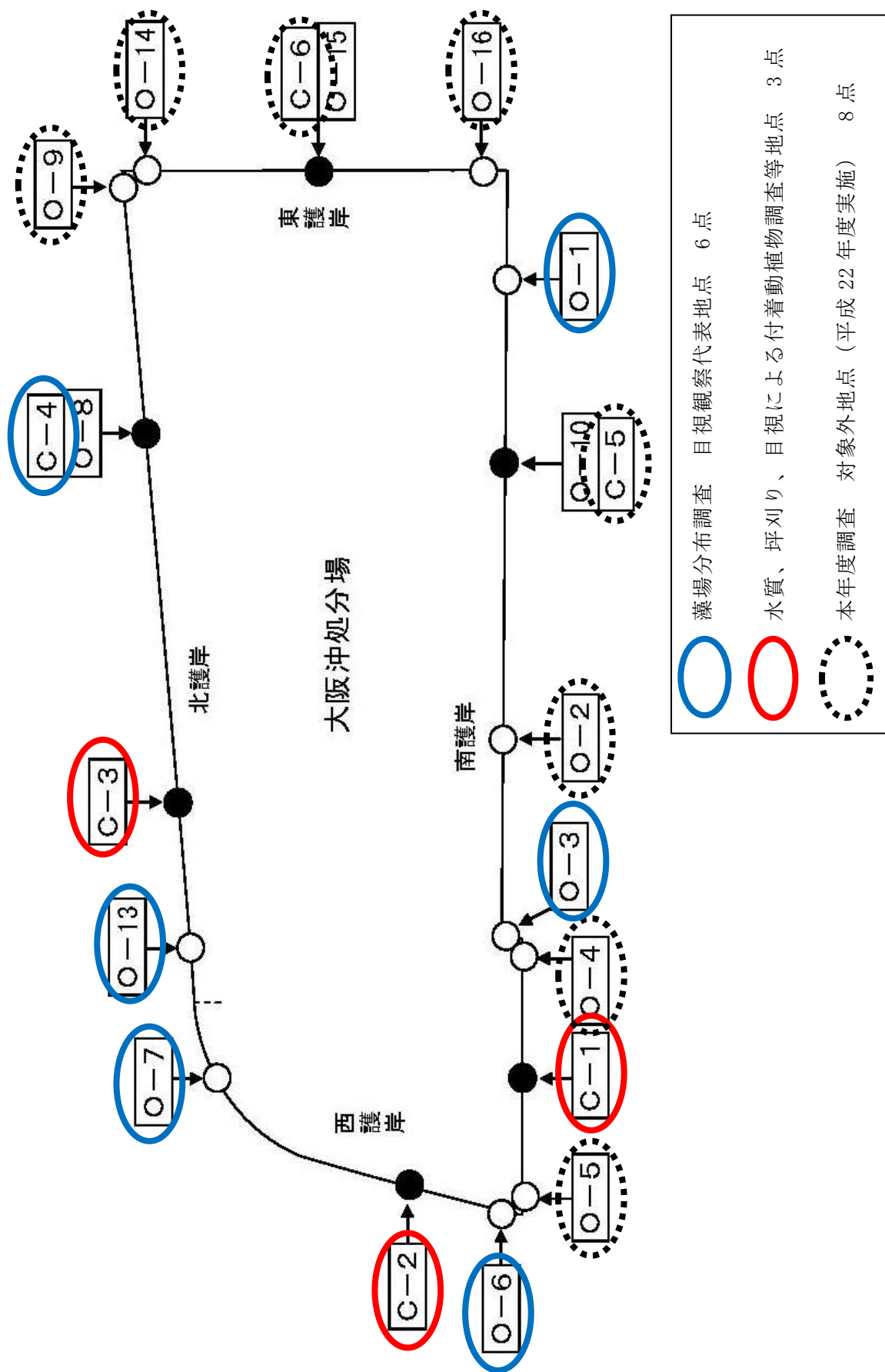


図 2-3 (2) 藻場分布調査 目視観察 代表地点位置図 大阪沖埋立処分場

表 2-8 (1) 藻場分布調査 目視観察代表地点等位置 緯度経度 【神戸沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
A-1	N 34° 39' 53.7"	E 135° 16' 51.7"	藻場分布調査 代表地点
A-2	N 34° 39' 31.9"	E 135° 16' 55.9"	水質、付着動植物等調査地点
A-3	N 34° 39' 10.3"	E 135° 16' 59.9"	藻場分布調査 代表地点
A-4	N 34° 39' 03.4"	E 135° 16' 47.9"	水質、付着動植物等調査地点
A-5	N 34° 39' 28.6"	E 135° 16' 31.1"	水質、付着動植物等調査地点
A-7	N 34° 39' 58.2"	E 135° 16' 39.1"	本年度調査対象外
K-1	N 34° 39' 02.9"	E 135° 16' 58.0"	本年度調査対象外
K-2	N 34° 39' 03.4"	E 135° 16' 36.2"	藻場分布調査 代表地点
K-3	N 34° 39' 04.8"	E 135° 16' 34.9"	本年度調査対象外
K-4	N 34° 39' 09.4"	E 135° 16' 33.4"	藻場分布調査 代表地点
K-5	N 34° 39' 53.5"	E 135° 16' 26.3"	本年度調査対象外
K-5'	N 34° 39' 43.5"	E 135° 16' 30.1"	藻場分布調査 代表地点
K-6	N 34° 39' 59.2"	E 135° 16' 50.2"	本年度調査対象外
K-7	N 34° 39' 58.0"	E 135° 16' 52.1"	本年度調査対象外
K-8	N 34° 39' 31.6"	E 135° 16' 55.4"	藻場分布調査 代表地点
K-a	N 34° 39' 54.8"	E 135° 16' 26.9"	本年度調査対象外
K-b	N 34° 39' 58.2"	E 135° 16' 28.9"	本年度調査対象外
K-c	N 34° 39' 05.5"	E 135° 17' 00.4"	本年度調査対象外

表 2-8 (2) 藻場分布調査 目視観察代表地点等位置 緯度経度 【大阪沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
C-1	N 34° 37' 05.7"	E 135° 20' 50.3"	水質、付着動植物等調査地点
C-2	N 34° 37' 07.3"	E 135° 20' 38.8"	水質、付着動植物等調査地点
C-3	N 34° 37' 32.6"	E 135° 20' 46.6"	水質、付着動植物等調査地点
C-4	N 34° 37' 47.0"	E 135° 20' 59.0"	藻場分布調査 代表地点
C-5	N 34° 37' 29.2"	E 135° 21' 20.1"	本年度調査対象外
C-6	N 34° 37' 48.8"	E 135° 21' 21.5"	本年度調査対象外
O-1	N 34° 37' 35.6"	E 135° 21' 28.7"	藻場分布調査 代表地点
O-2	N 34° 37' 18.2"	E 135° 21' 05.8"	本年度調査対象外
O-3	N 34° 37' 11.9"	E 135° 20' 59.3"	藻場分布調査 代表地点
O-4	N 34° 37' 10.9"	E 135° 20' 57.1"	本年度調査対象外
O-5	N 34° 37' 01.9"	E 135° 20' 45.2"	本年度調査対象外
O-6	N 34° 37' 02.9"	E 135° 20' 42.4"	藻場分布調査 代表地点
O-7	N 34° 37' 19.0"	E 135° 20' 34.8"	藻場分布調査 代表地点
O-9	N 34° 37' 56.6"	E 135° 21' 09.7"	本年度調査対象外
O-13	N 34° 37' 25.8"	E 135° 20' 39.4"	藻場分布調査 代表地点
O-14	N 34° 37' 56.5"	E 135° 21' 12.6"	本年度調査対象外
O-16	N 34° 37' 40.2"	E 135° 21' 30.6"	本年度調査対象外

3 調査結果

3-1 調査実施日

各現地調査は、関係機関との調整、港内作業および特別採捕の許可を受け（表 3-2）、表 3-1 に示す令和 2 年 5 月 31 日（神戸沖埋立処分場）、令和 2 年 5 月 24 日（大阪沖埋立処分場）および令和 2 年 5 月 30 日（泉大津沖埋立処分場）に実施した。

表 3-1 現地調査実施日

調査箇所	調査実施日
神戸沖埋立処分場	令和 2 年 5 月 31 日（日）
大阪沖埋立処分場	令和 2 年 5 月 24 日（日）
泉大津沖埋立処分場	令和 2 年 5 月 30 日（土）

表 3-2 現地調査に関する港内作業および特別採捕許可

種 別	調査箇所	海 域	許可者	許可日	許可番号等
港内作業許可	大阪沖	阪神港大阪区	阪神港長	令和 2 年 5 月 20 日	大第 232 号
	神戸沖	阪神港神戸区	阪神港長	令和 2 年 5 月 19 日	神第 225 号
	泉大津沖	阪神港堺泉北区	阪神港長	令和 2 年 5 月 21 日	堺第 128 号
特別採捕許可	大阪沖	大阪沖処分場 周辺海域	大阪府知事	令和 2 年 5 月 20 日	水 第 1157-16 号 特 第 2-16 号
	泉大津沖	泉大津沖処分場 周辺海域			
	神戸沖	神戸沖処分場 周辺海域	兵庫県知事	令和 2 年 5 月 26 日	2 加特第 7 号

3-2 坪刈りによる付着動植物調査

3-2-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-3 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の3層で50×50cmの枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。写 3-1 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

神戸沖では、12～19種の海藻が出現し、中層、下層の種類数が多かった。湿重量では30.58～138.94（g/0.25 m²）の海藻が採取され、タマハハキモクの繁茂する中層で最も多くなっていた。

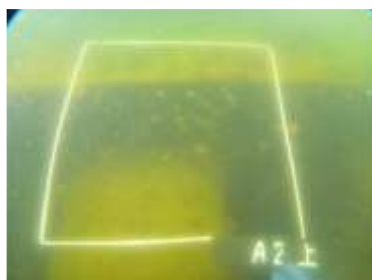
種別では上層ではツノマタ、中層ではタマハハキモク、下層ではマクサが最も多く確認され、藻場を形成する大型褐藻として、中層でタマハハキモクがみられた。

表 3-3 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場 (A-2 海藻)

調査地点						神戸沖		
採番号						A-2-上	A-2-中	A-2-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサノリ属	0.01	
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサ属	3.20	1.96
3	緑色植物	緑藻	シオグサ	シオグサ	Cladophora sp.	シオグサ属	0.35	0.02
4	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル	12.62	0.08
5	緑色植物	緑藻	ハサモ	ツノイト	Derbesiaceae	ツノイト科		
6	黄色植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	Ectocarpaceae	シオミドロ科		0.22
7	黄色植物	褐藻	クロカシラ	クロカシラ	Sphacelaria sp.	クロカシラ属	0.61	0.03
8	黄色植物	褐藻	アミシグサ	アミシグサ	Pachydictyon coriaceum	サナダグサ		
9	黄色植物	褐藻	カサノリ	カサノリ	Colpomenia sinuosa	ツクロノリ	2.81	0.35
10	黄色植物	褐藻	カサノリ	カサノリ	Scytosiphon lomentaria	カサノリ		
11	黄色植物	褐藻	コンフ	チカイソ	Undaria pinnatifida	ワカメ		
12	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum filicinum	シタモク		
13	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum muticum	タマハキモク		98.53
14	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum sp.	ホンダウラ属		
15	紅色植物	紅藻	アクロカエティウム	アクロカエティウム	Acrochaetiaceae	アクロカエティウム科		
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera	ヒリヒバ		0.02
17	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae	サンゴモ科		*
18	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium crinale	ハイトンクサ	1.95	0.32
19	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium elegans	マクサ	0.19	17.43
20	紅色植物	紅藻	スキノリ	イソモカ	Caulacanthus ustulatus	イタナツツ		0.13
21	紅色植物	紅藻	スキノリ	スサカハニ	Halarachnion latissimum	スサカハニ		0.26
22	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus chamissoi	シキンノリ		
23	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus intermedius	カイノリ		0.21
24	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus giganteus	オハツノマタ		0.49
25	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus ocellatus	ツノマタ	79.38	5.19
26	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus sp.	ツノマタ属		0.06
27	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia asiatica	ムカデノリ		4.17
28	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia lanceolata	フタラウ		0.44
29	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia turuturu	ツルツル		0.67
30	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia sp.	ムカデノリ属		0.05
31	紅色植物	紅藻	スキノリ	イワノカワ	Peyssonneliaceae	イワノカワ科		
32	紅色植物	紅藻	スキノリ	オキツノリ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	オキツノリ		0.07
33	紅色植物	紅藻	オゴノリ	オゴノリ	Gracilaria textorii	カハノリ		10.73
34	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フツツナギ	Binghamia californica	カエルデグサ		0.06
35	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フツツナギ	Lomentaria hakodatensis	コスジフツツナギ	0.07	
36	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	マサコシバリ	Rhodymenia intricata	マサコシバリ		
37	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Antithamnion sp.	フツツナギ属		
38	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Centroceras gasparrini	トゲイグス		+
39	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramium sp.	イグス属		+
40	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Pterothamnion sp.	ヨツナギ属		+
41	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramiales	イグス科		0.18
42	紅色植物	紅藻	イグス	ダシマ	Dasya sp.	ダシマ属		
43	紅色植物	紅藻	イグス	フシマツモ	Polysiphonia sp.	イトクサ属	0.03	1.28
44	紅色植物	紅藻	イグス	フシマツモ	Symphocladia sp.	ユサヅモ属		+
45	藍色植物	藍藻	—	—	CYANOPHYCEAE	藍藻綱	0.19	0.01
種類数						12	16	19
湿重量(g)合計						101.41	138.94	30.58

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層



中 層



下 層

写 3-1 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-4 に大阪沖埋立処分場 (C-2) における坪刈り調査の結果を示した。上層 (平均海面±0m)、中層 (平均海面-2m)、下層 (平均海面-4m) の3層で50×50cmの枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。写 3-2 には調査箇所の状況 (海藻類採取前) を示した。

大阪沖では、6～17種の海藻が確認され、中層、下層の種類数が多かった。湿重量では42.20～1,007.19 (g/0.25 m²) の海藻が採取され、ワカメの繁茂する下層で最も多くなっていた。

種別では上層、下層ではワカメ、中層ではオオバツノマタが最も多く、藻場を形成する大型褐藻として、上層から下層までワカメが、下層でシダモクがみられた。

表 3-4 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場 (C-2)

調査地点						大阪沖		
枠番号						C-2-上	C-2-中	C-2-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.		+	
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	2.92	2.12	1.89
3	緑色植物	緑藻	シクサ	シクサ	Cladophora sp.	0.11	0.19	+
4	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile			
5	緑色植物	緑藻	ハネモ	ツノイト	Derbesiaceae			
6	黄色植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	Ectocarpaceae		+	
7	黄色植物	褐藻	クロカシラ	クロカシラ	Sphacelaria sp.			0.01
8	黄色植物	褐藻	アミシクサ	アミシクサ	Pachydictyon coriaceum			51.88
9	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Colpomenia sinuosa			
10	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Scytosiphon lomentaria			
11	黄色植物	褐藻	コンフ	チカイイ	Undaria pinnatifida	39.12	238.77	671.19
12	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum filicinum			200.81
13	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum muticum			
14	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum sp.			2.69
15	紅色植物	紅藻	アクロカエティウム	アクロカエティウム	Acrochaetiaceae		+	
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera			
17	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae			
18	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium crinale			
19	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium elegans			
20	紅色植物	紅藻	スキノリ	イモツカ	Caulacanthus ustulatus			
21	紅色植物	紅藻	スキノリ	スサケヘニ	Halarachnion latissimum			
22	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus chamissoi			
23	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus intermedius			
24	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus giganteus		263.16	
25	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus ocellatus		2.60	
26	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus sp.	0.05	48.56	15.31
27	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia asiatica		0.43	2.87
28	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia lanceolata		61.72	
29	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia turuturu			1.91
30	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia sp.			
31	紅色植物	紅藻	スキノリ	イノカワ	Peyssonneliaceae			
32	紅色植物	紅藻	スキノリ	オキツノリ	Ahnfeltiopsis flabelliformis			
33	紅色植物	紅藻	オゴノリ	オゴノリ	Gracilaria textorii			57.87
34	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フツツキ	Binghamia californica			0.42
35	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フツツキ	Lomentaria hakodatensis			
36	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	マサコシバリ	Rhodymenia intricata			0.31
37	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Antithamnion sp.		+	
38	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Centroceras gasparrini			
39	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramium sp.		0.02	+
40	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Pterothamnion sp.			0.02
41	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramiceae			0.01
42	紅色植物	紅藻	イグス	ダシマ	Dasya sp.			
43	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Polysiphonia sp.	+	0.01	+
44	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Symphycladia sp.			
45	藍色植物	藍藻	—	—	CYANOPHYCEAE	+		
種類数						6	14	17
湿重量(g)合計						42.20	617.58	1007.19

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層



中 層



下 層

写 3-2 坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-5 に泉大津沖埋立処分場の 3 点 (D-2、D-3、D-7) における坪刈り調査の結果を示した。D-2、D-3 については上層 (平均海面±0m)、中層 (平均海面-2m)、下層 (平均海面-4m) の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。D-7 については Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁の 3 箇所、上層 (平均海面±0m)、中層 (L. W. L+0.25m) の各箇所 2 層において、パネルに合わせた H20cm×W5cm の枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。写 3-3 には調査箇所の状況 (海藻類採取前) を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、6～10 種の海藻が確認され、中層、下層で種類数が多かった。湿重量では 8.87～312.90 (g/0.25 m²) の海藻が採取され、シキンノリが繁茂していた下層で最も多くなっていた。

種別では上層、中層ではアオサ属、下層ではシキンノリが最も多く、藻場を形成する大型褐藻はみられなかった。

・地点 D-3

D-3 の地点では、7～9 種の海藻が確認され、各層の種類数の差は小さかった。湿重量では 4.88～47.82 (g/0.25 m²) の海藻が採取され、ワカメが出現した中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではムカデノリ、中層、下層ではワカメが最も多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層、下層でワカメがみられた。

・地点 D-7

D-7 の地点では、1～6 種の海藻が確認され、護岸壁の中層で最も種類数が多かった。Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁ともに上層より中層の方が種類数は多くなっていた。湿重量では 0.01～3.23 (g/0.01 m²) の海藻が採取され、ムカデノリの生育がみられる護岸壁の中層で最も多くなっていた。Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁ともに上層より中層の方が湿重量は多い。

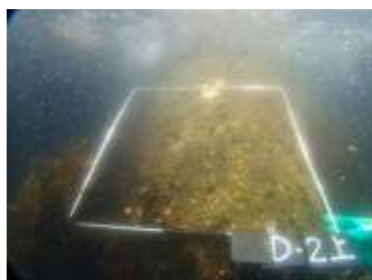
種別では Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁ともに上層ではアオノリ属、アオサ属といった緑藻類がわずかにみられるのみであった。中層では、Co 製パネル、鋼製パネルにおいてはアオサ属が、護岸壁においてはムカデノリが最優占していた。

表 3-5 (1) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2)

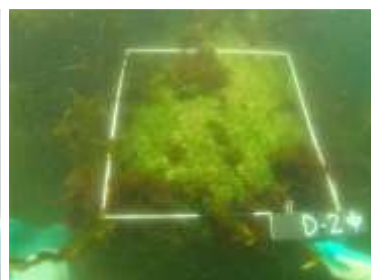
調査地点						泉大津沖		
採番号						D-2-上	D-2-中	D-2-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサノリ属	+	0.01
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサ属	8.35	69.00
3	緑色植物	緑藻	シヅクサ	シヅクサ	Cladophora sp.	シヅクサ属	0.01	+
4	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル		
5	緑色植物	緑藻	ハネモ	ツノイト	Derbesiaceae	ツノイト科		
6	黄色植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	Ectocarpaceae	シオミドロ科	0.02	0.01
7	黄色植物	褐藻	クロカシラ	クロカシラ	Sphacelaria sp.	クロカシラ属		
8	黄色植物	褐藻	アミジクサ	アミジクサ	Pachydictyon coriaceum	サナダクサ		
9	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Colpomenia sinuosa	ツクロノリ		
10	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Scytosiphon lomentaria	カモノリ	0.49	
11	黄色植物	褐藻	コンフ	チカイソ	Undaria pinnatifida	ワカメ		
12	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum filicinum	シダモク		
13	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum muticum	タマハキモク		
14	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum sp.	ホンダウラ属		
15	紅色植物	紅藻	アクロカエティウム	アクロカエティウム	Acrochaetiaceae	アクロカエティウム科		
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera	ヒリヒバ		
17	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae	サンゴモ科		
18	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium crinale	ハイトンクサ	0.07	
19	紅色植物	紅藻	テンクサ	テンクサ	Gelidium elegans	マクサ		0.03
20	紅色植物	紅藻	スキノリ	イソモカ	Caulacanthus ustulatus	イタノツツ		
21	紅色植物	紅藻	スキノリ	スサケハニ	Halarachnion latissimum	スサケハニ		
22	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus chamissoi	シキンノリ		291.21
23	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus intermedius	カイノリ		
24	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus giganteus	オハツノマタ		
25	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus ocellatus	ツノマタ		
26	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus sp.	ツノマタ属		
27	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia asiatica	ムカデノリ	10.20	
28	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia lanceolata	ワタラキ	4.30	
29	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia turuturu	ツルツル	0.39	
30	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia sp.	ムカデノリ属	0.51	
31	紅色植物	紅藻	スキノリ	イワノカワ	Peyssonneliaceae	イワノカワ科	*	
32	紅色植物	紅藻	スキノリ	オキツノリ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	オキツノリ		
33	紅色植物	紅藻	オコノリ	オコノリ	Gracilaria textorii	カハノリ		13.99
34	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	フシツナギ	Binghamia californica	カルデクサ		
35	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	フシツナギ	Lomentaria hakodatensis	コスシフシツナギ		
36	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	マサコシハノリ	Rhodymenia intricata	マサコシハノリ		
37	紅色植物	紅藻	イギス	イギス	Antithamnion sp.	フツツガサ属		
38	紅色植物	紅藻	イギス	イギス	Centroceras gasparrini	トゲイギス		
39	紅色植物	紅藻	イギス	イギス	Ceramium sp.	イギス属		+
40	紅色植物	紅藻	イギス	イギス	Pterothamnion sp.	ヨツガサ属		
41	紅色植物	紅藻	イギス	イギス	Ceramiceae	イギス科		
42	紅色植物	紅藻	イギス	ダシマ	Dasya sp.	ダシマ属		4.07
43	紅色植物	紅藻	イギス	フシマツモ	Polysiphonia sp.	イトクサ属	+	+
44	紅色植物	紅藻	イギス	フシマツモ	Symphocladia sp.	コササ属		
45	藍色植物	藍藻	—	—	CYANOPHYCEAE	藍藻綱	+	
種類数						6	10	9
湿重量(g)合計						8.87	84.48	312.90

注1: 単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層



中 層



下 層

写 3-3 (1) 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

表 3-5 (2) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-3)

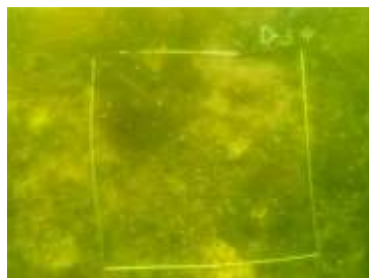
						調査地点	泉大津沖		
						枠番号	D-3-上	D-3-中	D-3-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目		湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサ属	+	+	
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサ属	0.13		
3	緑色植物	緑藻	シダクサ	シダクサ	Cladophora sp.	シダクサ属	0.06	0.01	+
4	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル			
5	緑色植物	緑藻	ハネモ	ツノイト	Derbesiaceae	ツノイト科	+		
6	黄色植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	Ectocarpaceae	シオミドロ科	+		
7	黄色植物	褐藻	クロガシラ	クロガシラ	Sphacelaria sp.	クロガシラ属			
8	黄色植物	褐藻	アミジクサ	アミジクサ	Pachydictyon coriaceum	サダクサ			
9	黄色植物	褐藻	カヤモリ	カヤモリ	Colpomenia sinuosa	フクロリ		+	
10	黄色植物	褐藻	カヤモリ	カヤモリ	Scytosiphon lomentaria	カヤモリ			
11	黄色植物	褐藻	コンブ	チガイソ	Undaria pinnatifida	ワカメ		40.15	3.60
12	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum filicinum	シダモク			
13	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum muticum	タマハキモク			
14	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウラ	Sargassum sp.	ホンダウラ属			
15	紅色植物	紅藻	アクロエティウム	アクロエティウム	Acrochaetiaceae	アクロエティウム科			
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera	ヒリヒバ			
17	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae	サンゴモ科			
18	紅色植物	紅藻	テングサ	テングサ	Gelidium crinale	ハイテングサ			
19	紅色植物	紅藻	テングサ	テングサ	Gelidium elegans	マクサ	2.16	7.35	
20	紅色植物	紅藻	スキノリ	イソモカ	Caulacanthus ustulatus	イソダツウ			
21	紅色植物	紅藻	スキノリ	スサケベニ	Halarachnion latissimum	スサケベニ			0.97
22	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus chamissoi	キンノリ			
23	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondracanthus intermedius	カイノリ			
24	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus giganteus	オハツノマタ			
25	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus ocellatus	ツノマタ			
26	紅色植物	紅藻	スキノリ	スキノリ	Chondrus sp.	ツノマタ属			
27	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia asiatica	ムカデノリ	2.53		
28	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia lanceolata	フタラク			
29	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia turuturu	ツルツル		0.29	0.06
30	紅色植物	紅藻	スキノリ	ムカデノリ	Grateloupia sp.	ムカデノリ属			
31	紅色植物	紅藻	スキノリ	イワノカ	Peyssonneliaceae	イワノカ科			
32	紅色植物	紅藻	スキノリ	オキツリ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	オキツリ			
33	紅色植物	紅藻	オコノリ	オコノリ	Gracilaria textorii	カハノリ			0.37
34	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フシツナギ	Binghamia californica	カエルデクサ			
35	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	フシツナギ	Lomentaria hakodatensis	コスジフシツナギ			
36	紅色植物	紅藻	マサコシバリ	マサコシバリ	Rhodymenia intricata	マサコシバリ			
37	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Antithamnion sp.	フツカサネ属			
38	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Centroceras gasparrini	トゲイグス			
39	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramium sp.	イグス属	+	0.01	+
40	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Pterothamnion sp.	ヨツカサネ属			
41	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramiceae	イグス科			+
42	紅色植物	紅藻	イグス	タシニア	Dasya sp.	タシニア属			
43	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Polysiphonia sp.	イトグサ属	+	0.01	
44	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Symphocladia sp.	コササネ属			
45	藍色植物	藍藻	—	—	CYANOPHYCEAE	藍藻綱			
種類数							9	8	7
湿重量(g)合計							4.88	47.82	5.00

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。

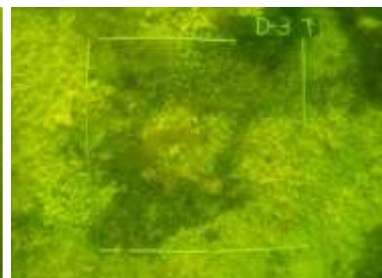
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層



中 層



下 層

写 3-3 (2) 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

表 3-5 (3) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-7)

調査地点						泉大津沖					
						Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁	
						項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
No.	門	綱	目	科	種名	項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサノ属	+	0.03		+	+
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサノ属	0.02	0.10	0.01	0.48	0.01
3	緑色植物	緑藻	シオクサ	シオクサ	Cladophora sp.	シオクサノ属				0.01	0.01
4	緑色植物	緑藻	シル	シル	Codium fragile	シル					
5	緑色植物	緑藻	ハネ	ウノイト	Derbesiaceae	ウノイト科					
6	黄色植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	Ectocarpaceae	シオミドロ科		0.08		+	+
7	黄色植物	褐藻	クロカシラ	クロカシラ	Sphacelaria sp.	クロカシラノ属					
8	黄色植物	褐藻	アサシゲサ	アサシゲサ	Pachydictyon coriaceum	アサシゲサ					
9	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Colpomenia sinuosa	フクロノリ					0.01
10	黄色植物	褐藻	カモノリ	カモノリ	Scytosiphon lomentaria	カモノリ					
11	黄色植物	褐藻	コブ	チカイ	Undaria pinnatifida	ウナメ					
12	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウ	Sargassum filicinum	シタモク					
13	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウ	Sargassum muticum	タマハヒメク					
14	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ホンダウ	Sargassum sp.	ホンダウノ属					
15	紅色植物	紅藻	アカカエリウム	アカカエリウム	Acrochaetiaceae	アカカエリウム科					
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera	ビリケン					
17	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae	サンゴモ科					
18	紅色植物	紅藻	テンゲサ	テンゲサ	Gelidium crinale	ハイツゲサ					
19	紅色植物	紅藻	テンゲサ	テンゲサ	Gelidium elegans	マサ					
20	紅色植物	紅藻	スギノリ	イモモカ	Caulacanthus ustulatus	イタノツク					
21	紅色植物	紅藻	スギノリ	スサカベニ	Halarachnion latissimum	スサカベニ					
22	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondracanthus chamissoi	シキンノリ					
23	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondracanthus intermedius	カイノリ					
24	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus giganteus	オオバノリマタ					
25	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus ocellatus	ウノマタ					
26	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus sp.	ウノマタノ属					
27	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	Grateloupia asiatica	ムカデノリ					2.97
28	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	Grateloupia lanceolata	ワラウ					
29	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	Grateloupia turuturu	ツルツル					
30	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	Grateloupia sp.	ムカデノリノ属					
31	紅色植物	紅藻	スギノリ	イワノカワ	Peyssonneliaceae	イワノカワ科					
32	紅色植物	紅藻	スギノリ	オキツノリ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	オキツノリ					
33	紅色植物	紅藻	オコノリ	オコノリ	Gracilaria textorii	カンノリ					
34	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	フツツキ	Binghamia californica	カエリゲサ					
35	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	フツツキ	Lomentaria hakodatensis	コシノフツツキ					
36	紅色植物	紅藻	マサコシハノリ	マサコシハノリ	Rhodymenia intricata	マサコシハノリ					
37	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Antithamnion sp.	フツツキノ属					
38	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Centroceras gasparrini	トゲイグス					
39	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramium sp.	イグスノ属					
40	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Pterothamnion sp.	ヨツカサノ属					
41	紅色植物	紅藻	イグス	イグス	Ceramieae	イグス科					
42	紅色植物	紅藻	イグス	ダシマ	Dasya sp.	ダシマノ属					
43	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Polysiphonia sp.	イトゲノ属			+		
44	紅色植物	紅藻	イグス	フジマツモ	Symphocladia sp.	コサノ属					
45	藍色植物	藍藻	—	—	CYANOPHYCEAE	藍藻綱					
種類数							2	3	1	5	2
湿重量(g)合計							0.02	0.21	0.01	0.49	0.01
											3.23

注1: 単位は湿重量 (g) / 0.01m² を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



C o 製パネル上層



鋼製パネル上層



護岸壁上層



C o 製パネル中層



鋼製パネル中層



護岸壁中層

写 3-3 (3) 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

3-2-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-6 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生息する付着動物を採取し分析した結果、39～69 種の付着動物が出現し、個体数では 1,140～8,027（個体/0.25 m²）、湿重量では 30.08～211.76（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数ではムラサキイガイが多数出現した上層が、湿重量ではイボニシが多く出現したやはり上層が最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではマルエラワレカラ、下層では Caprella 属（ワレカラ科）が最も多く確認された。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-7 に大阪沖埋立処分場（C-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生息する付着動物を採取し分析した結果、30～62 種の付着動物が出現し、個体数では 2,719～7,583（個体/0.25 m²）、湿重量では 82.37～95.32（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数ではマルエラワレカラが多数出現した下層が、湿重量ではムラサキイガイが多く出現した中層が最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層、下層ではマルエラワレカラが最も多く確認された。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-8 に泉大津沖埋立処分場の 2 点 (D-2、D-3) における坪刈り調査分析結果 (付着動物) を示した。

上層 (平均海面±0m)、中層 (平均海面-2m)、下層 (平均海面-4m) の 3 層で 50×50cm の枠内に生息する付着動物を採取し、分析した。

D-2 の地点では、25～66 種の付着動物が出現し、個体数は 479～6,128 (個体/0.25 m²)、湿重量では 12.20～68.14 (g/0.25 m²) の範囲にあった。個体数ではマルエラワレカラが多数出現した下層が、湿重量ではエゾカサネカンザシゴカイが多く出現したやはり下層が最も多くなっていた。

D-3 の地点では、61～77 種の付着動物が出現し、個体数は 3,078～11,730 (個体/0.25 m²)、湿重量では 122.63～372.05 (g/0.25 m²) の範囲にあった。個体数では Phoronis 属 (ホウキムシ科) が多数出現した中層が、湿重量ではウスボヤ科が多く出現した下層が最も多くなっていた。

表 3-9 に泉大津沖埋立処分場の D-7 における坪刈り調査分析結果 (付着動物) を示した。

上層 (平均海面±0m)、中層 (L.W.L+0.25m) の 2 層で H20cm×W5cm の枠内に生育する付着動物を採取し、分析した。

11～41 種の付着動物が出現し、個体数は 77～890 (個体/0.01 m²)、湿重量では 0.88～37.94 (g/0.01 m²) の範囲にあった。種類数では Co 製パネルの中層が、個体数ではイワフジツボが多数出現した護岸壁の上層が、湿重量ではイボニシ、イタボガキ科が多く出現したやはり護岸壁の上層が最も多くなっていた。

表 3-6 (1) 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場 (A-2 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名	項目	調査地点					
							神戸沖					
							A-2-上		A-2-中		A-2-下	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	0.05	*	0.02
2	刺胞動物	花虫	花カガ	イダウミヒド	Eudendriidae	イダウミヒド科						
3	刺胞動物	花虫	イダウミヒド	イダウミヒド	Campanulariidae	イダウミヒド科			*	0.03		
4	刺胞動物	花虫	イダウミヒド	イダウミヒド	Actiniaria	イダウミヒド科	1	0.05			13	0.24
5	刺胞動物	花虫	イダウミヒド	イダウミヒド	Rhizangiidae	イダウミヒド科						
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目			4	0.05	12	0.10
7	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	9	0.07	12	0.07		
8	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラガイ	Mopalia retifera	ヒザラガイ			1	+	4	0.24
9	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラガイ	Placiphorella stimpsoni	ヒザラガイ						
10	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラガイ	Acanthochitona achates	ヒザラガイ	1	0.01	2	0.34	1	0.33
11	軟体動物	腹足	カサガイ	カサガイ	Cellana toreuma	カサガイ						
12	軟体動物	腹足	カサガイ	カサガイ	Lottia tenuisculpta	カサガイ	22	0.38				
13	軟体動物	腹足	カサガイ	カサガイ	Patelloida saccharina lanx	カサガイ						
14	軟体動物	腹足	古腹足	シヤウシヤウ	Omphalius rusticus	シヤウシヤウ						
15	軟体動物	腹足	吸殻	スス	Diala semistriata	スス			2	0.01	12	0.04
16	軟体動物	腹足	吸殻	タマシ	Echinolittorina radiata	タマシ	1	0.05				
17	軟体動物	腹足	吸殻	タマシ	Peasiella habeli	タマシ						
18	軟体動物	腹足	吸殻	ムカデ	Serpulorbis imbricatus	ムカデ						
19	軟体動物	腹足	吸殻	カサガイ	Crepidula onyx	カサガイ						
20	軟体動物	腹足	吸殻	シヤウシヤウ	Proterato callosa	シヤウシヤウ						
21	軟体動物	腹足	吸殻	クリロウシヤウ	Cerithiopsidae	クリロウシヤウ						
22	軟体動物	腹足	吸殻	ミツチリヤウ	Triphoridae	ミツチリヤウ						
23	軟体動物	腹足	吸殻	ヒサガイ	Epitonium sp.	ヒサガイ					1	0.01
24	軟体動物	腹足	吸殻	ヒサガイ	Reishia bronni	ヒサガイ	12	32.55			4	11.09
25	軟体動物	腹足	吸殻	ヒサガイ	Thais clavigera	ヒサガイ	43	140.22				
26	軟体動物	腹足	吸殻	ヒサガイ	Mitrella bicincta	ヒサガイ	12	0.07	68	0.23	24	0.11
27	軟体動物	腹足	吸殻	ヒサガイ	Engina armillata	ヒサガイ			1	0.26		
28	軟体動物	腹足	低位異鰓	カサガイ	Architectonicidae	カサガイ					3	0.20
29	軟体動物	腹足	異鰓	カサガイ	Philine orca	カサガイ					1	0.01
30	軟体動物	腹足	異鰓	カサガイ	Philine orca	カサガイ					1	0.01
31	軟体動物	腹足	異鰓	カサガイ	Philine orca	カサガイ					1	0.06
32	軟体動物	腹足	異鰓	カサガイ	Philine orca	カサガイ			2	0.17		
33	軟体動物	腹足	側鰓	カサガイ	Pleurobranchaea japonica	カサガイ						
34	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目						
35	軟体動物	腹足	汎有肺	カサガイ	Pyramidellidae	カサガイ			8	0.02	56	0.16
36	軟体動物	腹足	汎有肺	カサガイ	Siphonaria japonica	カサガイ	4	0.33				
37	軟体動物	腹足	汎有肺	カサガイ	Siphonaria sirius	カサガイ						
38	軟体動物	腹足	汎有肺	カサガイ	Siphonaria sp.	カサガイ					1	0.03
39	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Modiolus nipponicus	ガイ			1	0.06		
40	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Modiolus sp.	ガイ						
41	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Musculista senhousia	ガイ	4	0.02	1	0.02		
42	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Musculus cupreus	ガイ	37	0.31	1	0.02		
43	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Musculus sp.	ガイ						
44	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Mytilus galloprovincialis	ガイ	5,456	25.09	53	0.25	4	0.01
45	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Xenostrobus securis	ガイ	9	0.03				
46	軟体動物	二枚貝	ガイ	ガイ	Leiosolenus lischkei	ガイ						
47	軟体動物	二枚貝	ミカ	ミカ	Limaria sp.	ミカ					5	0.38
48	軟体動物	二枚貝	カキ	カキ	Crassostrea gigas	カキ						
49	軟体動物	二枚貝	カキ	カキ	Ostreidae	カキ						
50	軟体動物	二枚貝	イサガイ	イサガイ	Anomia chinensis	イサガイ					1	2.37
51	軟体動物	二枚貝	カサガイ	カサガイ	Kellia porculus	カサガイ			1	+		
52	軟体動物	二枚貝	カサガイ	カサガイ	Theora fragilis	カサガイ					1	+
53	軟体動物	二枚貝	カサガイ	カサガイ	Irus sp.	カサガイ					1	0.04
54	軟体動物	二枚貝	カサガイ	カサガイ	Petricola sp. cf. lithophaga	カサガイ			44	0.35	4	0.05
55	軟体動物	二枚貝	カサガイ	カサガイ	Hiatella orientalis	カサガイ	84	0.53	288	3.57	92	1.01
56	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Halosydna brevisetosa	カサガイ	16	0.26	39	0.71	4	0.06
57	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Harmothoe imbricata	カサガイ			72	0.24	24	0.13
58	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Hermilepidonotus helotypos	カサガイ						
59	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Lepidonotus sp.	カサガイ			4	0.06		
60	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nonparahalosydna sp.	カサガイ						
61	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Eulalia sp.	カサガイ	5	0.04	9	0.08		
62	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Eumida sp.	カサガイ			4	0.03	12	0.09
63	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Notophyllium sp.	カサガイ						
64	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Phyllodoceidae	カサガイ						
65	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Glycera sp.	カサガイ			5	0.09	1	0.03
66	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Ophiodromus sp.	カサガイ					16	0.08
67	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Autolytus sp.	カサガイ						
68	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Eusyllis sp.	カサガイ			138	0.97	23	0.36
69	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Myrianida pachycera	カサガイ						
70	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Trypanosyllis taeniaformis	カサガイ						
71	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Typosyllis adamanteus kurilensis	カサガイ	20	0.04	4	0.01		
72	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Syllinae	カサガイ	16	0.03	8	0.03	12	0.06
73	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Neanthes caudata	カサガイ						
74	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nereis heterocirrata	カサガイ	4	0.01				
75	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nereis multignatha	カサガイ	33	0.37	4	0.01		
76	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nereis neoneanthes	カサガイ	2	0.05				
77	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nereis pelagica	カサガイ						
78	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Perinereis cultrifera	カサガイ						
79	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Platynereis bicanaliculata	カサガイ			12	0.07	4	0.02
80	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Platynereis dumerilii	カサガイ					1	0.03
81	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Pseudonereis variegata	カサガイ						
82	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Chrysopetalidae	カサガイ			4	0.01	8	0.04
83	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Eunice sp.	カサガイ					1	0.11
84	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Marphysa sp.	カサガイ						
85	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Lumbrineridae	カサガイ						
86	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Arabella iricolor	カサガイ			4	0.03		
87	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Schistomerings sp.	カサガイ					2	0.01
88	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Polydora sp.	カサガイ			96	0.29		
89	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Cirratulus sp.	カサガイ	1	0.09	3	0.49	34	2.92
90	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Cirriiformia sp.	カサガイ			17	0.48	31	0.93
91	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Dodecaeceria sp.	カサガイ					12	0.03
92	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Capitella sp.	カサガイ						
93	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Polyoethalimus pictus	カサガイ					5	0.07
94	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Nicolea sp.	カサガイ						
95	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Terebella sp.	カサガイ					2	0.09
96	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Thelepus sp.	カサガイ			41	1.83	18	1.07
97	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Sabellidae	カサガイ						
98	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Hydroides elegans	カサガイ						
99	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Hydroides ezoensis	カサガイ	4	0.02	216	9.47	69	2.53
100	環形動物	多毛	カサガイ	カサガイ	Spirobranchus sp.	カサガイ					7	0.54

表 3-6 (2) 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場 (A-2 付着動物)

					調査地点	神戸沖						
					採番号	A-2-上		A-2-中		A-2-下		
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	星口動物	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	Phascolosomatidae	サマハダ'ネムシ科						
102	星口動物	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	Aspidosiphonidae	サマハダ'ネムシ科					1	0.02
103	節足動物	ウミグ'モ	-	-	PYCNOGONIDA	ウミグ'モ綱						
104	節足動物	蟹脚	無柄	イワフジ'ヅク'	Chthamalus challengerii	イワフジ'ヅク'科						
105	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Amphibalanus amphitrite	フジ'ヅク'科						
106	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Amphibalanus improvisus	フジ'ヅク'科			1	0.02		
107	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Balanus trigonus	フジ'ヅク'科	4	0.11	8	0.03	5	0.40
108	節足動物	軟甲	薄甲	コノハシ'	Nebalia sp.	Nebalia属						
109	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ナガ'ヨコヒ'	Ampithoe sp.	Ampithoe属	504	1.78	44	0.21	1	+
110	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ナガ'ヨコヒ'	Peramphithoe sp.	Peramphithoe属						
111	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Aoroides sp.	Aoroides属	88	0.04	88	0.09	28	0.02
112	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Grandidierella sp.	Grandidierella属					2	0.01
113	節足動物	軟甲	端脚	ド'ロダ'ムシ	Monocorophium sp.	Monocorophium属	144	0.10	12	0.01	16	0.01
114	節足動物	軟甲	端脚	カサ'ヨコヒ'	Erichthonius pugnax	カサ'ヨコヒ'科			2	+	1	+
115	節足動物	軟甲	端脚	カサ'ヨコヒ'	Jassa sp.	Jassa属	68	0.12	56	0.04	2	+
116	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Paradexamine sp.	ユナ'ヨコヒ'科						
117	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Polycheria sp.	ユナ'ヨコヒ'科						
118	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Elasmopus sp.	ユナ'ヨコヒ'科						
119	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Melita sp.	Melita属	2	+				
120	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ヨコヒ'	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属	1	+				
121	節足動物	軟甲	端脚	フナ'ヨコヒ'	Pleustidae	フナ'ヨコヒ'科						
122	節足動物	軟甲	端脚	フナ'ヨコヒ'	Stenothoe sp.	Stenothoe属						
123	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ヨコヒ'	Hyalae sp.	Hyalae属						
124	節足動物	軟甲	端脚	ウレカ'	Caprella penantis	ウレカ'科	1,056	2.24	1,568	2.50	144	0.30
125	節足動物	軟甲	端脚	ウレカ'	Caprella scaura	ウレカ'科					52	0.17
126	節足動物	軟甲	端脚	ウレカ'	Caprella simia	ウレカ'科					92	0.11
127	節足動物	軟甲	端脚	ウレカ'	Caprella sp.	Caprella属					184	0.13
128	節足動物	軟甲	端脚	ウレカ'	Protomima sp.	Protomima属					1	+
129	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'フシ	Paranthuridae	ウミナ'フシ科						
130	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'ムシ	Janiridae	ウミナ'ムシ科			2	+		
131	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'ムシ	Dynoides dentisinus	ウミナ'ムシ科						
132	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'ムシ	Dynoides sp.	Dynoides属	12	0.05				
133	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'ムシ	Holotelson tuberculatus	ウミナ'ムシ科						
134	節足動物	軟甲	等脚	ウミナ'ムシ	Zeuxo sp.	Zeuxo属	116	0.11	4	+	40	0.04
135	節足動物	軟甲	十脚	モヒ'	Hippolytidae	モヒ'科						
136	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Porcellanidae	カサ'マシ科			4	0.01		
137	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Pagurus lanuginosus	カサ'マシ科	1	0.65				
138	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Paguridae	カサ'マシ科					1	0.03
139	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Romaleon gibbosulum	カサ'マシ科			5	0.08	1	0.01
140	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Sphaerozium nitidus	カサ'マシ科						
141	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Pugettia sp.	Pugettia属			29	0.17	1	+
142	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Hymenosomatidae	カサ'マシ科						
143	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Nanopilumnus sp.	Nanopilumnus属						
144	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Pilumnus minutus	カサ'マシ科						
145	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Gaillardielus orientalis	カサ'マシ科						
146	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Xanthidae	カサ'マシ科						
147	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Nanosesarma minutum	カサ'マシ科	1	0.03				
148	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Hemigrapsus sanguineus	カサ'マシ科						
149	節足動物	軟甲	十脚	カサ'マシ	Megalopa of Brachyura	カサ'マシ科					1	+
150	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Chironomidae	ユナ'ムシ科	234	0.40				
151	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Dolichopodidae	ユナ'ムシ科						
152	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Phoronis sp.	Phoronis属			288	1.39	36	0.19
153	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Tubuliporidae	ユナ'ムシ科						
154	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Vesiculariidae	ユナ'ムシ科						
155	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Callioporidae	ユナ'ムシ科						
156	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Bugulidae	ユナ'ムシ科						
157	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Scrupocellariidae	ユナ'ムシ科						
158	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Romancheinidae	ユナ'ムシ科						
159	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Watersipora subovoidea	ユナ'ムシ科	*	1.14	*	0.10	*	0.11
160	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Schizoporellidae	ユナ'ムシ科					*	0.70
161	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Microoporellidae	ユナ'ムシ科	*	0.19	*	2.69	*	0.54
162	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Cryptosulidae	ユナ'ムシ科	*	4.18				
163	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Celleporinidae	ユナ'ムシ科						
164	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ムシ	Phidoloporidae	ユナ'ムシ科					*	0.05
165	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterias amurensis	ヒト			3	30.72		
166	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiactidae	ヒト						
167	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiotrichidae	ヒト						
168	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Temnopleurus toreumaticus	ヒト						
169	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Temnopleuridae	ヒト					1	0.16
170	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Sclerodactylidae	ヒト						
171	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Apostichopus japonicus	ヒト					2	1.07
172	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Polyclinidae	ヒト						
173	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Didemnidae	ヒト						
174	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Botryllidae	ヒト					*	0.28
175	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Pyuridae	ヒト						
176	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Styela clava	ヒト						
177	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Styeliidae	ヒト						
178	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	ASCIDIACEA (colony)	ヒト					*	0.03
種類数							39		53		69	
個体数・湿重量(g)合計							8,027	211.76	3,283	58.46	1,140	30.08

注1: 単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7 (1) 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場 (C-2 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名	項目	調査地点					
							大阪沖					
							C-2-上		C-2-中		C-2-下	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	0.45	*	14.34
2	刺胞動物	ヒトコ	花カガ	イダノミトコ	Eudendriidae	イダノミトコ科			*	0.02	*	0.02
3	刺胞動物	ヒトコ	軟カガ	カシカガ	Campanulariidae	カシカガ科			*	0.03	*	0.03
4	刺胞動物	花虫	イダノミ	-	Actiniaria	-	2	2.60	3	0.32		
5	刺胞動物	花虫	イダノミ	シカガ	Rhizangiidae	シカガ科						
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目			21	0.28	22	1.77
7	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	1	+	27	0.40	21	0.70
8	軟体動物	多板	新ヒザ	ヒザ	Mopalia retifera	ヒザ						
9	軟体動物	多板	新ヒザ	ヒザ	Placiphorella stimpsoni	ヒザ						
10	軟体動物	多板	新ヒザ	ヒザ	Acanthochitona achates	ヒザ	1	1.18	9	2.31	1	0.40
11	軟体動物	腹足	カガ	カガ	Cellana toreuma	カガ						
12	軟体動物	腹足	カガ	カガ	Lottia tenuisculpta	カガ	8	0.13				
13	軟体動物	腹足	カガ	カガ	Patelloida saccharina lanx	カガ						
14	軟体動物	腹足	古腹足	ニヤカ	Omphalius rusticus	ニヤカ						
15	軟体動物	腹足	吸腔	ス	Diala semistriata	ス						
16	軟体動物	腹足	吸腔	タタ	Echinolittorina radiata	タタ						
17	軟体動物	腹足	吸腔	タタ	Peasiella habei	タタ						
18	軟体動物	腹足	吸腔	ムカ	Serpulorbis imbricatus	ムカ						
19	軟体動物	腹足	吸腔	カガ	Crepidula onyx	カガ						
20	軟体動物	腹足	吸腔	シカガ	Proterato callosa	シカガ						
21	軟体動物	腹足	吸腔	カガ	Cerithiopsidae	カガ						
22	軟体動物	腹足	吸腔	ミカガ	Triphoridae	ミカガ						
23	軟体動物	腹足	吸腔	ヒカガ	Epitonium sp.	ヒカガ						
24	軟体動物	腹足	吸腔	ヒカガ	Reishia bronni	ヒカガ	3	20.11			1	0.56
25	軟体動物	腹足	吸腔	ヒカガ	Thais clavigera	ヒカガ	4	7.98	6	13.65		
26	軟体動物	腹足	吸腔	ヒカガ	Mitrella bicincta	ヒカガ			1	0.07	48	3.00
27	軟体動物	腹足	吸腔	ヒカガ	Engina armillata	ヒカガ						
28	軟体動物	腹足	低位異鰓	カガ	Architectonicidae	カガ						
29	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒカガ	Philine orca	ヒカガ						
30	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒカガ	Philine orca	ヒカガ						
31	軟体動物	腹足	真後鰓	カガ	Aglaiidae	カガ						
32	軟体動物	腹足	真後鰓	ブド	Haminoea japonica	ブド						
33	軟体動物	腹足	側鰓	カガ	Pleurobranchaea japonica	カガ						
34	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目						
35	軟体動物	腹足	汎有肺	カガ	Pyramidellidae	カガ						
36	軟体動物	腹足	汎有肺	カガ	Siphonaria japonica	カガ	4	0.41				
37	軟体動物	腹足	汎有肺	カガ	Siphonaria sirius	カガ	1	0.02				
38	軟体動物	腹足	汎有肺	カガ	Siphonaria sp.	カガ						
39	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Modiolus nipponicus	カガ						
40	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Modiolus sp.	カガ			1	0.06		
41	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Musculista senhousia	カガ	2	0.03				
42	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Musculus cupreus	カガ			11	0.35	52	1.24
43	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Musculus sp.	カガ						
44	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Mytilus galloprovincialis	カガ	1,968	46.48	1,592	30.09	68	0.47
45	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Xenostrobus securis	カガ	2	0.02				
46	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Leiosolenus lischkei	カガ			4	0.02		
47	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Limaria sp.	カガ					2	0.31
48	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Crassostrea gigas	カガ						
49	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Ostreidae	カガ			1	0.18		
50	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Anomia chinensis	カガ						
51	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Kellia porculus	カガ						
52	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Theora fragilis	カガ						
53	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Irus sp.	カガ						
54	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Petricola sp. cf. lithophaga	カガ	12	0.39	18	0.70		
55	軟体動物	二枚貝	カガ	カガ	Hiatella orientalis	カガ	2	0.02	37	0.65	135	4.22
56	環形動物	多毛	カガ	カガ	Halosydna brevisetosa	カガ	5	0.18	63	1.59	13	1.05
57	環形動物	多毛	カガ	カガ	Harmothoe imbricata	カガ			4	0.01	44	0.25
58	環形動物	多毛	カガ	カガ	Hermilepidonotus helotypos	カガ					2	0.10
59	環形動物	多毛	カガ	カガ	Lepidonotus sp.	カガ						
60	環形動物	多毛	カガ	カガ	Nonparahalosydna sp.	カガ						
61	環形動物	多毛	カガ	カガ	Eulalia sp.	カガ			28	0.33	5	0.36
62	環形動物	多毛	カガ	カガ	Eumida sp.	カガ						
63	環形動物	多毛	カガ	カガ	Notophyllum sp.	カガ						
64	環形動物	多毛	カガ	カガ	Phyllodoceae	カガ					4	0.04
65	環形動物	多毛	カガ	カガ	Glycera sp.	カガ						
66	環形動物	多毛	カガ	カガ	Ophiodromus sp.	カガ					22	0.16
67	環形動物	多毛	カガ	カガ	Autolytus sp.	カガ						
68	環形動物	多毛	カガ	カガ	Eusyllis sp.	カガ			4	0.02	9	0.10
69	環形動物	多毛	カガ	カガ	Myrianida pachycera	カガ						
70	環形動物	多毛	カガ	カガ	Trypanosyllis taeniaformis	カガ						
71	環形動物	多毛	カガ	カガ	Typosyllis adamanteus kurilensis	カガ						
72	環形動物	多毛	カガ	カガ	Syllinae	カガ	6	0.03	88	0.45	85	0.79
73	環形動物	多毛	カガ	カガ	Neanthes caudata	カガ						
74	環形動物	多毛	カガ	カガ	Nereis heterocirrata	カガ						
75	環形動物	多毛	カガ	カガ	Nereis multignatha	カガ	1	0.01	45	0.39		
76	環形動物	多毛	カガ	カガ	Nereis neoneanthes	カガ			1	0.16		
77	環形動物	多毛	カガ	カガ	Nereis pelagica	カガ						
78	環形動物	多毛	カガ	カガ	Perinereis cultrifera	カガ	4	0.03	4	0.04		
79	環形動物	多毛	カガ	カガ	Platynereis bicanaliculata	カガ						
80	環形動物	多毛	カガ	カガ	Platynereis dumerilii	カガ			8	0.09		
81	環形動物	多毛	カガ	カガ	Pseudonereis variegata	カガ	13	0.47				
82	環形動物	多毛	カガ	カガ	Chrysopetalidae	カガ					4	0.03
83	環形動物	多毛	カガ	カガ	Eunice sp.	カガ						
84	環形動物	多毛	カガ	カガ	Marphysa sp.	カガ						
85	環形動物	多毛	カガ	カガ	Lumbrineridae	カガ						
86	環形動物	多毛	カガ	カガ	Arabella iricolor	カガ						
87	環形動物	多毛	カガ	カガ	Schistomerings sp.	カガ						
88	環形動物	多毛	カガ	カガ	Polydora sp.	カガ					4	0.02
89	環形動物	多毛	カガ	カガ	Cirratulus sp.	カガ					116	0.34
90	環形動物	多毛	カガ	カガ	Cirratulus sp.	カガ					177	11.39
91	環形動物	多毛	カガ	カガ	Cirratulus sp.	カガ					30	0.77
92	環形動物	多毛	カガ	カガ	Dodecaeceria sp.	カガ					1,996	7.04
93	環形動物	多毛	カガ	カガ	Capitella sp.	カガ						
94	環形動物	多毛	カガ	カガ	Polydora sp.	カガ						
95	環形動物	多毛	カガ	カガ	Terebella sp.	カガ			4	0.13	8	0.13
96	環形動物	多毛	カガ	カガ	Thelepus sp.	カガ			5	0.18	45	2.78
97	環形動物	多毛	カガ	カガ	Sabellidae	カガ					16	0.05
98	環形動物	多毛	カガ	カガ	Hydroides elegans	カガ						
99	環形動物	多毛	カガ	カガ	Hydroides ezoensis	カガ	3	0.08	84	1.97	9	0.40
100	環形動物	多毛	カガ	カガ	Spirobranchus sp.	カガ					1	0.08

表 3-7 (2) 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場 (C-2 付着動物)

						調査地点	大阪沖					
						採番号	C-2-上		C-2-中		C-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	星口動物	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	Phascolosomatidae	サマハダ'ネムシ科						
102	星口動物	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	サマハダ'ネムシ	Aspidosiphonidae	サマハダ'ネムシ科						
103	節足動物	ウミク'モ	-	-	PYCNOGONIDA	ウミク'モ綱						
104	節足動物	蟹脚	無柄	イワフジ'ヅク'	Chthamalus challengerii	イワフジ'ヅク'科						
105	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Amphibalanus amphitrite	フジ'ヅク'科						
106	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Amphibalanus improvisus	フジ'ヅク'科			4	0.01	30	0.26
107	節足動物	蟹脚	無柄	フジ'ヅク'	Balanus trigonus	フジ'ヅク'科					16	0.93
108	節足動物	軟甲	澤甲	コノハヒ'	Nebalia sp.	Nebalia属						
109	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ナガ'ヨコヒ'	Ampithoe sp.	Ampithoe属	25	0.09	15	0.03		
110	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ナガ'ヨコヒ'	Peramphithoe sp.	Peramphithoe属					40	0.28
111	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Aoroides sp.	Aoroides属	10	+	20	0.01	12	0.01
112	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Grandierella sp.	Grandierella属						
113	節足動物	軟甲	端脚	ド'ロダ'ムシ	Monocorophium sp.	Monocorophium属	1	+	1	+	8	0.01
114	節足動物	軟甲	端脚	カサ'ヨコヒ'	Erichthonius pugnax	カサ'ヨコヒ'科						
115	節足動物	軟甲	端脚	カサ'ヨコヒ'	Jassa sp.	Jassa属	4	+	40	0.06	1,408	1.86
116	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Paradexamine sp.	ユナ'ヨコヒ'科					4	+
117	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Polycheria sp.	ユナ'ヨコヒ'科					2	0.01
118	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Elasmopus sp.	ユナ'ヨコヒ'科						
119	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Melita sp.	Melita属			1	+		
120	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ヨコヒ'	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属			3	+		
121	節足動物	軟甲	端脚	フナ'ヨコヒ'	Pleustidae	フナ'ヨコヒ'科			1	+	68	0.10
122	節足動物	軟甲	端脚	フナ'ヨコヒ'	Stenothoe sp.	Stenothoe属			72	0.07	12	0.01
123	節足動物	軟甲	端脚	ヒナ'ヨコヒ'	Hyalae sp.	Hyalae属	114	0.29	16	0.04		
124	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Caprella penantis	ユナ'ヨコヒ'科	466	1.38	3,956	20.70	2,752	5.57
125	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Caprella scaura	ユナ'ヨコヒ'科					1	0.01
126	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Caprella simia	ユナ'ヨコヒ'科						
127	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Caprella sp.	ユナ'ヨコヒ'科					24	0.02
128	節足動物	軟甲	端脚	ユナ'ヨコヒ'	Protomima sp.	Protomima属						
129	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Paranthuridae	ユナ'ヨコヒ'科			1	+		
130	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Janiridae	ユナ'ヨコヒ'科	2	+	24	0.02	176	0.16
131	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Dynoides dentisinus	ユナ'ヨコヒ'科	17	0.21				
132	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Dynoides sp.	ユナ'ヨコヒ'科	35	0.22	1	0.01		
133	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Holotelson tuberculatus	ユナ'ヨコヒ'科						
134	節足動物	軟甲	等脚	ユナ'ヨコヒ'	Zeuxo sp.	ユナ'ヨコヒ'科	3	+			16	0.01
135	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Hippolytidae	ヒナ'ヨコヒ'科						
136	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Porcellanidae	ヒナ'ヨコヒ'科						
137	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Pagurus lanuginosus	ヒナ'ヨコヒ'科						
138	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Paguridae	ヒナ'ヨコヒ'科						
139	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Romaleon gibbosulum	ヒナ'ヨコヒ'科						
140	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Sphaerolus nitidus	ヒナ'ヨコヒ'科					1	0.04
141	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Pugettia sp.	Pugettia属					4	+
142	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Hymenosomatidae	ヒナ'ヨコヒ'科						
143	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Nanopilumnus sp.	Nanopilumnus属						
144	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Pilumnus minutus	ヒナ'ヨコヒ'科						
145	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Gaillardielus orientalis	ヒナ'ヨコヒ'科						
146	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Xanthidae	ヒナ'ヨコヒ'科						
147	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Nanosesarma minutum	ヒナ'ヨコヒ'科						
148	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Hemigrapsus sanguineus	ヒナ'ヨコヒ'科						
149	節足動物	軟甲	十脚	ヒナ'ヨコヒ'	Megalopa of Brachyura	ヒナ'ヨコヒ'科						
150	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Chironomidae	ユナ'ヨコヒ'科						
151	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Dolichopodidae	ユナ'ヨコヒ'科						
152	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Phoronis sp.	Phoronis属					48	0.14
153	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Tubuliporidae	ユナ'ヨコヒ'科					*	0.19
154	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Vesiculariidae	ユナ'ヨコヒ'科					*	0.03
155	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Callioporidae	ユナ'ヨコヒ'科						
156	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Bugulidae	ユナ'ヨコヒ'科					*	0.07
157	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Scrupocellariidae	ユナ'ヨコヒ'科			*	0.73	*	0.42
158	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Romancheinidae	ユナ'ヨコヒ'科					*	0.48
159	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Watersipora subovoidea	ユナ'ヨコヒ'科			*	13.06	*	0.34
160	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Schizoporellidae	ユナ'ヨコヒ'科						
161	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Microporrellidae	ユナ'ヨコヒ'科						
162	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Cryptosulidae	ユナ'ヨコヒ'科	*	0.01	*	3.10	*	1.26
163	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Celleporinidae	ユナ'ヨコヒ'科						
164	節足動物	昆虫	ハエ	ユナ'ヨコヒ'	Phidoloporidae	ユナ'ヨコヒ'科					*	0.12
165	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterias amurensis	ヒト科						
166	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiactidae	ヒト科					8	0.02
167	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiotrichidae	ヒト科						
168	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Temnopleurus toreumaticus	ヒト科						
169	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Temnopleuridae	ヒト科						
170	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Sclerodactylidae	ヒト科			1	0.07	5	0.68
171	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Apostichopus japonicus	ヒト科						
172	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Polyclinidae	ヒト科						
173	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Didemnidae	ヒト科			*	1.02	*	17.49
174	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Botryllidae	ヒト科			*	0.87	*	1.89
175	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Pyuridae	ヒト科			6	0.61	8	1.15
176	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Styela clava	ヒト科						
177	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Styeliidae	ヒト科						
178	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	ASCIDIACEA (colony)	ヒト科						
種類数							30		49		62	
個体数・湿重量(g)合計							2,719	82.37	6,231	95.32	7,583	86.50

注1: 単位は個体数・湿重量(g)/0.25m²を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-8 (1) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2、D-3 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名 /	調査地点												
						項目	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	花びら	DEMSOSPONGIAE	尋常海綿綱					0.03		0.02		0.22		0.01		1.79
2	刺胞動物	ヒトコ	花びら	Eudendriidae	ヒトコ目									0.20				
3	刺胞動物	ヒトコ	花びら	Campanulariidae	ヒトコ目									0.20				
4	刺胞動物	花虫	花びら	Actiniaria	花虫目	1	+						14	2.58	15	2.39	48	0.77
5	刺胞動物	花虫	花びら	Rhizangiidae	花虫目													0.40
6	刺胞動物	花虫	花びら	Polycladidae	花虫目													0.08
7	刺胞動物	花虫	花びら	Polycladidae	花虫目	2	0.03		5	0.09	14	0.17	10	1.10	16	0.16	8	0.08
8	刺胞動物	多板	花びら	Moellia retifera	花虫目				1	+	3	0.01	1	0.01			15	0.17
9	刺胞動物	多板	花びら	Placophorella stimpsoni	花虫目				1	0.01							1	0.23
10	刺胞動物	多板	花びら	Acanthochitona achates	花虫目	1	0.30		7	0.84			35	5.28			2	0.18
11	刺胞動物	腹足	花びら	Cellana toreuma	花虫目	1	0.88											
12	刺胞動物	腹足	花びら	Lottia tenuisculpta	花虫目													
13	刺胞動物	腹足	花びら	Patelloida saccharina lanx	花虫目	1	0.24						1	+				
14	刺胞動物	腹足	花びら	Omphalius rusticus	花虫目						1	5.06						
15	刺胞動物	腹足	花びら	Dialia semistriata	花虫目						1	+						
16	刺胞動物	腹足	花びら	Echinolittorina radiata	花虫目													
17	刺胞動物	腹足	花びら	Peasellia habeli	花虫目													
18	刺胞動物	腹足	花びら	Serpulorbis imbricatus	花虫目						1	1.73						
19	刺胞動物	腹足	花びら	Crepidula onyx	花虫目						21	0.79	3	0.23			1	0.02
20	刺胞動物	腹足	花びら	Proterato callosa	花虫目											1	0.04	
21	刺胞動物	腹足	花びら	Cerithiopsisidae	花虫目												2	0.01
22	刺胞動物	腹足	花びら	Triphoridae	花虫目						1	0.01					7	0.10
23	刺胞動物	腹足	花びら	Epitonium sp.	花虫目													
24	刺胞動物	腹足	花びら	Reishia bronni	花虫目				3	4.32	1	0.89	23	14.75			3	0.53
25	刺胞動物	腹足	花びら	Ithais clavigera	花虫目	10	12.66		3	2.67			1	0.54				
26	刺胞動物	腹足	花びら	Mitrella bicincta	花虫目						105	5.83	12	0.04			38	0.47
27	刺胞動物	腹足	花びら	Engina armillata	花虫目													
28	刺胞動物	腹足	花びら	Architectonicidae	花虫目													
29	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
30	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
31	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
32	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
33	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
34	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
35	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
36	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
37	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
38	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
39	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
40	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
41	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
42	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
43	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
44	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
45	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
46	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
47	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
48	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
49	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
50	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
51	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
52	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
53	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
54	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
55	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
56	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
57	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
58	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
59	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
60	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
61	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
62	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
63	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
64	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
65	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
66	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
67	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
68	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
69	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
70	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
71	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
72	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
73	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
74	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
75	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
76	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
77	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
78	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
79	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
80	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
81	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
82	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
83	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
84	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
85	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
86	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
87	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
88	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
89	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
90	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
91	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
92	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
93	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
94	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
95	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
96	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
97	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
98	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
99	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													
100	刺胞動物	腹足	花びら	Philine orca	花虫目													

表 3-8 (2) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2、D-3 付着動物)

					調査地点	泉大津沖											
					標高	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数
101	星口動物	ナメタ	ナメタ	Phascolosomatidae	ナメタ									1	0.14		
102	星口動物	ナメタ	ナメタ	Aspidosiphonidae	ナメタ												
103	星口動物	ナメタ	ナメタ	Pyrosomidae	ナメタ							1	0.01				
104	星口動物	無柄	ナメタ	Chthamalus challenger	ナメタ							6	0.03				
105	星口動物	無柄	ナメタ	Amphibalanus amphitrite	ナメタ												
106	星口動物	無柄	ナメタ	Amphibalanus improvisus	ナメタ							13	0.15				
107	星口動物	無柄	ナメタ	Balanus trigonus	ナメタ							31	4.90	24	3.19	9	1.51
108	星口動物	海牛	ナメタ	Neobalia sp.	ナメタ					1	+						
109	星口動物	海牛	ナメタ	Ampithoe sp.	ナメタ	18	0.10	504	1.69	1	0.01						
110	星口動物	海牛	ナメタ	Peramphithoe sp.	ナメタ												
111	星口動物	海牛	ナメタ	Aoroides sp.	ナメタ	48	0.02	152	0.10	40	0.03	136	0.10	704	0.54	144	0.10
112	星口動物	海牛	ナメタ	Grandidierella sp.	ナメタ					20	0.07						
113	星口動物	海牛	ナメタ	Monocorophium sp.	ナメタ			2	+	288	0.29	16	0.01	256	0.22	896	1.15
114	星口動物	海牛	ナメタ	Erichthonius pugnax	ナメタ					16	0.03					16	0.02
115	星口動物	海牛	ナメタ	Jassa sp.	ナメタ	3	0.01			48	0.06	10	0.02			12	0.01
116	星口動物	海牛	ナメタ	Paradexamine sp.	ナメタ												
117	星口動物	海牛	ナメタ	Polycheria sp.	ナメタ												
118	星口動物	海牛	ナメタ	Elasmopus sp.	ナメタ									4	0.01	1	0.01
119	星口動物	海牛	ナメタ	Melita sp.	ナメタ												
120	星口動物	海牛	ナメタ	Gitanopsis sp.	ナメタ												
121	星口動物	海牛	ナメタ	Pleustidae	ナメタ												
122	星口動物	海牛	ナメタ	Stenothoe sp.	ナメタ			28	0.02			56	0.06	128	0.13	24	0.01
123	星口動物	海牛	ナメタ	Hyalie sp.	ナメタ	2	+					1	0.01				
124	星口動物	海牛	ナメタ	Caprella penantis	ナメタ	336	0.53	92	0.19	3,072	9.82	584	1.00	424	0.84	48	0.08
125	星口動物	海牛	ナメタ	Caprella scaura	ナメタ					1,152	3.04			104	0.11	32	0.14
126	星口動物	海牛	ナメタ	Caprella simia	ナメタ					36	0.04					20	0.03
127	星口動物	海牛	ナメタ	Caprella sp.	ナメタ	2	+			192	0.19	12	0.01	352	0.26	2,208	1.38
128	星口動物	海牛	ナメタ	Protomima sp.	ナメタ												
129	星口動物	海牛	ナメタ	Paranthura sp.	ナメタ												
130	星口動物	海牛	ナメタ	Janiridae	ナメタ			6	0.01			112	0.07	192	0.16	288	0.26
131	星口動物	海牛	ナメタ	Dynoides dentisinus	ナメタ							6	0.09				
132	星口動物	海牛	ナメタ	Dynoides sp.	ナメタ	7	0.01					9	0.06				
133	星口動物	海牛	ナメタ	Holotelson tuberculatus	ナメタ												
134	星口動物	海牛	ナメタ	Zeuxo sp.	ナメタ					12	0.01			12	0.01		
135	星口動物	海牛	ナメタ	Hippolytidae	ナメタ											4	0.01
136	星口動物	海牛	ナメタ	Porcellanidae	ナメタ												
137	星口動物	海牛	ナメタ	Pagurus lanuginosus	ナメタ												
138	星口動物	海牛	ナメタ	Paguridae	ナメタ											15	0.46
139	星口動物	海牛	ナメタ	Romaleon gibbosum	ナメタ					1	0.02			5	0.03	5	0.03
140	星口動物	海牛	ナメタ	Schaezroius nitidus	ナメタ					1	0.05	14	1.58	6	0.28	10	0.47
141	星口動物	海牛	ナメタ	Pugetia sp.	ナメタ			2	0.01	6	0.03	9	0.04	33	0.61	58	0.69
142	星口動物	海牛	ナメタ	Hymenosomatidae	ナメタ											1	0.02
143	星口動物	海牛	ナメタ	Nanopilumnus sp.	ナメタ							3	0.07	5	0.42	11	0.19
144	星口動物	海牛	ナメタ	Pilumnus minutus	ナメタ							6	0.09	17	0.51	63	2.00
145	星口動物	海牛	ナメタ	Gaillardielus orientalis	ナメタ											3	0.14
146	星口動物	海牛	ナメタ	Xanthidae	ナメタ											4	0.04
147	星口動物	海牛	ナメタ	Nanosesarma minutum	ナメタ							3	0.04				
148	星口動物	海牛	ナメタ	Hemigrapsus sanguineus	ナメタ							1	0.04				
149	星口動物	海牛	ナメタ	Megalopa of Brachyura	ナメタ												
150	星口動物	海牛	ナメタ	Chironomidae	ナメタ	1	+										
151	星口動物	海牛	ナメタ	Dolichopodiidae	ナメタ									8,448	39.81	1,088	2.94
152	星口動物	海牛	ナメタ	Phoronis sp.	ナメタ												
153	星口動物	海牛	ナメタ	Tubuliporidae	ナメタ												
154	星口動物	海牛	ナメタ	Vesiculariidae	ナメタ												
155	星口動物	海牛	ナメタ	Callioporidae	ナメタ												
156	星口動物	海牛	ナメタ	Bugulidae	ナメタ												
157	星口動物	海牛	ナメタ	Scrupocellariidae	ナメタ												
158	星口動物	海牛	ナメタ	Romancheiniidae	ナメタ												
159	星口動物	海牛	ナメタ	Watersipora subovoidea	ナメタ												
160	星口動物	海牛	ナメタ	Schizoporellidae	ナメタ												
161	星口動物	海牛	ナメタ	Microporrellidae	ナメタ												
162	星口動物	海牛	ナメタ	Cryptosulidae	ナメタ												
163	星口動物	海牛	ナメタ	Cellaporinidae	ナメタ												
164	星口動物	海牛	ナメタ	Phidoloporidae	ナメタ												
165	星口動物	海牛	ナメタ	Asterias amurensis	ナメタ												
166	星口動物	海牛	ナメタ	Ophiactidae	ナメタ					24	0.04	72	0.11	56	0.21	96	0.18
167	星口動物	海牛	ナメタ	Ophiotrichidae	ナメタ												
168	星口動物	海牛	ナメタ	Temnopleuridae	ナメタ												
169	星口動物	海牛	ナメタ	Sclerodactylidae	ナメタ					1	0.11					2	34.03
170	星口動物	海牛	ナメタ	Apotichopus japonicus	ナメタ					9	1.04	1	0.03	4	0.34	6	5.02
171	星口動物	海牛	ナメタ	Polyclinidae	ナメタ												
172	星口動物	海牛	ナメタ	Didemidae	ナメタ												
173	星口動物	海牛	ナメタ	Botryllidae	ナメタ												
174	星口動物	海牛	ナメタ	Pyuridae	ナメタ							23	16.50	2	1.03	10	3.38
175	星口動物	海牛	ナメタ	Styela clava	ナメタ												
176	星口動物	海牛	ナメタ	Styela	ナメタ												
177	星口動物	海牛	ナメタ	ASCIDIACEA (colony)	ナメタ												
178	星口動物	海牛	ナメタ	ASCIDIACEA (colony)	ナメタ												
個体数・湿重量 (g) 合計							25	34	66	65	1.63	61	77	372.05			
							479	19.15	1,015	12.20	6,128	68.14	3,078	358.79	11,730	122.63	6,547

注1: 単位は個体数・湿重量 (g)/0.25m²を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-9 (1) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-7 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名	項目	調査地点		Co製パネル				鋼製パネル				護岸壁			
							D-7-上	D-7-中	Co製パネル		鋼製パネル		D-7-上		D-7-中					
									個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱														
2	刺胞動物	ヒトコ虫	花コサ	ヒトコサ	Eudendriidae	ヒトコサ科														
3	刺胞動物	ヒトコ虫	散コサ	散コサ	Campanulariidae	散コサ科														
4	刺胞動物	花虫	イソコサ	イソコサ	Actiniaria	イソコサ目				2	0.04									
5	刺胞動物	花虫	イソコサ	イソコサ	Rhizangiidae	イソコサ目														
6	扁形動物	渦虫	多岐綱	-	Polycladia	多岐綱目				3	0.45				2	0.05	1	+		
7	環形動物	-	-	-	NEWERTINEA	環形動物門				5	0.13	2	+	5	0.06	5	0.03			
8	軟体動物	多板	新ヒトコサ	ヒトコサ	Mopalia retifera	ヒトコサ科														
9	軟体動物	多板	新ヒトコサ	ヒトコサ	Placiphorella stimpsoni	ヒトコサ科														
10	軟体動物	多板	新ヒトコサ	ヒトコサ	Acanthochitona achates	ヒトコサ科								1	0.04		1	0.02		
11	軟体動物	腹足	ヒトコサ	ヒトコサ	Cellana boreuma	ヒトコサ科														
12	軟体動物	腹足	ヒトコサ	ヒトコサ	Lottia tenuisculpta	ヒトコサ科														
13	軟体動物	腹足	ヒトコサ	ヒトコサ	Patelloida saccharina lanx	ヒトコサ科														
14	軟体動物	腹足	古腹足	ヒトコサ	Omphalius rusticus	コサコサ科														
15	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Diala semistriata	ヒトコサ科														
16	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Echinolittorina radiata	ヒトコサ科														
17	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Peasiella habei	ヒトコサ科				2	0.01						7	0.02		
18	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Serpulorbis imbricatus	ヒトコサ科														
19	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Crepidula onyx	ヒトコサ科														
20	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Proterato callosa	ヒトコサ科														
21	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Cerithiopsidae	ヒトコサ科														
22	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Triphoridae	ヒトコサ科														
23	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Epitonium sp.	ヒトコサ科														
24	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Reishia bronni	ヒトコサ科														
25	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Ihais clavigera	ヒトコサ科											9	16.83		
26	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Mitrella bicincta	ヒトコサ科														
27	軟体動物	腹足	吸殻	ヒトコサ	Engina armillata	ヒトコサ科														
28	軟体動物	腹足	低位異鰓	ヒトコサ	Architectonicidae	ヒトコサ科														
29	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒトコサ	Philinae orca	ヒトコサ科														
30	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒトコサ	Philinidae	ヒトコサ科														
31	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒトコサ	Akaiidae	ヒトコサ科														
32	軟体動物	腹足	真後鰓	ヒトコサ	Heminae japonica	ヒトコサ科														
33	軟体動物	腹足	側鰓	ヒトコサ	Pleurobranchaea japonica	ヒトコサ科														
34	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目														
35	軟体動物	腹足	沢有鰓	ヒトコサ	Pyramidellidae	ヒトコサ科				1	+									
36	軟体動物	腹足	沢有鰓	ヒトコサ	Siphonaria japonica	ヒトコサ科														
37	軟体動物	腹足	沢有鰓	ヒトコサ	Siphonaria sirius	ヒトコサ科														
38	軟体動物	腹足	沢有鰓	ヒトコサ	Siphonaria sp.	ヒトコサ科														
39	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Modiolus nipponicus	ヒトコサ科														
40	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Modiolus sp.	ヒトコサ科										1	0.05			
41	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Musculista senhousia	ヒトコサ科														
42	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Musculus cupreus	ヒトコサ科														
43	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Musculus sp.	ヒトコサ科										1	0.01			
44	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Mytilus galloprovincialis	ヒトコサ科				1	+	35	2.22			82	6.74	15	0.15	
45	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Xenostrobus securis	ヒトコサ科											1	0.03		
46	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Leiosolenus lischkei	ヒトコサ科														
47	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Limaria sp.	ヒトコサ科														
48	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Crassostrea gigas	ヒトコサ科														
49	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Ostrea sp.	ヒトコサ科														
50	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Anomia chinensis	ヒトコサ科				12	2.65						11	14.39		
51	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Kellia porculus	ヒトコサ科														
52	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Theora fragilis	ヒトコサ科														
53	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Irus sp.	ヒトコサ科														
54	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Petricola sp. cf. lithophaga	ヒトコサ科														
55	軟体動物	二枚貝	ヒトコサ	ヒトコサ	Hiatella orientalis	ヒトコサ科														
56	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Halosydna brevisetosa	ヒトコサ科														
57	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Harmothoe imbricata	ヒトコサ科														
58	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Hermilepidonotus helotypos	ヒトコサ科														
59	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Lepidonotus sp.	ヒトコサ科														
60	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Nematocephalosydna sp.	ヒトコサ科														
61	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Eulalia sp.	ヒトコサ科														
62	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Eumida sp.	ヒトコサ科														
63	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Notophyllum sp.	ヒトコサ科														
64	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Phyllocladia sp.	ヒトコサ科														
65	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Glyceria sp.	ヒトコサ科														
66	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Ophiodromus sp.	ヒトコサ科														
67	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Autolytus sp.	ヒトコサ科														
68	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Eusyllis sp.	ヒトコサ科														
69	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Myrianida pachycera	ヒトコサ科														
70	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Iryanosyllis taeniaformis	ヒトコサ科														
71	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Iryanosyllis adamantus kurilensis	ヒトコサ科														
72	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Syllinae	ヒトコサ科														
73	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Neanthes caudata	ヒトコサ科														
74	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Nereis heterocirrata	ヒトコサ科														
75	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Nereis multigutha	ヒトコサ科														
76	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Nereis neoneanthos	ヒトコサ科														
77	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Nereis pelagica	ヒトコサ科														
78	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Perinereis cultrifera	ヒトコサ科														
79	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Platynereis bicanaliculata	ヒトコサ科														
80	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Platynereis dumerilii	ヒトコサ科														
81	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Pseudonereis variegata	ヒトコサ科														
82	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Chrysopetalidae	ヒトコサ科														
83	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Eumice sp.	ヒトコサ科														
84	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Marphysa sp.	ヒトコサ科														
85	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Lumbrineridae	ヒトコサ科														
86	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Arabella iricolor	ヒトコサ科														
87	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Schistomeringos sp.	ヒトコサ科														
88	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Polidora sp.	ヒトコサ科														
89	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Cirratulus sp.	ヒトコサ科														
90	環形動物	多毛	ヒトコサ	ヒトコサ	Cirriiformia sp.	ヒトコサ科														

表 3-9 (2) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-7 付着動物)

					調査地点	泉大津沖											
					標高	D-7-上		D-7-中		D-7-上		D-7-中		D-7-上		D-7-中	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数
101	環口動物	ナマコ	ナマコ	Phascolosomatidae	ナマコ												
102	環口動物	ナマコ	ナマコ	Aspidosiphonidae	ナマコ												
103	環口動物	ナマコ	ナマコ	Pyrosomidae	ナマコ												
104	環口動物	環口	ナマコ	Chthamalus challenger	ナマコ	656	3.34							688	5.89	457	0.76
105	環口動物	環口	ナマコ	Amphibalanus amphitrite	ナマコ											5	0.03
106	環口動物	環口	ナマコ	Amphibalanus improvisus	ナマコ			22	0.14	46	0.82	1	0.01			17	0.12
107	環口動物	環口	ナマコ	Balanus trigonus	ナマコ			5	0.14	2	0.03						
108	環口動物	環口	ナマコ	Webbia sp.	Webbia												
109	環口動物	環口	ナマコ	Amphithoe sp.	Amphithoe					2	0.01	1	+				
110	環口動物	環口	ナマコ	Paraphithoe sp.	Paraphithoe												
111	環口動物	環口	ナマコ	Aoroides sp.	Aoroides			14	0.01	1	+	3	+				
112	環口動物	環口	ナマコ	Grandiderella sp.	Grandiderella												
113	環口動物	環口	ナマコ	Monocorophium sp.	Monocorophium	1	+	2	+	1	+	1	+				
114	環口動物	環口	ナマコ	Erichthonius pugnax	Erichthonius												
115	環口動物	環口	ナマコ	Jassa sp.	Jassa					3	+						
116	環口動物	環口	ナマコ	Paradexamine sp.	Paradexamine												
117	環口動物	環口	ナマコ	Polycheria sp.	Polycheria												
118	環口動物	環口	ナマコ	Elasmopus sp.	Elasmopus												
119	環口動物	環口	ナマコ	Melita sp.	Melita			4	+			1	+				
120	環口動物	環口	ナマコ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis												
121	環口動物	環口	ナマコ	Pleustidae	Pleustidae												
122	環口動物	環口	ナマコ	Stenothoe sp.	Stenothoe					1	+						
123	環口動物	環口	ナマコ	Hyalie sp.	Hyalie	1	+							3	0.01		
124	環口動物	環口	ナマコ	Caprella penantis	Caprella			15	0.02	3	+	5	0.01	1	+	1	+
125	環口動物	環口	ナマコ	Caprella scaura	Caprella												
126	環口動物	環口	ナマコ	Caprella simia	Caprella												
127	環口動物	環口	ナマコ	Caprella sp.	Caprella												
128	環口動物	環口	ナマコ	Protomima sp.	Protomima							2	+			1	+
129	環口動物	環口	ナマコ	Paranthura sp.	Paranthura												
130	環口動物	環口	ナマコ	Janiridae	Janiridae			6	+	1	+	4	+				
131	環口動物	環口	ナマコ	Dynoides dentisinus	Dynoides	5	0.02			1	+			15	0.08		
132	環口動物	環口	ナマコ	Dynoides sp.	Dynoides	43	0.08			1	+			115	0.30	5	0.01
133	環口動物	環口	ナマコ	Holotelson tuberculatus	Holotelson			1	+							2	+
134	環口動物	環口	ナマコ	Zeuxo sp.	Zeuxo			4	+	10	0.01	1	+				
135	環口動物	環口	ナマコ	Hippolytidae	Hippolytidae												
136	環口動物	環口	ナマコ	Porcellanidae	Porcellanidae												
137	環口動物	環口	ナマコ	Pagurus lanuginosus	Pagurus												
138	環口動物	環口	ナマコ	Paguridae	Paguridae												
139	環口動物	環口	ナマコ	Romaleon gibbosulum	Romaleon												
140	環口動物	環口	ナマコ	Schaezous nitidus	Schaezous			2	0.13								
141	環口動物	環口	ナマコ	Pugnetia sp.	Pugnetia			4	0.02								
142	環口動物	環口	ナマコ	Hymenosomatidae	Hymenosomatidae												
143	環口動物	環口	ナマコ	Nanopilumnus sp.	Nanopilumnus							1	0.03				
144	環口動物	環口	ナマコ	Pilumnus minutus	Pilumnus			2	0.02								
145	環口動物	環口	ナマコ	Gaillardiiellus orientalis	Gaillardiiellus												
146	環口動物	環口	ナマコ	Xanthidae	Xanthidae												
147	環口動物	環口	ナマコ	Nanosesarma minutum	Nanosesarma							2	0.02	3	0.06		
148	環口動物	環口	ナマコ	Hemigrapsus sanguineus	Hemigrapsus												
149	環口動物	環口	ナマコ	Megalopa of Brachyura	Megalopa												
150	環口動物	環口	ナマコ	Chironomidae	Chironomidae	1	+							1	+	1	+
151	環口動物	環口	ナマコ	Dolichopodiidae	Dolichopodiidae					1	+						
152	環口動物	環口	ナマコ	Phoronis sp.	Phoronis			3	0.01			2	+				
153	環口動物	環口	ナマコ	Tubuliporidae	Tubuliporidae												
154	環口動物	環口	ナマコ	Vesiculariidae	Vesiculariidae												
155	環口動物	環口	ナマコ	Callioporidae	Callioporidae			*	0.01			*	0.03				
156	環口動物	環口	ナマコ	Bugulidae	Bugulidae												
157	環口動物	環口	ナマコ	Scrupocellariidae	Scrupocellariidae												
158	環口動物	環口	ナマコ	Romancheiniidae	Romancheiniidae												
159	環口動物	環口	ナマコ	Watersipora subovoidea	Watersipora												
160	環口動物	環口	ナマコ	Schizoporellidae	Schizoporellidae												
161	環口動物	環口	ナマコ	Microperellidae	Microperellidae												
162	環口動物	環口	ナマコ	Cryptosulidae	Cryptosulidae					*	0.03	*	0.01				
163	環口動物	環口	ナマコ	Cellaporinidae	Cellaporinidae												
164	環口動物	環口	ナマコ	Phidoloporidae	Phidoloporidae												
165	環口動物	環口	ナマコ	Asterias amurensis	Asterias												
166	環口動物	環口	ナマコ	Ophiactidae	Ophiactidae												
167	環口動物	環口	ナマコ	Ophiotrichidae	Ophiotrichidae												
168	環口動物	環口	ナマコ	Temnopleurus boreumaticus	Temnopleurus												
169	環口動物	環口	ナマコ	Sclerodactylidae	Sclerodactylidae												
170	環口動物	環口	ナマコ	Apostichopus japonicus	Apostichopus												
171	環口動物	環口	ナマコ	Polyciridae	Polyciridae												
172	環口動物	環口	ナマコ	Didemidae	Didemidae			*	0.53			*	0.43				
173	環口動物	環口	ナマコ	Botryllidae	Botryllidae												
174	環口動物	環口	ナマコ	Pyuridae	Pyuridae			10	3.99			2	0.11				
175	環口動物	環口	ナマコ	Styela clava	Styela												
176	環口動物	環口	ナマコ	Styellidae	Styellidae												
177	環口動物	環口	ナマコ	ASCIDIACEA (colony)	ASCIDIACEA												
178	環口動物	環口	ナマコ	ASCIDIACEA (colony)	ASCIDIACEA												
個体数・湿重量 (g) 合計							11	41	77	0.88	40	23	12	494	0.92		
							723	6.10	783	14.68	77	0.88	584	11.15	890	37.94	494

注1: 単位は個体数・湿重量 (g)/0.01m²を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

3-3 目視による付着動植物調査

3-3-1 植物（海藻）

（1）神戸沖埋立処分場

表 3-10 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における植物の目視観察結果を示した。写 3-4 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 2～14 種、全体で 28 種の海藻類が目視観察によって確認された。-1～-2m で種類数が最も多くなっていた。±0m でアオサ属の被度が高くなっていた。また、-3～-5m でシダモク、-2m でタマハハキモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

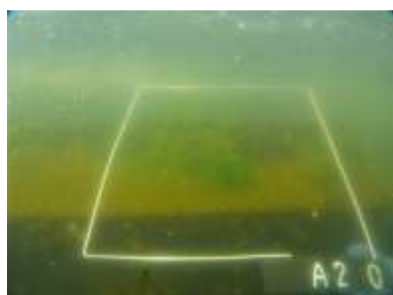
表 3-10 (1) 植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソ	フ'ロク	フ'ロク	フ'ロク	フ'ロク	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属	5	10	+	+								
		アオサ属	+	50	+	+								
		シオグサ属		+	+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ		+	+	+	+							
		カヤモノリ		+										
		シダモク					+	+	+					
		タマハハキモク				5								
紅色植物	紅藻	ピリヒバ			+									
		サンゴモ科							+	+	+	+	+	
		ヒメテングサ		+										
		ハイテングサ			25	+								
		マクサ			5	10	+	5	+	5	+			
		テングサ科			+	+								
		ススカケベニ									+	+	+	
		カイノリ			5				+					
		ツノマタ		+	+	+			+					
		ツノマタ属		+	+	+								
		ムカデノリ					+	10	20					
		ムカデノリ属				+	+	5	5	+	+			
		ムカデノリ科			+	+	+	+	+	+	+			
		イワノカワ科							+	10	10	+	5	+
		オキツノリ					+	+						
		カバノリ				5	20	5	5	+		+		
		オゴノリ属			+			+	+	+	+	+	+	
		マサゴシバリ									+			
		ダジア属								+	+			
		イギス目			+	+	+	+	5	10	10	5	+	5
藍色植物	藍藻	藍藻綱	10	5										
出現種類数			3	9	14	14	9	9	12	9	10	6	5	2

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面 ±0m



平均水面 -3.0m



平均水面 -8.0m

写 3-4 (1) 代表的な調査箇所 の 状況 (A-2)

・地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 0～12 種、全体で 25 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-7～-10m では海藻類は確認できず、-4～-5m で種類数が最も多くなっていた。±0m でアオノリ属、-3m でマクサ、-6m ではマサゴシバリの被度が高くなっていた。また、-4～-6m でワカメ、-5m でシダモク、タマハハキモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10 (2) 植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：令和2年5月31日

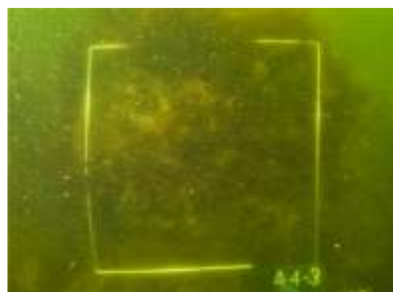
平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質 種 名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
緑色植物	緑藻	アオノリ属		30	+	+	+							
		アオサ属		+	5	5	10	+	+					
		シオグサ属		+		+								
黄色植物	褐藻	シオミドロ科			5				+					
		コモングサ						+						
		フクロノリ			+	+	+		+					
		ワカメ						10	5	5				
		シダモク							+					
		タマハハキモク							+					
		サンゴモ科					+	+	+	+				
紅色植物	紅藻	マクサ			+	+	60	5		+				
		ススカケベニ							+					
		ツノマタ						+						
		ツノマタ属			+									
		ムカデノリ									+			
		フダラク		+	+		5							
		ツルツル									+			
		ムカデノリ属						+		+				
		ムカデノリ科						+	+					
		イワノカワ科										+		
		オキツノリ			+			+	+	+				
		カバノリ				+	5	+	+					
藍色植物	藍藻	マサゴシバリ						+	10	50				
		イギス目			+	+	+	+	+	+				
		藍藻綱		10	+									
出現種類数			0	5	10	7	9	12	12	10	0	0	0	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

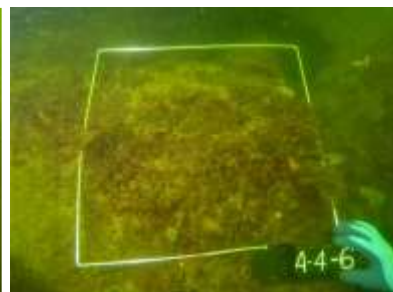
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面+1.0m



平均水面-3.0m



平均水面-6.0m

写 3-4 (2) 代表的な調査箇所状況 (A-4)

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 21 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1～±0m では海藻類は確認できず、-4～-8m で種類数が多くなる傾向がみられた。また、-4～-6m で藻場構成種（大型褐藻）であるシダモクが確認された。

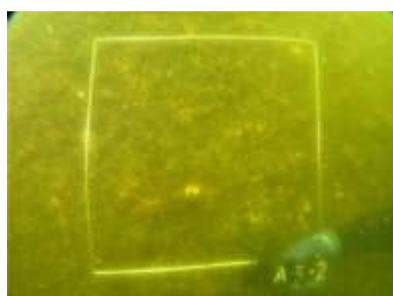
表 3-10 (3) 植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：令和2年5月31日

門	綱	種 名	平均水面からの高さ(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
			基 質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂泥
緑色植物	緑藻	シオグサ属					+	+									
		ミル					+	+									
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+	+	+								
		シダモク								+	+	+					
紅色植物	紅藻	ウスカワカニノテ							+	+							
		サンゴモ科								5	+	+	+	+	+		
		マクサ					+	+					+				
		テングサ科								+	+						
		ススカケベニ												+			
		カイノリ									+						
		フダラク				+											
		ムカデノリ属										+	+				
		ムカデノリ科					+	+	+	+							
		イワノカワ科							+	+	+	+	+	+	+	+	+
		オキツノリ				+				+	+	+					
		カバノリ						+									
		マサゴシバリ											+	+	+		
		ダジア属							+				+	+			
		ハウスバノリ属														+	+
		イギス目							+	5	+	+	+	+	+	+	+
藍色植物	藍藻	藍藻綱							+								
出現種類数					0	0	5	5	5	9	8	6	8	6	4	3	3

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-2.0m



平均水面-5.0m



平均水面-9.0m

写 3-4 (3) 代表的な調査箇所 の 状況 (A-5)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-11 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における植物の目視観察結果を示した。写 3-5 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 0～11 種、全体で 19 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻類は確認できず、-6～-7m で種類数が最も多くなっていた。-6m でダジア属の被度が高くなっていた。また、-2～-4m でワカメ、-5m でシダモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-11 (1) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：令和2年5月24日

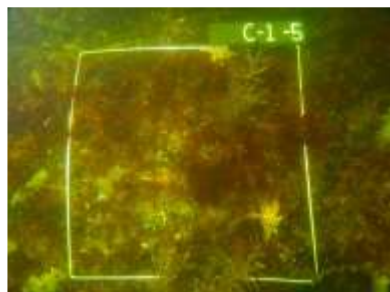
平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	5	+	+		+					
黄色植物	褐藻	ワカメ				5	+	+						
		シダモク							+					
紅色植物	紅藻	サンゴモ科						+	+	5	+	+	+	
		マクサ					+	+		5	+			
		ススカケベニ								+	+	+	+	
		ツノマタ属							+					
		フダラク			+	+	+							
		ツルツル			+									
		イワノカワ科						+		+	10	5	+	
		オキツノリ							+					
		ベニスナゴ					+	5						
		カバノリ				20	5	5		5	10	5	+	
		オゴノリ属								+	+	+	+	
		マサゴシバリ						10	10	+	5			
		ダジア属					+	10	10	30	+			
		ハイウスバノリ属								+	5	+		
		コザネモ							+	+	+			
		イギス目				25	10	5	10	10	10	5	5	+
出現種類数			0	1	3	5	8	9	9	11	11	7	6	1

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m



平均水面-5.0m



平均水面-9.0m

写 3-5 (1) 代表的な調査箇所の状況 (C-1)

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 0～14 種、全体で 26 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-3～-8m で種類数が多くなる傾向がみられた。-1m でアオサ属、-2m と-5m でツノマタ属、-3m でヤハズグサ、-4m でカバノリ、-6m でコモングサの被度が高くなっていた。また、-1～-5m でワカメ、-4～-5m でシダモク、-3m でアカモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-11 (2) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	
門	綱	基 質 種 名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	40	10	+	+	+						
		ミル					+								
黄色植物	褐藻	クロガシラ属							+	+					
		ヤハズグサ					40		10	+	10				
		コモングサ				25	20			50					
		フクロノリ							+		+				
		ワカメ			5	20	10	25	5						
		シダモク						5	+						
		アカモク					15								
		ウスカワカニノテ					+					+	+		
紅色植物	紅藻	サンゴモ科								20	+	+			
		マクサ							+	+					
		ススカケベニ									10	10	+	+	
		ツノマタ属			15	30	10		80	5	+	+			
		フダラク			15	10	+								
		ツルツル			+		+								
		ムカデノリ属			+		+			+	+				
		イワノカワ科								+	+	5	+	+	
		オキツノリ								+	+	+	+		
		ベニスナゴ									+	+	+		
		カバノリ				5	5	40	5		10	+			
		オゴノリ属								+	+	5	5	+	+
		マサゴシバリ							+	+	+	+	+	+	
		ハイウスパノリ属									+	+			
		コノハノリ科						+	+						
		イギス目						+	5		5			+	+
出現種類数			0	1	6	6	14	7	12	14	13	10	6	4	

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m



平均水面-4.0m



平均水面-8.0m

写 3-5 (2) 代表的な調査箇所状況 (C-2)

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 1～12 種、全体で 23 種の海藻類が目視観察によって確認され、-1～-6m で種類数が多くなる傾向がみられた。+1～±0m でアオサ属、-6～-9m でイワノカワ科の被度が高くなっていた。また、-2m、-4m、-6m ではワカメ、-3～-4m ではシダモク、-1m ではヒジキ、-1～-2m ではタマハハキモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

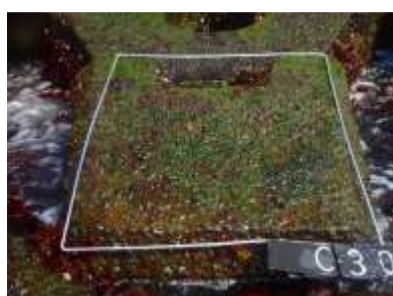
表 3-11 (3) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：令和2年5月24日

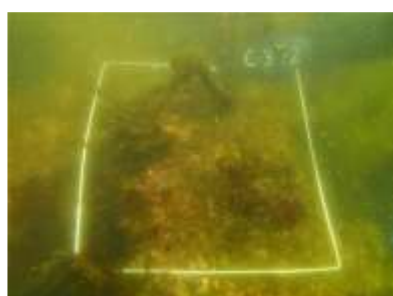
平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ブ'ロック	ブ'ロック	ブ'ロック	ブ'ロック	ブ'ロック	ブ'ロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属	70	90	+	+	+	+		+				
		シオグサ属			+	+								
黄色植物	褐藻	シオミドロ科			10	5								
		コモングサ					+							
		アミジグサ科						+						
		フクロノリ					5	5	+	+				
		ワカメ				10		+		+				
		シダモク					5	5						
		ヒジキ			5									
		タマハハキモク			20	+								
		ウスカワカニノテ			15	20	+	+						
紅色植物	紅藻	サンゴモ科						+	10	+		+	+	
		ヒメテングサ		+				+						
		マクサ						+		+				
		ススカケベニ							+	+		+	+	+
		カイノリ						+						
		ツノマタ属				+	+		+					
		フダラク			10									
		イワノカワ科								60	25	30	30	+
		オキツノリ							25		+	+		
		カバノリ			+	+	10	5	+					
		オゴノリ属							+	+	+	+	+	+
		イギス目			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
出現種類数			1	2	9	9	8	12	8	9	4	6	5	4

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面 ±0.0m



平均水面 -2.0m



平均水面 -9.0m

写 3-5 (3) 代表的な調査箇所状況 (C-3)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-12 に泉大津沖埋立処分場の 5 点（D-2、D-3、D-5、D-6、D-7）における植物の目視観察結果を示した。写 3-6 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 14 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-12～-13m では海藻は確認されず、-1～-6m で種類数が多くなる傾向がみられた。-1～-2m でアオサ属、-6m でカバノリとタオヤギソウの被度が高くなっていた。また、-1～-3m と -5～-6m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが観察された。

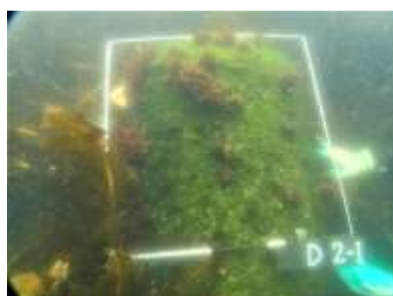
表 3-12 (1) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	基 質	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	50	50	+	+		+							
		シオグサ属		+	+	+											
黄色植物	褐藻	ワカメ			5	+	+		+	+							
紅色植物	紅藻	マクサ			5	5	5	+	+								
		ススカケベニ						+	+	+	5	5	20	+	+		
		スギノリ属			+												
		ムカデノリ			5	10	10	10	+								
		フダラク			+	5	+										
		ツルツル					+		+								
		ベニスナゴ							+	+							
		カバノリ			+	5	10	5	10	30	+	+					
		コスジフシツナギ			+												
		タオヤギソウ						+	20	50	10	+	+				
		イギス目						5	5	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			0	2	9	7	7	7	9	7	4	4	3	2	2	0	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m



平均水面-5.0m



平均水面-10.0m

写 3-6 (1) 代表的な調査箇所の状況 (D-2)

・地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 9 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1～±0m、-13m では海藻が確認されず、-3～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。-6m でススカケベニの被度が高くなっていた。また、-1～-9m で藻場構成種(大型褐藻)であるワカメが確認され、特に-8m ではワカメの繁茂が観察された。

表 3-12 (2) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-3)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
緑色植物	緑藻	アオサ属			5	+	+	+									
		シオグサ属			+												
		ミル			+	5	5										
黄色植物	褐藻	ワカメ			5	5	10	5	+	+	+	40	+				
紅色植物	紅藻	マクサ				10	+	+	+	+	+						
		ススカケベニ					+	+	5	40	10	20	10	+	+	+	
		ムカデノリ						+		+				+	+		
		カバノリ					+	+			+	+					
		イギス目			+		+		+					+	+	+	
出現種類数			0	0	5	4	7	6	3	5	4	3	2	3	3	2	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

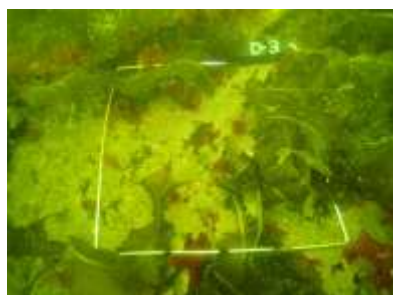
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面+1.0m



平均水面-5.0m



平均水面-8.0m

写 3-6 (2) 代表的な調査箇所状況 (D-3)

・地点 D-5

D-5 の地点では、藻類は確認されなかった。

表 3-12 (3) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：令和2年5月30日

			エコ岸壁								
			壁面					遊水室			
			+1	±0	-1	-2	-3				
門	綱	平均水面からの高さ (m)	基 質	ケ-ソ	石網	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面
		種 名									
出現種なし											
出現種類数				0	0	0	0	0	0	0	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面+1.0m



平均水面-3.0m



遊水室側面

写 3-6 (3) 代表的な調査箇所 の 状 況 (D-5)

・地点 D-6

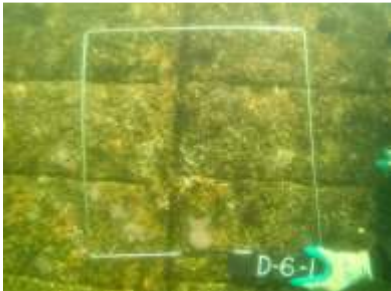
D-6 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 11 種類の海藻類が目視観察によって確認された。+1m と遊水室の上室の上面、側面、下室の上面では海藻が確認されず、壁面の-1～-3m で種類数が多くなっていた。藻場構成種（大型褐藻）の生育は確認されなかった。

表 3-12（4） 植物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-6 ）

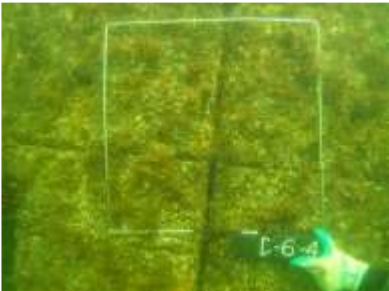
調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ (m)			エコ岸壁														
			壁面						遊水室								
			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室				
門	綱	種 名	基 質	ケ-ソ	石網 (網欠損)	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
緑色植物	緑藻	アオノリ属				+											
		アオサ属		+	+	+	+						+				
		シオグサ属		+	+	+	+										
黄色植物	褐藻	ミル				+											
		フクロノリ				+	+	+									
		ススカケベニ							+	+							+
紅色植物	紅藻	ムカデノリ				+	+	+					+			+	
		ムカデノリ科				+	+	+									
		カバノリ				+	5	+	5	+							+
		タオヤギソウ				+	10	5	5								
		イギス目			+	+	+	+	+	5					+	+	
出現種類数				0	3	9	8	8	4	4	0	0	2	0	1	4	

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m



平均水面-4.0m



遊水室上室下面

写 3-6（4） 代表的な調査箇所 の 状況（D-6）

・地点 D-7

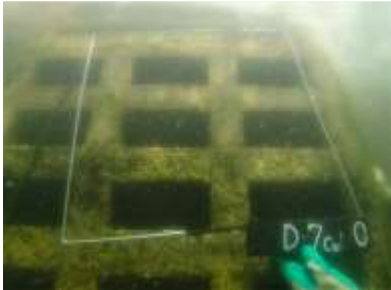
D-7 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 10 種類の海藻類が目視観察によって確認され、護岸壁の M. W. L. +1m では海藻の生育がみられなかった。エコパネル設置水深である M. W. L. ±0m と L. W. L. +0. 25m の付着基盤別の合計種類数は Co 製パネルで 1 種、鋼製パネルで 3 種、護岸壁で 4 種となっていた。被度的には Co 製パネルの L. W. L. +0. 25m のアオサ属の被度が高くなっている。また、護岸壁の-2～-5m では藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-12 (5) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-7)

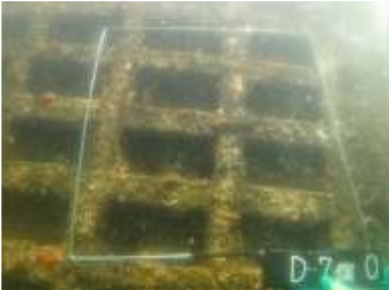
調査日：令和2年5月30日

水面からの高さ (m)			Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁								
			M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.		L. W. L.	M. W. L.					
			±0	+0. 25	±0	+0. 25	+1	±0	+0. 25	-2	-3	-4	-5	-6	
門	綱	種 名	基 質		Co		鋼		ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ
緑色植物	緑藻	アオサ属	20	40	+	5		+	10	20	+	+			
		シオグサ属							+	+					
黄色植物	褐藻	フクロノリ				+						+		+	
		ワカメ									+	+	+	+	
紅色植物	紅藻	ススカケベニ				+								+	+
		ムカデノリ							+	+	+				
		ムカデノリ科									+	+	+		
		カバノリ							+	+	+	5	+	+	
		タオヤギソウ									+	20	20	+	+
		イギス目									+	+	+	+	+
出現種類数			1	1	1	3	0	1	4	8	8	6	6	4	

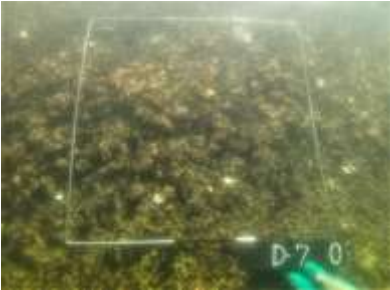
備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



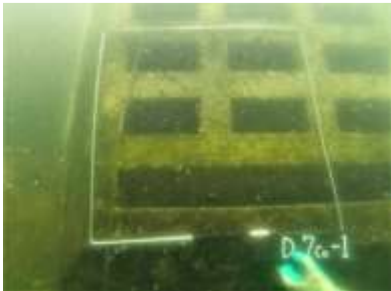
Co 製パネル
平均水面±0. 0m



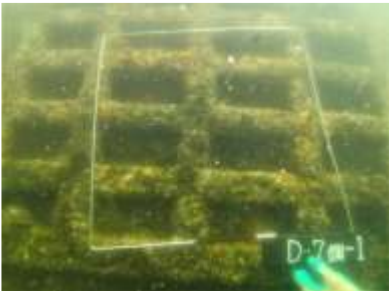
鋼製パネル
平均水面±0. 0m



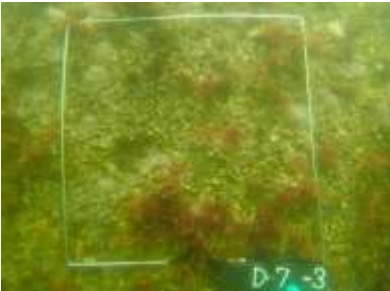
護岸壁
平均水面±0. 0m



Co 製パネル
L. W. L. +0. 25m



鋼製パネル
L. W. L. +0. 25m



護岸壁
平均水面-3. 0m

写 3-6 (5) 代表的な調査箇所の状況 (D-7)

3-3-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-13 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における動物の目視観察結果を示した。写 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 2～11 種、全体で 28 種の付着動物が目視観察によって確認され、-4～-6m で種類数が多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、同じく巻貝のタマキビの個体数も多かった。±0m では巻貝のイボニシの個体数が多く、-4m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-1～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-13 (1) 動物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：令和2年5月31日

門	綱	種 名	平均水面からの高さ(m)		基 質		+1		±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
			ケ-ソソ	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱												+		+			
	花虫	タテジマイソギンチャク		+															
		イソギンチャク目		+	+	+													
		シオガマサソゴ科													+				
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(256)																
		タマキビ	(32)																
		オオヘビガイ						+	+										
		レイシガイ		(2)	(1)	(1)													
		イボニシ	(2)	(21)	(9)	(2)													
		アメフラシ							(1)										
		カラマツガイ		(3)															
	二枚貝	ムラサキガイ		+															
		イタボガキ科		+															
		キクザルガイ科											+	+					
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					5	+											
		カンザシゴカイ科			+	5		10	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+																
		サンカクフジツボ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
蠕虫動物	蠕虫	Phoronis属				+	+	+											
苔虫動物	苔虫	苔虫綱		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ			(1)	(3)				(1)	(1)								(2)
		イトマキヒトデ属								(2)									
		キヒトデ			(3)	(2)	(5)	(2)	(4)	(3)			(3)						
	ナマコ	マナマコ					(1)	(1)		(1)									
脊索動物	ホヤ	マボヤ												+		+		+	+
		エボヤ												+	+	+			+
		ホヤ綱（群体性）					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		ホヤ綱（単体性）												+					
出現種類数			4	8	7	9	8	10	10	11	6	5	2	4					

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 0～15 種、全体で 35 種の付着動物が目視観察によって確認された。-10m では付着生物は確認されず、±0～-4m で種類数が多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m で巻貝のコモレビコガモガイの個体数が多くなっており、-2m でヒドロ虫綱、-2～-3m で Phoronis 属、-3m でカンザシゴカイ科、-4m でミズヒキゴカイの被度が高くなっていた。

表 3-13 (2) 動物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱					+	+	+					
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱		+	+	30	5							
	花虫	タテジマイソギンチャク		+	+									
		イソギンチャク目		+	+									
軟体動物	腹足	ベッコウガサ	(1)											
		マツバガイ		(1)										
		コモレビコガモガイ		(64)										
		ウノアシ		(2)										
		アラレタマキビ	(416)											
		タマキビ	(4)											
		オオヘビガイ				+	+	+	+					
		シマメノウフネガイ									(2)	(1)		
		イボニシ	(1)	(2)										
		カラマツガイ		(9)										
		キクノハナガイ		(3)										
	二枚貝	ムラサキガイ		5	+	+								
		イワガキ						5	5					
		ケガキ		+										
		イタボガキ科		5	+									
		ナミマガシワ									5	+		
		キクザルガイ科									+	+		
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						10	+					
		カンザシゴカイ科		+	+	5	10	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+										
		クロフジツボ	+	+										
		サンカクフジツボ						+		+				
筍虫動物	筍虫	Phoronis属			+	10	10	+						
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+		+				
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)				
		キヒトデ				(1)	(2)	(3)	(3)	(1)				
	ウニ	サンショウウニ								(2)				
	ナマコ	スクレロダクティラ科				(1)	(1)							
脊索動物	ホヤ	エボヤ					+		+					
		ホヤ綱 (群体性)			+	+	+	+		+				
		ホヤ綱 (単体性)				+	+	+		+				
出現種類数			6	15	9	10	11	11	7	8	4	4	1	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 2～11 種、全体で 28 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2～-7m で種類数が多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0m ではコモレビコガモガイ、イボニシといった巻貝が多くみられ、±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイの被度が極めて高かった。その他、±0m で二枚貝のイタボガキ科、-1～-3m でカンザシゴカイ科、-2～-3m で Phoronis 属とホヤ綱(群体性)、-3m でヒドロ虫綱の被度が高くなっていた。中でも、ホヤ綱(群体性)については-3m での被度が極めて高くなっていた。また、キヒトデが-4～-11m の広い範囲でみられた。

表 3-13 (3) 動物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種 名 基 質	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+					+	+		
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				5	10								
	花虫	イソギンチャク目		+	+						+				
		ハナギンチャク科									+				
		シオガマサンゴ科									+				
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(23)											
		アラレタマキビ	(96)												
		オオヘビガイ													
		イボニシ		(49)											
		クロシタナシウミウシ				(2)									
		カラマツガイ		(1)											
	二枚貝	ムラサキイガイ		60	50	+									
		イタボガキ科		25											
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					+		+						
		ケヤリムシ科					+	+	+		+				
		カンザシゴカイ科			20	10	10	+	+	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+												
		サンカクフジツボ						+	+	+	+	+	+	+	+
蠕虫動物	蠕虫	Phoronis属			+	15	10								
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	+		+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)					
		イトマキヒトデ属									(2)				
		キヒトデ						(5)	(3)	(3)	(4)	(8)	(1)		(1)
	ウニ	サンショウウニ							(1)	(1)					
	ナマコ	マナマコ						(1)	(1)	(1)					
脊索動物	ホヤ	エボヤ			+	+	+	+	+		+	+			
		ホヤ綱(群体性)				10	50			+			+		
		ホヤ綱(単体性)				+	+	+	+						
出現種類数			2	6	7	11	10	8	10	9	10	6	6	3	4

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-14 に大阪沖埋立処分場の 3 点 (C-1、C-2、C-3) における動物の目視観察結果を示した。写 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 2～10 種、全体で 30 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2～-7m で種類数が多くなる傾向がみられた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では巻貝のコモレビコガモガイ、-5m ではキヒトデの個体数が多かった。±0～-1m では二枚貝のムラサキガイの被度が極めて高くなっており、±0m では二枚貝のマガキ、-2m ではカンザシゴカイ科、-2～-3m ではホヤ綱 (群体性)、-3m では尋常海綿綱とミズヒキゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-14 (1) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				5	20	+		+	+	+	+	
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			5									
	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
		イソギンチャク目			+	+	+							
		シオガマサソギ科										+	+	+
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(12)										
		アラレタマキビ	(112)											
		タマキビ	(5)											
		オオヘビガイ					+	+						
		レイシガイ							(1)					
		裸鰓目						(1)	(1)					
		カラマツガイ		(2)										
	二枚貝	ムラサキガイ		60	50	+								
		マガキ		30										
		キクザルガイ科										+		
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科				+	10							
		カンザシゴカイ科			+	10	+	+	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	アメリカフジツボ			+									
		サンカクフジツボ							+		+	+	+	+
		アカフジツボ			+									
蠕虫動物	蠕虫	Phoronis属				+	5	5						
苔虫動物	苔虫	苔虫綱				+	+	+		+	+	+	+	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)	(1)	(2)	(1)	
		イトマキヒトデ属						(2)	(1)		(5)			
		キヒトデ						(3)	(23)	(2)	(1)			
	ナマコ	マナマコ							(2)	(1)	(1)			
脊索動物	ホヤ	マボヤ											+	
		エボヤ				+	+				+			
		ホヤ綱 (群体性)			5	20	10	5	+					
		ホヤ綱 (単体性)				+	+	+	+				+	+
出現種類数			2	5	7	10	10	10	9	6	10	6	8	4

備考 1) 出現種の各数値は被度 (%) を、() 内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 4～9 種、全体で 31 種の付着動物が目視観察によって確認され、-5m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではコモレビコガモガイ、カラマツガイといった巻貝が多くみられ、±0m では二枚貝のムラサキイガイ、-3m ではカンザシゴカイ科、-4m では Phoronis 属の被度が高くなっていた。

表 3-14 (2) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フ'ロック	フ'ロック	フ'ロック	フ'ロック	フ'ロック	フ'ロック	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	5	+	+	+			
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+	+	+	+	+				
	花虫	タテジマイソギンチャク			+									
		イソギンチャク目				+	+							
		シオガマサンゴ科										+		+
軟体動物	多板	ヒザラガイ		(4)										
	腹足	マツバガイ	(6)	(2)										
		コモレビコガモガイ		(11)										
		アラレタマキビ	(216)											
		タマキビ	(9)											
		オオヘビガイ			+		+	+	+	+	+			
		シメノウフネガイ									(1)			
		ヒメヨウラク												(1)
		カラマツガイ		(23)										
		キクノハナガイ		(3)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		10										
		イワガキ			5									
		イタボガキ科		+										
		キクザルガイ科									+			
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						+						
		カンザシゴカイ科				+	10	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+											
		サンカクフジツボ									+		+	
簪虫動物	簪虫	Phoronis属				5	+	10		+				
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	+	+		+	+	+	5	+	+
棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ			(3)								(2)	(1)
	ウニ	ムラサキウニ							(2)					
	ナマコ	マナマコ							(2)			(1)	(1)	
脊索動物	ホヤ	エボヤ									+		+	
		ホヤ綱 (群体性)			+	5	+	5	+					
		ホヤ綱 (単体性)				+		+	+	+				
出現種類数			4	7	7	8	8	8	9	7	8	4	6	4

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 2～9 種、全体で 27 種の付着動物が目視観察によって確認され、-7m で種類数が最も多くなっていた。+1m ではアラレタマキビ、±0m ではコモレビコガモガイ、イボニシといった巻貝の個体数が多く、-1m では尋常海綿綱、-2～-3m ではカンザシゴカイ科、-3m では Phoronis 属、-5m では苔虫綱の被度が高くなっていた。また、マナマコが-5～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-14 (3) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			20	+	+	+			+	+		
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱									+	+		
	花虫	タテジマイソギンチャク				+								
		イソギンチャク目								+				
		シオガマサンゴ科									+		+	+
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(11)										
		アラレタマキビ	(11)											
		タマキビ	(2)											
		オオヘビガイ				+	+	+	+	+	+			
		レイシガイ			(1)							(1)		
		イボニシ		(26)										
		アメフラシ					(1)							
	二枚貝	ムラサキガイ		5										
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					+	+						
		ケヤリムシ科								+				
		カンザシゴカイ科			5	10	30	+		+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	クロフジツボ		+										
		サンカクフジツボ												+
蠕虫動物	蠕虫	Phoronis属				+	25	+						
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	5		5	40	5	+	5	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ												(1)
		イトマキヒトデ属									(1)			
		キヒトデ								(9)				(2)
	ナマコ	マナマコ							(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)
脊索動物	ホヤ	エボヤ												+
		ホヤ綱 (群体性)				+	+	+	+					
		ホヤ綱 (単体性)				+	+	+	+	+	+	+		
出現種類数			2	4	4	8	8	8	5	8	9	7	4	8

備考 1) 出現種の各数値は被度 (%) を、() 内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-15 に泉大津沖埋立処分場の 5 点（D-2、D-3、D-5、D-6、D-7）における動物の目視観察結果を示した。写 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～13 種、全体で 26 種の付着動物が目視観察によって確認された。-12～-13m では付着動物は確認されず、±0m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では巻貝のコモレビコガモガイの個体数が多く、イワフジツボの被度が極めて高くなっていた。-3～-5m で尋常海綿綱とカンザシゴカイ科、-5m で苔虫綱の被度が高く、中でも、カンザシゴカイ科については-4～-5m での被度が極めて高くなっていた。

表 3-15 (1) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	基 質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				+	10	10	10								
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+	+	+	+	+								
	花虫	タテジマイソギンチャク		+													
		イソギンチャク目		+	+												
軟体動物	腹足	ベッコウガサ		(1)													
		マツバガイ		(2)													
		ヨメガカサ		(6)													
		コモレビコガモガイ		(11)													
		ウノアシ		(7)													
		アラレタマキビ	(121)														
		シマメノウフネガイ											(1)		(1)		
		レイシガイ			(1)												
		イボニシ		(2)	(2)	(1)											
		カラマツガイ		(1)													
		キクノハナガイ		(2)													
	二枚貝	イタボガキ科		+													
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			5	5	20	50	50	+	+	+	+				
節足動物	顎脚	イワフジツボ	5	50													
		クロフジツボ		+													
		サンカクフジツボ						+	+		+	+	+	+	+		
苔虫動物	苔虫	Phoronis属			+		+										
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	5	+	5	10	5	+	+	+	+	+		
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)		(1)					
		キヒトデ										(2)	(2)	(1)	(2)		
	ウニ	サンショウウニ										(1)					
	ナマコ	マナモコ							(1)		(1)	(1)					
出現種類数			2	13	7	5	5	5	6	3	4	6	6	3	4	0	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 1～11 種、全体で 23 種の付着動物が目視観察によって確認され、±0m で最も種類数が多かった。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではコモレビコガモガイ、アラレタマキビといった巻貝が多くみられた。±0～-3m では二枚貝のムラサキイガイ、-2～-3m でイソギンチャク目、-2～-5m でカンザシゴカイ科、-3～-4m で Phoronis 属、-3～-5m で苔虫綱、-4～-5m で尋常海綿綱、-5m でホヤ綱（群体性）苔虫綱の被度が高かった。中でも、ムラサキイガイについては-1m での被度が極めて高くなっていた。また、-5～-12m の広い範囲でキヒトデとサンショウウニがみられた。

表 3-15 (2) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-3)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱					+	40	30								
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+		+	+									
	花虫	イソギンチャク目			+	10	10	+									
軟体動物	多板	ヒザラガイ		(3)													
	腹足	ヨメガカサ		(6)													
		コモレビコガモガイ		(21)													
		ウノアシ		(1)													
		アラレタマキビ	(189)	(42)													
		イボニシ		(2)													
		カラマツガイ		(1)													
	二枚貝	ムラサキイガイ		40	50	10	10										
		イタボガキ科	+	+													
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	10	10	20	20	5	+	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ		5													
		サンカクフジツボ		+								+	+	+			
嚢虫動物	嚢虫	Phoronis属				+	30	20									
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	5	10	10	10	5	+	+	+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ													(1)		
		キヒトデ							(1)	(2)	(1)	(2)	(5)	(3)	(1)	(1)	
	ウニ	サンショウウニ								(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)	
	ナマコ	マナマコ										(1)	(1)				
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）					5	+	40								
		ホヤ綱（単体性）						+	+	+							
出現種類数			2	11	5	5	8	8	6	5	4	6	6	5	5	4	1

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、各水深帯で 3～8 種、全体で 13 種の付着動物が目視観察によって確認され、壁面の-1～-3m 付近や遊水室の各面で種類数が多くなる傾向がみられた。壁面の±0～-3m ではカンザシゴカイ科、-1～-3m では苔虫綱、-2～-3m では Phoronis 属の被度が高くなっていた。また、遊水室内の上面、側面ではカンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱の被度が高かった。

表 3-15 (3) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			エ コ 岸 壁							
			壁 面					遊 水 室		
			+1	±0	-1	-2	-3			
門	綱	種 名	ケ-ソ	石 綱	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	+	+	+
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+	+	+	+	+
	花虫	イソギンチャク目		+	+	+		+		
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(7)							
		レイシガイ				(2)	(4)			
		イボニシ		(8)						
		カラマツガイ	(1)							
	二枚貝	ムラサキイガイ		+						
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		20	30	10	10	20	20	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+							
簪虫動物	簪虫	Phoronis属			+	10	30	40	30	+
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			10	20	20	20	20	+
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+		+	+	
出現種類数			3	4	6	8	6	7	6	5

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

3) 遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

・地点 D-6

D-6 の地点では、各水深帯で 2～11 種、全体で 19 種の付着動物が目視観察によって確認され、壁面の-1～-5m 付近や遊水室の上室、下室の上面、側面などで種類数が増える傾向がみられた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、イワフジツボの被度が高くなっていた。また、±0m と-3m で尋常海綿綱、-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-1～-4m でカンザシゴカイ科、-2m で Phoronis 属の被度が高くなっていた。また、遊水室内の上室の上面、側面ではイソギンチャク目、Phoronis 属、苔虫綱の、上室の上面、下面ではカンザシゴカイ科の、下室の上面ではイソギンチャク目の、下室の上面、側面ではカンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱の被度が高くなっていた。中でも、上室の下面のカンザシゴカイ科の被度は極めて高かった。

表 3-15 (4) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			エコ岸壁												
			壁面							遊水室					
			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
門	綱	種 名	ケ-ソ	石網 (網欠損)	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱		10	+	+	10	+	+	+	+	+	+	+	
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱								+	+		+	+	+
	花虫	タテジマイソギンチャク			+										
		イソギンチャク目			+	+				30	10	5	20	+	+
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(52)												
		レイシガイ		(1)			(1)	(1)		r	r		r		r
	二枚貝	ムラサキイガイ		+	20	+				+	5	+	+	+	
		イタボガキ科								+	+		+		
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	40	30	40	30	5	10	5	50	10	30	5
節足動物	顎脚	イワフジツボ	10												
		サンカクフジツボ					+	+	+						
筈虫動物	筈虫	Phoronis属			5	20	5	+	+	10	30		10	30	
苔虫動物	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	5	10	10		20	20	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ							(1)	r	r	r			
	ウニ	サンショウウニ							(1)						
	ナマコ	マナマコ													r
脊索動物	ホヤ	エボヤ							+						
		ホヤ綱（群体性）			+	+	+	+	+						
		ホヤ綱（単体性）			+	+	+	+	+	5	+	+	+	+	+
出現種類数			2	4	9	8	8	8	10	11	11	6	10	8	6

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

3) 遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

・地点 D-7

D-7 の地点では、各水深帯で 2～11 種、全体で 21 種の付着動物が目視観察によって確認された。エコパネル設置水深である M. W. L. ±0m と L. W. L. +0.25m の付着基盤別の合計種類数は Co 製パネルで 7 種、鋼製パネルで 12 種、護岸壁で 9 種となっており、鋼製パネルの種類数が多かった。Co 製パネルでは、M. W. L. ±0m～L. W. L. +0.25m でイワフジツボ、L. W. L. +0.25m でサンカクフジツボの被度が高くなっており、中でも、イワフジツボについては M. W. L. ±0m での被度が極めて高くなっていった。鋼製パネルでは、M. W. L. ±0m～L. W. L. +0.25m でイワフジツボとサンカクフジツボの被度が高くなっており、Co 製パネルと同様にイワフジツボについては M. W. L. ±0m での被度が極めて高くなっていった。護岸壁では、+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、+1～±0m ではイワフジツボ、±0m では二枚貝のムラサキイガイとマガキ、L. W. L. +0.25m～-4m ではカンザシゴカイ科、-2～-3m では Phoronis 属の被度が高く、特に L. W. L. +0.25m～-2m のカンザシゴカイ科の被度は極めて高くなっていった。

表 3-15 (5) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-7)

調査日：令和2年5月30日

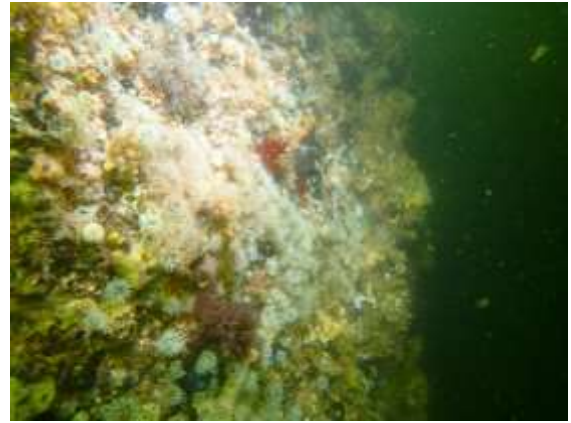
水面からの高さ(m)			Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁							
			M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.		L. W. L.	M. W. L.				
			±0	+0.25	±0	+0.25	+1	±0	+0.25	-2	-3	-4	-5	-6
門	綱	種 名	Co		鋼		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱		+		+			+	+	+	+	5	
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱		+	+	5								
	花虫	タテジマイソギンチャク			+			+	+					
		イソギンチャク目			+									
軟体動物	腹足	アラレタマキビ					(40)							
		レイシガイ			(7)	(1)								
		イボニシ			(1)									
	二枚貝	ムラサキイガイ		5	+	5		10	5					
		マガキ						40						
		イタボガキ科			+	+								
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	10	20			60	50	40	20	5	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	50	10	50	10	40	20						
		サンカクフジツボ	+	20	+	5								
蓍虫動物	蓍虫	Phoronis属							+	10	20			
苔虫動物	苔虫	苔虫綱		5	+	+			+	+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ												(1)
		キヒトデ											(2)	(1)
	ウニ	サンショウウニ											(1)	(1)
脊索動物	ホヤ	エボヤ										+	+	+
		ホヤ綱（群体性）						+				+	5	+
		ホヤ綱（単体性）				+			+	+	+	+	+	+
出現種類数			2	7	11	10	2	4	7	5	5	6	8	8

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



尋常海綿綱



イソギンチャク目



アラレタマキビ



レイシガイ



カラマツガイ・ムラサキイガイ



マガキ

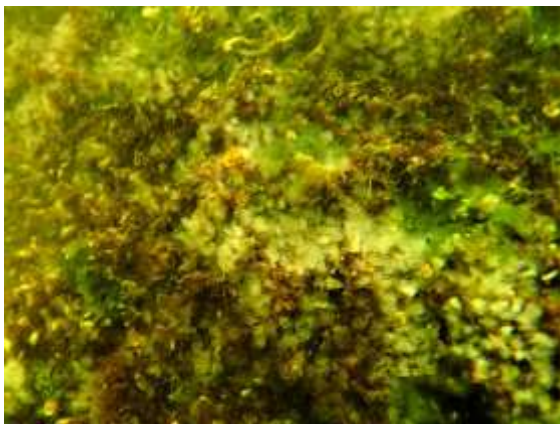
写 3-7 (1) 目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）



カンザシゴカイ科



イワフジツボ



Phoronis 属



苔虫綱



イトマキヒトデ



キヒトデ

写 3-7 (2) 目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物）

各処分場において護岸にブロックを用いている神戸沖埋立処分場の2点（A-2、A-4）、大阪沖埋立処分場の2点（C-2、C-3）、泉大津沖埋立処分場の1点（D-2）においては、ブロック側面、裏面の状況を、目視および写真撮影により確認した。

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-16 に神戸沖埋立処分場の2点（A-2、A-4）におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。写 3-8 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 A-2

±0m では各面でアオサ属、巻貝のイボニシなどが、-1～-3m ではハイテングサ、イギス目、カンザシゴカイ科、キヒトデなどが確認された。全体的に、上面、側面、裏面での付着生物相の大きな変化は認められなかった。

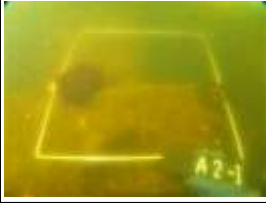
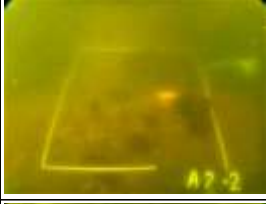
表 3-16 (1) 動植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

A-2	平均水面(m)	±0	-1	-2	-3
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アオサ属 アオサ属 イボニシ カラマツガイ	ハイテングサ イボニシ キヒトデ	マクサ イトマキヒトデ	カバノリ キヒトデ
	右側面	アオサ属 イボニシ カラマツガイ	ハイテングサ マクサ 尋常海綿綱 キヒトデ	イギス目 カンザシゴカイ科 苔虫綱	カバノリ イギス目 マナマコ
	左側面	アオサ属 イボニシ カラマツガイ	ハイテングサ カンザシゴカイ科 キヒトデ	イギス目 カンザシゴカイ科 キヒトデ	イギス目 ミズヒキゴカイ科 Phoronis属
	裏面	マクサ イソギンチャク目 イボニシ ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ	イギス目 カンザシゴカイ科 キヒトデ	ミズヒキゴカイ科 カンザシゴカイ科 Phoronis属 キヒトデ

※主要種: 上面については観察時の被度が10%以上または個体数が3個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
±0				
-1				
-2				
-3				

写 3-8 (1) ブロック各位置の付着動植物の状況 (神戸沖埋立処分場 A-2)

・地点 A-4

+1m では各面に小型の巻貝のアラレタマキビ、タマキビが多くみられた。±0 m では各面に緑藻のアオノリ属やイタボガキ科が多く付着していた。-1~-6m では上面を除く各面に紅藻のイギス目が生育し、-3~-4m では各面に藻場構成種（大型褐藻）のワカメや紅藻のマクサが、-4~-6m では各面に紅藻のカバノリが繁茂し、-5~-6m の上面では紅藻のマサゴシバリの繁茂もみられた。動物では-1~-6m の各面にカンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱、ホヤ綱（群体性）などがみられた。-7m 以深では植物の生育はみられず、上面以外の各面にカンザシゴカイ科、苔虫綱などがみられた。

表 3-16 (2) 動植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アラレタマキビ タマキビ	アオノリ属 コモレビコガモガイ カラマンガイ キクノハナガイ	—	ヒドロ虫綱 Phoronis属	アオサ属 マクサ カンザシゴカイ科 Phoronis属	ワカメ ミズヒキゴカイ科 キヒトデ	マサゴシバリ キヒトデ	マサゴシバリ	—	—	—	—
	右側面	アラレタマキビ タマキビ	アオノリ属 イタボガキ科	イギス目 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	尋常海綿綱 Phoronis属 ホヤ綱(群体性)	ワカメ マクサ フダラク	カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱	イギス目 苔虫綱 キヒトデ マナマコ	ナミマガシワ キクザルガイ科 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科
	左側面	アラレタマキビ タマキビ イワフジツボ	アオノリ属 イソギンチャク目 ウノアシ イタボガキ科	イギス目 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	イギス目 イソギンチャク目 ホヤ綱(群体性)	イギス目 カンザシゴカイ科 苔虫綱	イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	イギス目 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	カバノリ イギス目 苔虫綱 イトマキヒトデ	ナミマガシワ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科
	裏面	アラレタマキビ タマキビ	アオノリ属 ムラサキイガイ イタボガキ科	イギス目 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	イギス目 イソギンチャク目 ホヤ綱(群体性)	マクサ ムカデノリ科 ホヤ綱(群体性)	カバノリ ミズヒキゴカイ科 カンザシゴカイ科 苔虫綱	イギス目 カンザシゴカイ科 苔虫綱	カバノリ イギス目 カンザシゴカイ科 苔虫綱	ナミマガシワ キクザルガイ科 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	キクザルガイ科 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科

※主要種: 上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				
-5				
-6				
-7				
-8				
-9				
-10				

写 3-8 (2) ブロック各位置の付着動植物の状況 (神戸沖埋立処分場 A-4)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-17 に大阪沖埋立処分場の 2 点 (C-2、C-3) におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。写 3-9 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 C-2

+1m では各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息しており、イワフジツボがみられた。±0~-2m では各面に緑藻のアオサ属が繁茂しており、-1~-4m の各面では紅藻のツノマタ属、フダラクが、-3~-4m の各面では褐藻のヤハズグサが生育していた。動物では±0m では二枚貝のムラサキイガイやイタボガキ科が多くみられ、±0m の上面ではコモレビコガモガイ、カラマツガイ、キクノハナガイなどの小型の巻貝類が、それ以外の面では巻貝のレイシガイが生息していた。-2m 以深では、各面で尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、Phoronis 属、ホヤ綱（群体性）などが確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1~-4m の多くの面でワカメが繁茂し、-3~-4m の多くの面でアカモクが確認された。

表 3-17 (1) 動植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

C-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	マツバガイ アラレタマキビ タマキビ	ヒザラガイ コモレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ	アオサ属 ツノマタ属 フダラク キヒトデ	アオサ属 コモングサ ワカメ ツノマタ属 フダラク	ヤハズグサ コモングサ ワカメ アカモク ツノマタ属 カンザシゴカイ科	ワカメ カバノリ Phoronis属
	右側面	アラレタマキビ イワフジツボ	アオサ属 レイシガイ ムラサキイガイ イタボガキ科	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	アオサ属 ワカメ フダラク	ヤハズグサ アカモク フダラク 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	ヤハズグサ ワカメ アカモク ツノマタ属
	左側面	アラレタマキビ イワフジツボ	アオサ属 レイシガイ ムラサキイガイ イタボガキ科	アオサ属 ワカメ フダラク	ワカメ ツノマタ属 フダラク	ワカメ フダラク 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	ヤハズグサ ワカメ アカモク ツノマタ属
	裏面	アラレタマキビ イワフジツボ	アオサ属 レイシガイ ムラサキイガイ イタボガキ科	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツノマタ属 フダラク カンザシゴカイ科	ツノマタ属 フダラク カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	アカモク ツノマタ属 フダラク

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

写 3-9 (1) ブロック各位置の付着動植物の状況 (大阪沖埋立処分場 C-2)

・地点 C-3

+1m では各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息していた。+1～±0m では各面に緑藻のアオサ属が繁茂し、±0m では各面に二枚貝のムラサキイガイの生息を確認した。-1～-3m の各面では紅藻のウスカワカニノテ、フダラク、カバノリなどが、-4m では上面以外でイギス科が生息していた。-1～-2m では尋常海綿綱、-2～-4m ではカンザシゴカイ科、苔虫綱などが各面で確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1m の右側面と-2m の右側面以外の3面でワカメが、-2m の左側面、-4m の上面以外の3面でシダモクが、-1m の上面でタマハハキモクが確認された。

表 3-17 (2) 動植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

C-3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アオサ属 アラレタマキビ	アオサ属 コモレビコガモガイ イボニシ	シオミドロ科 タマハハキモク ウスカワカニノテ フダラク 尋常海綿綱	ワカメ ウスカワカニノテ カンザシゴカイ科	カバノリ カンザシゴカイ科 Phoronis属	-
	右側面	アオサ属 アラレタマキビ タマキビ	アオサ属 フダラク ムラサキイガイ	ワカメ フダラク 尋常海綿綱 苔虫綱	アオサ属 ウスカワカニノテ カンザシゴカイ科 苔虫綱	フダラク カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱	シダモク イギス科 カンザシゴカイ科
	左側面	アオサ属 アラレタマキビ カラマツガイ	アオサ属 フダラク ムラサキイガイ	アオサ属 フダラク	ワカメ シダモク ウスカワカニノテ カンザシゴカイ科	フダラク カバノリ オオヘビガイ カンザシゴカイ科	シダモク ウスカワカニノテ イギス科 カンザシゴカイ科
	裏面	アオサ属 アラレタマキビ タマキビ カラマツガイ	アオサ属 フダラク ムラサキイガイ	フダラク 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	ワカメ ウスカワカニノテ 尋常海綿綱 苔虫綱	フダラク カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱	シダモク イギス科

※主要種: 上面については観察時の被度が10%以上または個体数が3個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

写 3-9 (2) ブロック各位置の付着動植物の状況 (大阪沖埋立処分場 C-3)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-18 に泉大津沖埋立処分場の 1 点 (D-2) におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。写 3-10 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 D-2

ブロックの形状等により部分的に写真撮影や観察が困難な箇所があったが、+1m では巻貝のアラレタマキビが多く生息し、右側面、左側面では巻貝のイボニシやイワフジツボなどの付着もみられた。±0m の右側面、左側面では緑藻のアオサ属が生育し、各面ではコモレビコガモガイ、ウノアシ、イボニシ、カラマツガイ、キクノハナガイといった巻貝類や上面ではイワフジツボが多数付着していた。-1~-2m の上面、右側面、左側面ではアオサ属が繁茂し、-1~-2m の右側面、左側面では藻場構成種（大型褐藻）のワカメが生育していた。-1~-4m の上面以外では紅藻のマクサ、フダラクなどが、-2~-4m の上面では紅藻のムカデノリが、-2m の右側面、左側面では褐藻のヤハズグサが、-5m の各面では紅藻のタオヤギソウが多くみられた。その他、-1m 以深の各面では尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱、ホヤ綱（群体性）などが観察された。

表 3-18 動植物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-2 ）

D-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ ウノアシ イワフジツボ	アオサ属	アオサ属 ムカデノリ	ムカデノリ カバノリ 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	ムカデノリ 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	カバノリ タオヤギソウ 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱
	右側面	アラレタマキビ イボニシ イワフジツボ	アオサ属 ウノアシ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ	アオサ属 ワカメ マクサ カンザシゴカイ科	アオサ属 ヤハズグサ マクサ カンザシゴカイ科	アオサ属 マクサ 尋常海綿綱	アオサ属 マクサ イソギンチャク目 カンザシゴカイ科	ワカメ マクサ カバノリ タオヤギソウ
	左側面	マツバガイ アラレタマキビ イボニシ イワフジツボ クロフジツボ	アオサ属 イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ	ワカメ マクサ フダラク	アオサ属 ヤハズグサ マクサ カンザシゴカイ科	アオサ属 カンザシゴカイ科 Phoronis 属	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 Phoronis 属	マクサ タオヤギソウ カンザシゴカイ科
	裏面			マクサ 尋常海綿綱 ホヤ綱（群体性）	尋常海綿綱 イソギンチャク目 ホヤ綱（群体性）	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 Phoronis 属	マクサ フダラク ホヤ綱（群体性）	マクサ ベニスナゴ カンザシゴカイ科 苔虫綱

※主要種: 上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				
-5				

写 3-10 ブロック各位置の付着動植物の状況 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

3-4 遊泳魚類等調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-19 に神戸沖埋立処分場の 3 点 (A-2、A-4、A-5) における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。写 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、メバル、カサゴ、ウミタナゴ、ハゼ科、シリヤケイカの 5 種が目視観察によって確認された。-6~-7m ではメバルが 11~50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-19 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 基質	ケソソ	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル (3~5)								c				
		カサゴ (4~25)								rr		r		
		ウミタナゴ (10)								rr				
		ハゼ科 (3)										r		rr
軟体動物	頭足	シリヤケイカ (25)										rr		
出現種類数			0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	1	

備考 1) カサゴ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1~2個体, r:3~10個体, c:11~50個体, cc:51個体以上

2) カサゴ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、メバル、キュウセン、ホシササノハベラの 3 種の遊泳魚類が目視観察で確認された。-6~-7m の水深帯での確認種が最も多かった。また、-6~-7m ではメバルが 11~50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-19 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質 種 名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
脊索動物	硬骨魚	メバル (3)						r		c				
		キュウセン (20～25)								rr				r
		ホシササノハベラ (15～25)								rr				rr
出現種類数			0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	2	

備考 1) カサゴ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1~2個体, r:3~10個体, c:11~50個体, cc:51個体以上

2) カサゴ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、カサゴ 1 種の確認であった。

表 3-19 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：令和2年5月31日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種 名 基 質	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂泥
脊索動物	硬骨魚	カサゴ(10～15)				r		rr		r		rr		rr	
出現種類数			0	0		1		1		1		1		1	1

備考1) イカ・タコ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) イカ・タコ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-20 に大阪沖埋立処分場の 3 点 (C-1、C-2、C-3) における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。写 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、メバル、クジメ、クロダイ、ウミタナゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、コブダイの 7 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m ではメバルが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-20 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	基 質											
			ケーソソ	ケーソソ	ケーソソ	ケーソソ	ケーソソ	ケーソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル (3～20)					r		c		r			
		クジメ (15)									rr			
		クロダイ (35)							rr					
		ウミタナゴ (10)							rr					
		スズメダイ (6～8)							r					
		ホシササノハベラ (5)									rr			
		コブダイ (10)									rr			
出現種類数			0	0		1		4		4		0		0

備考 1) ｲｶﾞｸﾀﾞ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞｸﾀﾞ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、メバル、カサゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、コブダイ、ナベカ、ウマヅラハギの 7 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が最も多かった。

表 3-20 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	基 質		ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
			ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫		
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～8)					r		r				rr	
		カサゴ(10)									rr			
		スズメダイ(6～8)									rr			
		ホシササノハベラ(20)							rr					
		コブダイ(20)									rr			
		ナベカ(5)			rr									
		ウマヅラハギ(30)											rr	
出現種類数			0	1		1		2		3		2	0	

備考 1) ｲｶﾞｸﾀﾞ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞｸﾀﾞ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、ボラ、メバル、カサゴ、ホシササノハベラ、コブダイ、カワハギの6種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が最も多かった。-4～-5m ではメバルが11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-20 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：令和2年5月24日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	基 質		フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	ボラ (60)							r					
		メバル (20)						c				rr		
		カサゴ (7～15)								rr		rr		
		ホシササノハベラ (15)								rr				
		コブダイ (10)								rr				
		カワハギ (10)								rr				
		出現種類数		0	0	0	0	2	4	2	0			

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-21 に泉大津沖埋立処分場の 5 点（D-2、D-3、D-5、D-6、D-7）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。写 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、メバル、キジハタ、クロダイ、イシダイ、スズメダイ、キュウセン、コブダイの 7 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m ではメバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-21 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13	
門	綱	種 名	基 質															
			ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～15)		r			r		c		r		rr		rr			
		キジハタ(20)					rr		rr									
		クロダイ(30)					r		rr									
		イシダイ(20)					rr		rr									
		スズメダイ(10)									r							
		キュウセン(5～20)									r							
		コブダイ(15)					rr		rr									
出現種類数			0	1		5		5		3		1		1		0		

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、遊泳魚類等の生息を確認できなかった。

表 3-21 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-3)

調査日：令和2年5月30日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	基 質														
			ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	ｹｰﾂﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
出現種なし																	
出現種類数			0	0		0		0		0		0		0			0

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、メバル、カサゴ、クロダイの 3 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺部における確認種が多かった。エコ岸壁周辺部ではメバルとカサゴがそれぞれ 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-21 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：令和2年5月30日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種 名 / 基 質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
脊索動物	硬骨魚	メバル (10～20)	rr	c	
		カサゴ (20)		c	
		クロダイ (30)		rr	
出現種類数			1	3	0

備考 1) 偽・知類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) 偽・知類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-6

D-6 の地点では、メバル、アナハゼ、クロダイ、ホシササノハベラ、アカオビシマハゼ、マダコの 6 種類が目視観察によって確認された。遊水室内の種類数が多く、エコ岸壁周辺においてメバルが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-21 (4) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：令和2年5月30日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種 名 / 基 質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
脊索動物	硬骨魚	メバル (3～5)	rr	c	r
		アナハゼ (10)	rr		
		クロダイ (40)		rr	
		ホシササノハベラ (10)	rr		
		アカオビシマハゼ (5)	rr		
軟体動物	頭足	マダコ (40)			rr
出現種類数			4	2	2

備考 1) 偽・知類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) 偽・知類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-7

D-7 の地点では、メバル、クロダイ、カワハギの 3 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。Co 製パネル周辺での確認種数が多く、鋼製パネル周辺での確認種はなかった。Co 製パネル周辺においてメバルが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-21 (5) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-7)

調査日：令和2年5月30日

			Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁									
			M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.	L. W. L.	M. W. L.		L. W. L.	M. W. L.						
			±0	+0. 25	±0	+0. 25	+1	±0	+0. 25	-2	-3	-4	-5	-6		
門	綱	種 名	水面からの高さ (m)		基 質											
			Co		鋼		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン		
脊索動物	硬骨魚	メバル (3～20)	c										rr		r	
		クロダイ (30～40)	rr										rr			
		カワハギ (3)	rr													
出現種類数			3		0		0	0		0			2		1	

備考 1) いか類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) いか類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長 (cm)を示す。



メバル



カサゴ



クジメ



クロダイ



キュウセン



ホシササノハベラ

写 3-11 (1) 目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）



コブダイ



カワハギ



シリヤケイカ



マダコ

写 3-11 (2) 目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-5 水質調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-22 に神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5) における水質調査結果を示した。
図 3-1 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 A-2

A-2 の調査時(令和 2 年 5 月 31 日 9:14)の天候は雨、作業船上での気温は 19.5℃、北東の風 2.8m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 1.7m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.28～20.19℃の範囲にあり、水深 3～4m に水温躍層がみられた。

塩分は 24.56～32.62 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量(DO)は 1.42～11.12mg/L の範囲にあり、水深 5m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 5m 以深においても付着生物はみられた。また、水深 3m 以浅で 10.82 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 1m 以深で急激に低下し、7m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-22 (1) 水質調査結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：令和 2 年 5 月 31 日

調査地点 A-2		調査時刻 9:14		天候 雨	気温 19.5℃
風向 NE		風速 2.8m/s		雲量 10	風浪階級 3
水深 15.5m		透明度 1.7m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.19	24.56	366.8	100.0	11.09
0.5	20.17	25.07	171.1	46.6	11.12
1	20.16	25.32	77.9	21.2	11.11
2	20.13	25.59	31.2	8.5	11.08
3	20.05	25.88	15.4	4.2	10.82
4	17.41	31.64	7.7	2.1	6.74
5	17.14	32.01	5.5	1.5	4.74
6	16.76	32.26	4.2	1.1	4.15
7	16.71	32.38	3.4	0.9	4.09
8	16.61	32.44	2.8	0.8	4.07
9	16.53	32.52	2.3	0.6	4.10
10	16.32	32.52	2.0	0.5	3.03
11	16.28	32.57	1.6	0.4	2.33
12	16.28	32.60	1.3	0.4	1.89
13	16.31	32.61	1.0	0.3	1.80
14	16.33	32.62	0.8	0.2	1.74
15	16.36	32.62	0.7	0.2	1.42

・地点 A-4

A-4 の調査時（令和 2 年 5 月 31 日 11:18）の天候は曇り、作業船上での気温は 20.7℃、東北東の風 3.1m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark green、透明度は 1.7m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.65～19.89℃の範囲にあり、水深 3～4m に水温躍層がみられた。

塩分は 26.40～32.67 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 2.91～10.36mg/L の範囲にあり、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 7m 以深においても付着生物はみられた。また、水深 2m 以浅で 10.22 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、9m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-22 (2) 水質調査結果 （神戸沖埋立処分場 A-4）

調査日：令和 2 年 5 月 31 日

調査地点 A-4		調査時刻 11:18		天候 曇	気温 20.7℃
風向 ENE		風速 3.1m/s		雲量 10	風浪階級 3
水深 15.7m		透明度 1.7m	水色 dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	19.88	26.41	352.5	100.0	10.22
0.5	19.89	26.40	239.3	67.9	10.23
1	19.88	26.52	143.6	40.7	10.24
2	19.70	27.66	74.8	21.2	10.36
3	19.37	28.25	36.0	10.2	9.24
4	18.27	30.80	18.6	5.3	6.30
5	17.82	31.25	11.5	3.3	5.34
6	17.52	31.67	7.4	2.1	5.23
7	17.03	32.18	5.1	1.4	4.69
8	16.89	32.34	3.8	1.1	4.21
9	16.86	32.42	2.8	0.8	4.21
10	16.77	32.58	2.1	0.6	3.82
11	16.73	32.61	1.6	0.5	3.75
12	16.66	32.66	1.2	0.3	3.28
13	16.67	32.67	0.8	0.2	3.19
14	16.66	32.67	0.7	0.2	3.12
15	16.65	32.67	0.5	0.1	2.91

・地点 A-5

A-5 の調査時（令和 2 年 5 月 31 日 13:36）の天候は曇り、作業船上での気温は 22.7℃、東北東の風 2.5m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 2.1m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.69～19.89℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 28.64～32.61 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 1.98～9.58mg/L の範囲にあり、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 7m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、8m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-22 (3) 水質調査結果 （神戸沖埋立処分場 A-5）

調査日：令和 2 年 5 月 31 日

調査地点 A-5		調査時刻 13:36		天候 曇	気温 22.7℃
風向 ENE		風速 2.5m/s		雲量 10	風浪階級 3
水深 16.1m		透明度 2.1m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	19.86	28.64	333.9	100.0	9.54
0.5	19.89	28.64	230.6	69.1	9.55
1	19.88	28.64	149.8	44.9	9.58
2	19.35	28.99	63.4	19.0	9.50
3	18.94	29.55	32.6	9.8	8.15
4	18.71	29.79	17.8	5.3	7.93
5	18.47	30.35	10.9	3.3	7.01
6	18.08	30.98	6.7	2.0	6.02
7	17.29	31.87	4.4	1.3	4.62
8	16.94	32.22	3.3	1.0	4.27
9	16.83	32.47	2.4	0.7	3.82
10	16.80	32.50	1.9	0.6	3.82
11	16.78	32.53	1.2	0.4	3.72
12	16.78	32.57	0.9	0.3	3.55
13	16.78	32.58	0.7	0.2	3.80
14	16.74	32.61	0.6	0.2	3.58
15	16.70	32.61	0.5	0.1	2.67
16	16.69	32.61	0.4	0.1	1.98

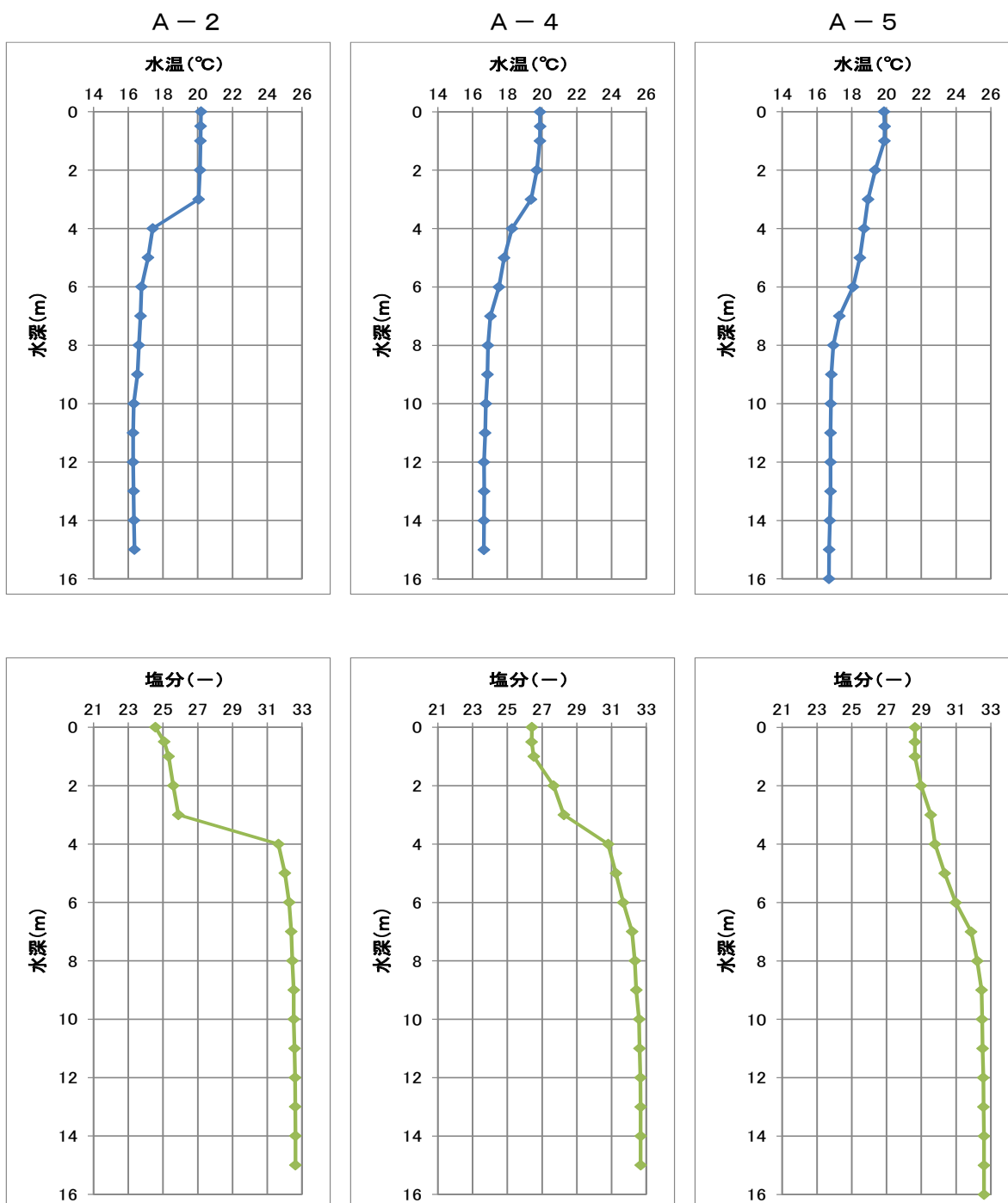


図 3-1 (1) 水質の鉛直分布 (神戸沖埋立処分場 水温 塩分)

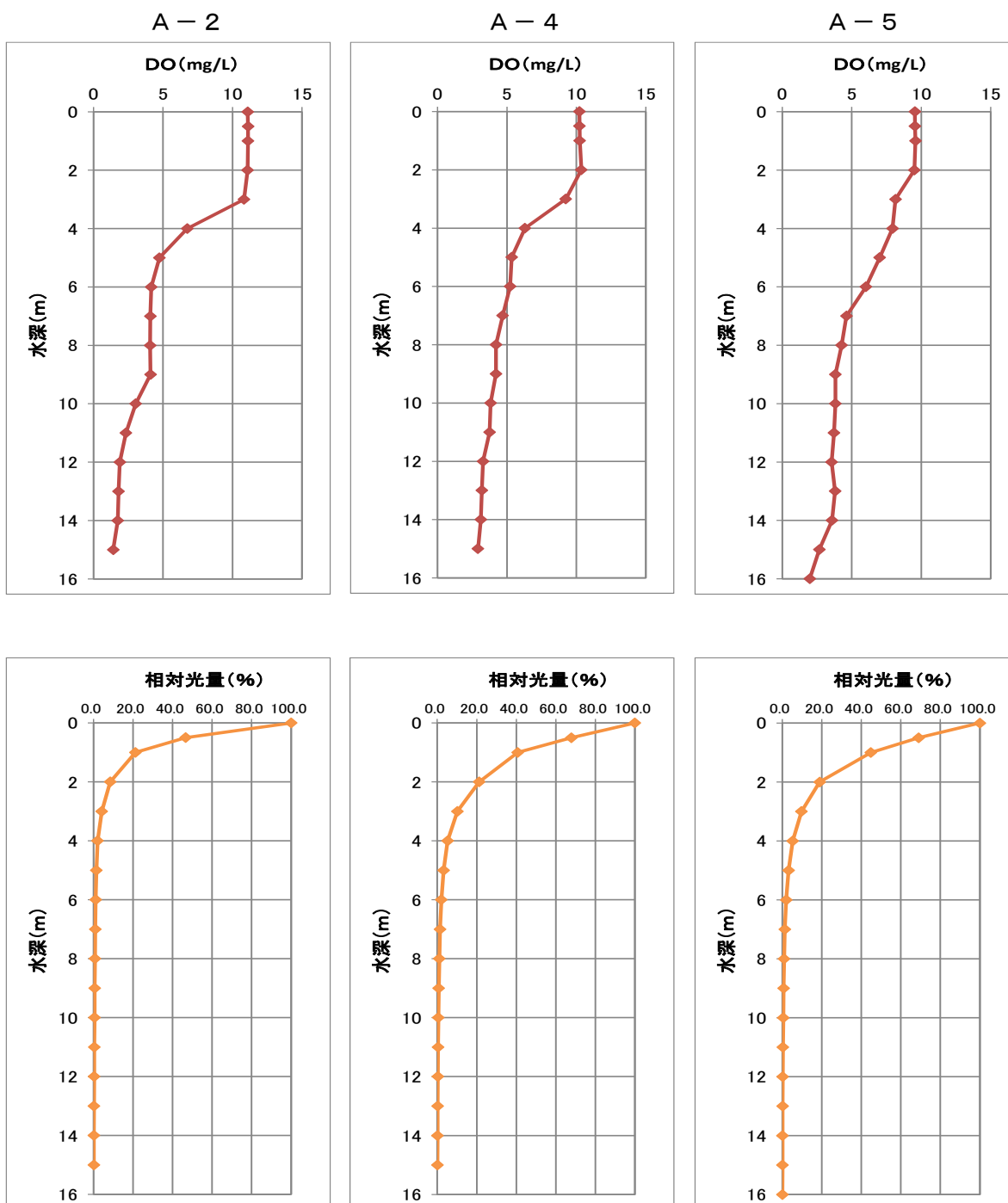


図 3-1 (2) 水質の鉛直分布 (神戸沖埋立処分場 DO 相対光量)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-23 に大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3) における水質調査結果を示した。
図 3-2 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 C-1

C-1 の調査時(令和 2 年 5 月 24 日 9:40)の天候は晴れ、作業船上での気温は 23.6℃、西南西の風 1.9m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark green、透明度は 1.9m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.16～20.48℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 26.34～32.57 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量 (DO) は 2.08～12.74mg/L の範囲にあり、水深 10m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 10m においても付着生物はみられた。また、水深 4m 以浅で 9.44 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、9m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-23 (1) 水質調査結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：令和 2 年 5 月 24 日

調査地点 C-1		調査時刻 9:40		天候 晴	気温 23.6℃
風向 WSW		風速 1.9m/s		雲量 3	風浪階級 1
水深 14.6m		透明度 1.9m	水色 dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.48	26.34	1116.5	100.0	12.49
0.5	19.78	26.42	852.4	76.3	11.69
1	19.93	26.45	789.0	70.7	12.74
2	18.91	28.50	321.1	28.8	9.44
3	18.87	28.58	156.3	14.0	11.91
4	18.01	30.27	80.8	7.2	10.30
5	16.88	31.81	44.7	4.0	6.20
6	16.87	31.86	28.7	2.6	5.68
7	16.76	31.96	17.8	1.6	6.41
8	16.57	32.16	12.5	1.1	6.16
9	16.42	32.30	8.3	0.7	5.50
10	16.26	32.46	6.2	0.6	4.89
11	16.19	32.55	3.9	0.3	4.31
12	16.16	32.57	2.6	0.2	4.02
13	16.16	32.57	1.6	0.1	2.79
14	16.16	32.56	1.3	0.1	2.08

・地点 C-2

C-2 の調査時（令和 2 年 5 月 24 日 11:20）の天候は晴れ、作業船上での気温は 24.5℃、西北西の風 3.2m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark green、透明度は 1.9m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.23～20.81℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 27.39～32.61 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 4.24～13.53mg/L の範囲にあり、付着生物の生息する水深 10m 以浅で 5 mg/L 以上であった。また、水深 3m 以浅で 10.45 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 1m 以深で急激に低下し、6m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-23 (2) 水質調査結果 （大阪沖埋立処分場 C-2）

調査日：令和 2 年 5 月 24 日

調査地点 C-2		調査時刻 11:20		天候 晴	気温 24.5℃
風向 WNW		風速 3.2m/s		雲量 3	風浪階級 1
水深 12.3m		透明度 1.9m	水色 dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.81	27.39	2248.5	100.0	11.84
0.5	19.57	27.61	1165.2	51.8	13.53
1	19.41	27.83	605.2	26.9	12.97
2	19.17	28.12	212.7	9.5	12.30
3	18.17	29.97	100.1	4.5	10.45
4	17.73	30.62	48.5	2.2	8.90
5	17.48	30.98	30.4	1.4	8.24
6	17.20	31.35	16.7	0.7	7.21
7	16.93	31.87	11.0	0.5	6.10
8	16.71	32.12	8.0	0.4	5.98
9	16.44	32.36	6.0	0.3	5.34
10	16.36	32.43	4.5	0.2	5.00
11	16.25	32.58	3.3	0.1	4.34
12	16.23	32.61	2.1	0.1	4.24

・地点 C-3

C-3 の調査時（令和 2 年 5 月 24 日 14:00）の天候は晴れ、作業船上での気温は 23.7℃、西南西の風 5.1m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark bluish green、透明度は 1.6m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.22～21.21℃の範囲にあり、水深 4～5m に水温躍層がみられた。

塩分は 26.81～32.53 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 4.01～13.14mg/L の範囲にあり、付着生物の生息する水深 11m 以浅で 5 mg/L 以上であった。また、水深 4m 以浅で 12.91 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 1m 以深で急激に低下し、7m 以深で 1% 以下となっていた。

表 3-23 (3) 水質調査結果 （大阪沖埋立処分場 C-3）

調査日：令和 2 年 5 月 24 日

調査地点 C-3		調査時刻 14:00		天候 晴	気温 23.7℃
風向 WSW		風速 5.1m/s		雲量 3	風浪階級 3
水深 14.1m		透明度 1.6m	水色 dark bluish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.21	26.82	1714.0	100.0	13.13
0.5	21.21	26.81	838.5	48.9	13.14
1	21.21	26.81	623.3	36.4	13.01
2	21.20	26.82	303.0	17.7	12.97
3	21.16	26.83	135.8	7.9	12.96
4	20.87	27.02	64.9	3.8	12.91
5	17.45	31.09	34.9	2.0	9.32
6	17.14	31.47	22.6	1.3	7.26
7	17.09	31.76	13.8	0.8	7.03
8	17.00	31.90	9.1	0.5	7.20
9	16.98	31.97	6.7	0.4	6.83
10	16.78	32.02	4.7	0.3	6.14
11	16.63	32.18	3.4	0.2	5.64
12	16.38	32.36	2.5	0.1	4.38
13	16.22	32.53	1.6	0.1	4.01
14	16.22	32.53	1.2	0.1	4.04

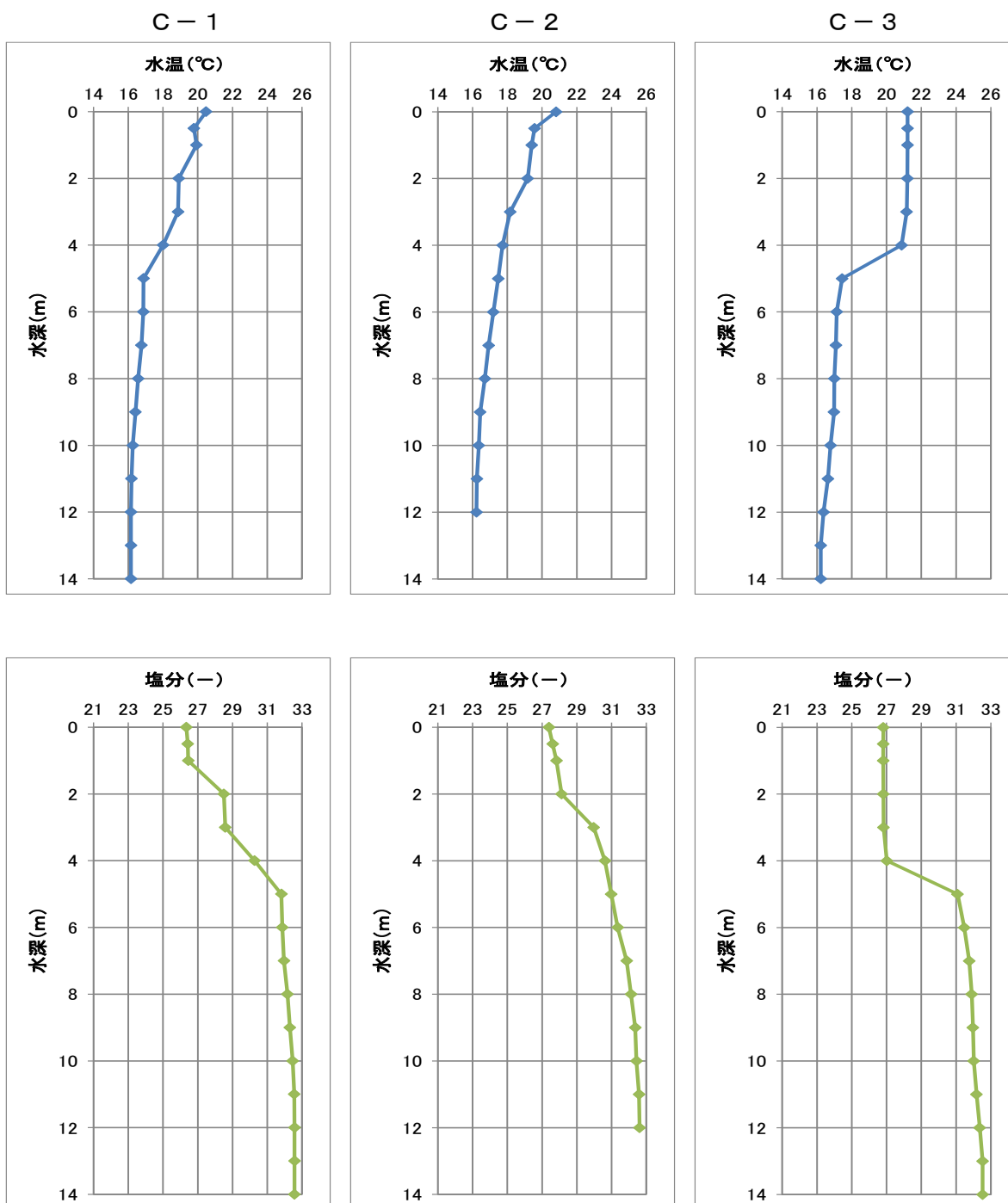


図 3-2 (1) 水質の鉛直分布 (大阪沖埋立処分場 水温 塩分)

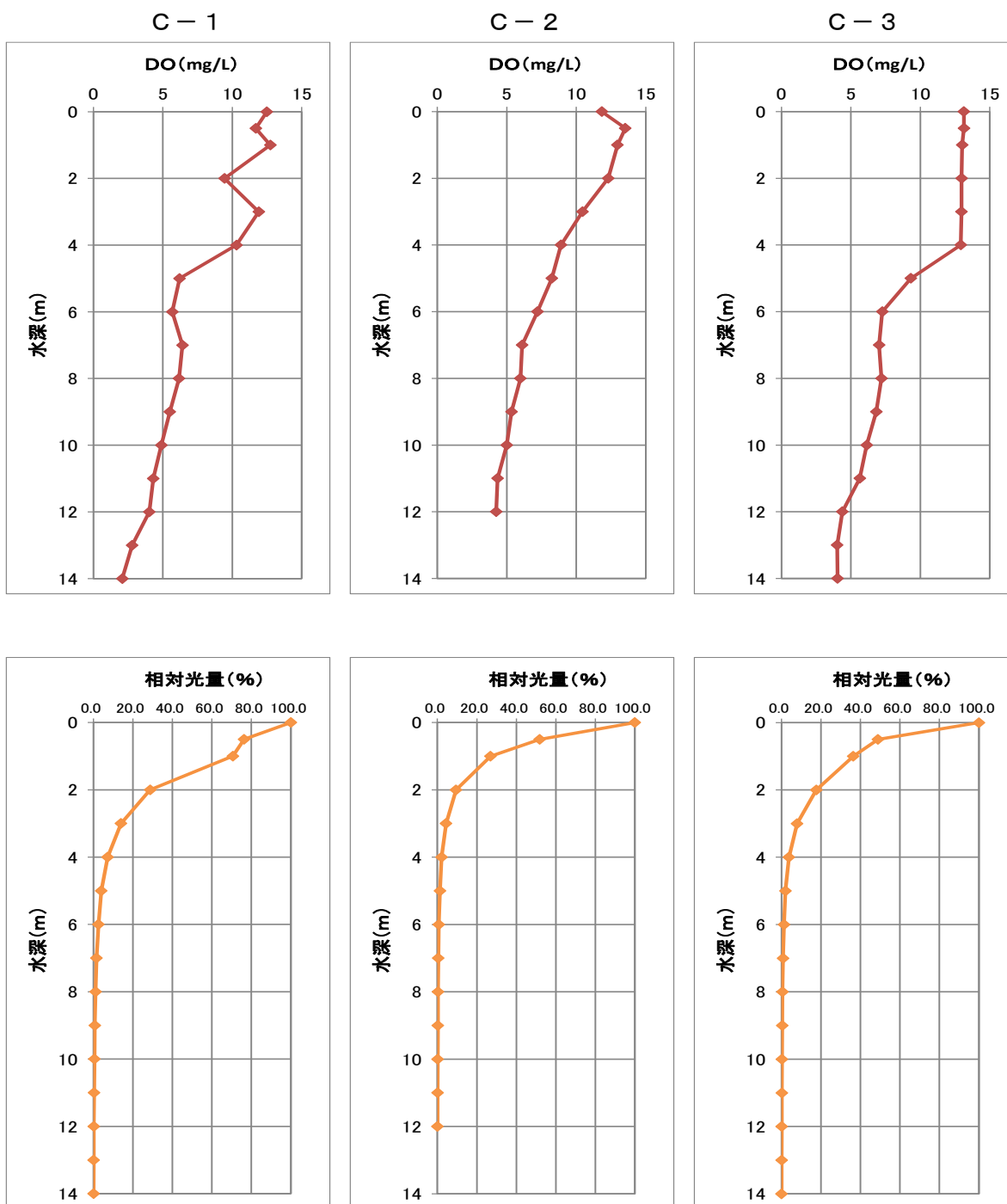


図 3-2 (2) 水質の鉛直分布 (大阪沖埋立処分場 DO 相对光量)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-24 に泉大津沖埋立処分場 3 点 (D-2、D-5、D-6) における水質調査結果を示した。図 3-3 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 D-2

D-2 の調査時 (令和 2 年 5 月 30 日 11:08) の天候は晴れ、作業船上での気温は 29.3℃、西の風 1.9m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は forest green、透明度は 2.6m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.22～20.93℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 29.28～32.47 の範囲にあり、水深 0m は 30 以下と、河川水等の影響がややみられた。

溶存酸素量 (DO) は 0.89～9.82mg/L の範囲にあり、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 7m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下し、11m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-24 (1) 水質調査結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：令和 2 年 5 月 30 日

調査地点 D-2		調査時刻 11:08		天候 晴	気温 29.3℃
風向 W		風速 1.9m/s		雲量 3	風浪階級 1
水深 12.4m		透明度 2.6m	水色 forest green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.83	29.28	1338.1	100.0	9.82
0.5	20.93	30.92	870.0	65.0	9.38
1	20.41	31.14	602.8	45.0	9.46
2	19.69	31.43	493.9	36.9	9.68
3	18.49	31.87	286.8	21.4	9.74
4	18.34	32.01	169.6	12.7	8.86
5	17.89	32.17	83.8	6.3	8.25
6	17.25	32.30	50.0	3.7	5.57
7	16.99	32.33	40.0	3.0	4.72
8	16.50	32.38	31.4	2.3	3.40
9	16.39	32.40	24.7	1.8	2.28
10	16.29	32.44	17.9	1.3	1.66
11	16.23	32.46	12.0	0.9	1.04
12	16.22	32.47	8.2	0.6	0.89

・地点 D-5

D-5 の調査時（令和 2 年 5 月 30 日 12:25）の天候は晴れ、作業船上での気温は 29.8℃、西北西の風 1.6m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は cedar green、透明度は 1.8m と低い値を示し、植物プランクトンの増殖をうかがわせたが、赤潮を形成するには至っていないと判断され、また、工事による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.40～21.18℃の範囲にあり、水深 1～2m に水温躍層がみられた。

塩分は 29.15～32.39 の範囲にあり、水深 0m は 30 以下と、河川水等の影響がややみられた。

溶存酸素量（DO）は 1.15～11.67mg/L の範囲にあり、水深 5m 以深で 5 mg/L 以下となっていたが、水深 5m においても付着生物はみられた。また、水深 2m 以浅で 10.24 mg/L 以上と非常に高い値を示しているが、この水深帯における植物プランクトンの増殖に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 1m 以深で急激に低下し、9m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-24（2） 水質調査結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-5 ）

調査日：令和 2 年 5 月 30 日

調査地点 D-5		調査時刻 12:25		天候 晴	気温 29.8℃
風向 WNW		風速 1.6m/s		雲量 7	風浪階級 1
水深 11.1m		透明度 1.8m	水色 cedar green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.18	29.15	1466.4	100.0	11.67
0.5	20.96	30.19	369.1	25.2	11.48
1	20.83	30.28	348.1	23.7	11.23
2	19.06	31.17	164.5	11.2	10.24
3	18.04	31.62	66.5	4.5	8.04
4	17.42	31.93	45.2	3.1	5.55
5	16.88	32.16	32.2	2.2	4.02
6	16.75	32.30	25.9	1.8	3.35
7	16.57	32.33	20.8	1.4	2.86
8	16.54	32.37	15.6	1.1	2.42
9	16.48	32.38	11.0	0.8	2.59
10	16.43	32.38	7.3	0.5	1.97
11	16.40	32.39	4.9	0.4	1.15

・地点 D-6

D-6の調査時(令和2年5月30日 8:30)の天候は晴れ、作業船上での気温は26.2℃、東北東の風 0.3m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は forest green、透明度は 2.6m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.41～20.28℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 30.01～32.36 の範囲にあり、水深 1m 以浅で比較的低い値を示し、河川水等の影響がややみられた。

溶存酸素量(DO)は 1.87～9.29mg/L の範囲にあり、水深 5m 以深で 5 mg/L 以下となっていたが、水深 5m においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 0.5m 以深で急激に低下していた。

表 3-24 (3) 水質調査結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：令和2年5月30日

調査地点 D-6		調査時刻 8:30		天候 晴	気温 26.2℃
風向 ENE		風速 0.3m/s		雲量 2	風浪階級 1
水深 9.8m		透明度 2.6m	水色 forest green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	19.25	30.01	978.1	100.0	9.29
0.5	20.28	30.73	101.3	10.4	8.34
1	19.90	31.09	79.4	8.1	8.17
2	18.48	32.07	56.4	5.8	7.42
3	17.90	32.17	45.6	4.7	7.06
4	17.62	32.23	42.2	4.3	6.37
5	17.37	32.26	44.6	4.6	4.80
6	17.17	32.28	44.8	4.6	4.33
7	16.90	32.30	39.9	4.1	3.72
8	16.63	32.34	29.3	3.0	2.58
9	16.41	32.36	21.9	2.2	1.87

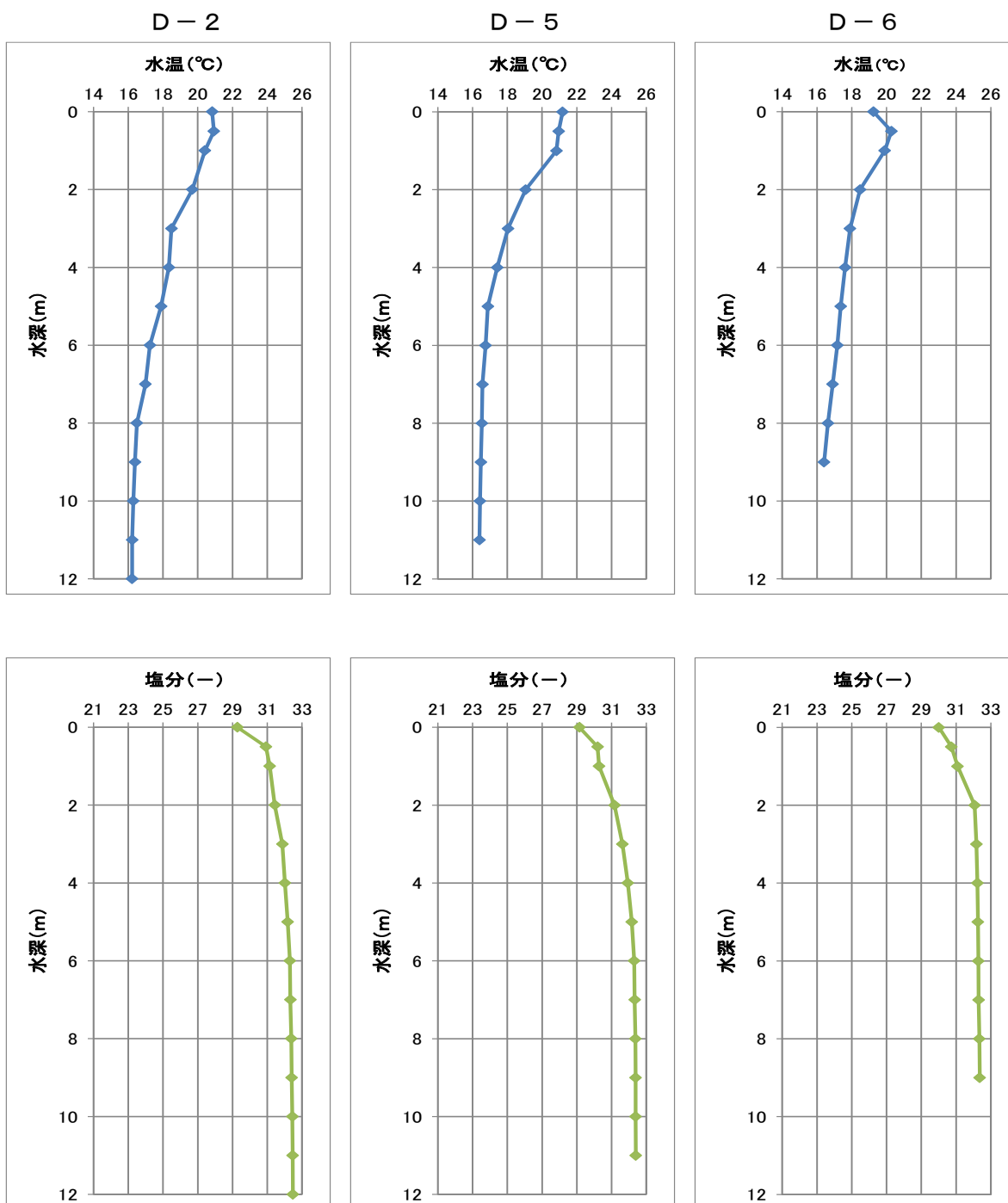


図 3-3 (1) 水質の鉛直分布 (泉大津沖埋立処分場 水温 塩分)

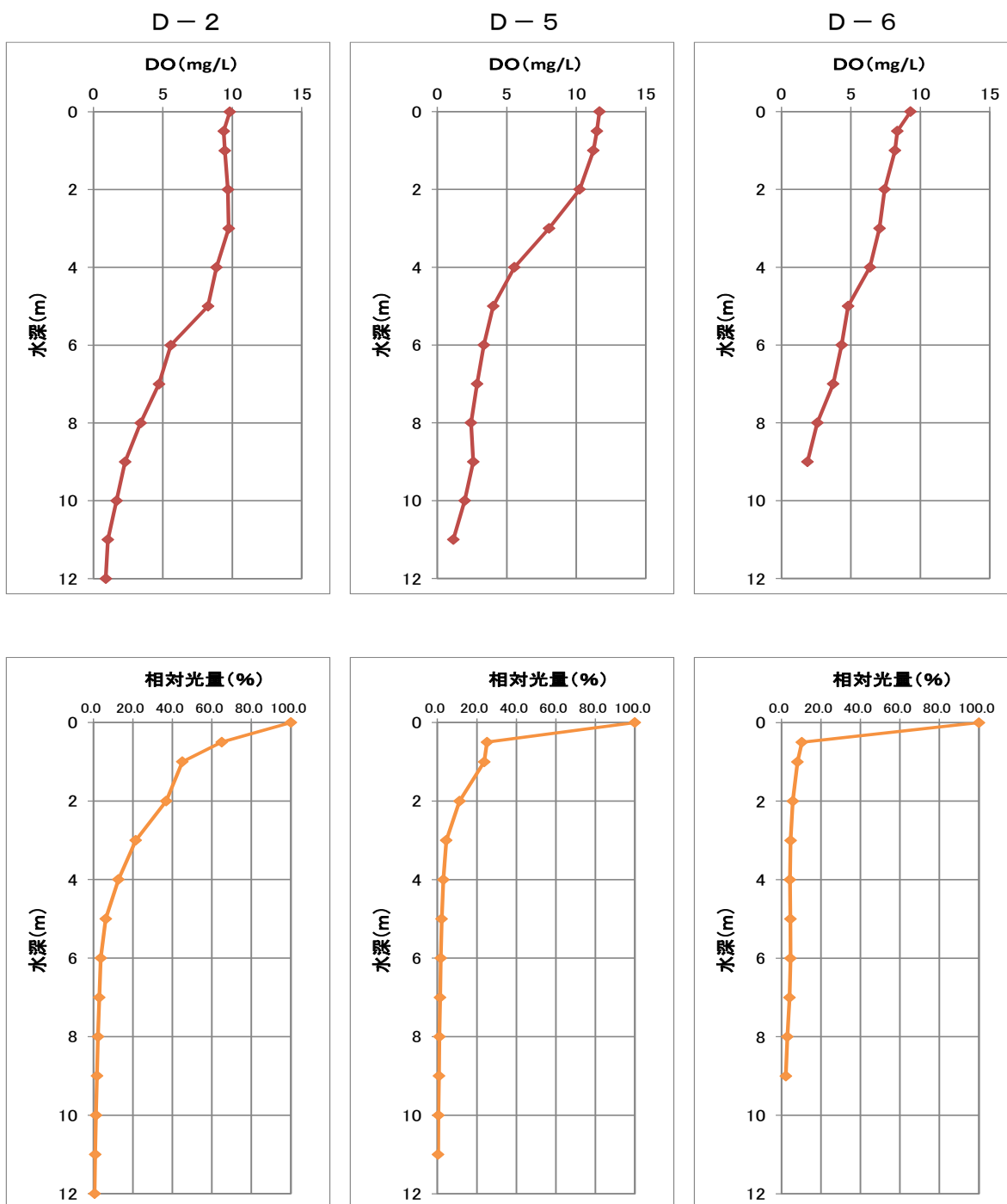


図 3-3 (2) 水質の鉛直分布 (泉大津沖埋立処分場 DO 相対光量)

3-6 藻場分布調査

3-6-1 代表地点における目視観察結果

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-25 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点 (p. 12 図 2-3 (1) 参照) における藻場構成種等 (植物) の目視観察結果を示した。写 3-12 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種の写真を示した。

代表地点では 5～8 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (4 地点)、シダモク (5 地点)、タマハハキモク (2 地点)、ヨレモクモドキ (1 地点) の 4 種が確認された。確認地点での被度はワカメ、タマハハキモクが 5%未満～25%、シダモクが 5%未満～50%、ヨレモクモドキが 5%未満であった。

表 3-25 藻場構成種等の目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 6 地点)

調査日：令和2年5月31日

調査地点		A-1										A-3										K-2													
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
緑藻綱	アサ属	3	1	1									4					1						3	2	1									
褐藻綱	ワカメ					1										2	1											1							
	シダモク			1	1	1	1						2	3	3	3	1	1																	
	タマハハキモク				1																														
	ヨレモクモドキ																																		
紅藻綱	マクサ		1	1	1	2	2	2	1				2	2	1	2	2	1							2	2	1		1						
	ススカケヘニ									1																			1						
	ヘニヌサゴ																			1	1														
	カハナリ				2	3	1	1	1	1			1	1	2	2	1	1	1	1						1									

調査地点		K-4										K-5'										K-8													
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
緑藻綱	アサ属	1	1										1					1	1					3	1										
褐藻綱	ワカメ																										1								
	シダモク					1	1	1								1	1	1	1					1				2							
	タマハハキモク																							2											
	ヨレモクモドキ																1																		
紅藻綱	マクサ			1	1	1	1	1	1	1			2	1	1	2	2	1	1					1	1	2	2	2	1						
	ススカケヘニ																			1						1					1				
	ヘニヌサゴ									1	1																				2				
	カハナリ									1					1		1	1	1								3	2	2	2	1	1	1		

(被度区分)
 5 : 76～100%
 4 : 51～75%
 3 : 26～50%
 2 : 5～25%
 1 : 5%未満

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-26 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点 (p. 13 図 2-3 (2) 参照) における藻場構成種等 (植物) の目視観察結果を示した。写 3-12 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種の写真を示した。

代表地点では 5～10 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (5 地点)、シダモク (6 地点)、タマハハキモク (2 地点) の 3 種が確認された。確認地点での被度はワカメ、シダモク、タマハハキモクともに 5% 未満～50% であった。

表 3-26 藻場構成種等の目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 6 地点)

調査日：令和2年5月24日

調査地点		C-4											O-1											O-3											
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
緑藻綱	アサギ属	3	3	2	2	1	1							2										1	1										
褐藻綱	ワカメ						1						2		3	3	3	3	1						1					1					
	シダモク		2	2	1		1												2	1											1				
	タマハハキモク	3																1																	
紅藻綱	マクサ					1	1											1	1																
	ススカケハニ							1	1	1	1	1								1	1	1									1	1	1		
	フダラク						1																												
	ツルツル					1																													
	ベニスナゴ	1	1	1	1		1	1		1	1										1										1	2	1		
	カハノリ			3	3	3	1	1		1								3	3	2	1									2	2				

調査地点		O-6											O-7											O-13										
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	アサギ属	3	2	1	2	1	1						4	3				1						3	2									
褐藻綱	ワカメ		2	2	3	3	2	1					2	2	3	3	3	1																
	シダモク						1							2	3	1		1	1								1		1	1				
	タマハハキモク																																	
紅藻綱	マクサ																																	
	ススカケハニ					1	4			1	1	1		1	2	1				1	2	1	1					2			1	1	1	1
	フダラク																																	
	ツルツル																																	
	ベニスナゴ						2	2	3	2				1				1	1	1								1						
	カハノリ						1	1										1	1					1	2	2	3			1				

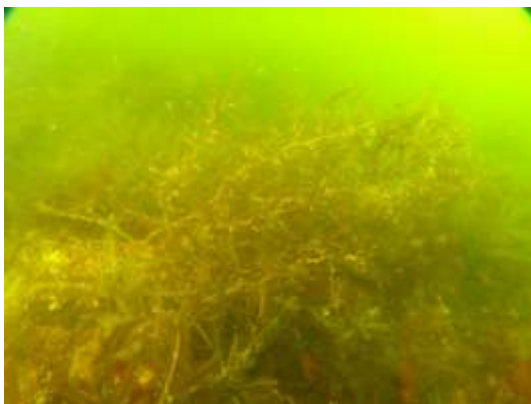
(被度区分)
 5 : 76～100%
 4 : 51～75%
 3 : 26～50%
 2 : 5～25%
 1 : 5%未満



ワカメ



シダモク



アカモク



タマハハキモク

写 3-12 代表的な藻場構成種の状況（神戸沖・大阪沖埋立処分場）

3-6-2 代表地点における定量採取結果

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-27 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点 (p. 12 図 2-3 (1) 参照) において坪刈り採取した藻場構成種等 (植物) の分析結果 (種別湿重量) を示した。

6 地点全体で 33 種の海藻類が確認され、各地点では 14~22 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (4 地点)、シダモク (5 地点) の 2 種が確認され、ワカメの湿重量は 0.13~95.00g/0.25 m²、シダモクの湿重量は 3.86~184.52g /0.25 m²であった。

藻場構成種以外では、マクサ、ムカデノリ、カバノリ、ヨツガサネなどの紅藻の湿重量が多くなっていた (写 3-13 参照)。

表 3-27 定量採取分析結果 神戸沖埋立処分場 代表地点 6 点 海藻類湿重量

調査地点					神戸沖					
株番号					A-1	A-3	K-2	K-4	K-5'	K-8
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.			+		
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	0.08	0.42	0.19	0.16	0.16
3	緑色植物	緑藻	シダ	シダ	Chaetomorpha sp.					
4	緑色植物	緑藻	シダ	シダ	Cladophora sp.	+	0.21	0.01	0.02	+
5	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile					
6	黄色植物	褐藻	フジ	フジ	Dictyopteris latiuscula					
7	黄色植物	褐藻	フジ	フジ	Dictyota dichotoma					
8	黄色植物	褐藻	フジ	フジ	Pachydictyon coriaceum					
9	黄色植物	褐藻	カサ	カサ	Colpomenia sinuosa			0.18	0.02	0.07
10	黄色植物	褐藻	コブ	コブ	Undaria pinnatifida	95.00	0.13	9.55		13.68
11	黄色植物	褐藻	ヒメ	ヒメ	Sargassum filicinum	21.63	184.52		16.23	3.86
12	紅色植物	紅藻	サコ	サコ	Amphiroa anceps		0.05		7.85	23.34
13	紅色植物	紅藻	サコ	サコ	Amphiroa sp.					
14	紅色植物	紅藻	サコ	サコ	Corallina officinalis		0.03			
15	紅色植物	紅藻	サコ	サコ	Corallina pilulifera				0.02	
16	紅色植物	紅藻	サコ	サコ	Corallinaceae		*		*	*
17	紅色植物	紅藻	フジ	フジ	Gelidium elegans	10.56	8.69	0.04	11.28	23.55
18	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Halarachnion latissimum					
19	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Chondrus giganteus					4.40
20	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Chondrus ocellatus					
21	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Chondrus sp.	0.03		0.07		0.31
22	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Grateloupia asiatica	8.26	0.59	0.09		3.89
23	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Grateloupia lanceolata	0.66	0.82			0.10
24	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Grateloupia turuturu		0.02			0.04
25	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Hypnea asiatica					0.03
26	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Hypnea sp.		0.03	+	0.02	
27	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Ahnfeltiopsis flabelliformis		0.66			
28	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Schizymenia dubyi					
29	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Meristotheca papulosa					
30	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Solieria pacifica	0.02				
31	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Gracilaria textorii	36.31	8.01	0.20	3.16	0.86
32	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Rhodomenia intricata	0.03	0.26	0.26	0.16	0.05
33	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Antithamnion sp.		0.05			0.14
34	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Ceramium sp.	+	0.02	+	+	0.03
35	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Pterothamnion yezoense	18.30	+			0.04
36	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Ceramiales	0.64	1.26	0.13	0.12	0.05
37	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Dasya sessilis		+			
38	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Dasydiphonia japonica					+
39	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Polysiphonia senticulosa				+	
40	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Polysiphonia sp.		+		+	+
41	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Symphyocladia linearis	0.04				
42	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Symphyocladia marchantioides		+			0.02
43	紅色植物	紅藻	スギ	スギ	Symphyocladia pumila			0.03	0.56	+
種類数						15	22	14	16	15
湿重量 (g) 合計						191.56	205.77	10.75	39.60	29.01

注1: 単位は湿重量 (g) / 0.25m²を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



マクサ



カバノリ

写 3-13 藻場構成種以外の主な海藻類 （ 神戸沖埋立処分場 ）

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-28 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点 (p. 13 図 2-3 (2) 参照) において採刈り採取した藻場構成種等 (植物) の分析結果 (種別湿重量) を示した。

6 地点全体で 36 種の海藻類が確認され、各地点では 16~23 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (3 地点)、シダモク (6 地点) の 2 種が確認され、ワカメの湿重量は 62.18~110.85g/0.25 m²、シダモクは 10.68~55.24g/0.25 m²であった。

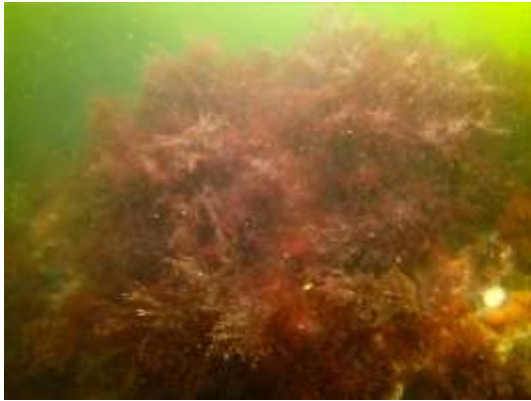
藻場構成種以外では、褐藻のヤハズグサ、サナダグサなど、紅藻のマクサ、カバノリなどの湿重量が多くなっていた (写 3-14 参照)。

表 3-28 定量採取分析結果 大阪沖埋立処分場 代表地点 6 点 海藻類湿重量

調査地点						大阪沖						
採番号						項目						
No.	門	綱	目	科	種名	C-4	0-1	0-3	0-6	0-7	0-13	
						湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	
1	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Enteromorpha sp.	ワサリ属					0.08	
2	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Ulva sp.	ワサリ属	0.03	0.23	0.05	1.40	0.10	2.07
3	緑色植物	緑藻	シダモク	シダモク	Chaetomorpha sp.	シダモク属		+			+	
4	緑色植物	緑藻	シダモク	シダモク	Cladophora sp.	シダモク属	+		+	0.01	0.02	
5	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル			0.70			
6	黄色植物	褐藻	ワシダモク	ワシダモク	Dictyopteris latiuscula	ワシダモク			17.33	1.53	10.32	40.62
7	黄色植物	褐藻	ワシダモク	ワシダモク	Dictyota dichotoma	ワシダモク			0.05			0.01
8	黄色植物	褐藻	ワシダモク	ワシダモク	Pachydictyon coriaceum	ワシダモク			56.45		0.76	
9	黄色植物	褐藻	カモリ	カモリ	Colpomenia sinuosa	カモリ	10.01			1.73	28.34	6.23
10	黄色植物	褐藻	コバ	コバ	Undaria pinnatifida	コバ		110.85	97.32	62.18		
11	黄色植物	褐藻	ヒバマ	ヒバマ	Sargassum filicinum	シダモク	25.72	55.24	38.41	10.68	53.25	17.46
12	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Amphiroa anceps	カニノ				0.22	3.50	
13	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Amphiroa sp.	カニノ属	0.05					
14	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina officinalis	サンゴモ						
15	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallina pilulifera	ヒリヒ				0.02		
16	紅色植物	紅藻	サンゴモ	サンゴモ	Corallinaceae	サンゴモ科	*	*	*			
17	紅色植物	紅藻	テングサ	テングサ	Gelidium elegans	マサ	53.24	83.49	0.25	0.66	11.64	
18	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Halarachnion latissimum	スサケハニ	0.17		28.75	0.92		
19	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Chondrus giganteus	オバツマ						
20	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Chondrus ocellatus	ツマ			4.56	0.47		
21	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Chondrus sp.	ツマ属		0.07	2.43		0.04	
22	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Grateloupia asiatica	スサケハニ		1.55	8.89	0.73	1.36	
23	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Grateloupia lanceolata	フタラ	6.87	6.94	1.98	1.33	0.15	0.83
24	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Grateloupia turuturu	ツルツル			0.06	0.21	0.04	
25	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Hypnea asiatica	イハラ					0.20	
26	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Hypnea sp.	イハラ属	+	0.01		+		
27	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	オキナ	+	4.55	0.19	1.71		
28	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Schizymenia dubyi	ヘニサコ		0.63		0.05		
29	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Meristotheca papulosa	トサカ					0.14	
30	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Solieria pacifica	ミリン						
31	紅色植物	紅藻	スサケハニ	スサケハニ	Gracilaria textorii	カハ	102.69	45.01	9.48	2.29	3.65	72.47
32	紅色植物	紅藻	マサコシバ	マサコシバ	Rhodymenia intricata	マサコシバ	+	22.86	0.53	1.87		2.18
33	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Antithamnion sp.	フタカサ		0.02	0.03	0.03	0.05	+
34	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Ceramium sp.	イサ属	+		+	0.03	0.20	
35	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Pterothamnion yezoense	ヨツカサ	0.42	0.19	14.59		0.13	
36	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Ceramiales	イサ科	0.18	0.14	0.35	0.26	0.12	+
37	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Dasysiphonia sessilis	エナダシ						
38	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Dasysiphonia japonica	イハ						
39	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Polysiphonia senticulosa	ショウヨウ	+					
40	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Polysiphonia sp.	イトサ	+		+		0.05	
41	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Symphyocladia linearis	ホコサ						
42	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Symphyocladia marchantioides	コサ						
43	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Symphyocladia pumila	ヒメサ			0.04		0.01	
種類数						18	17	16	23	20	23	
湿重量 (g) 合計						199.38	331.78	245.77	121.57	101.53	157.92	

注1: 単位は湿重量 (g) / 0.25 m² を示す。

注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が 0.01g 未満の出現を示す。



マクサ



カバノリ

写 3-14 藻場構成種以外の主な海藻類 (大阪沖埋立処分場)

3-6-3 藻場分布状況

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-4～17 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 30 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、ヒジキ、アカモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキの 7 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、アカモクの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-4）

ワカメは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に南護岸の-3～-5m 付近で分布が確認された。平成 26 年度では南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-5m で分布が確認され、濃密域がみられるなど分布範囲と被度の増加がみられた。平成 28 年も同様に南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-4m で分布が確認されたが、被度は濃密域がみられるほどではなかった。平成 30 年度では南護岸、東護岸に加え、西護岸の広い範囲で分布が確認され、南護岸の広い範囲と東護岸の一部では濃密域がみられるなど過去最大の分布範囲と被度を記録した。今回の調査では、西護岸では確認されず、南護岸と東護岸の広い範囲の-3～-6m で分布が確認されたが、被度に濃密域はみられなかった。

② カジメ（図 3-5）

カジメは、平成 21 年度に南護岸の 1 箇所で分布が確認されたが、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度、平成 28 年度、平成 30 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-6）

シダモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および平成 28 年度に各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 28 年度にかけて分布範囲の減少傾向がみられた。平成 30 年度は、各護岸の-1～-10m で分布が確認され、西護岸と東護岸では分布範囲の拡大がみられ、東護岸では濃密域を形成するなど被度の増加も確認された。今回の調査では、平成 30 年度同様に各護岸の-1～-7m の広い範囲で分布が確認されたが、被度に濃密域はみられなかった。

④ ヒジキ（図 3-7）

ヒジキは、平成 21～22 年度に西護岸の 1 箇所で確認され、平成 24 年度、平成 26 年度、平成 28 年度および、平成 30 年度では分布が確認されなかった。今回の調査では、平成 21～22 年度と同様に西護岸の 1 箇所で確認された。

⑤ アカモク (図 3-8)

アカモクは、平成 30 年度に西護岸の 1 箇所分布が確認されたのみである。

⑥ タマハハキモク (図 3-9)

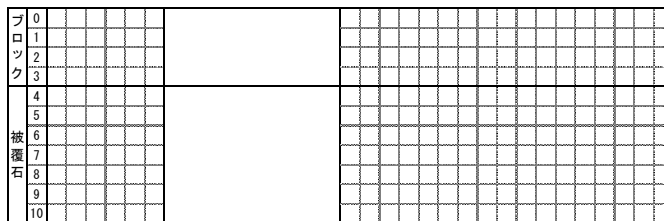
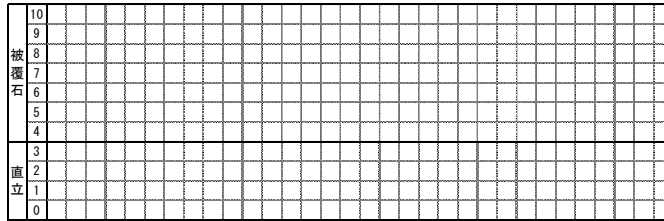
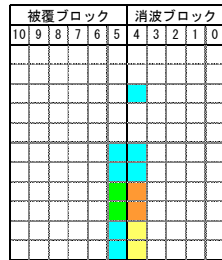
タマハハキモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および平成 28 年度に各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認された。平成 30 年度は各護岸の±0～-10m で分布が確認され、特に西護岸では分布範囲の拡大と同時に一部、濃密域を形成するなど、被度の増加も認められた。今回の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認されたが、分布範囲、被度ともに縮小傾向を示した。

⑦ ヨレモクモドキ (図 3-10)

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸と東護岸の各 1 箇所、平成 24 年度に南護岸の 1 箇所、平成 26 年度に南護岸の 2 箇所、平成 28 年度に西護岸の 1 箇所、南護岸の 4 箇所、東護岸の 1 箇所、平成 30 年度に西護岸の 2 箇所、東護岸の 1 箇所分布が確認された。今回の調査では、西護岸の 4 箇所、東護岸の 1 箇所分布が確認された。

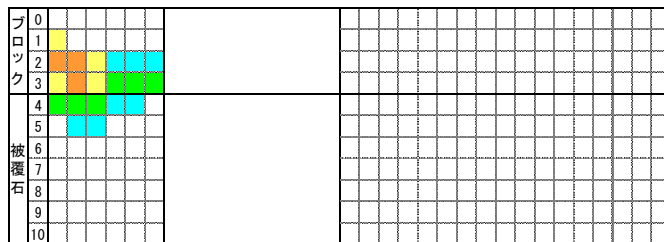
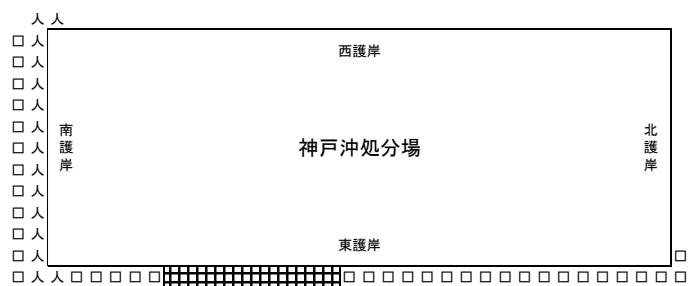
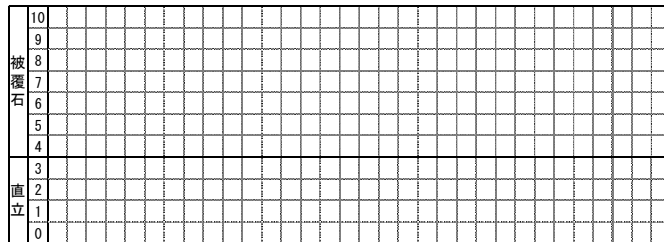
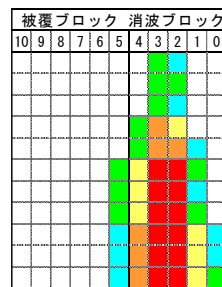
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

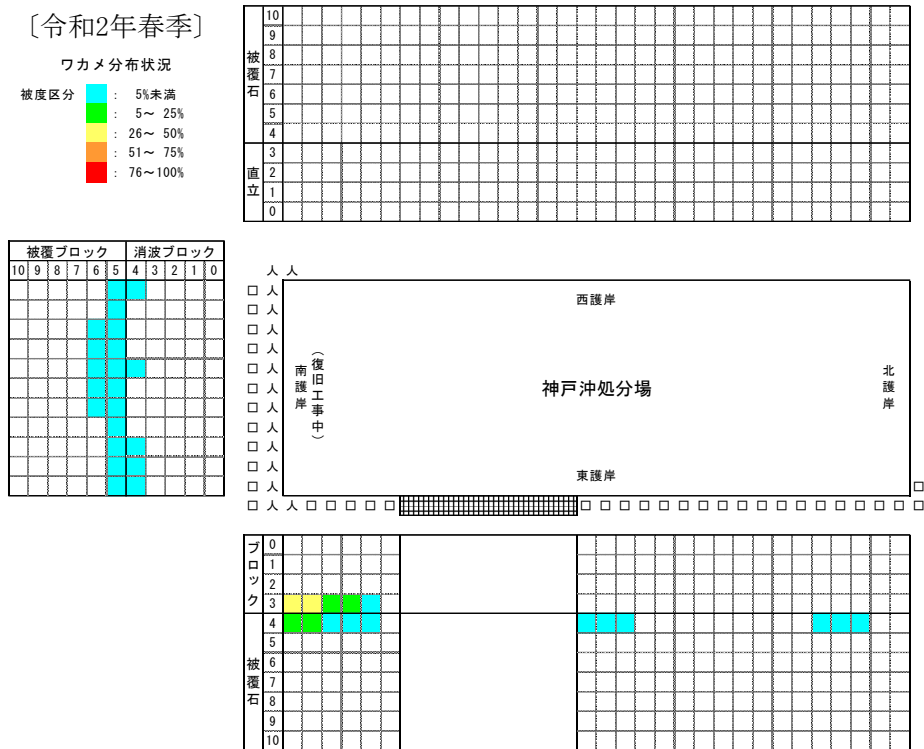


被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



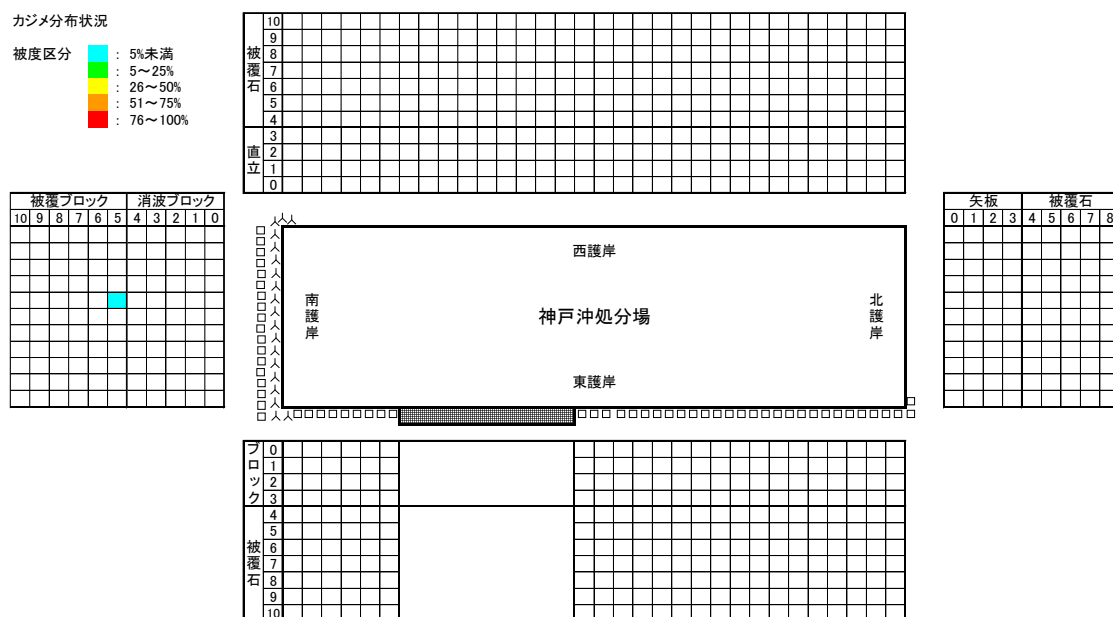
- 103 -



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-4 (4) 分布状況の推移 (ワカメ) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

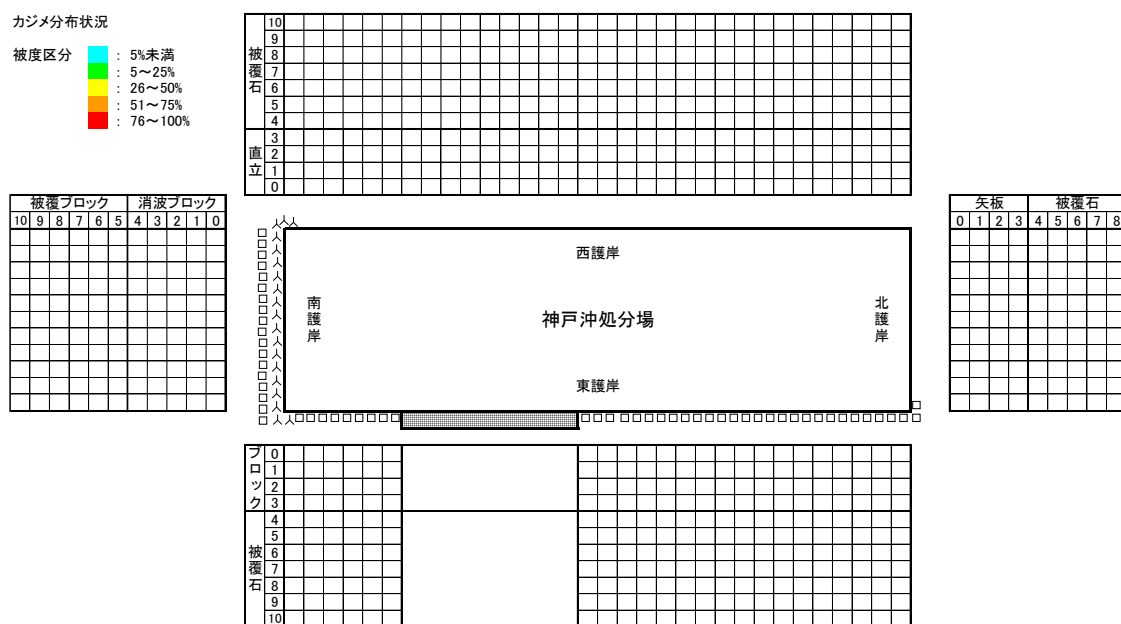
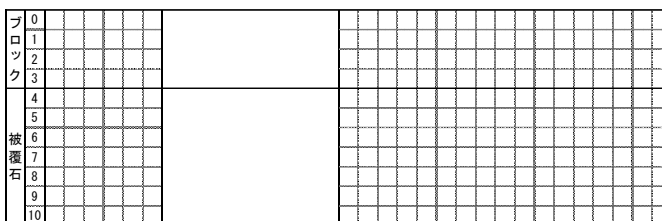
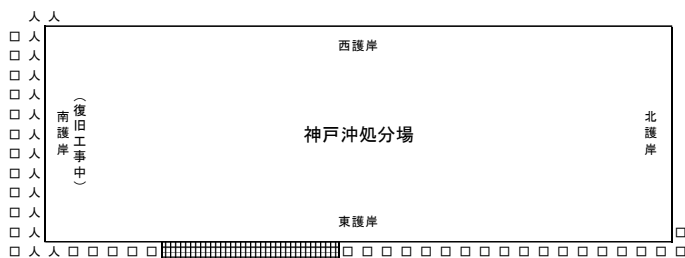
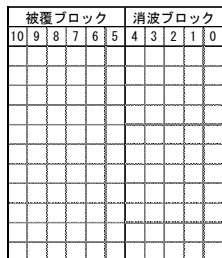
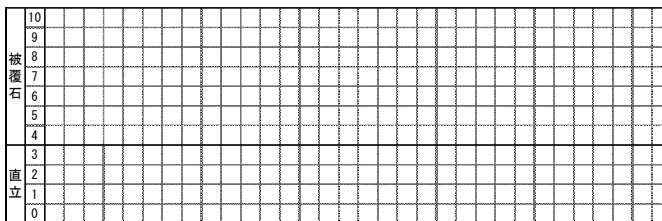


図 3-5 (1) 分布状況の推移 (カジメ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

〔令和2年春季〕

カジメ分布状況

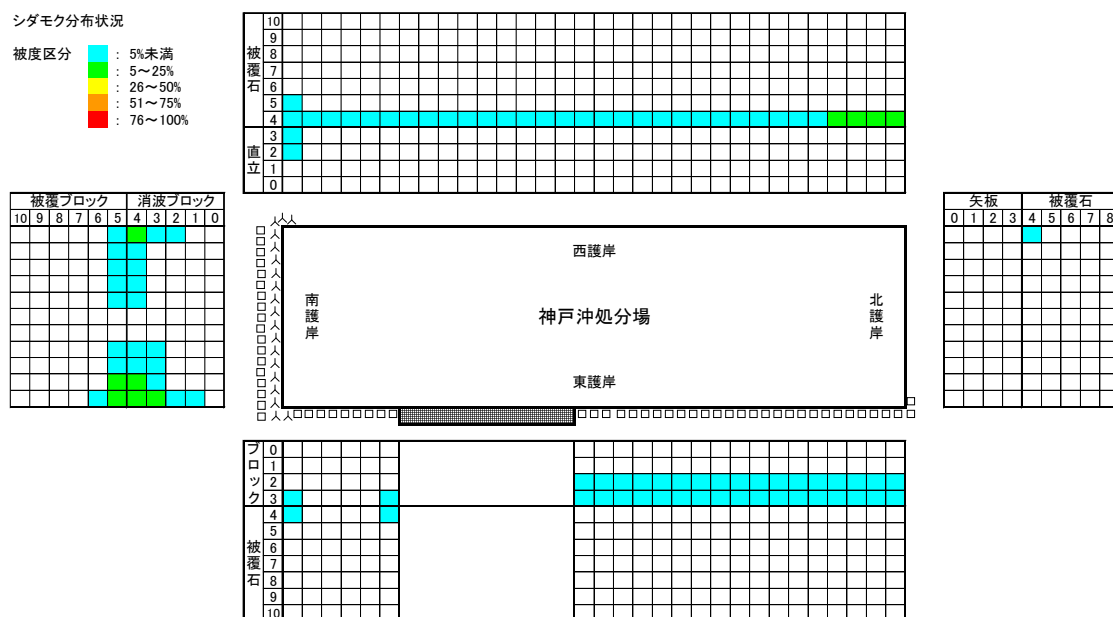
被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-5 (4) 分布状況の推移 (カジメ) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

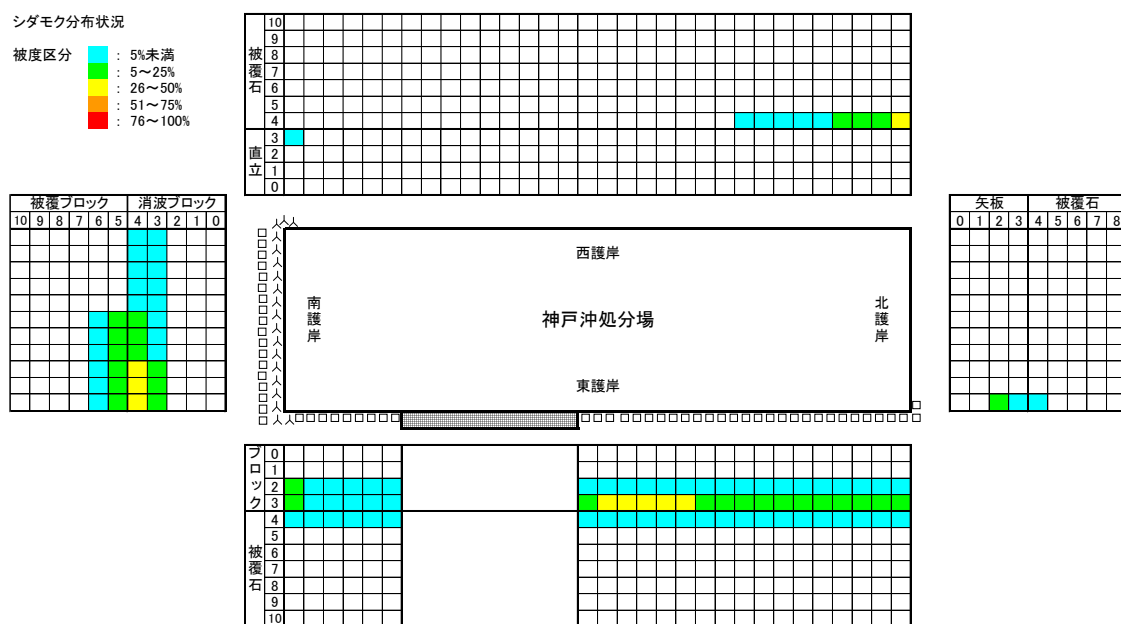
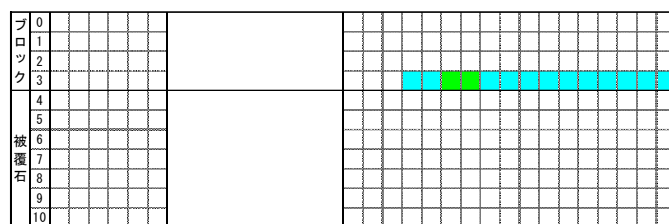
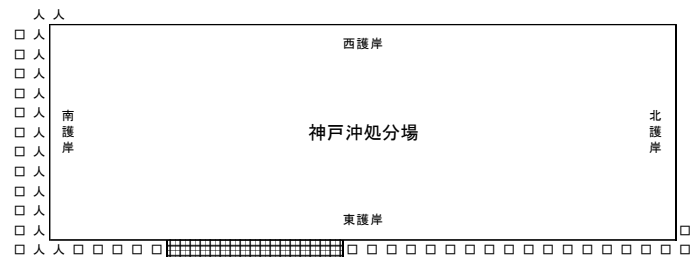
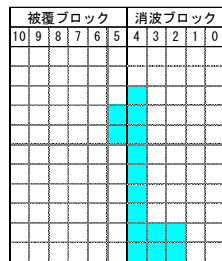
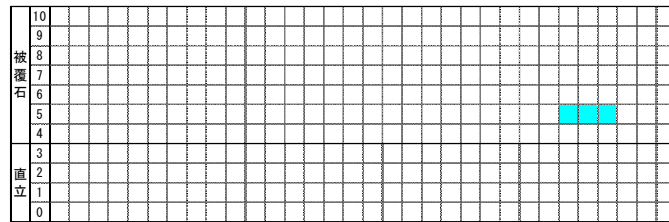


図 3-6 (1) 分布状況の推移 (シダモク) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

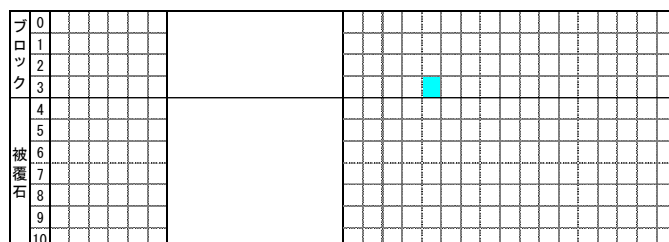
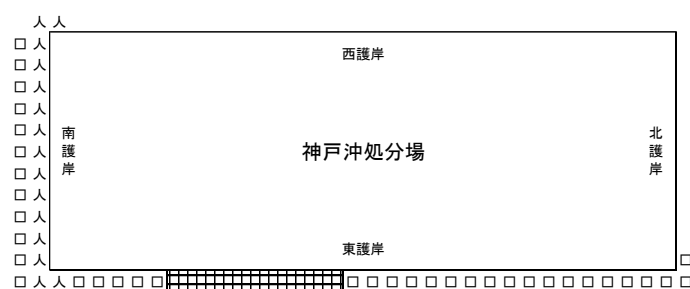
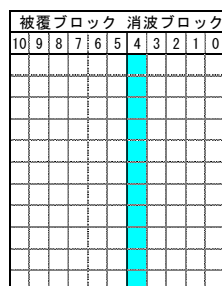
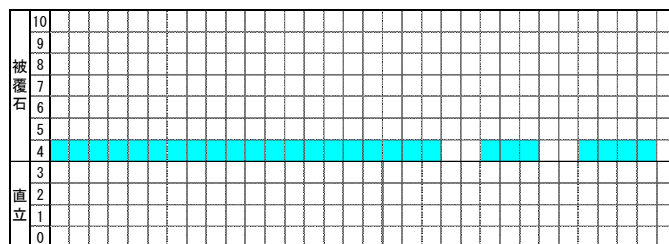
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

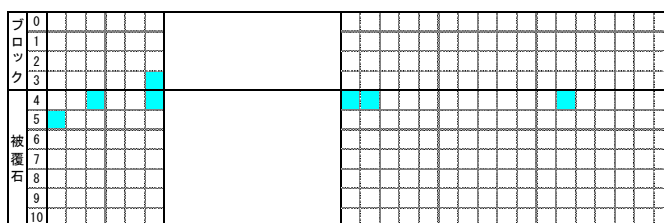
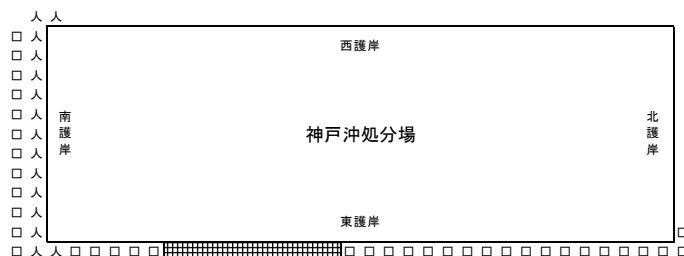
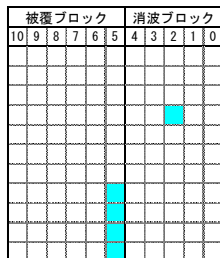
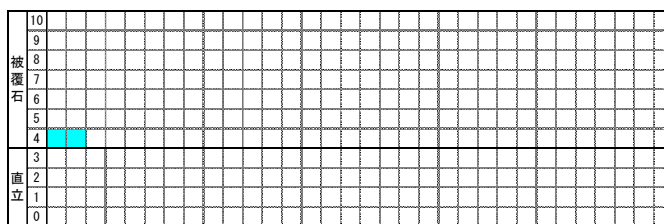


- 111 -

〔平成28年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成30年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

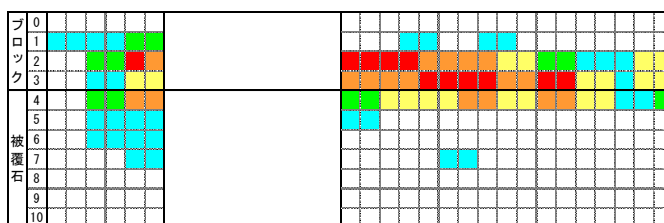
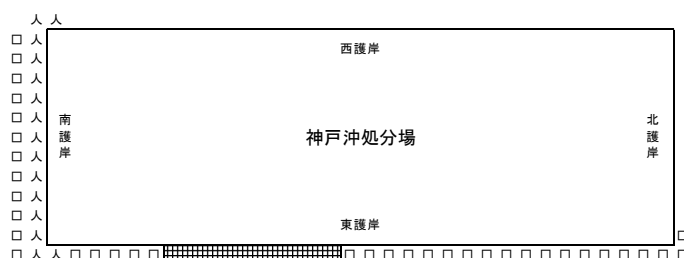
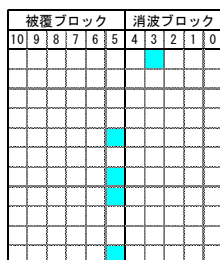
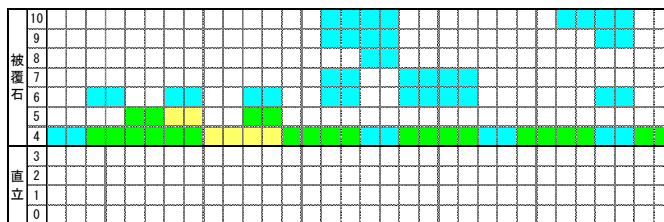
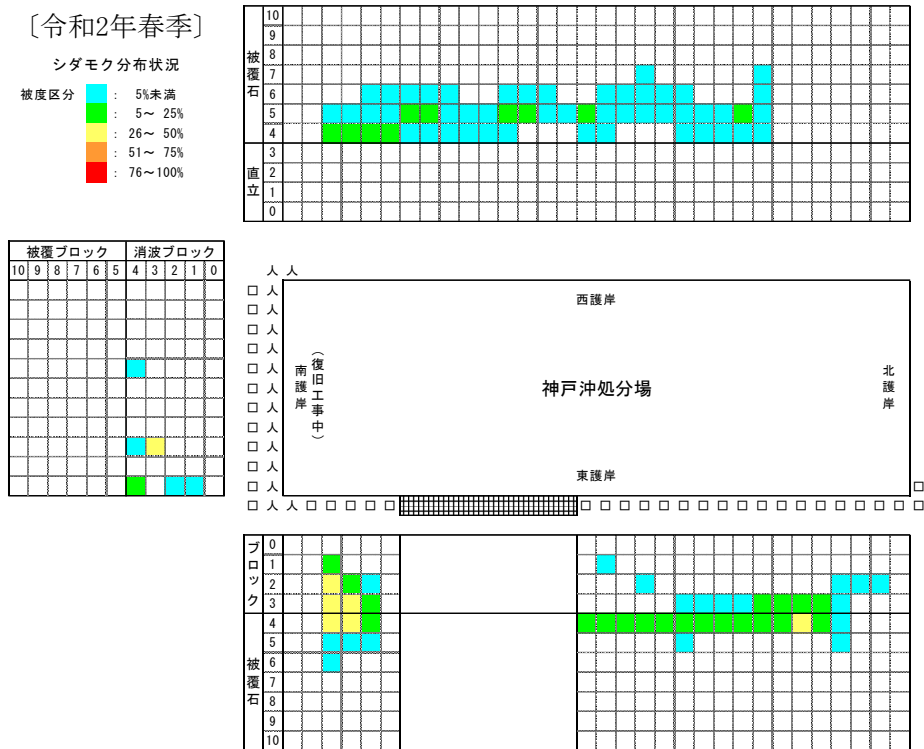


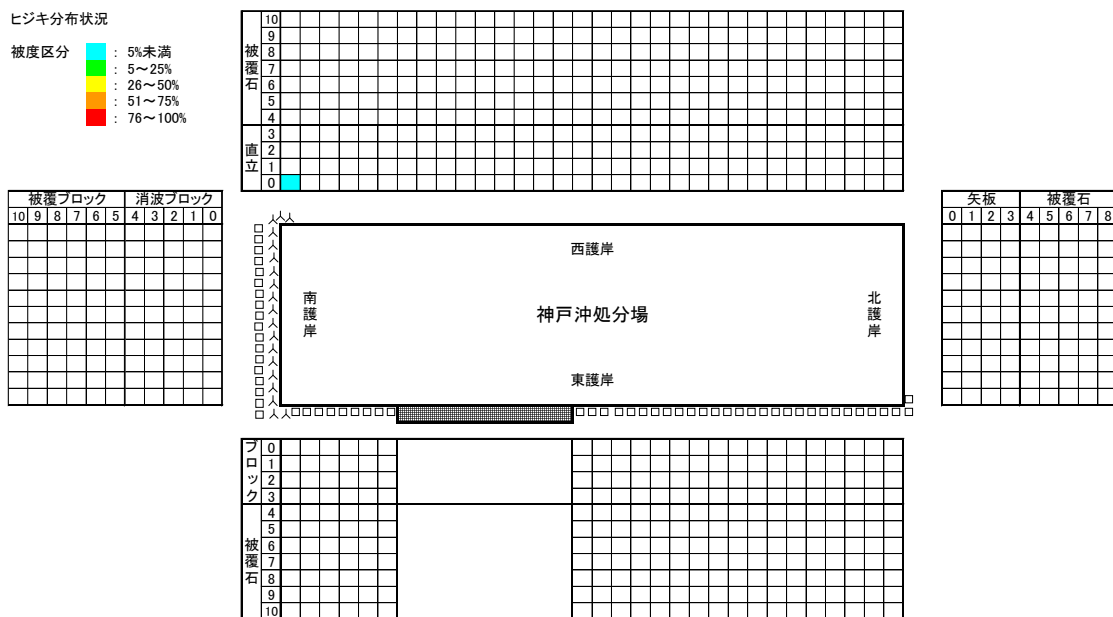
図 3-6 (3) 分布状況の推移 (シダモク) 神戸沖 平成 28～30 年度調査



注）令和２年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-6（４）分布状況の推移 （シダモク） 神戸沖 令和２年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

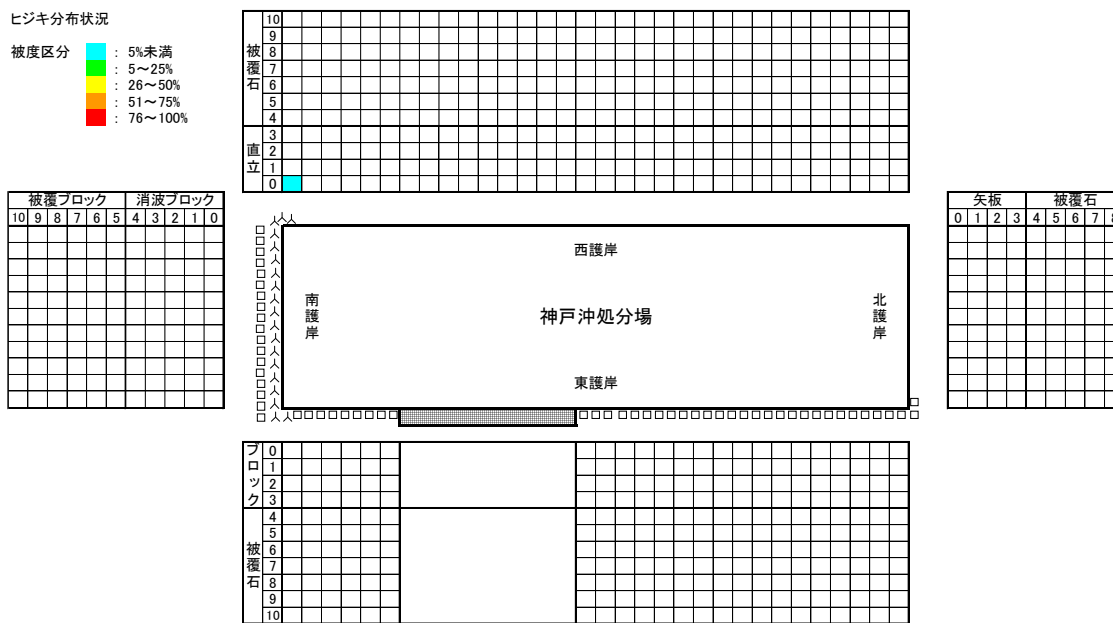


図 3-7 (1) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

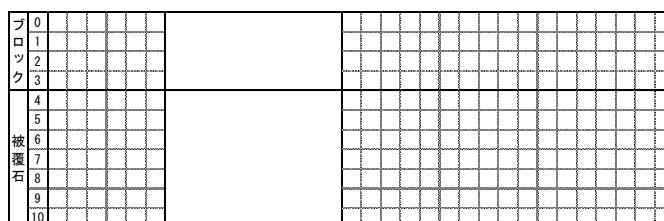
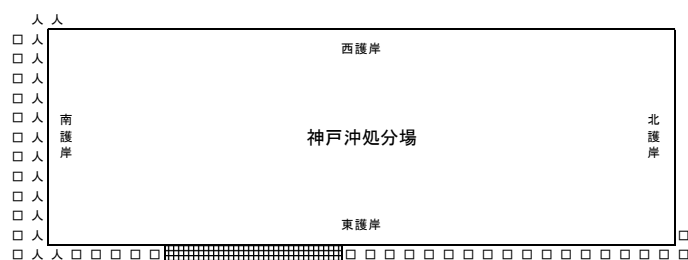
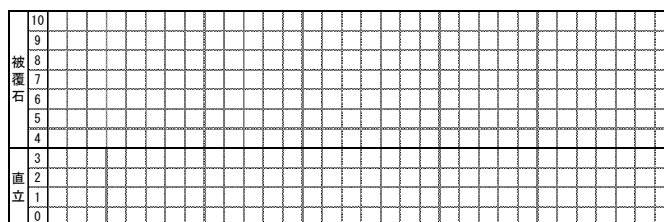
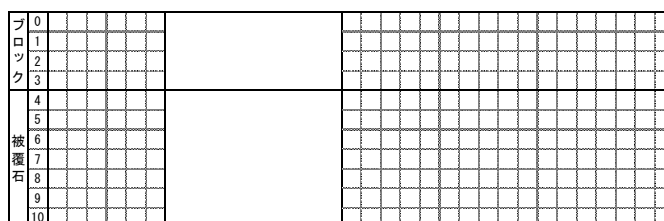
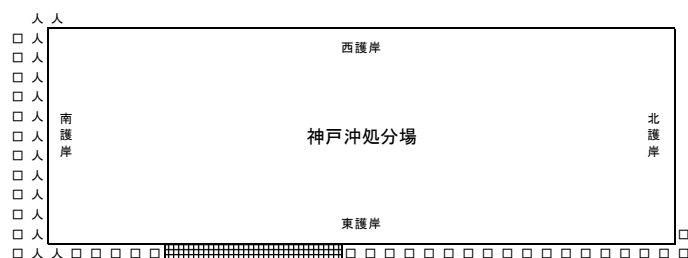
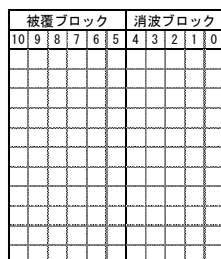
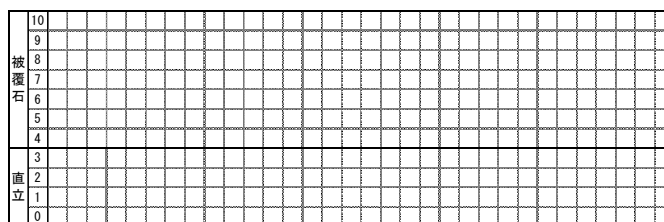
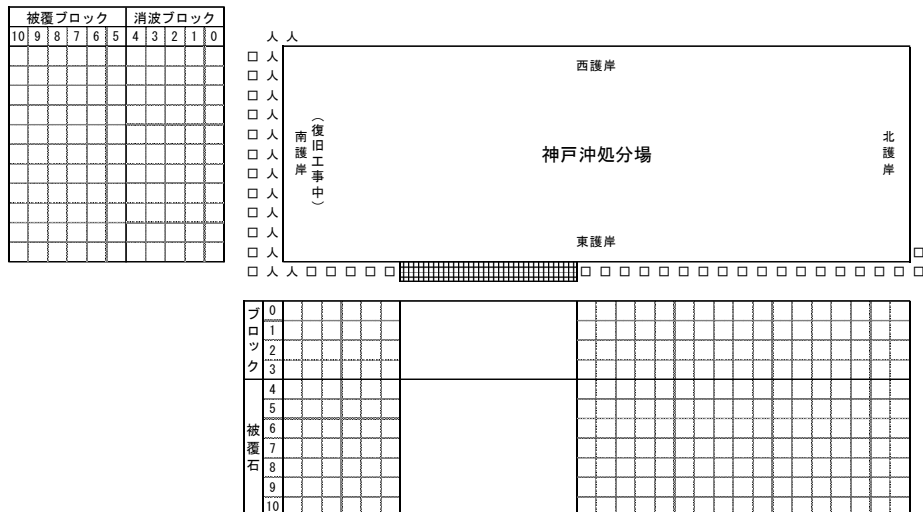
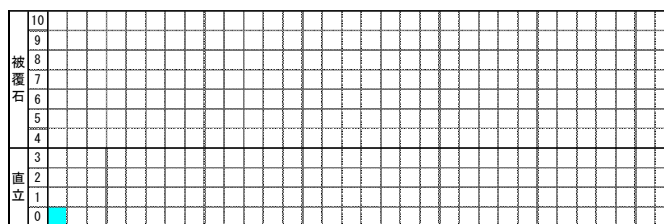


図 3-7 (3) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 平成 28~30 年度調査

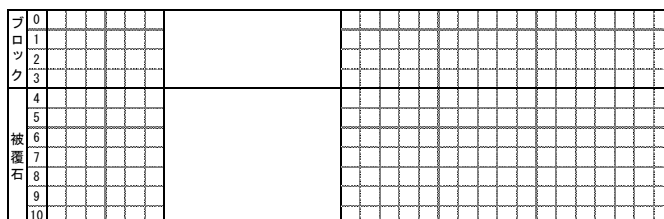
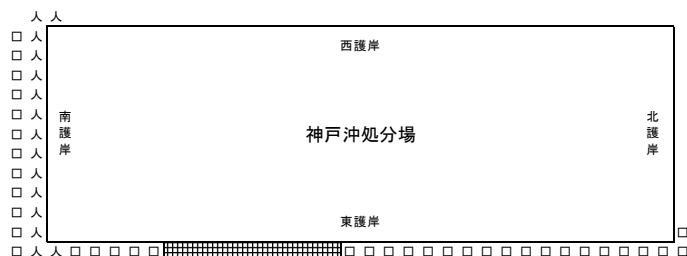
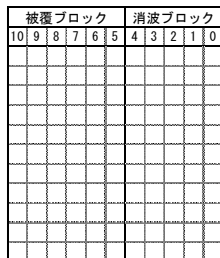
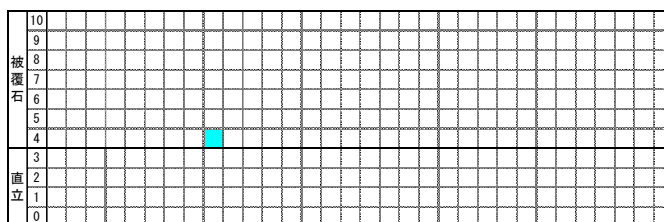


注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分をで示している。

図 3-7 (4) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 令和 2 年度調査

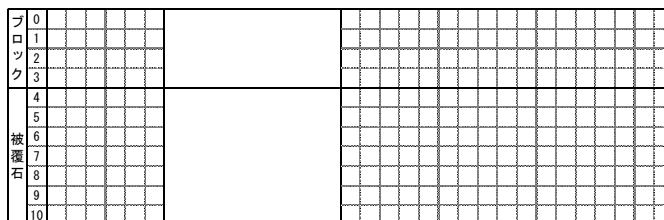
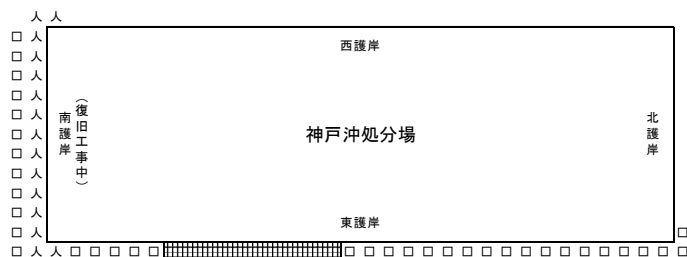
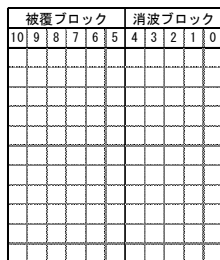
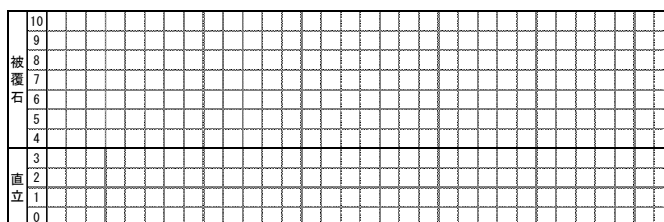
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



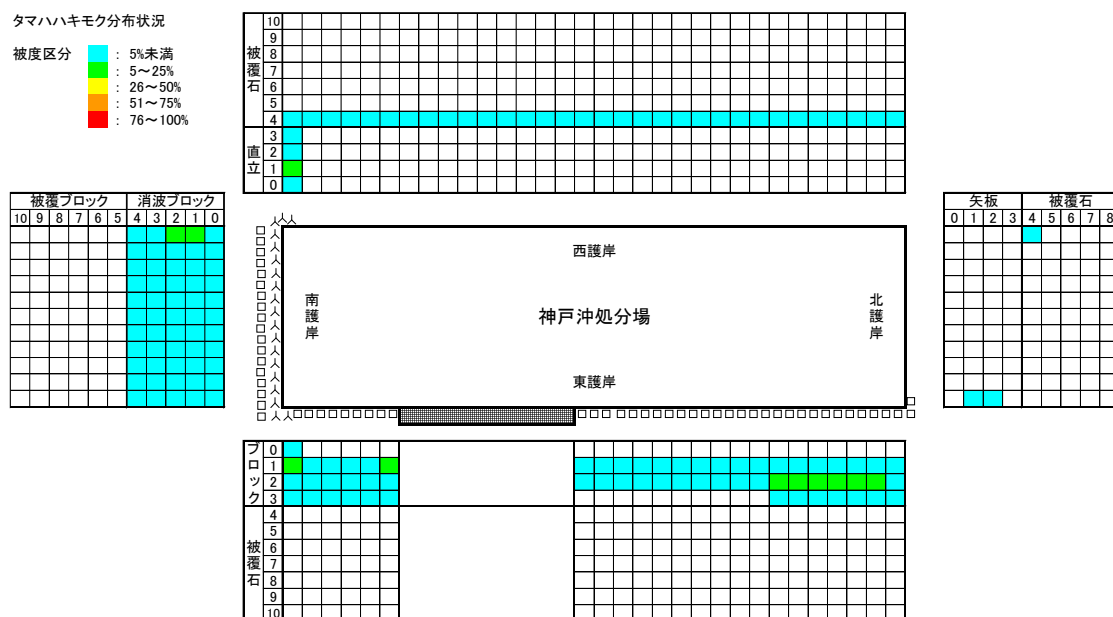
被度区分

	:	5%未満
	:	5～25%
	:	26～50%
	:	51～75%
	:	76～100%



※：平成 21～28 年度の調査では、分布は確認されていない。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

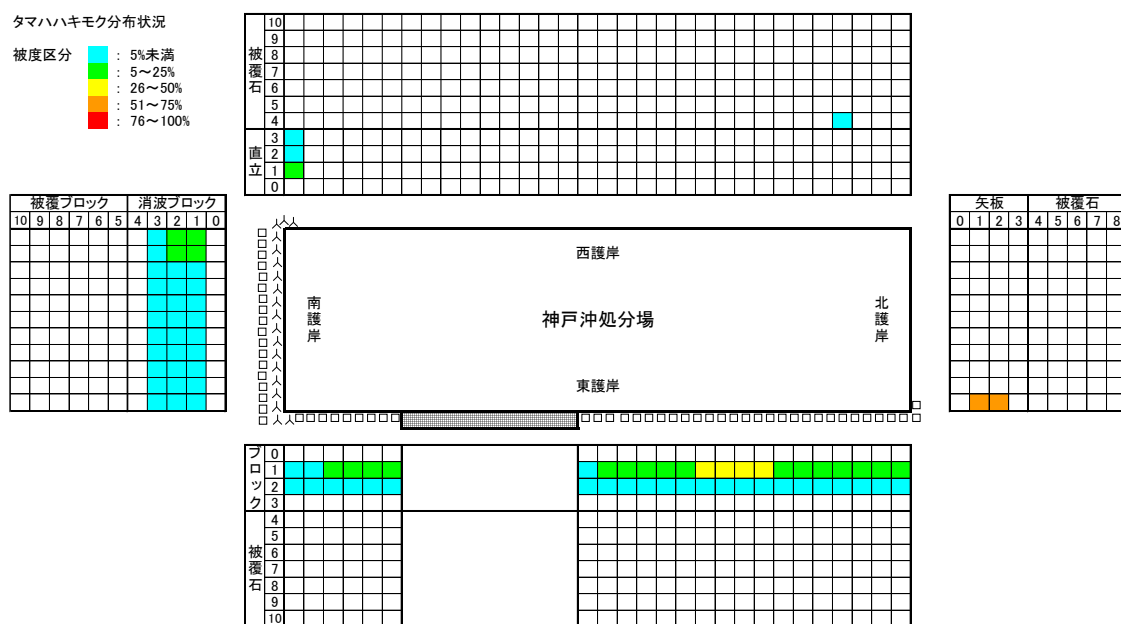
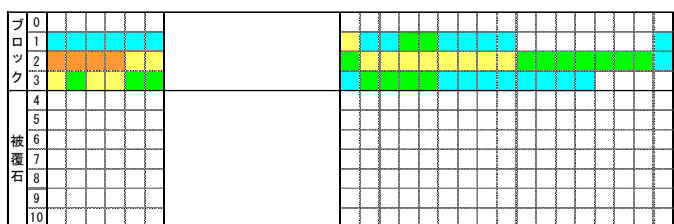
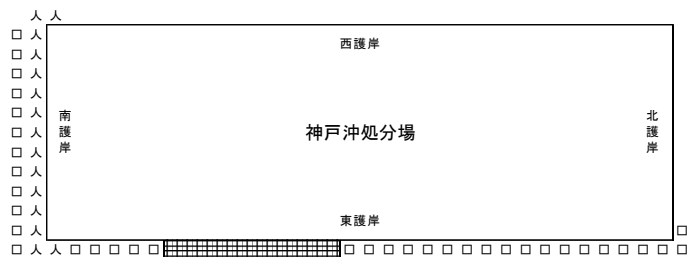
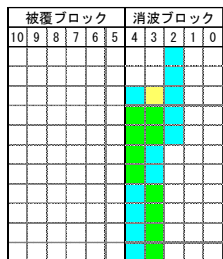
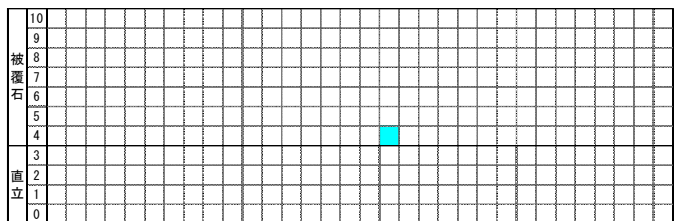


図 3-9 (1) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

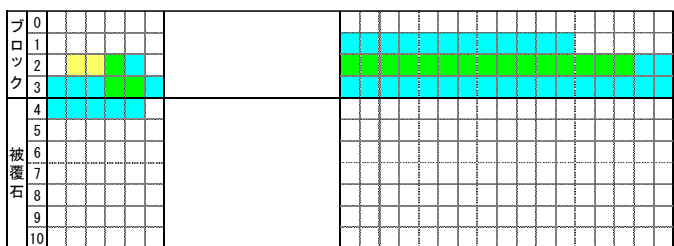
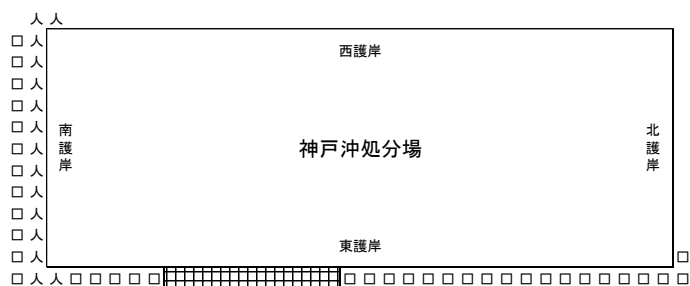
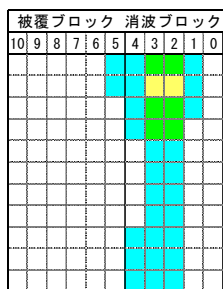
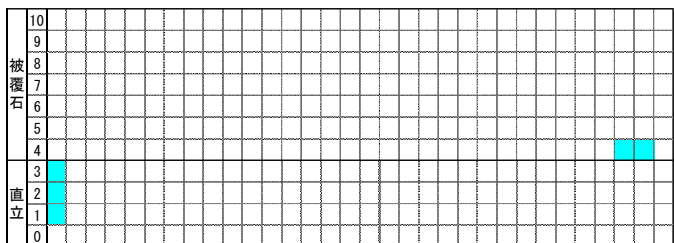
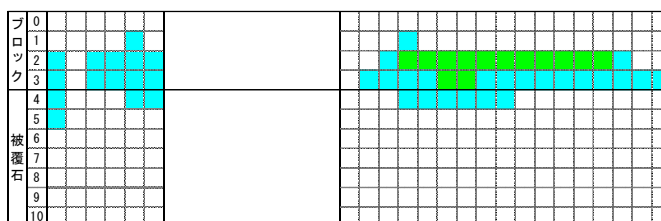
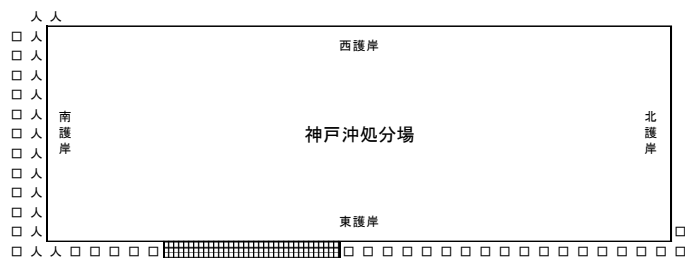
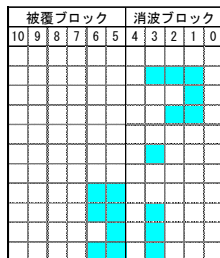
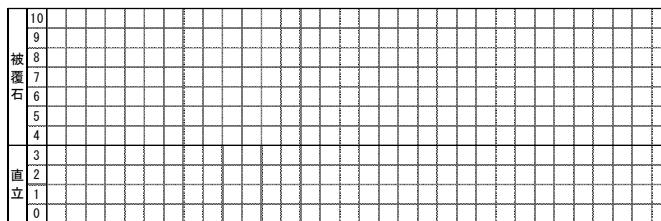


図 3-9 (2) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

〔平成28年春季〕

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成30年春季〕

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

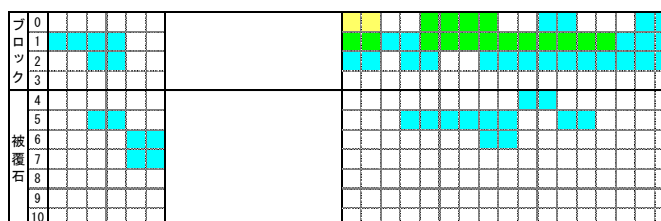
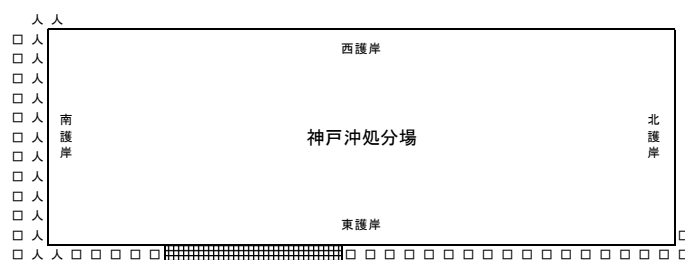
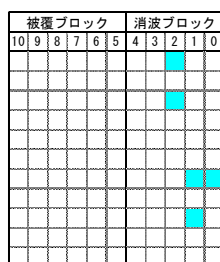
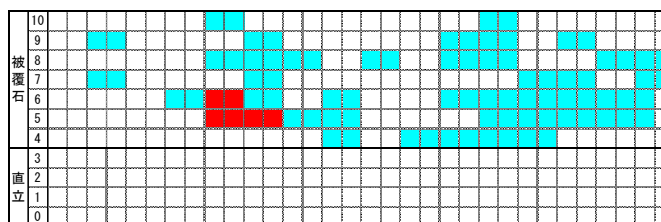
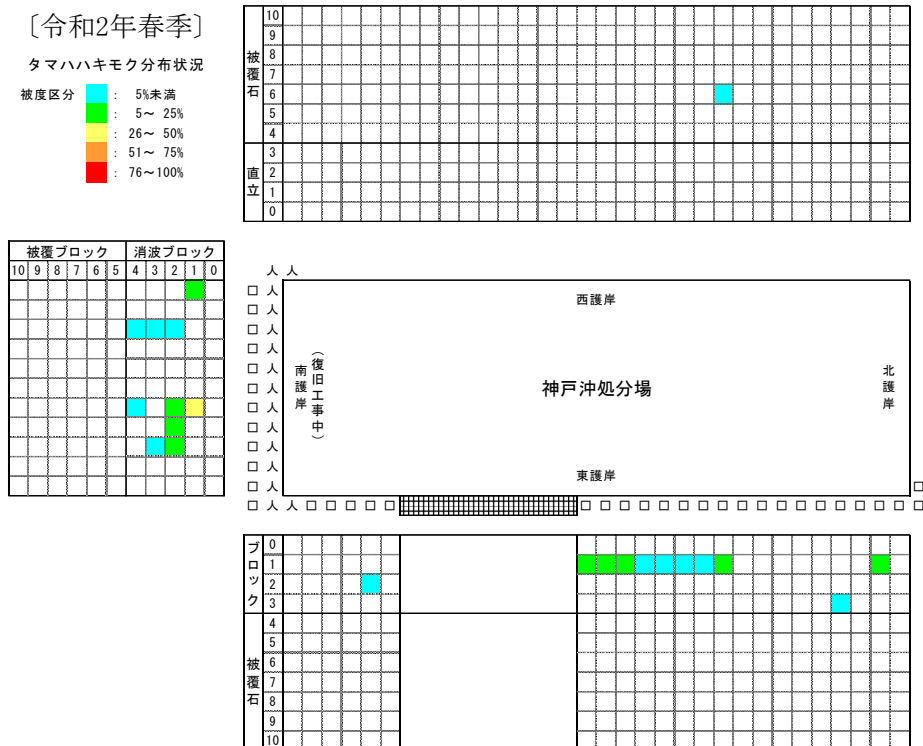


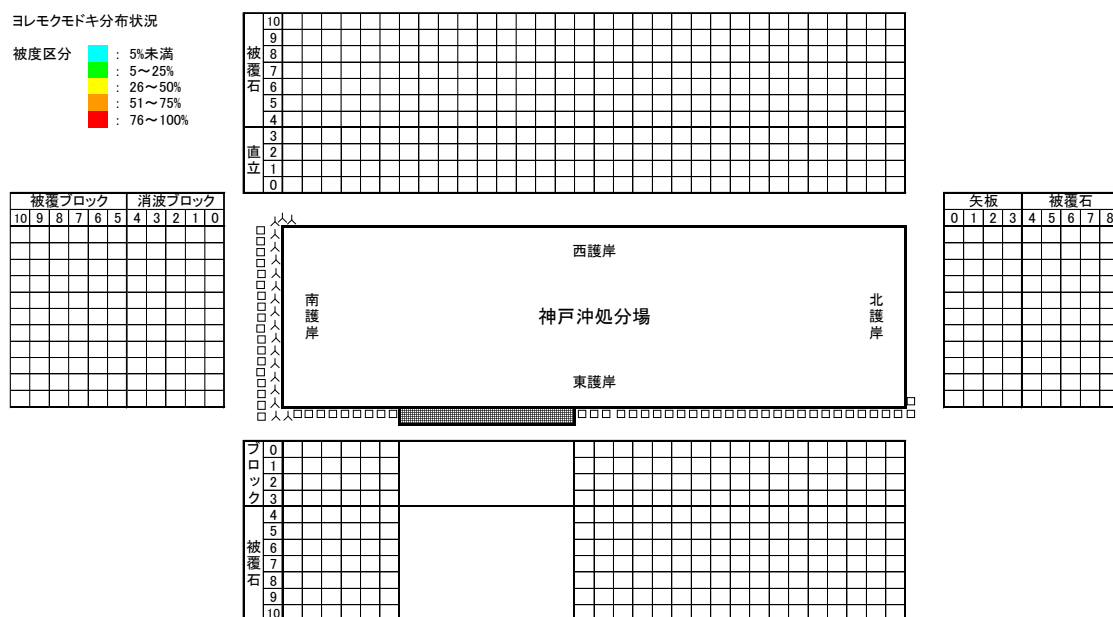
図 3-9 (3) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 平成 28～30 年度調査



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-9 (4) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

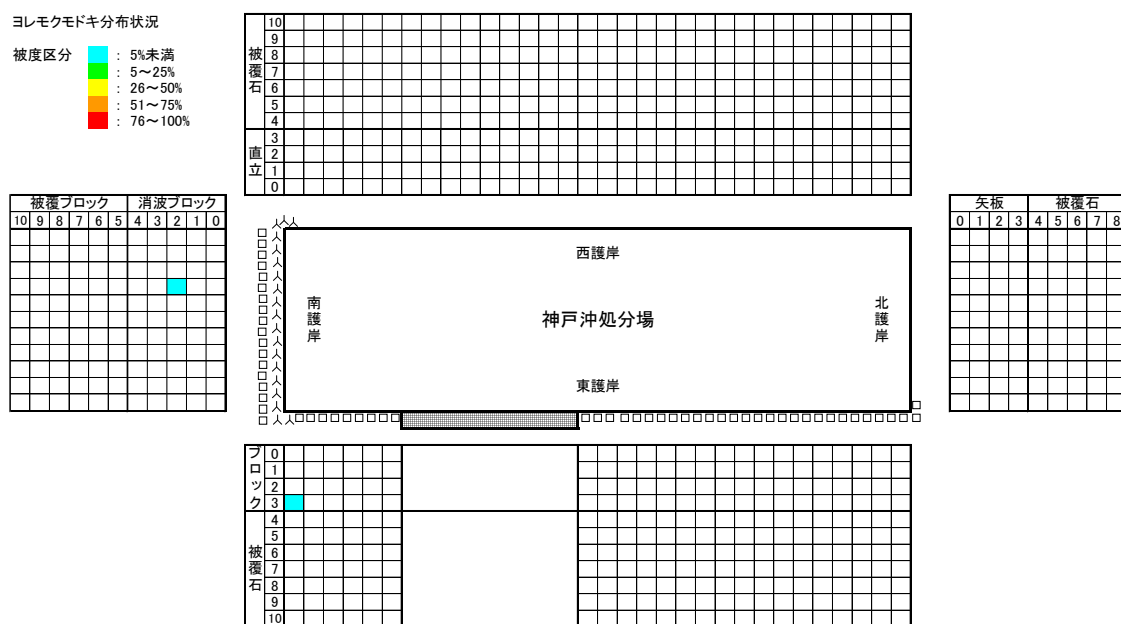
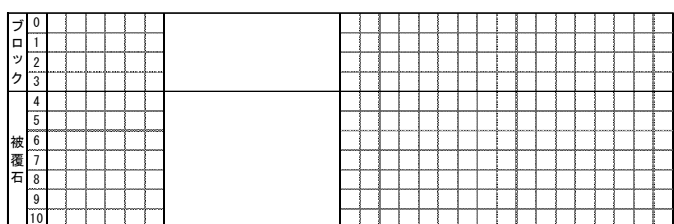
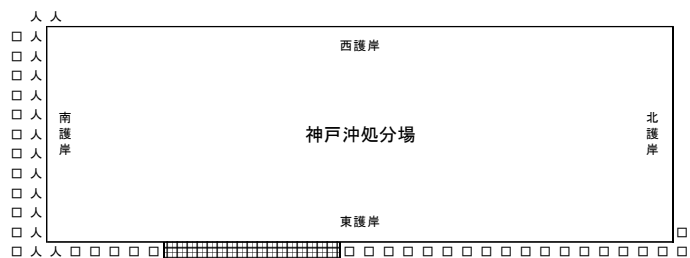
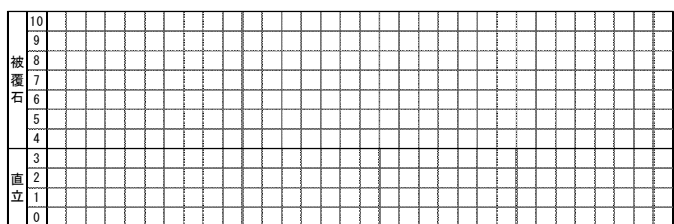
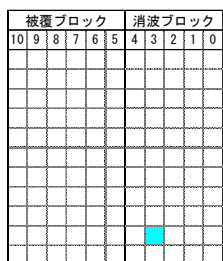


図 3-10 (1) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

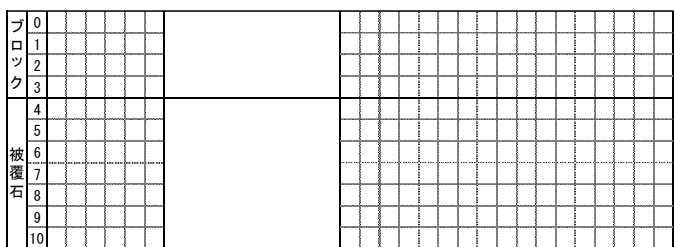
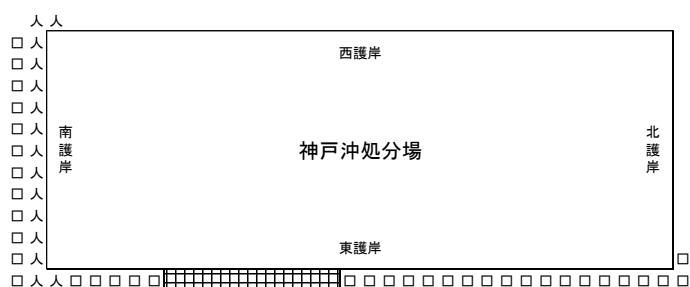
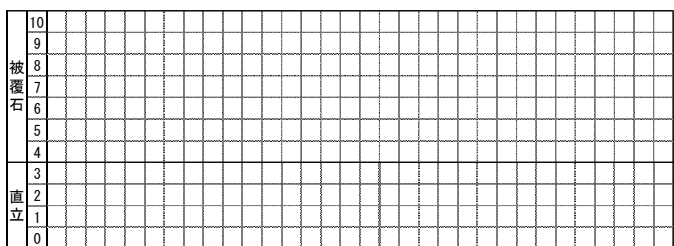
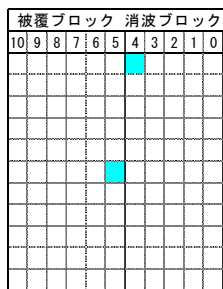
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



- 124 -

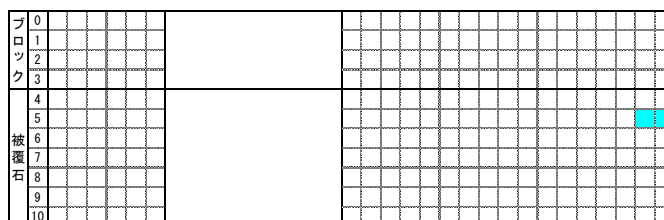
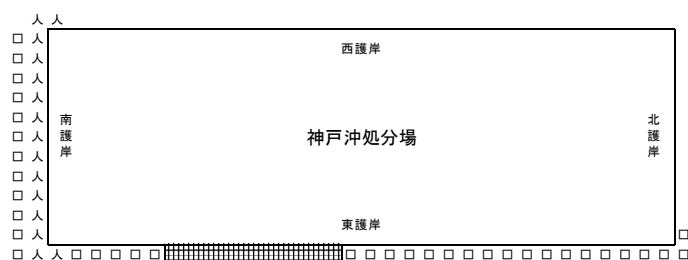
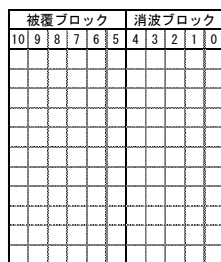
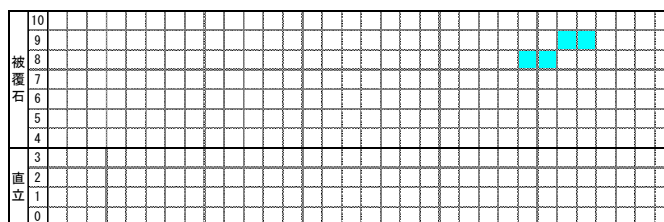
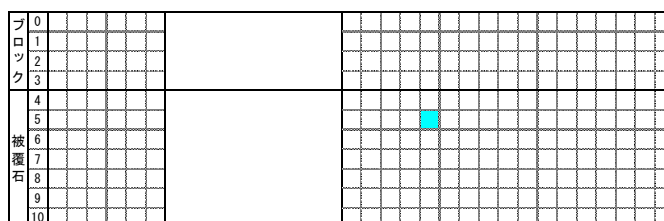
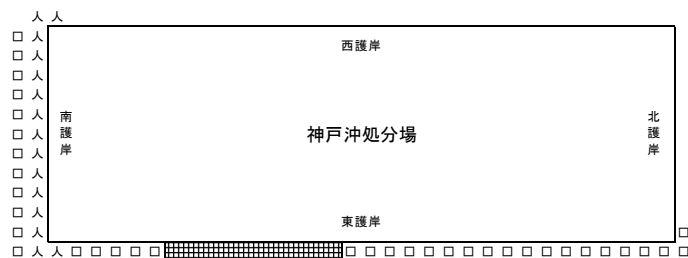
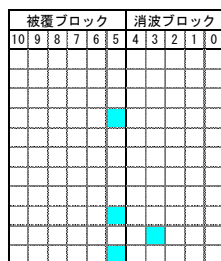
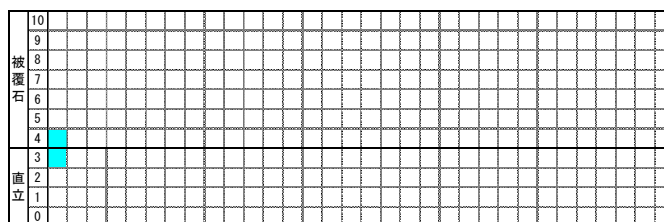
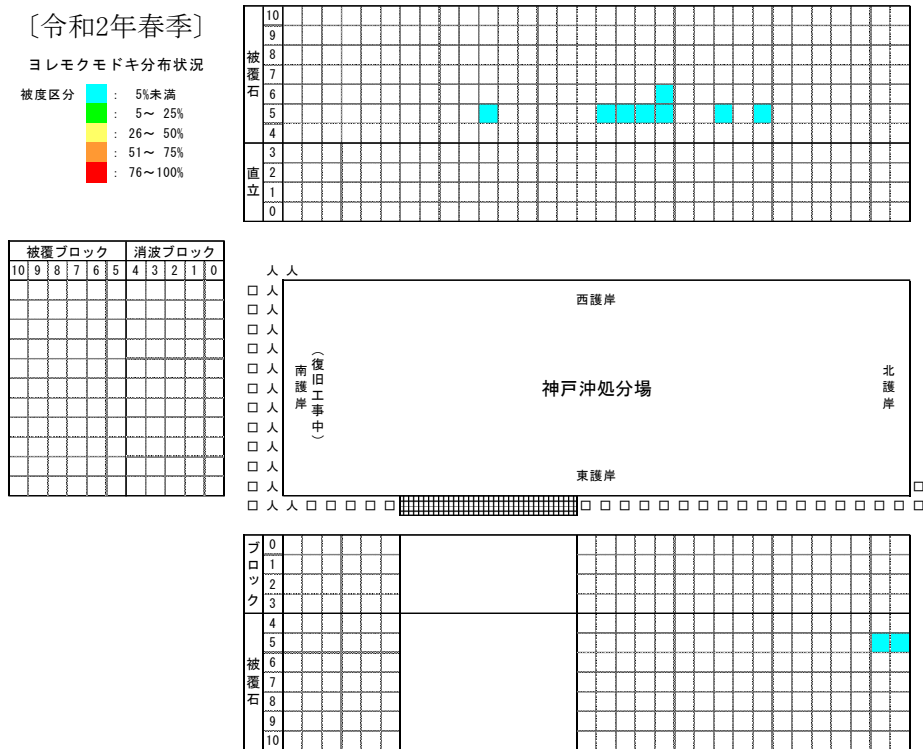


図 3-10 (3) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 平成 28~30 年度調査



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-10 (4) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 令和2年度調査

【その他 主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 30 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリの 7 種について分布図を作成した。

① アオサ属（図 3-11）

アオサ属は、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-7m 付近に広く分布が確認されたが、平成 22 年度は平成 21 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度には各護岸で広く分布が確認されたが、被度の減少がみられた。平成 28 年度には広く分布が確認され、平成 26 年度に比べて、南護岸を中心に被度の増加がみられた。平成 30 年度には各護岸の±0～-10m の広い範囲で分布が確認されたが、平成 28 年度に比べて、被度の減少がみられた。今回の調査でも各護岸の±0～-6m で広く分布が確認され、平成 30 年度に比べて、南護岸、東護岸で被度の増加がみられた。

② マクサ（図 3-12）

マクサは、平成 21～22 年度に南護岸、東護岸の-2～-6m 付近で広く分布が確認され、西護岸においても 2 箇所分布が確認された。平成 24 年度は前回までの調査でほとんど分布が確認されなかった西護岸を含む、各護岸の-1～-8m 付近で広く分布しており、平成 26 年度の調査でも、各護岸で広く分布が確認され、西護岸と南護岸では分布範囲が拡大していた。平成 28 年度の調査でも、同様に各護岸で広く分布が確認され、南護岸と東護岸では分布の拡大傾向がみられたが、西護岸では北側の一部のみとなり、分布が縮小していた。平成 30 年度にも各護岸で広く分布が確認され、平成 28 年度に比べて、南護岸では分布の縮小が、西護岸では分布の拡大が認められた。今回の調査でも、各護岸で広く分布が確認され、平成 30 年度に比べて、南護岸では分布の拡大が認められた。

③ ススカケベニ（図 3-13）

ススカケベニは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に、各護岸の-2～-10m 付近で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、西護岸、東護岸の-3～-10m 付近で分布が確認されたが、南護岸では分布がみられず、東護岸の分布範囲は前回までと比較して減少していた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-4～-5m で分布が確認されたが、西護岸と東護岸では分布域の縮小がみられ、平成 26 年度に確認されなかった南護岸では 2 か所で分布が確認された。平成 30 年度の調査では、西護岸と南護岸の-4～-9m に分布が確認され、平成 28 年度と同様の分布傾向を示したが、東護岸では分布が確認されなかった。今回の調査では各護岸の-3～-10m に分布が確認され、平成 30 年度に比べて、西護岸と東護岸で分布の拡大が認められた。

④ フダラク (図 3-14)

フダラクは、平成 21～22 年度に各護岸の±0～-4m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、西護岸では分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度で分布範囲の減少がみられた西護岸で分布範囲が増加し、各護岸で広く分布が確認された。平成 28 年度の調査では、各護岸で分布が確認されたが、各護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 30 年度の調査では、南護岸と東護岸では分布範囲の回復傾向が認められたが、西護岸では分布が確認されなかった。今回の調査では、西護岸と南護岸の各 1 箇所分布が認められたのみであり、分布範囲の縮小が顕著であった。

⑤ ツルツル (図 3-15)

ツルツルは平成 21～22 年度には分布が確認されなかったが、平成 24 年度に、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、東護岸と西護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して分布範囲と被度の減少がみられた。平成 28 年度の調査では分布が確認されなかった。平成 30 年度の調査では、各護岸の±0～-2m 付近の広い範囲で分布が確認された。今回の調査では、南護岸の 1 か所で分布が確認されたのみである。

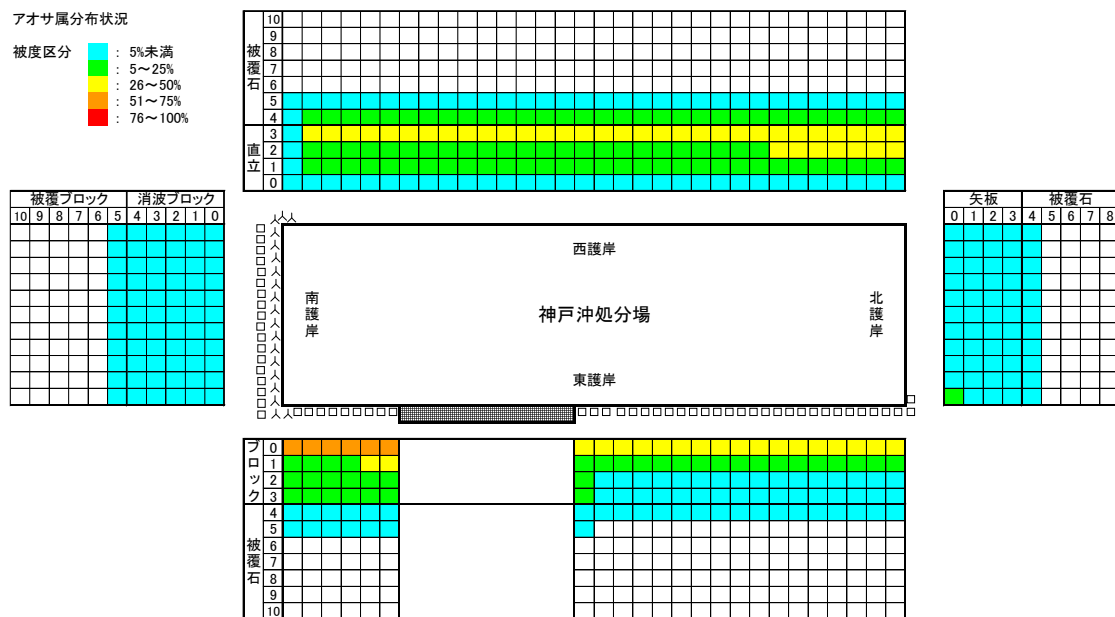
⑥ ベニスナゴ (図 3-16)

ベニスナゴは、平成 21～22 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、東護岸で分布範囲の減少、西護岸で分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査でも、被度の減少はみられたが、平成 24 年度の調査と同様に各護岸の-1～-7m で広く分布が確認された。平成 28 年度の調査では、南護岸の 1 箇所で確認されたのみで、分布範囲が大きく減少していた。平成 30 年度の調査では、各護岸の-1～-10m の広い範囲で分布が確認され、平成 26 年度以前への分布範囲および被度の回復傾向が認められた。今回の調査では、各護岸で分布が確認されたが、平成 30 年度に比べて、分布範囲および被度は減少した。

⑦ カバノリ (図 3-17)

カバノリは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度、平成 24 年度に各護岸の-2～-8m 付近で分布が確認された。平成 24 年度は平成 22 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-10m 付近で分布が確認され、平成 26 年度と比べると、東護岸では分布範囲の拡大を、西護岸では分布範囲の縮小を確認した。平成 30 年度の調査では、各護岸の-1～-10m 付近の広い範囲で分布が確認され、平成 28 年度に比べて、西護岸と東護岸では分布範囲が拡大し、また、全体的に被度の増大が認められた。今回の調査では、平成 30 年度と同様の分布、被度傾向を示した。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

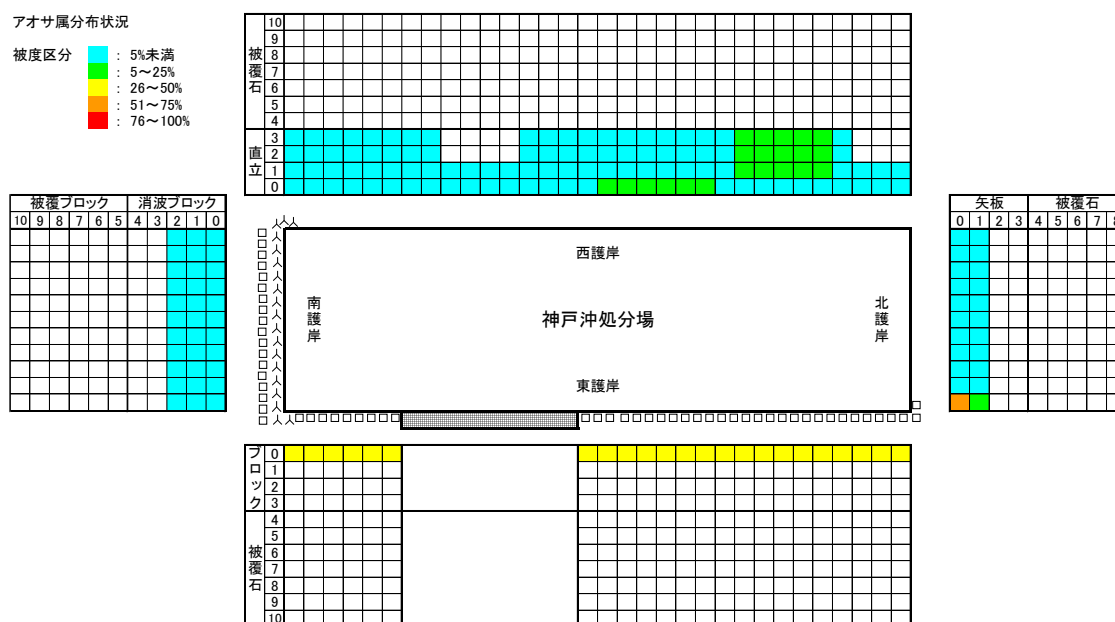
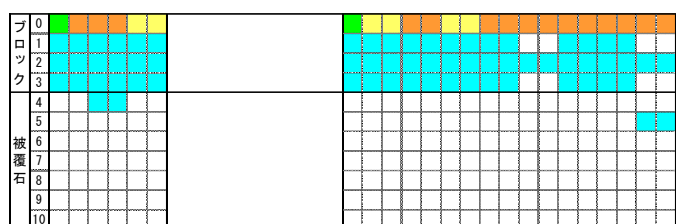
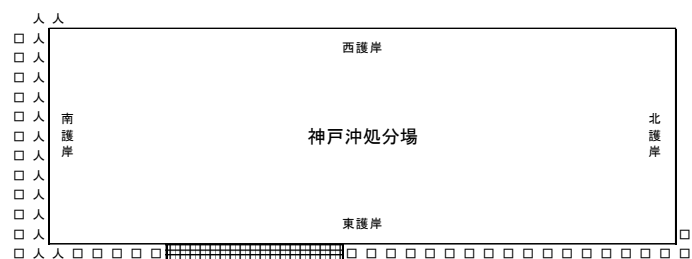
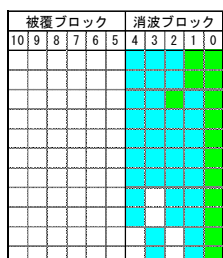
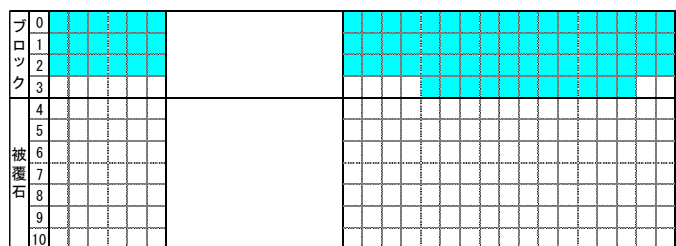
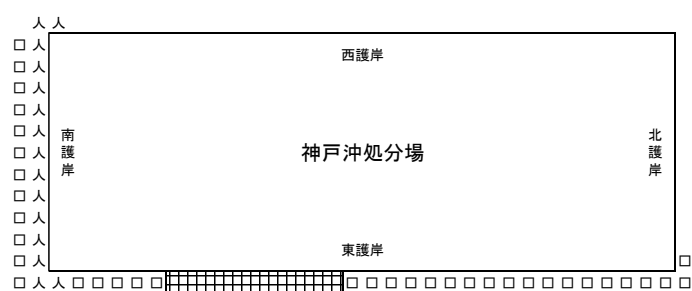
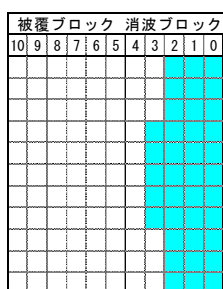


図 3-11 (1) 分布状況の推移 (アオサ属) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

アオサ属分布状況

[illegible]

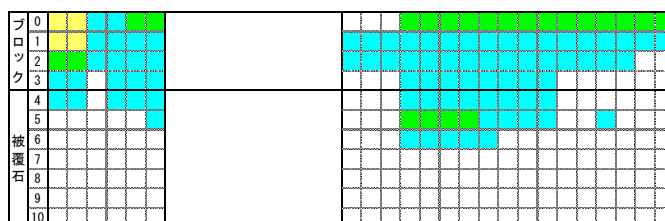
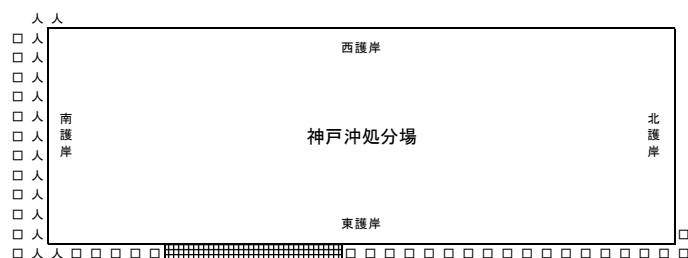
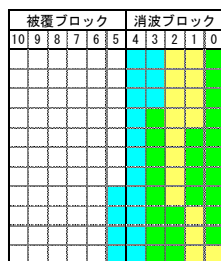
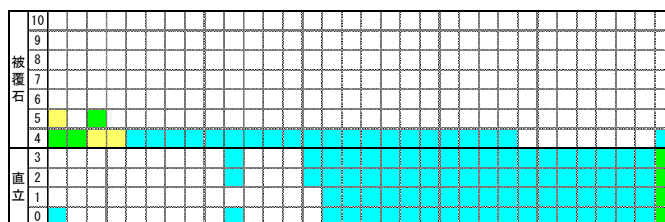
アオサ属分布状況



- 130 -

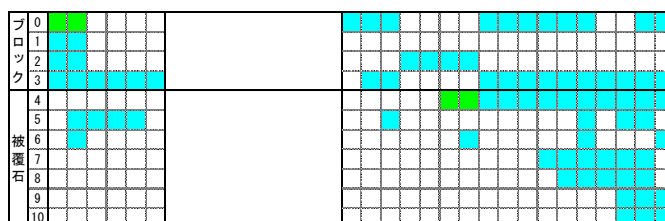
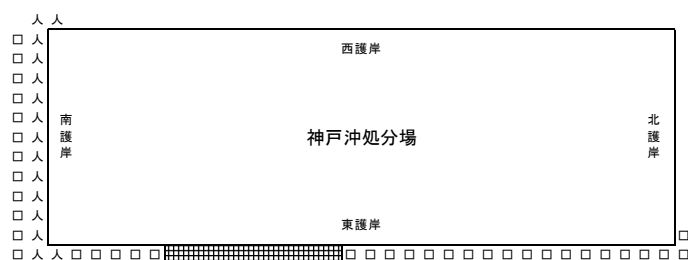
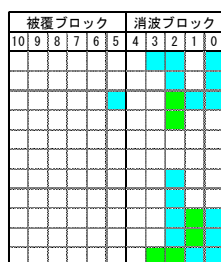
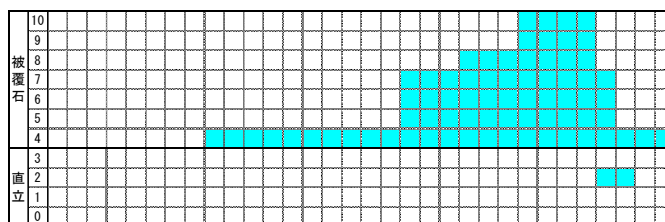
被度区分

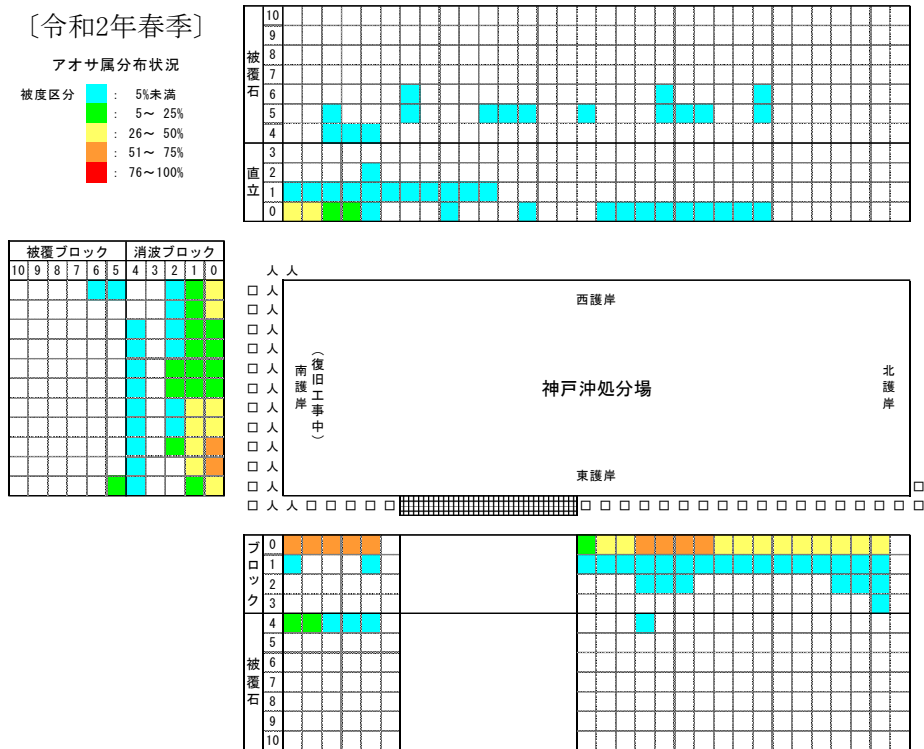
5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

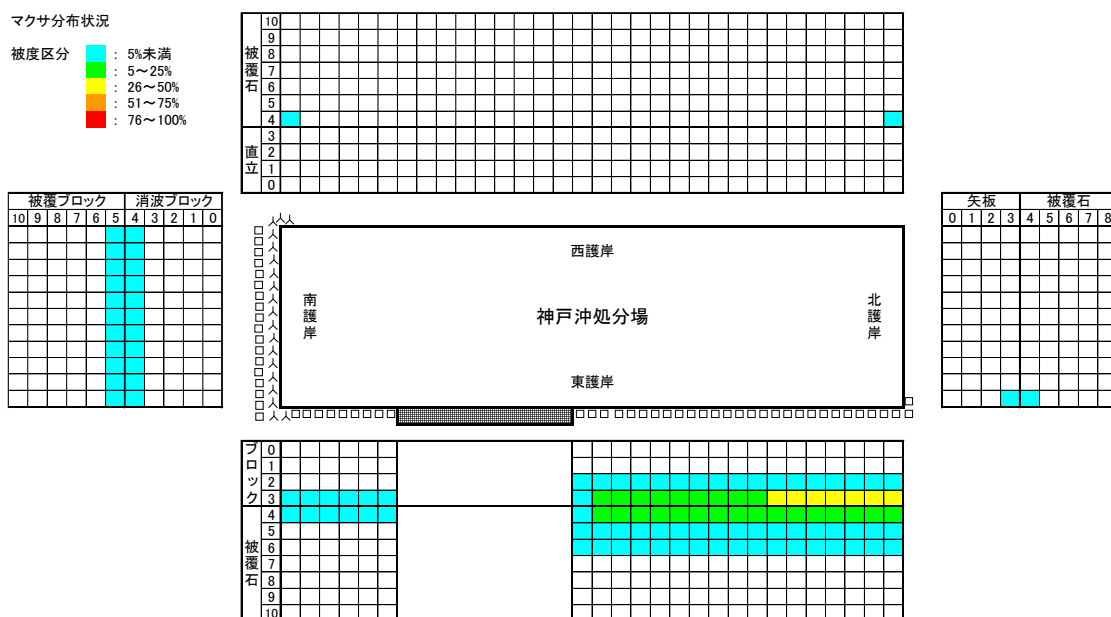




注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-11 (4) 分布状況の推移 (アオサ属) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

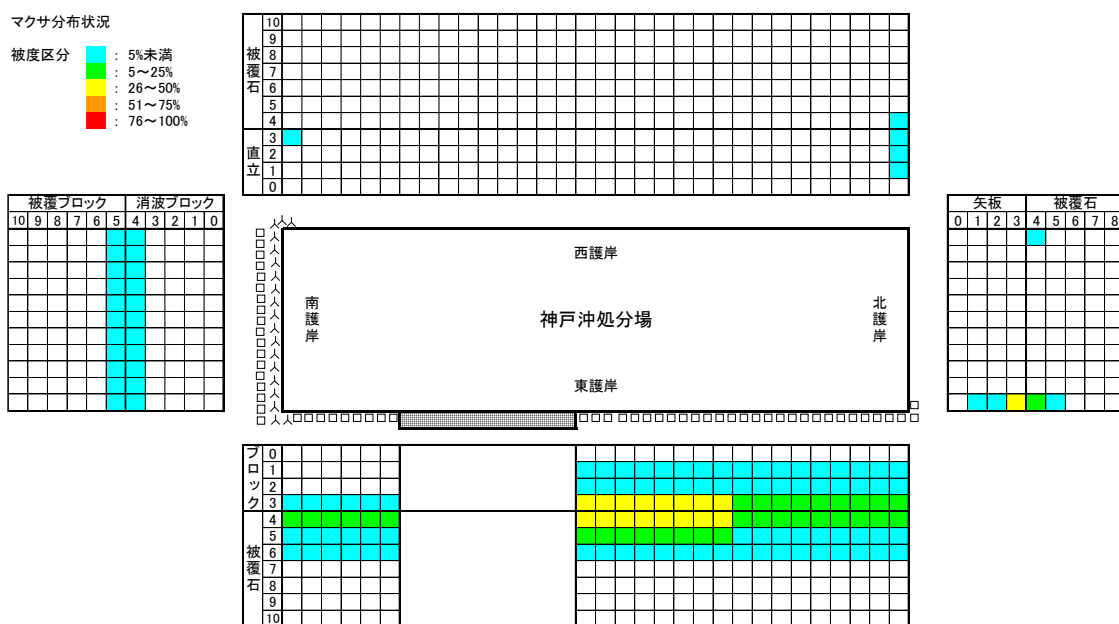
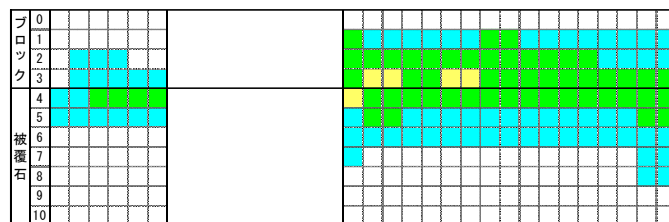
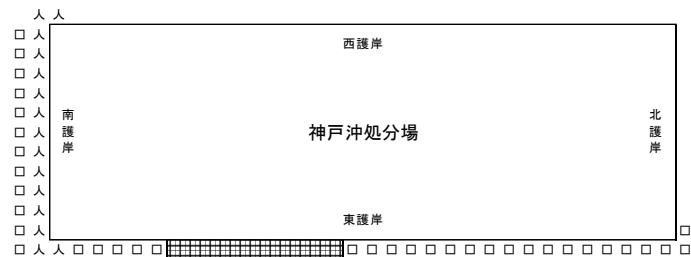
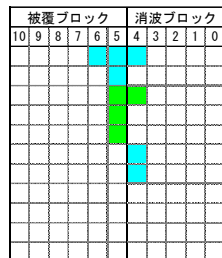
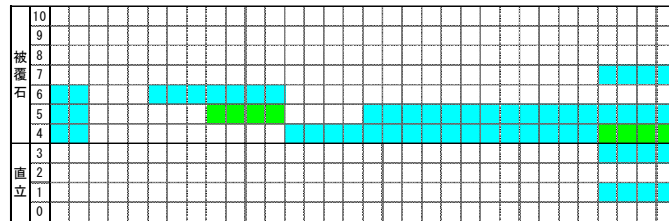


図 3-12 (1) 分布状況の推移 (マクサ) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

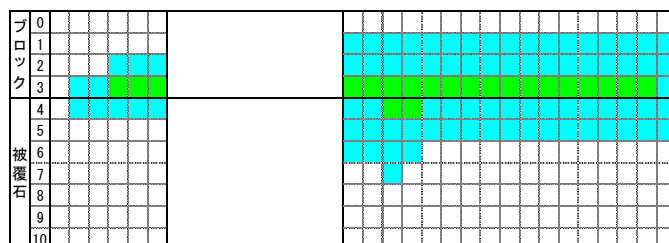
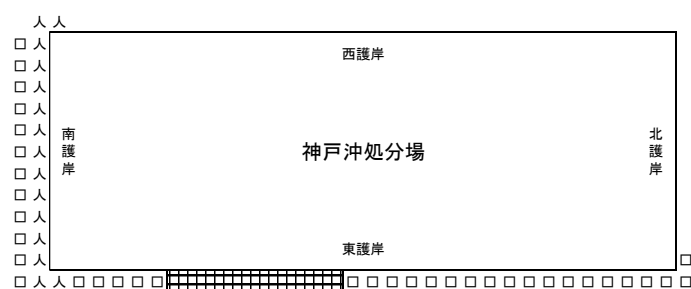
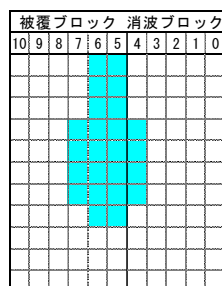
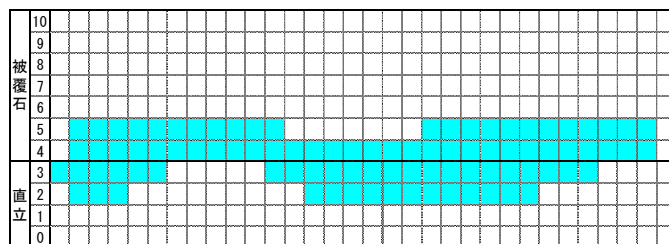
マクサ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～ 25%
		:	26～ 50%
		:	51～ 75%
		:	76～100%



マクサ分布状況

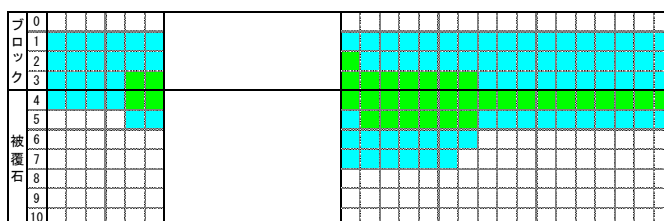
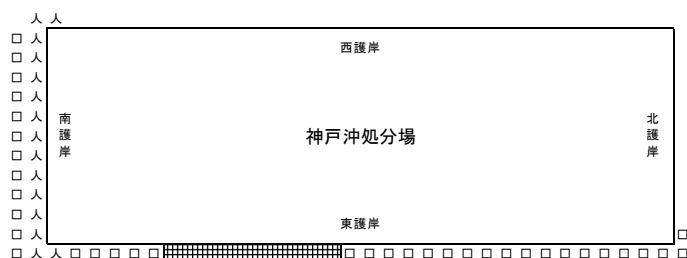
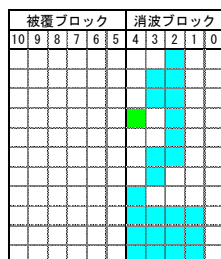
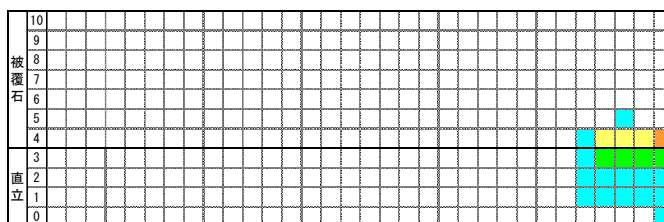
被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%



- 134 -

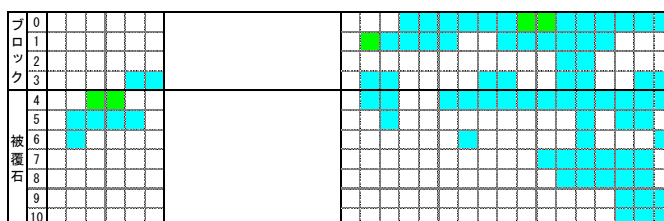
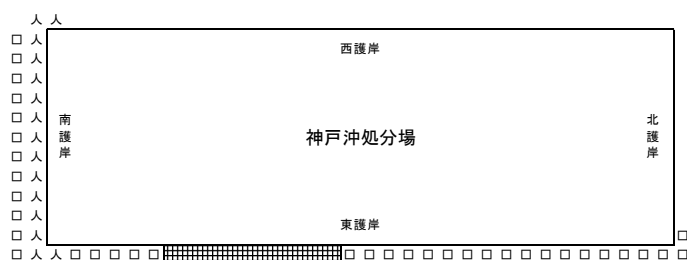
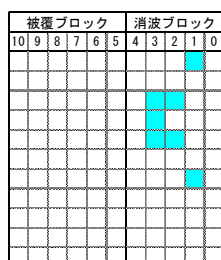
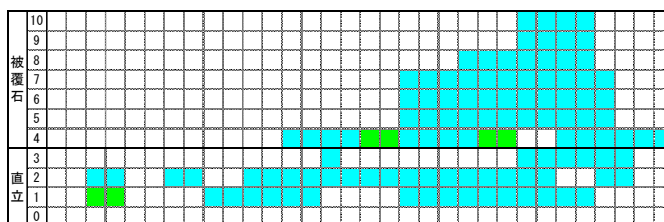
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

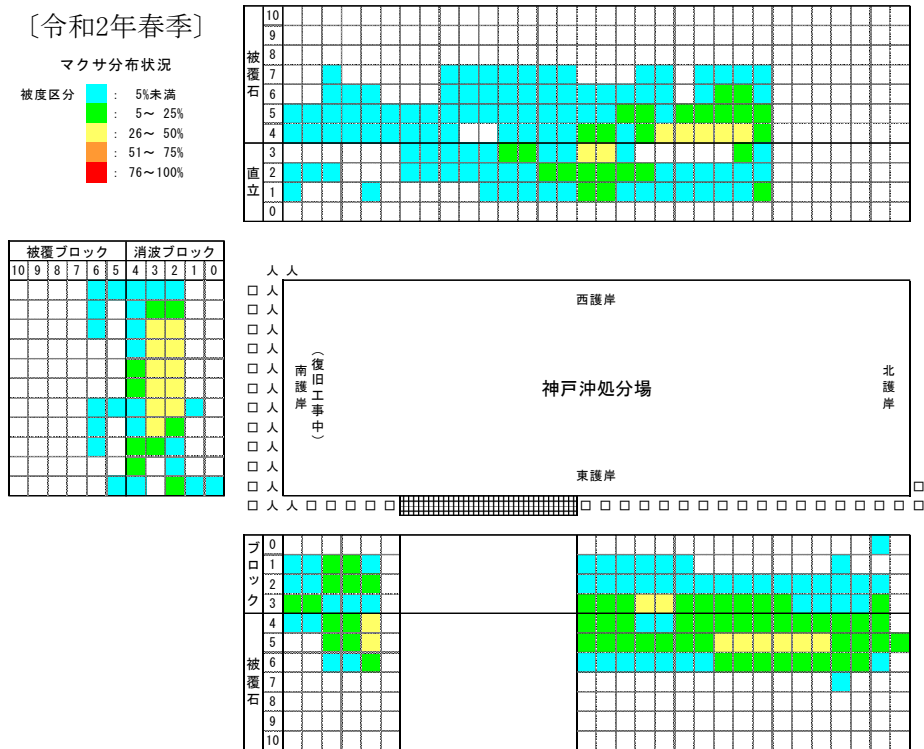


被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



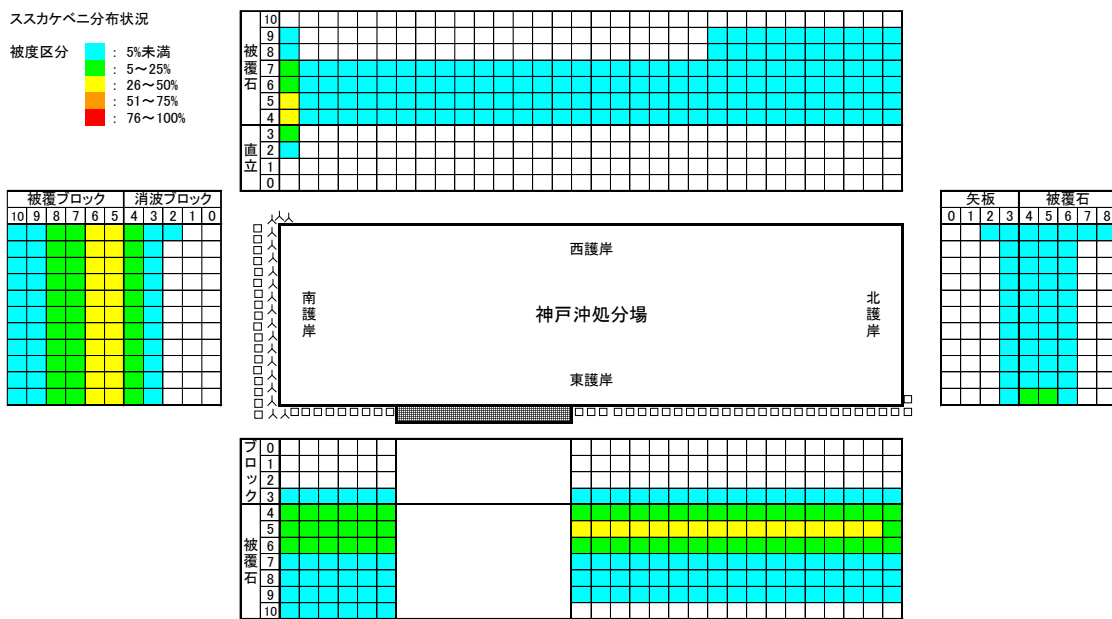
- 135 -



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-12 (4) 分布状況の推移 (マクサ) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

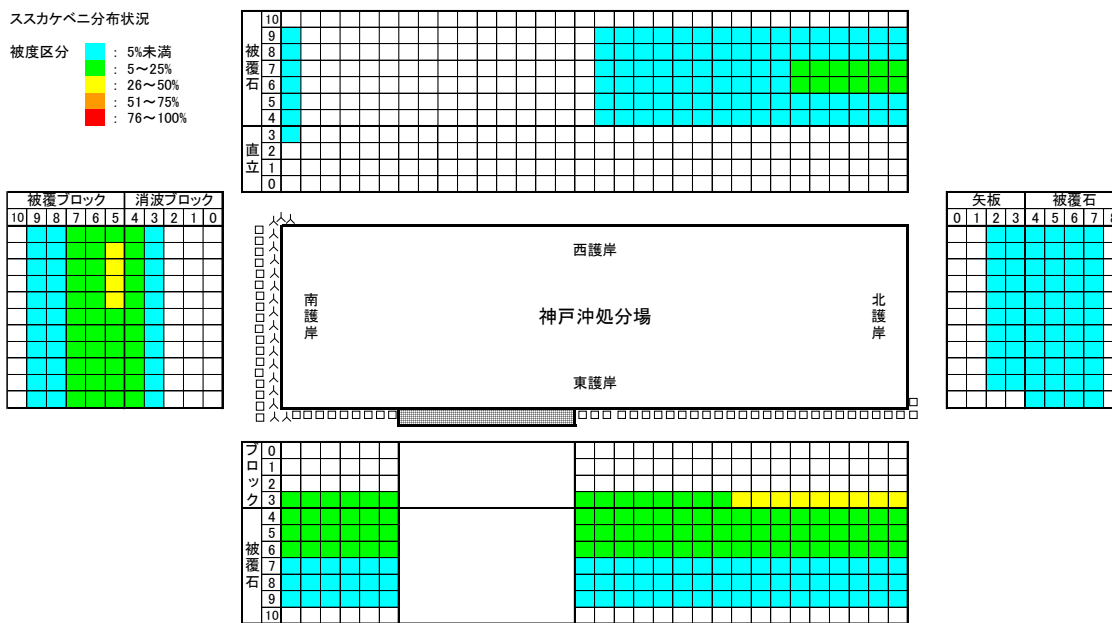
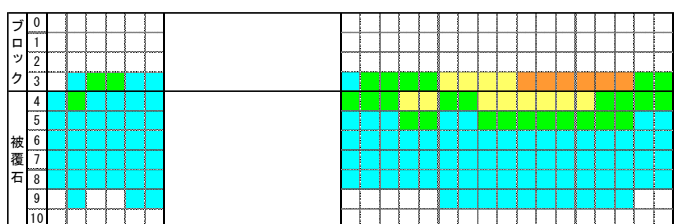
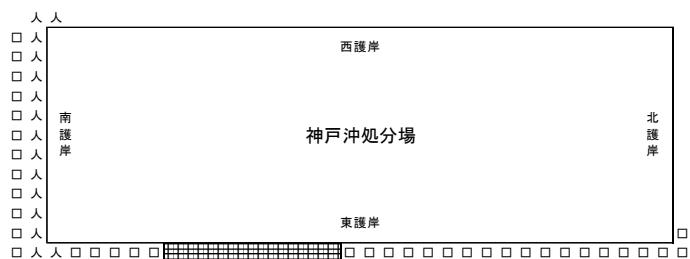
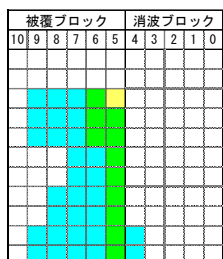
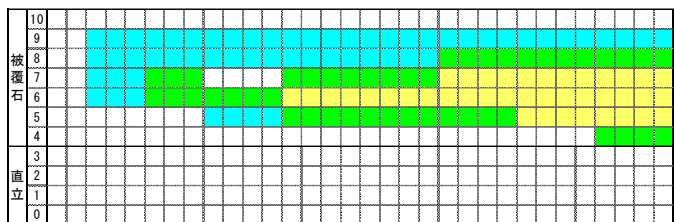
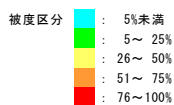


図 3-13 (1) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

ススカケベニ分布状況



〔平成26年春季〕

ススカケベニ分布状況

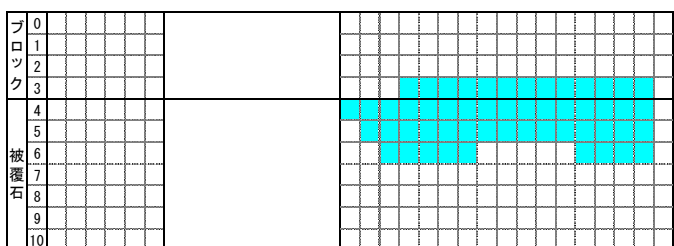
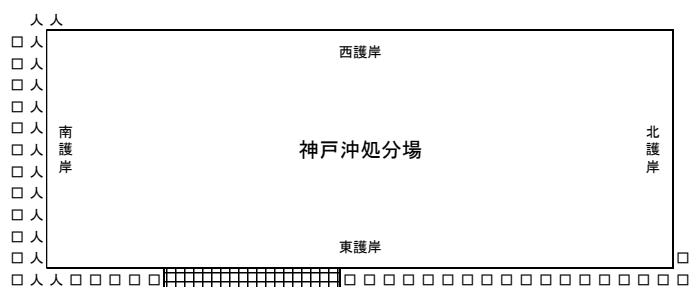
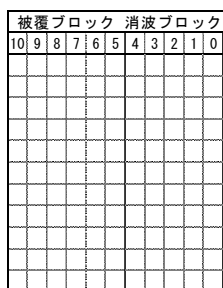
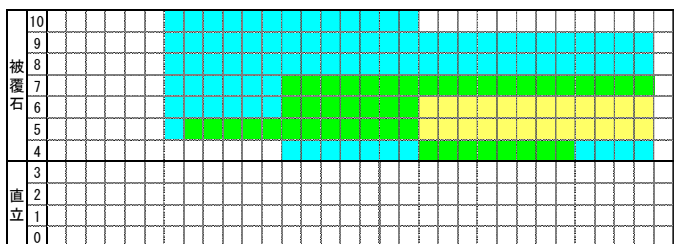
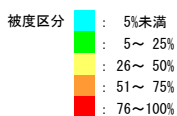
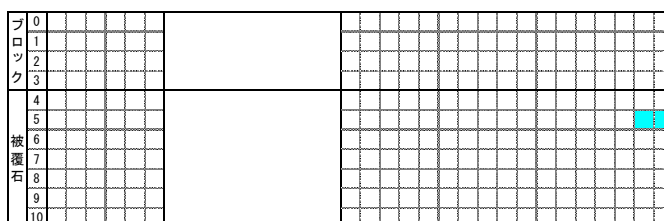
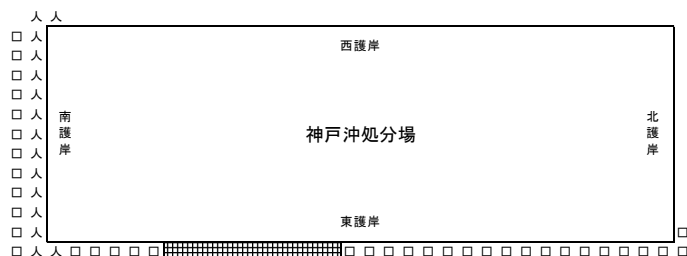
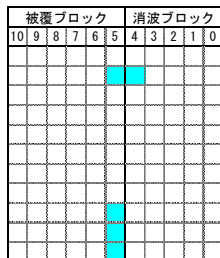
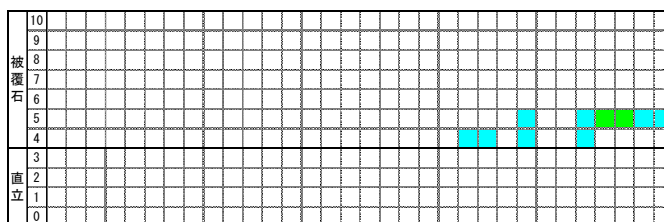


図 3-13 (2) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成30年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

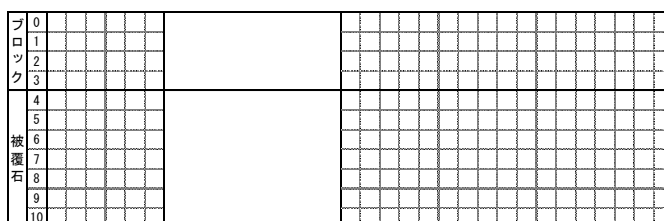
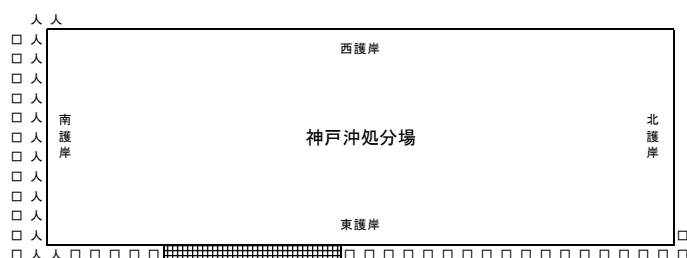
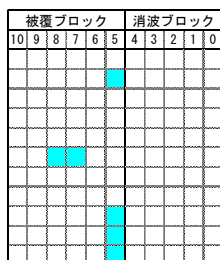
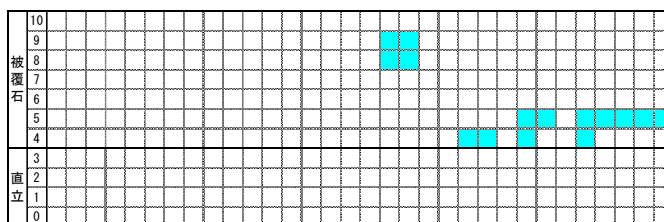
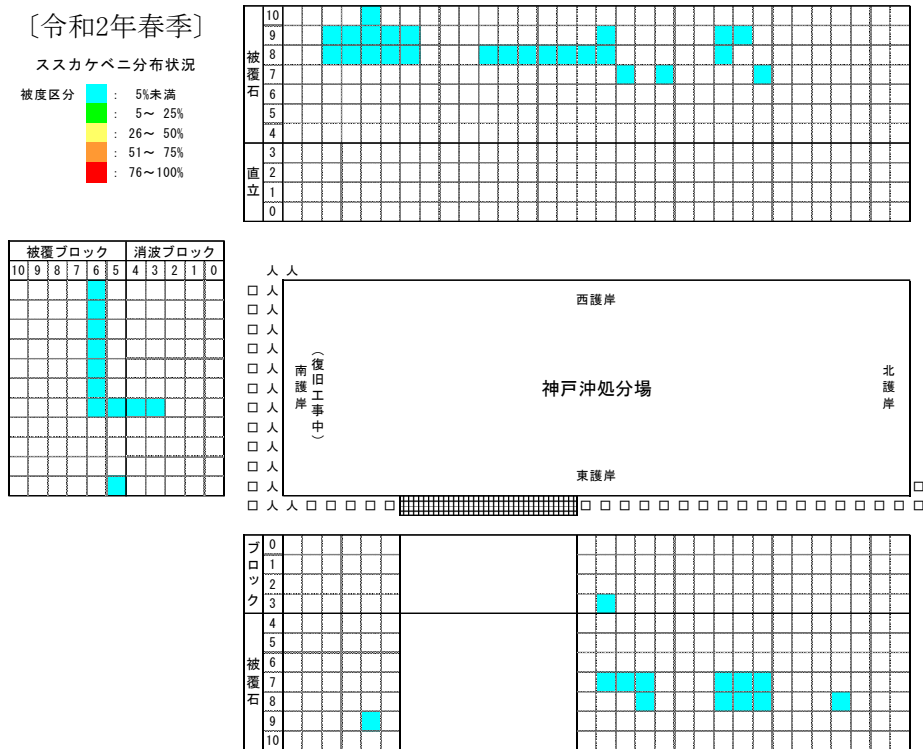


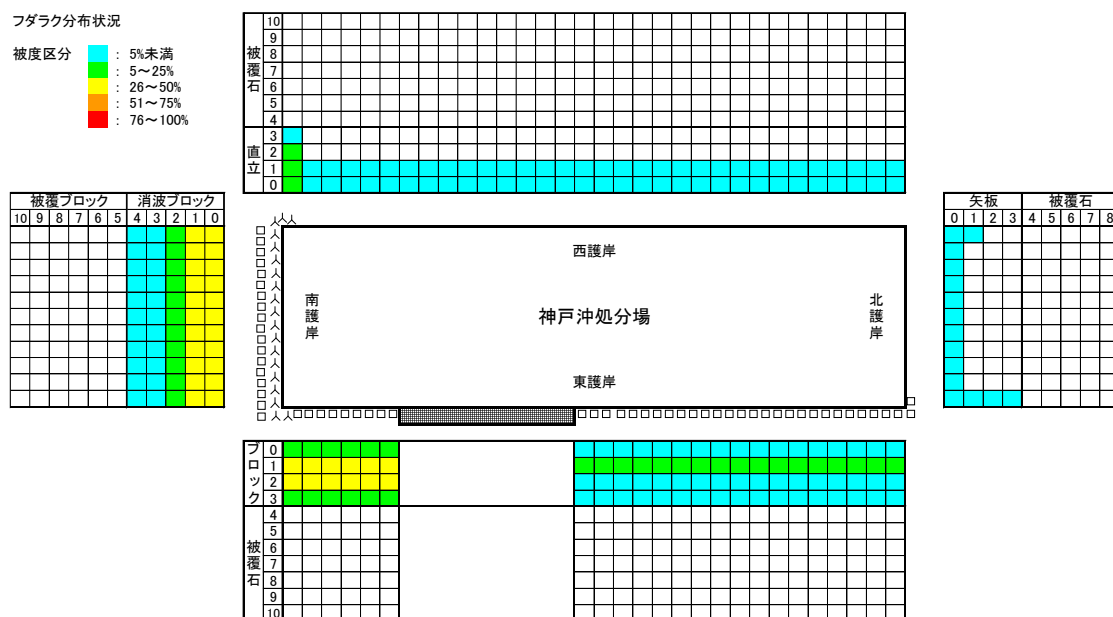
図 3-13 (3) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 28～30 年度調査



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-13 (4) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

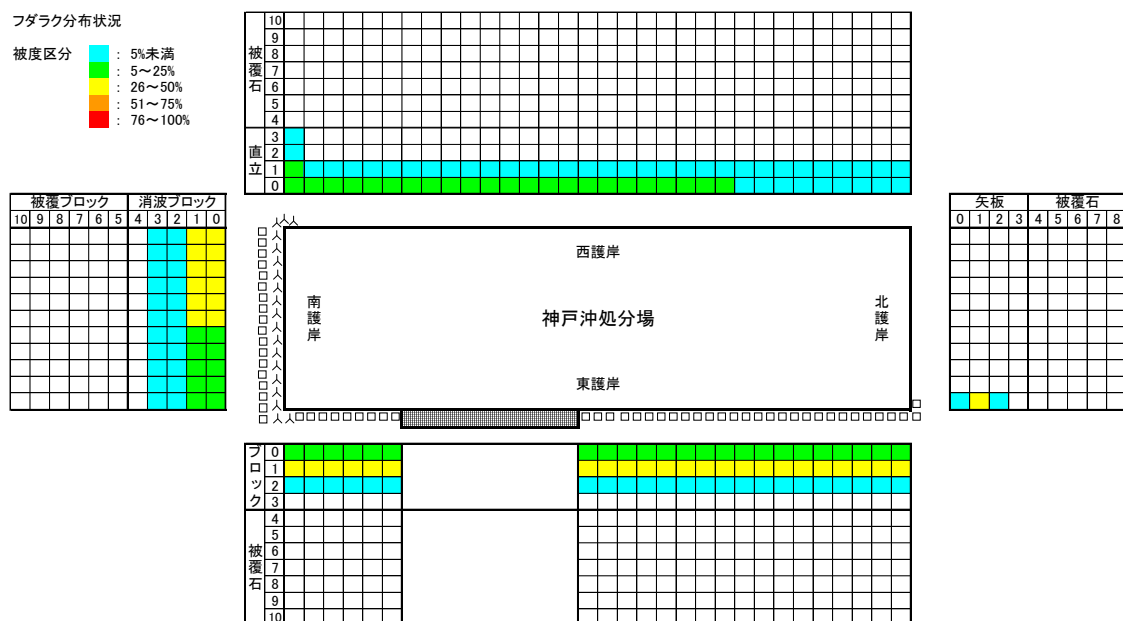
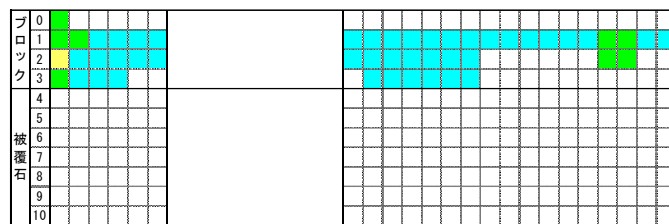
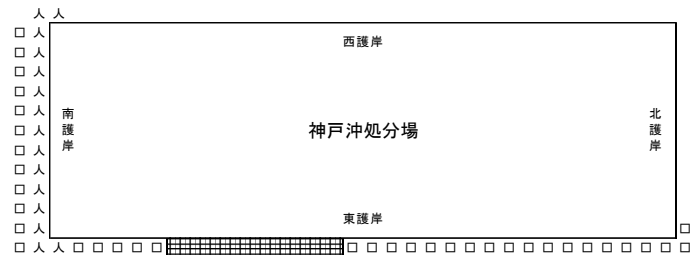
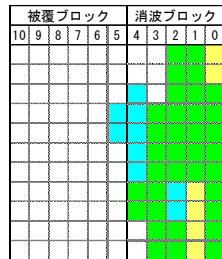
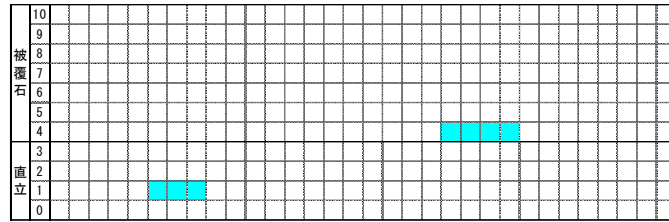


図 3-14 (1) 分布状況の推移 (フダラク) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

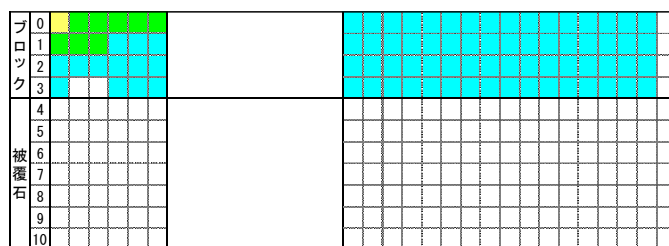
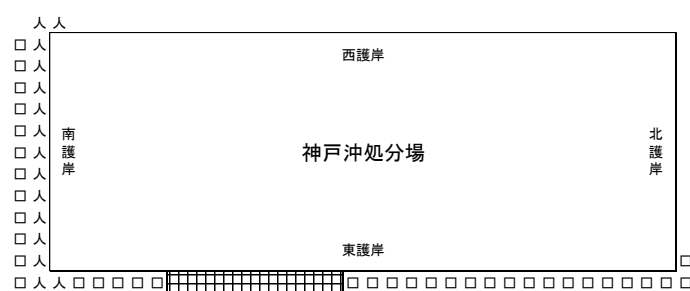
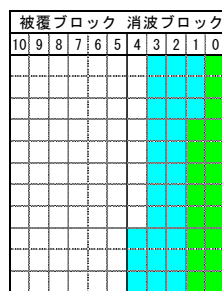
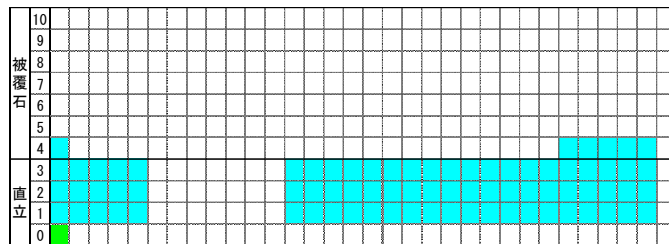
被度区分

■	:	5%未満
■	:	5～25%
■	:	26～50%
■	:	51～75%
■	:	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



- 142 -

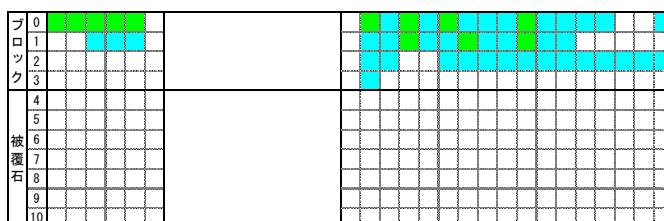
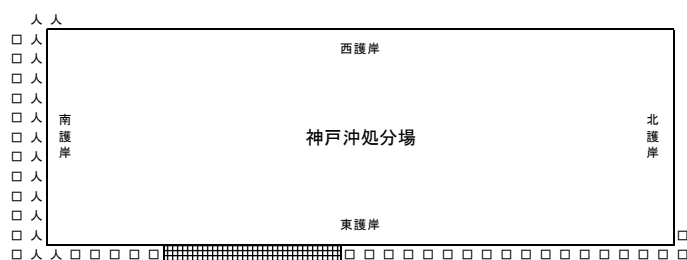
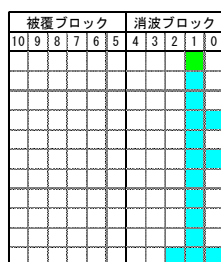
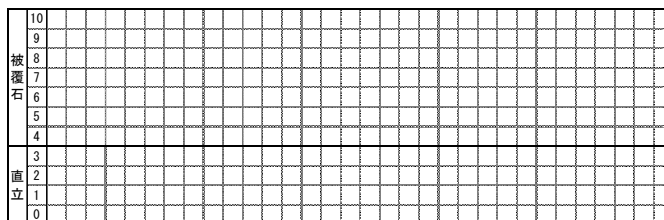
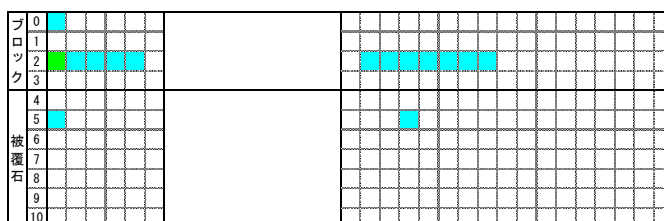
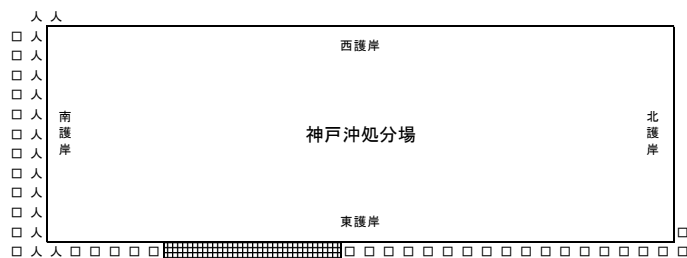
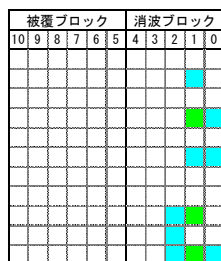
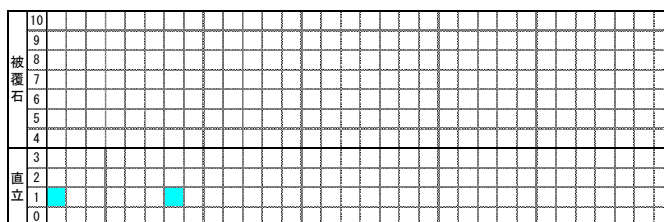
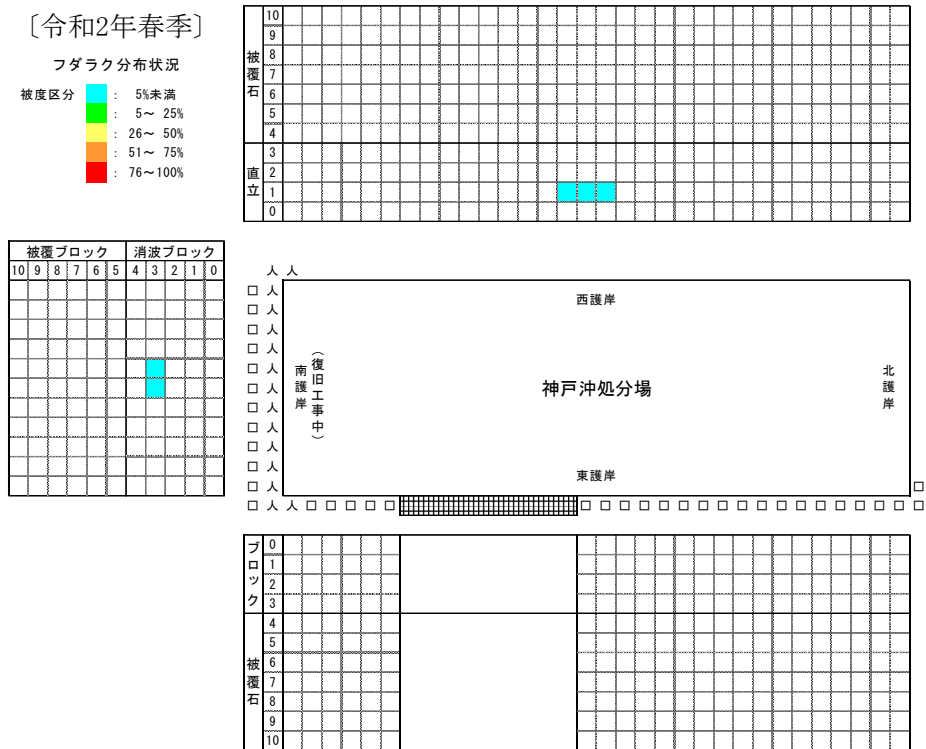


図 3-14 (3) 分布状況の推移 (フダラク) 神戸沖 平成 28~30 年度調査

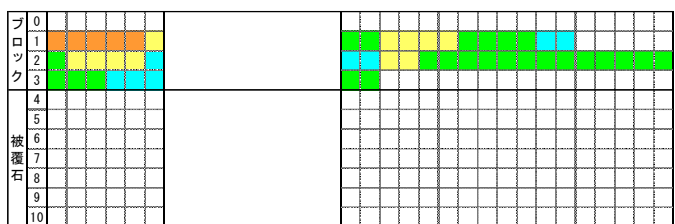
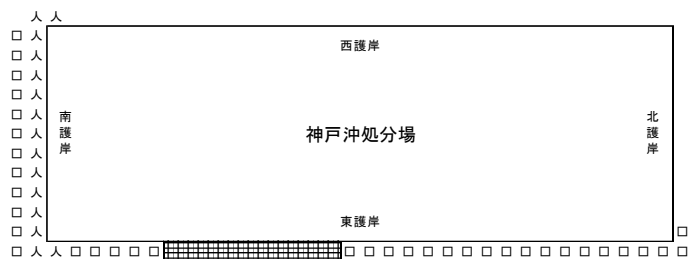
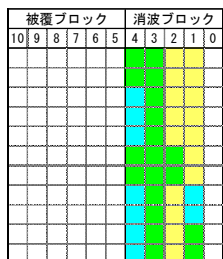
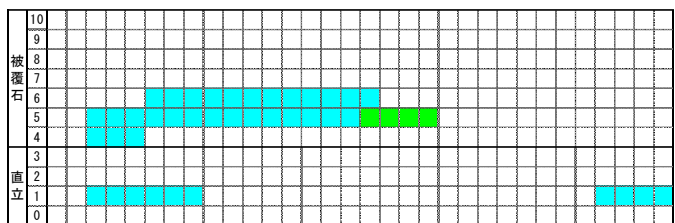


注）令和２年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-14（４）分布状況の推移 （フダラク） 神戸沖 令和２年度調査

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

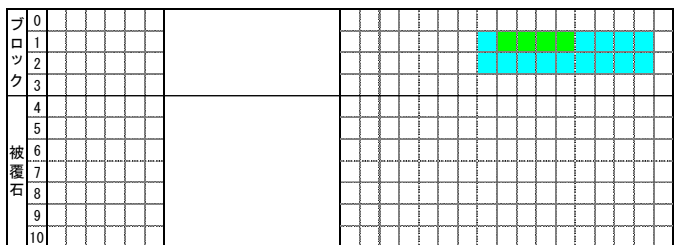
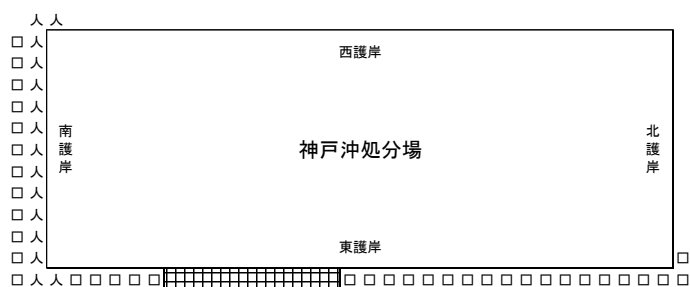
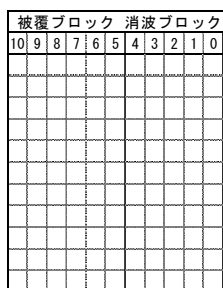
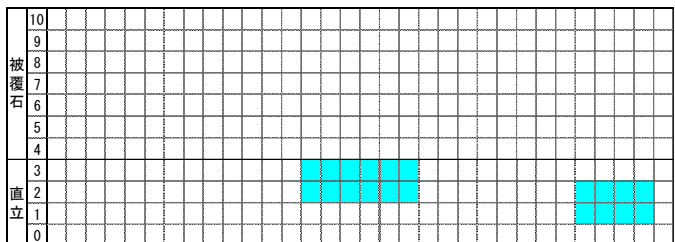
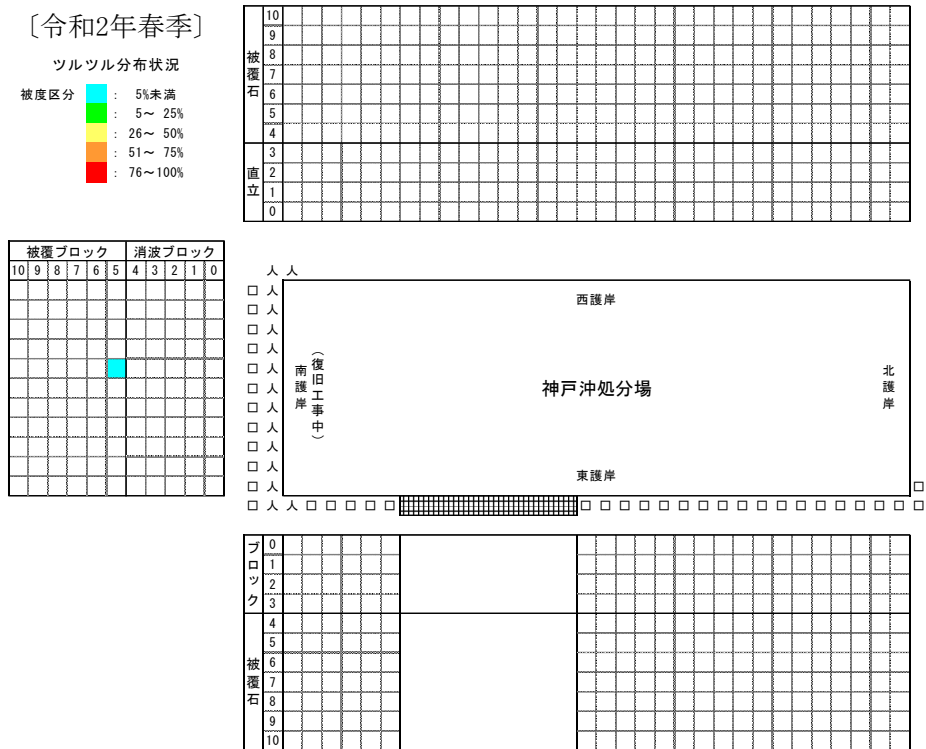


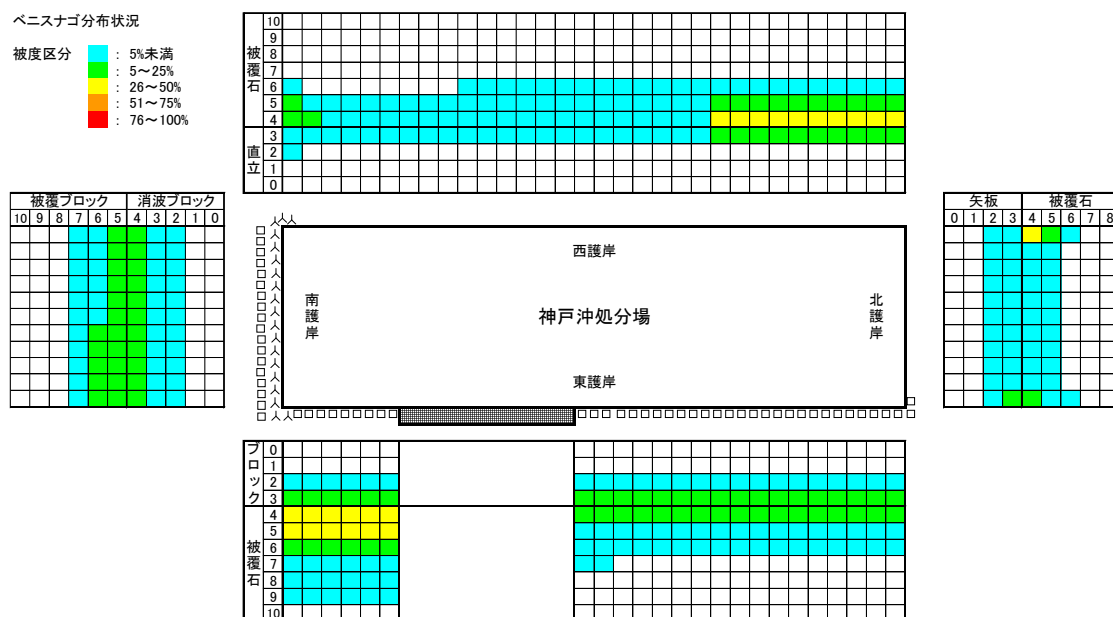
図 3-15 (1) 分布状況の推移 (ツルツル) 神戸沖 平成 24~26 年度調査



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-15 (3) 分布状況の推移 (ツルツル) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

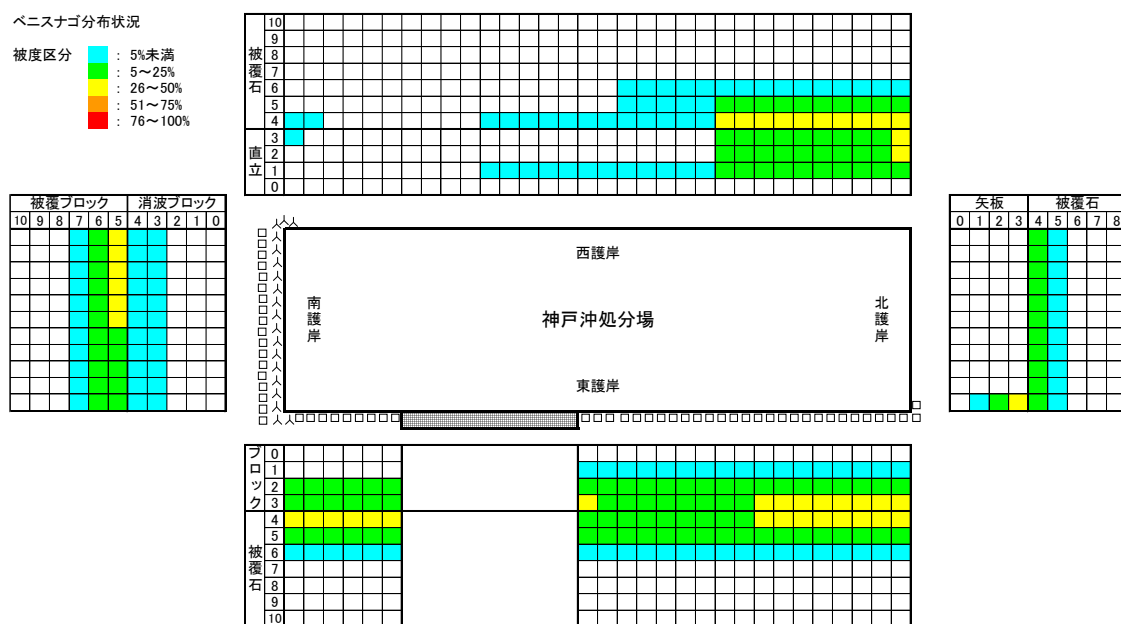
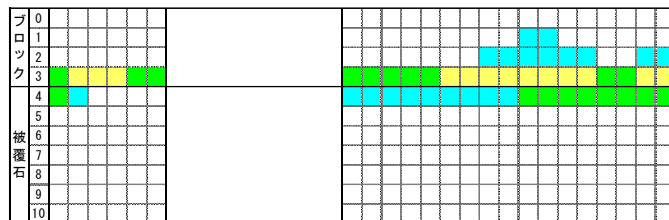
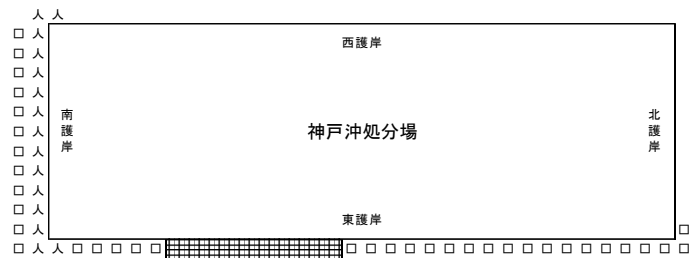
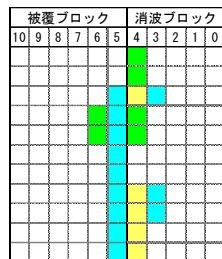
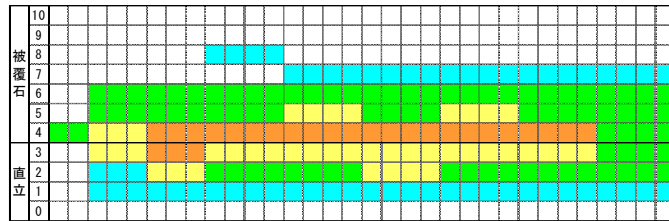


図 3-16 (1) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

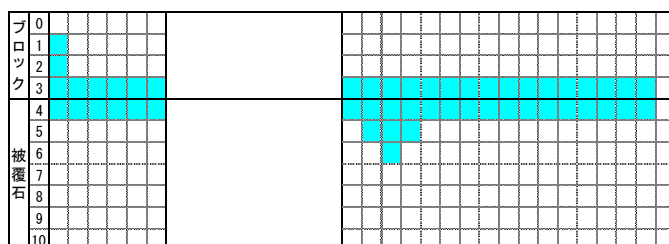
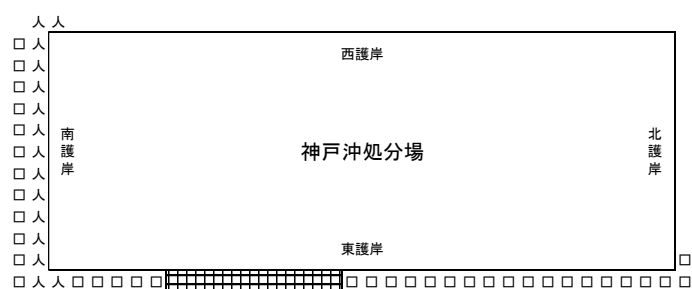
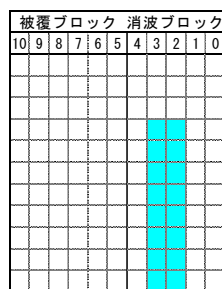
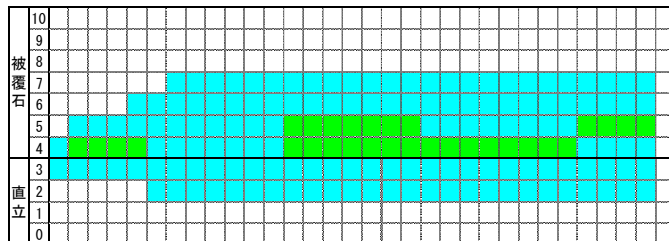
ペニスナゴ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～ 25%
		:	26～ 50%
		:	51～ 75%
		:	76～100%



ベニスナゴ分布状況

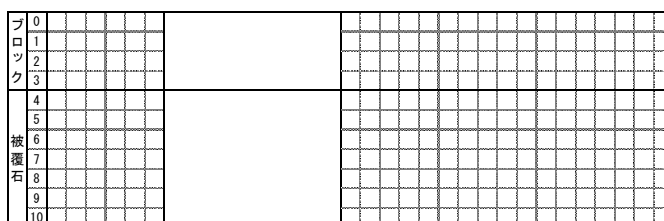
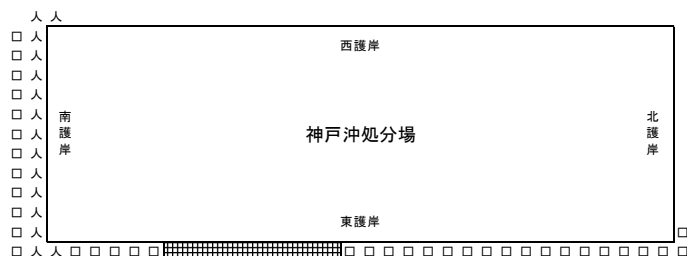
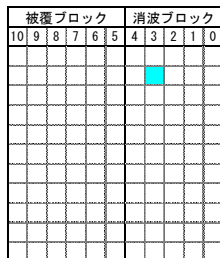
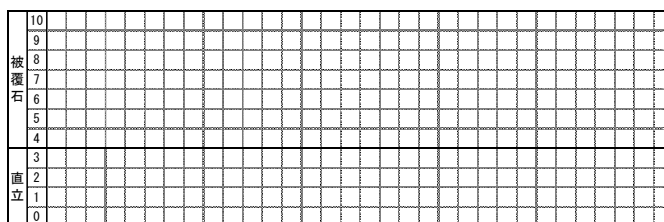
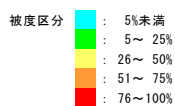
被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%



- 149 -

〔平成28年春季〕

ベニスナゴ分布状況



〔平成30年春季〕

ベニスナゴ分布状況

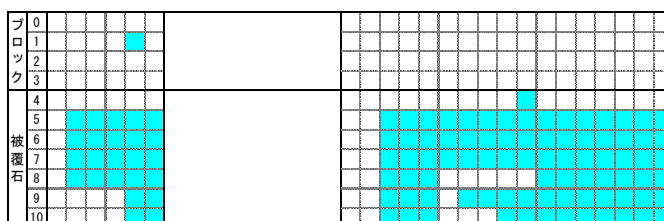
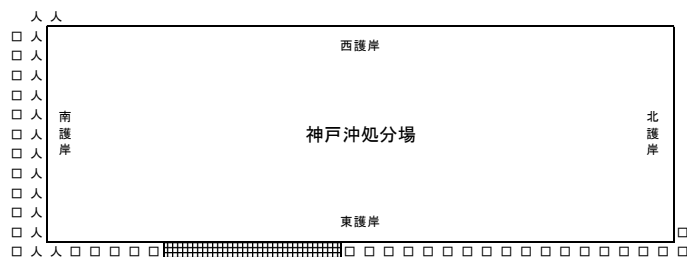
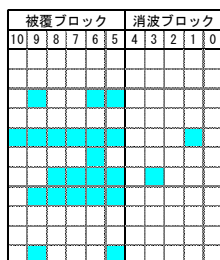
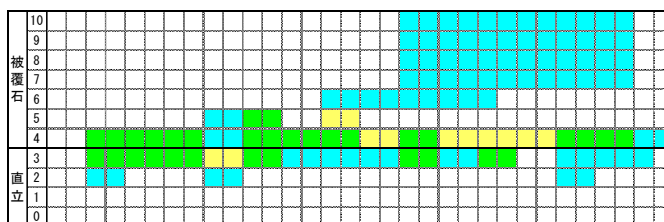
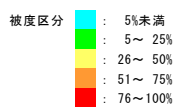
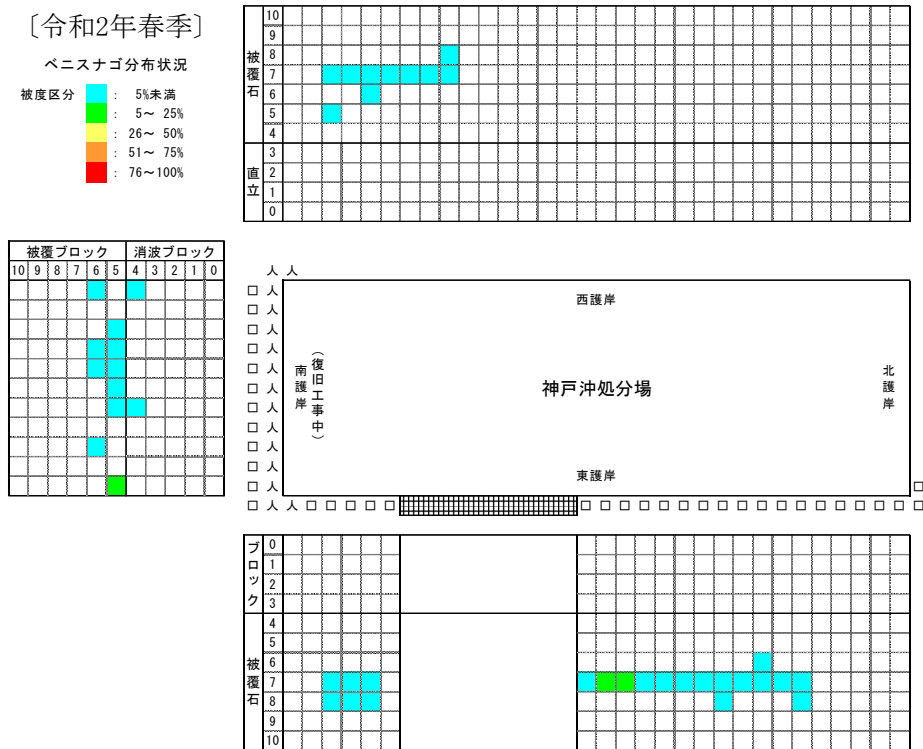


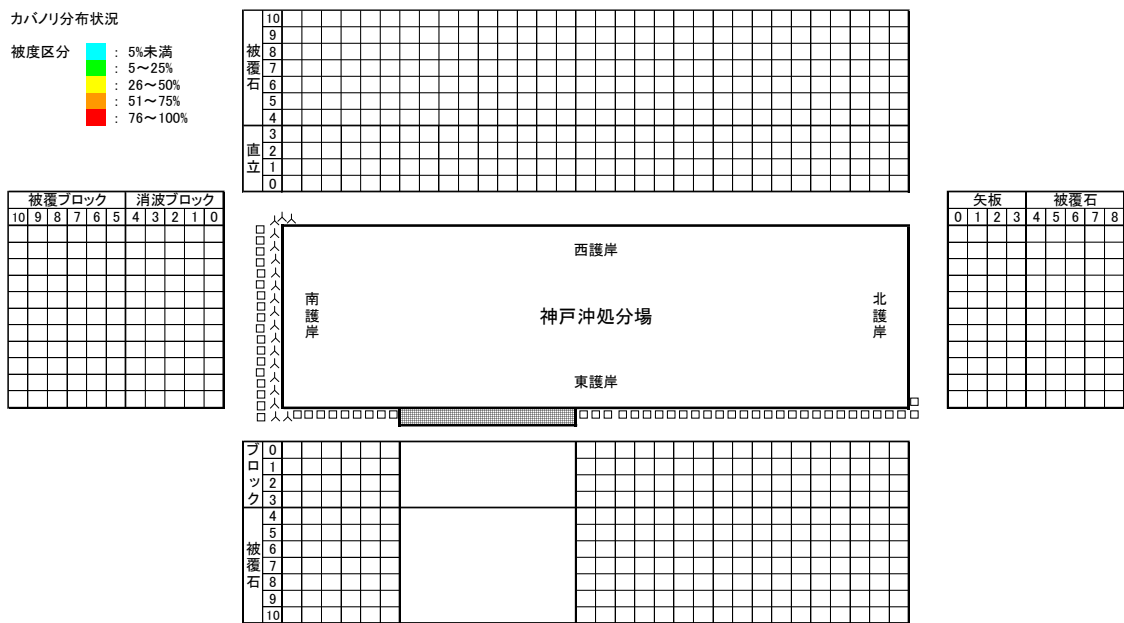
図 3-16 (3) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 神戸沖 平成 28～30 年度調査



注) 令和2年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-16 (4) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 神戸沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

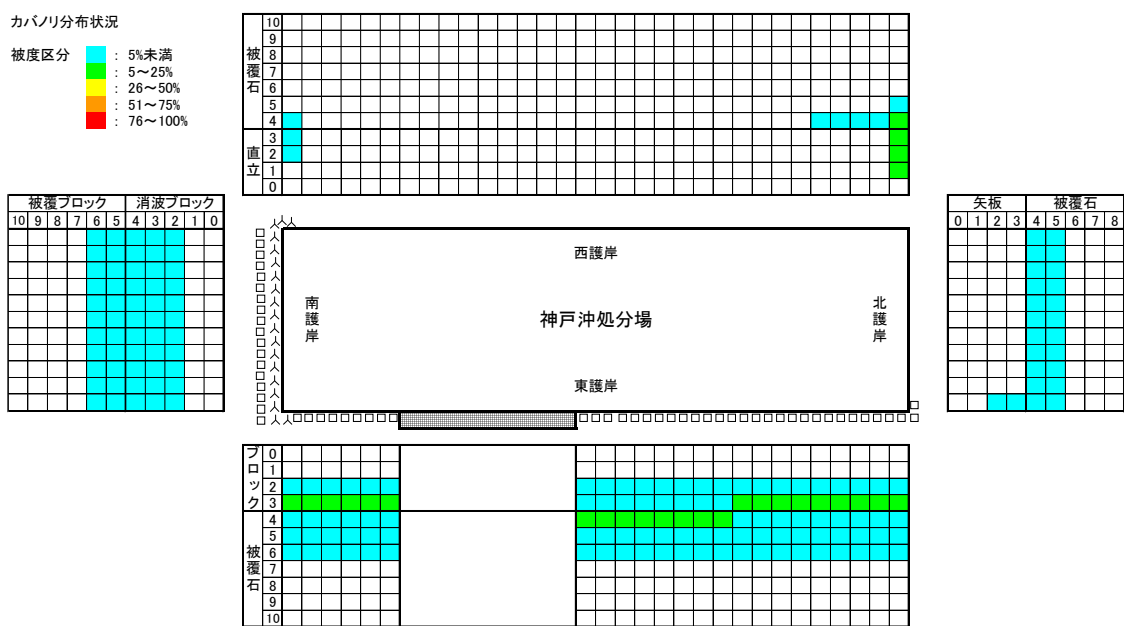
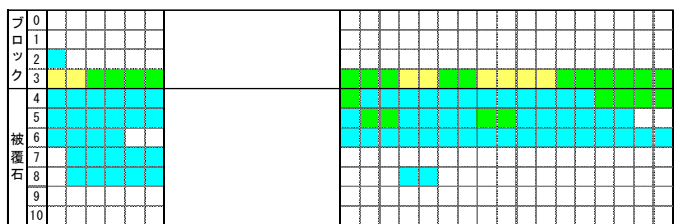
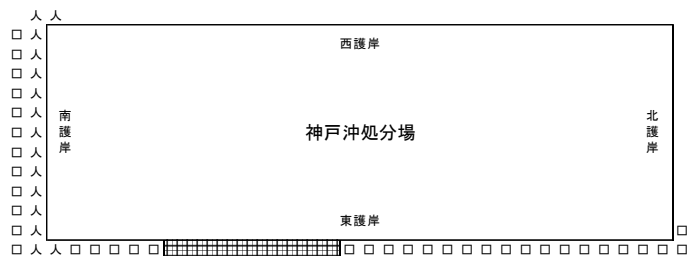
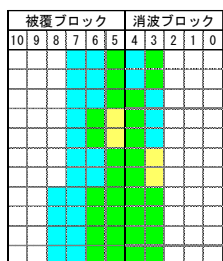
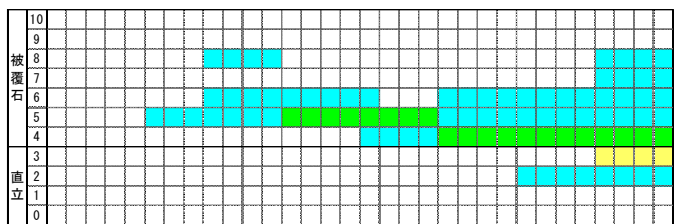


図 3-17 (1) 分布状況の推移 (カバノリ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

カバノリ分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



カバノリ分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

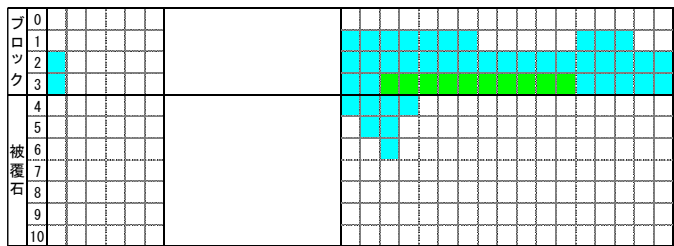
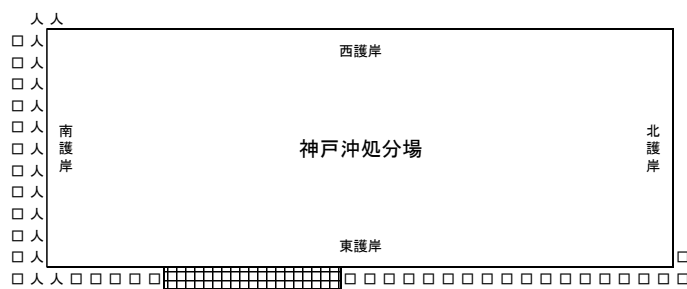
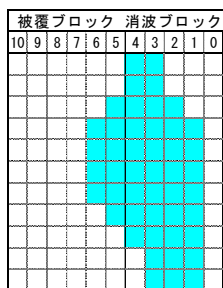
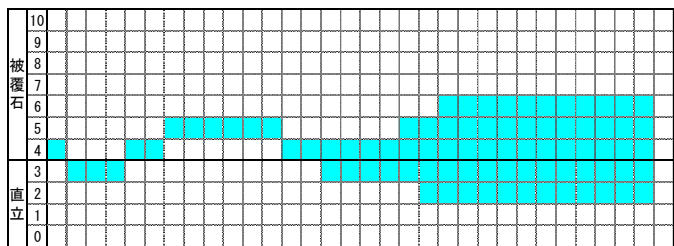
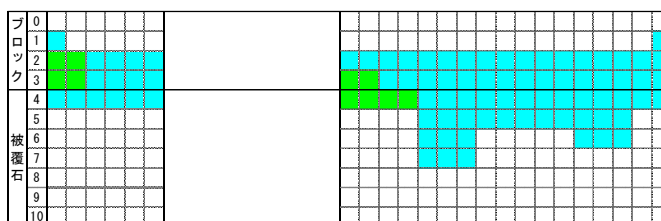
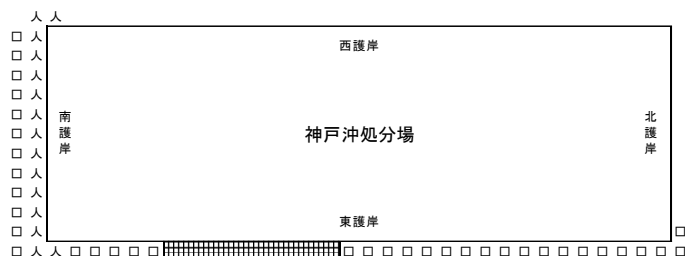
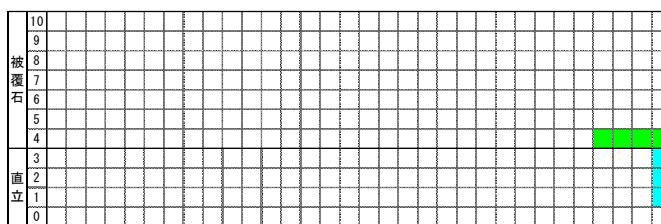


図 3-17 (2) 分布状況の推移 (カバノリ) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

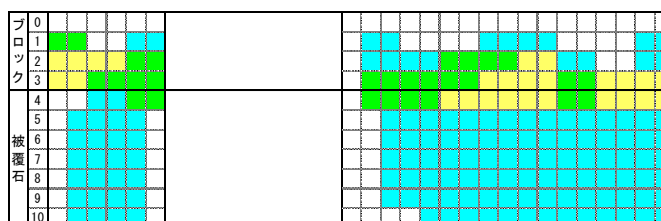
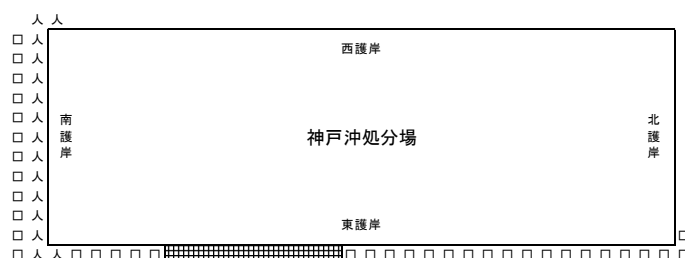
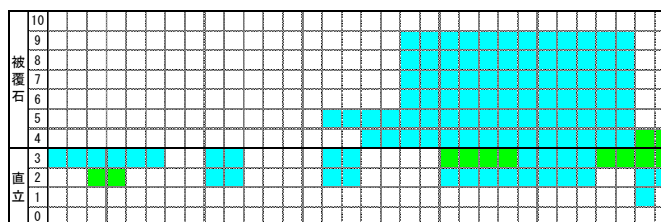
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

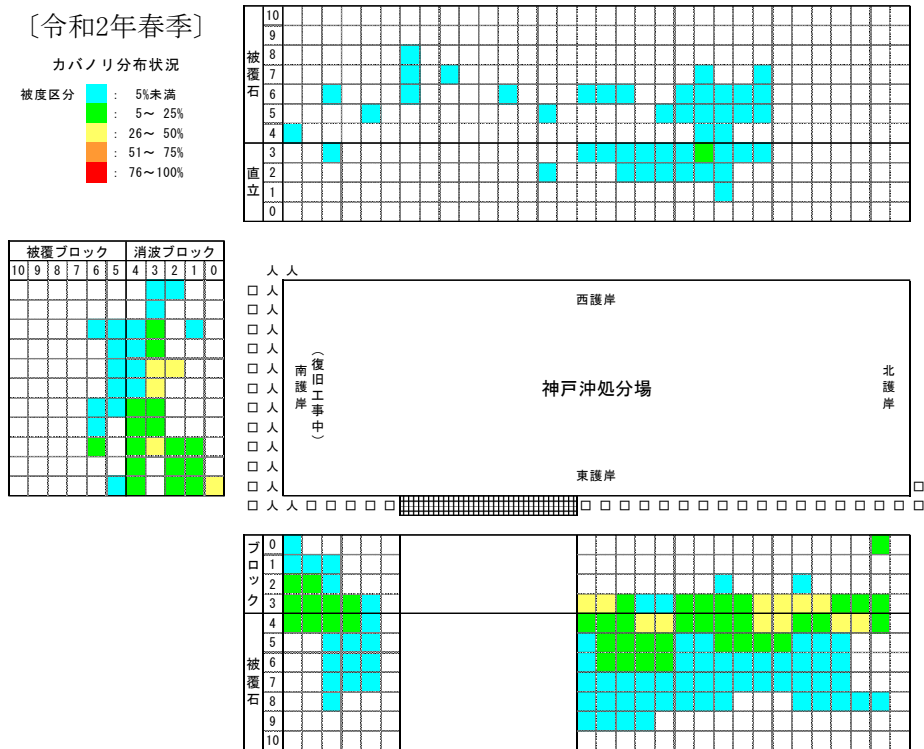


被度区分

	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～100%



- 154 -



注）令和２年度の調査において、シルトプロテクターの設置により、調査不可であった調査メッシュ部分を□で示している。

図 3-17（４）分布状況の推移 （カバノリ） 神戸沖 令和２年度調査

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-18～31 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 30 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、ヒジキ、アカモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキの 7 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヨレモクモドキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-18）

ワカメは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度は北護岸と西護岸の各 1 箇所で、平成 24 年度は各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認され、平成 24 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認され、平成 26 年度の調査よりもさらに分布範囲が拡大し、被度も増加していた。平成 30 年度の調査では、各護岸の±0～-8 m 付近で分布が確認され、平成 28 年度の調査よりも水深方向での分布範囲が拡大していた。今回の調査では、各護岸の±0～-7 m 付近で分布が確認され、平成 30 年度と比べると、分布範囲の減少がみられた。

② カジメ（図 3-19）

カジメは、平成 21 年度は分布が確認されなかったが、平成 22 年度は南護岸で 1 箇所、平成 24 年度は南護岸、西護岸の各 2 箇所で分布が確認された。平成 26 年度以降、今回の調査も含めて分布が確認されていない。

③ シダモク（図 3-20）

シダモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～-6m 付近で広く分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲が減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、-2～-6m 付近で広く分布が確認され、平成 24 年度と比較して西護岸、南護岸で分布範囲の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認され、過年度に比べて被度的にも増加傾向を示した。平成 30 年度の調査でも、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認され、平成 28 年度と比べて、北護岸では分布範囲の拡大を、南護岸では分布範囲の縮小を確認した。今回の調査では、平成 30 年度と同様の分布傾向を示したが、被度は北護岸で減少した。

④ ヒジキ (図 3-21)

ヒジキは平成 21～30 年度の調査では確認されていなかったが、今回の調査では北護岸の 1 箇所分布が確認された。

⑤ アカモク (図 3-22)

アカモクは、平成 21 年度は北護岸と西護岸、平成 22、24 年度は南護岸と西護岸の-2～-5m 付近に分布が確認されたが、平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。平成 28 年度の調査では、北護岸と南護岸の-3～-6m 付近で確認されたが、平成 30 年度には確認されなかった。今回の調査では、西護岸の 1 箇所分布が確認された。

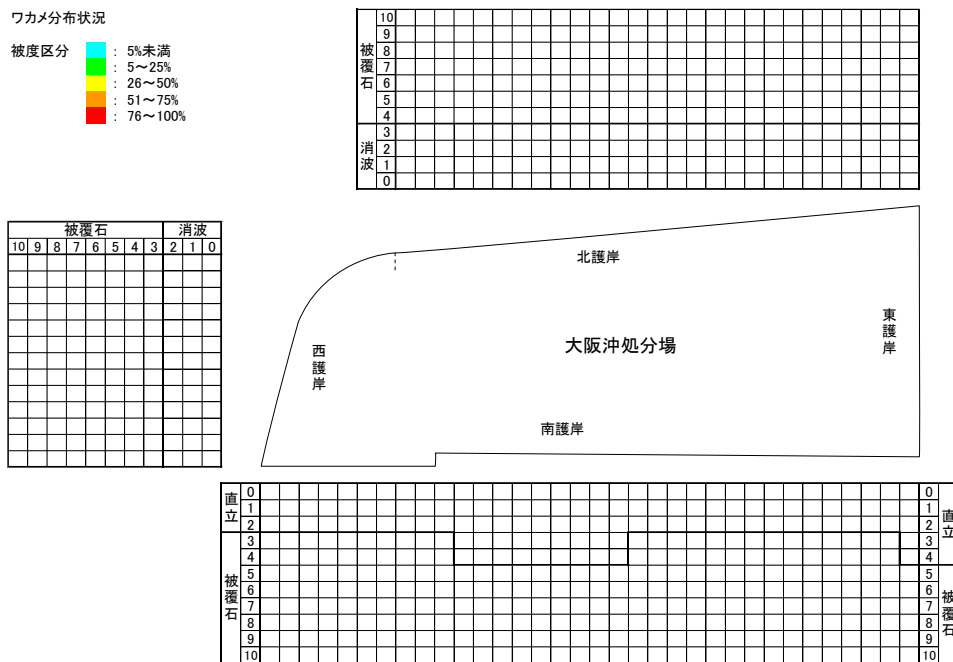
⑥ タマハハキモク (図 3-23)

タマハハキモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-5m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲は減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度と比較して北護岸、南護岸で分布範囲、北護岸では被度の増加がみられた。平成 28～30 年度の調査では、各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認され、平成 26 年度調査時と大きな変化はみられなかった。今回の調査でも、各護岸の±0～-5m 付近で分布が確認され、平成 26 年度以降と同様の分布傾向を示した。

⑦ ヨレモクモドキ (図 3-24)

ヨレモクモドキは平成 22 年度に西護岸で 1 箇所の分布が確認されたのみであり、今回の調査でも分布が確認されなかった。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

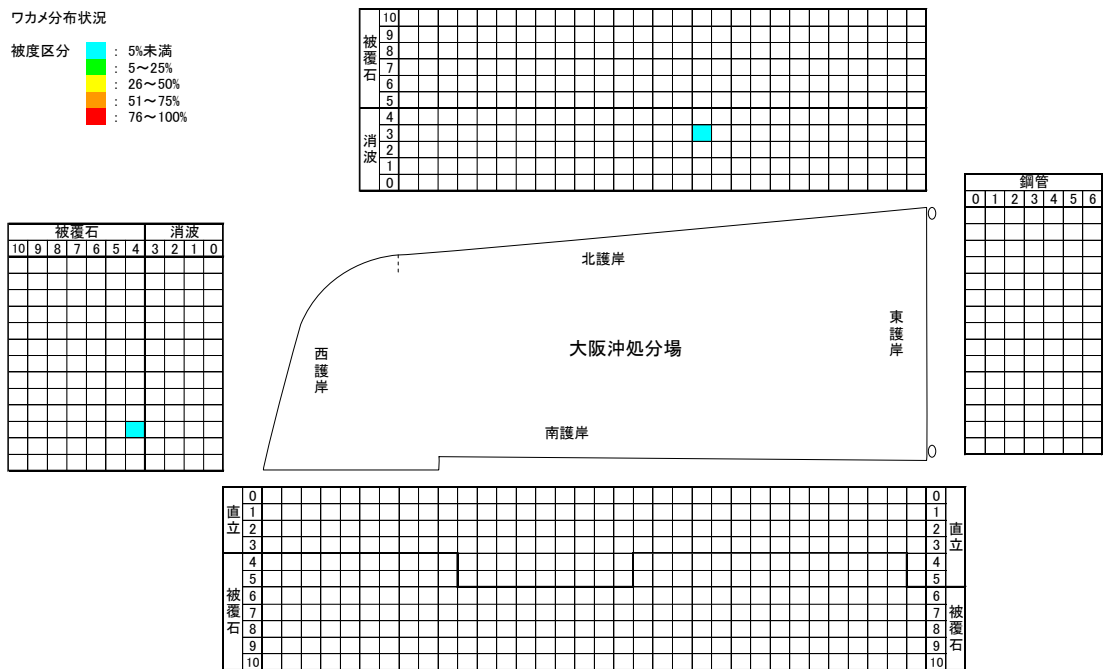
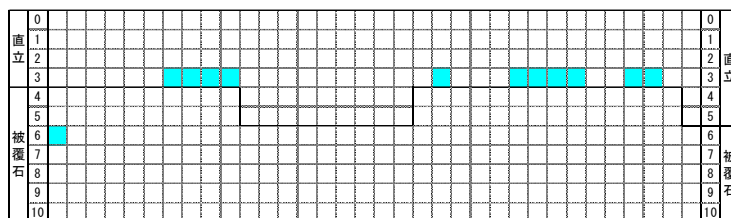
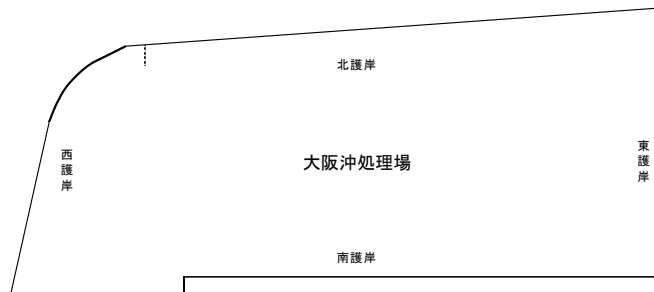
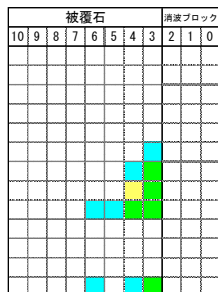
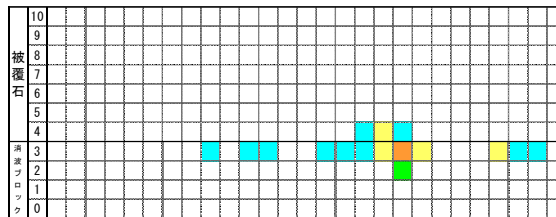


図 3-18 (1) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分
 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%



〔平成26年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分
 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%

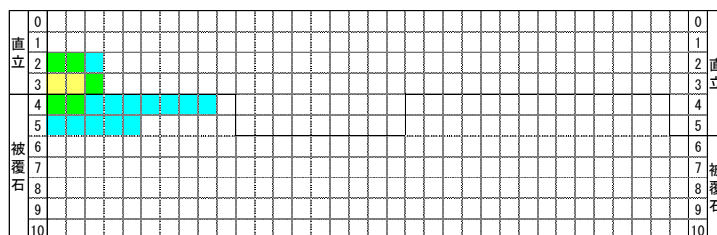
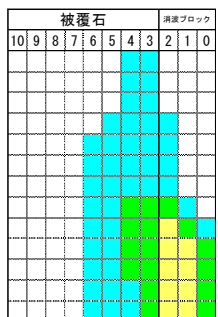
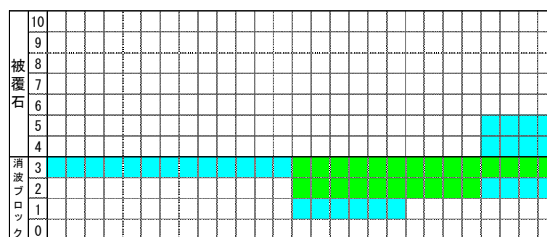
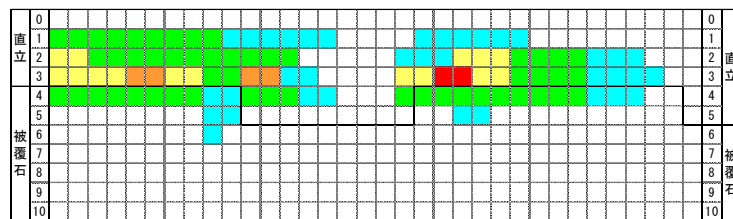
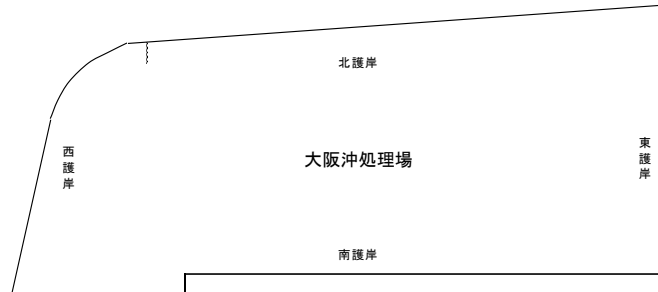
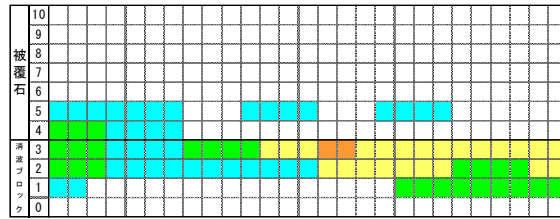
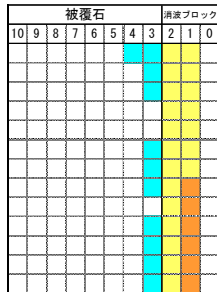


図 3-18 (2) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分
 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%



〔平成30年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分
 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%

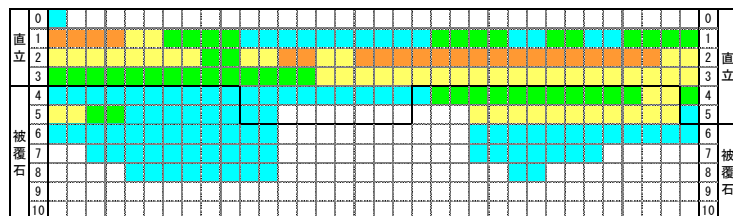
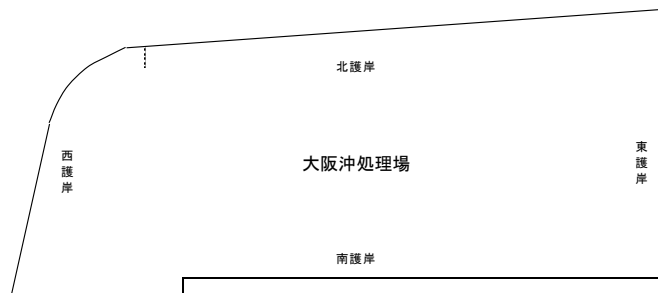
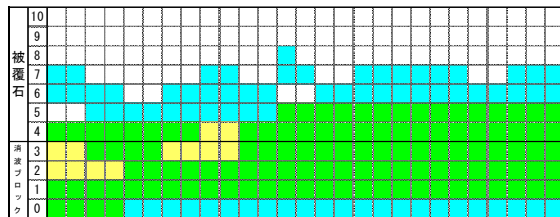
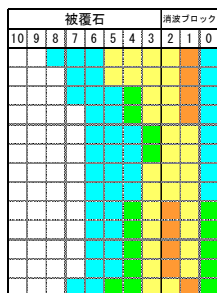


図 3-18 (3) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

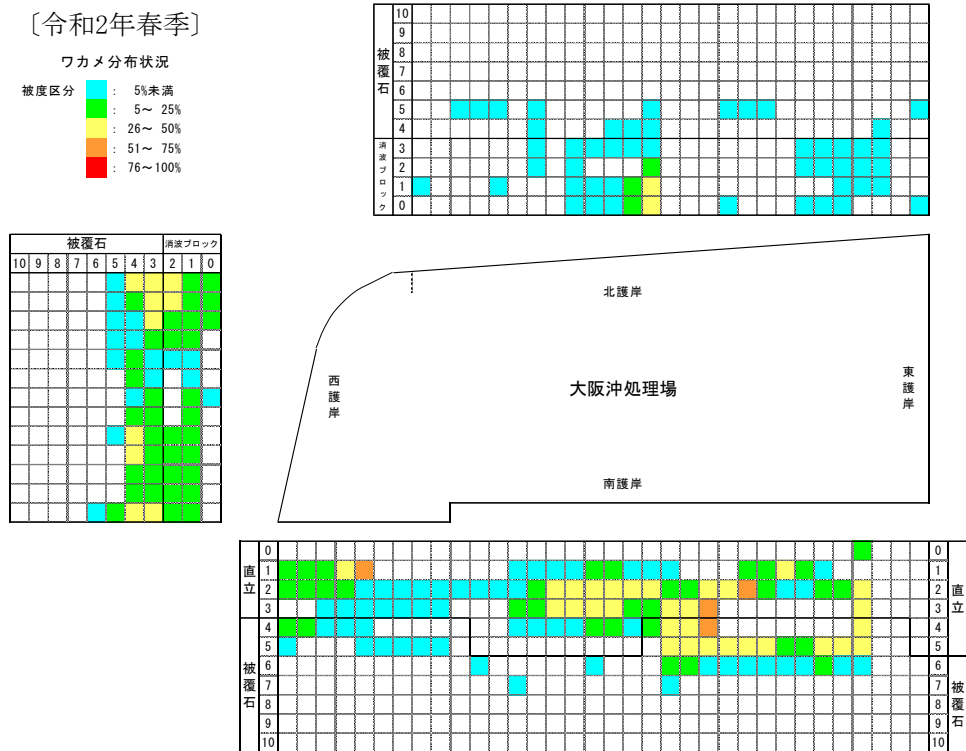
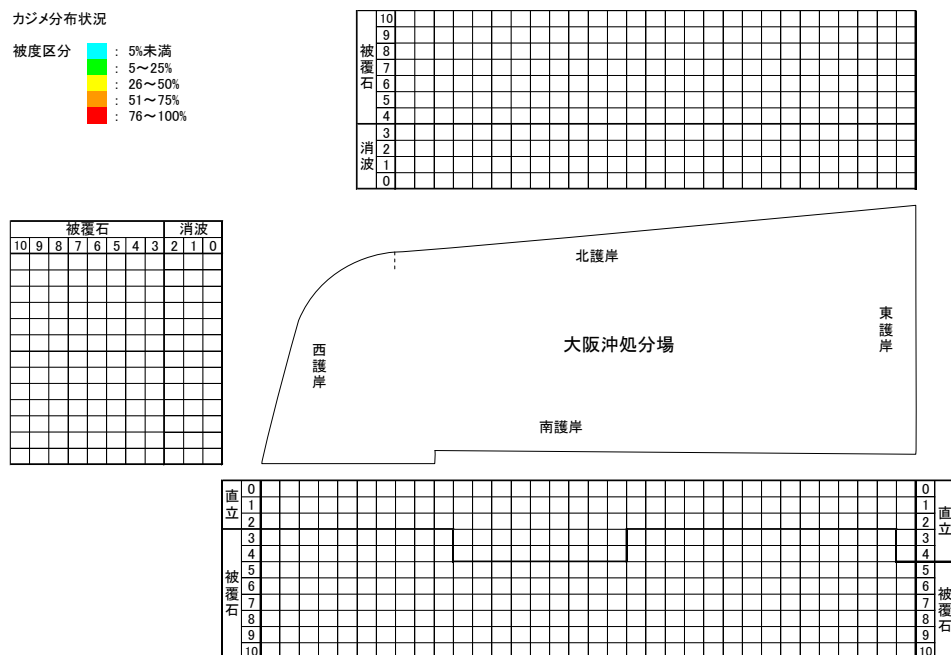


図 3-18 (4) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

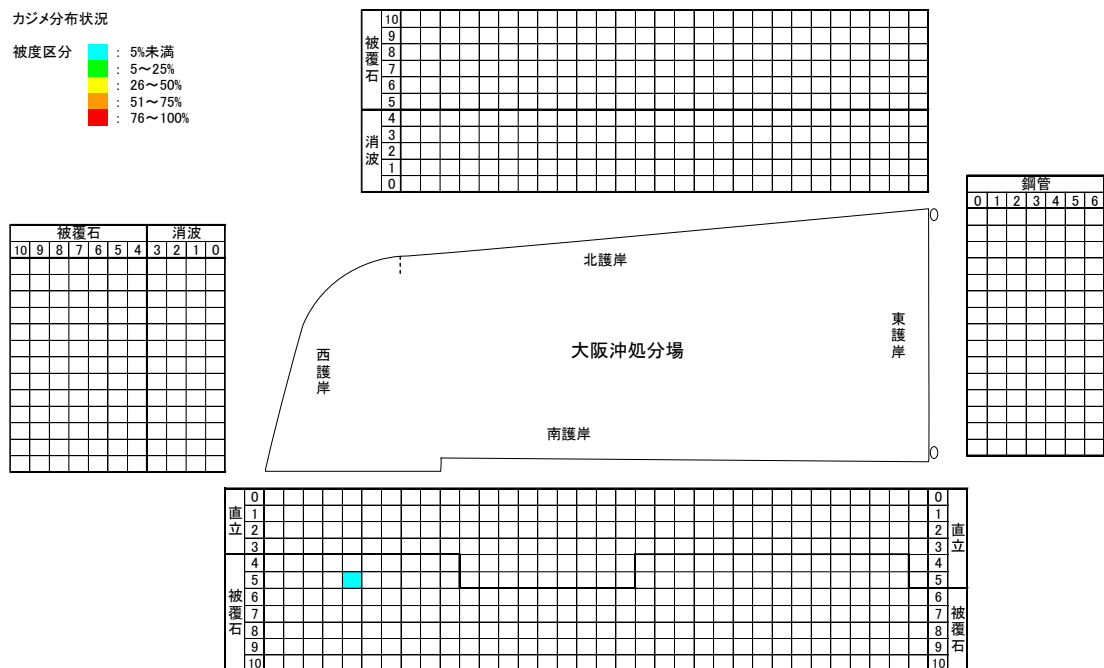
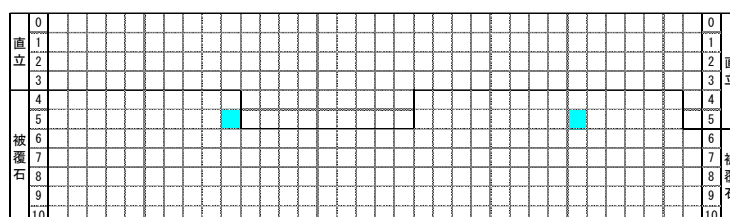
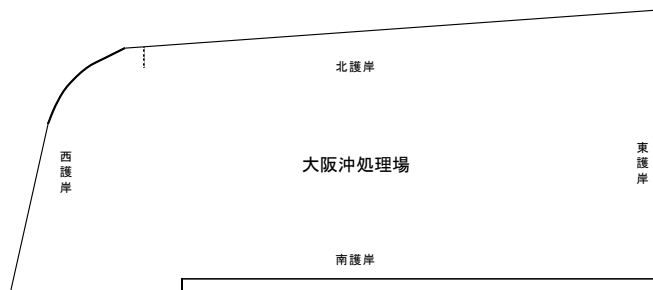
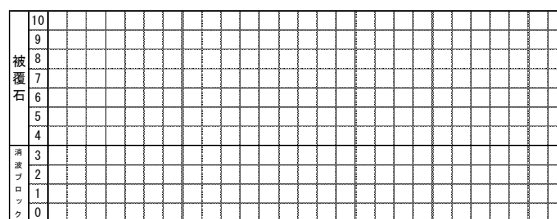
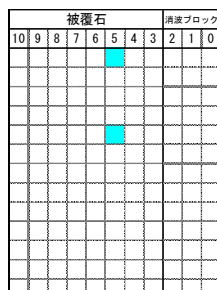


図 3-19 (1) 分布状況の推移 (カジメ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

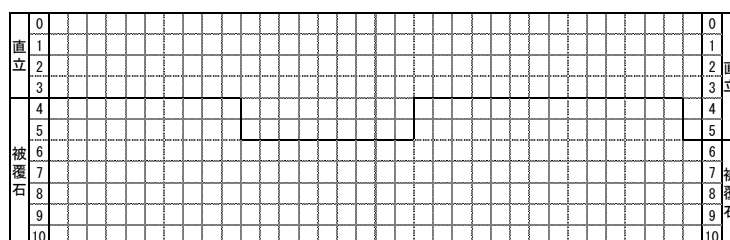
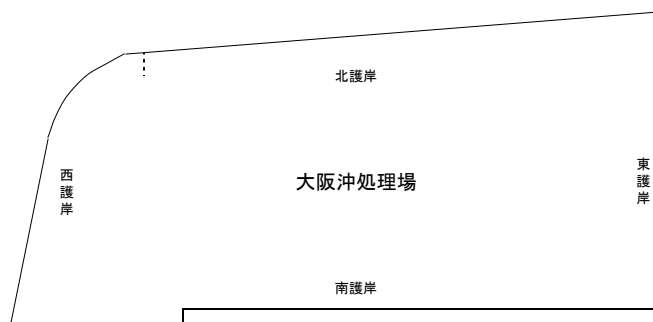
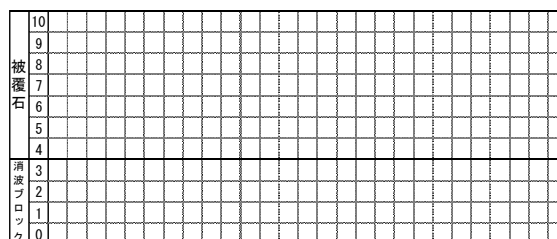
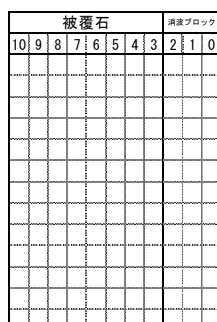
カジメ分布状況

被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%



カジメ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～ 25%
		:	26～ 50%
		:	51～ 75%
		:	76～100%



- 163 -

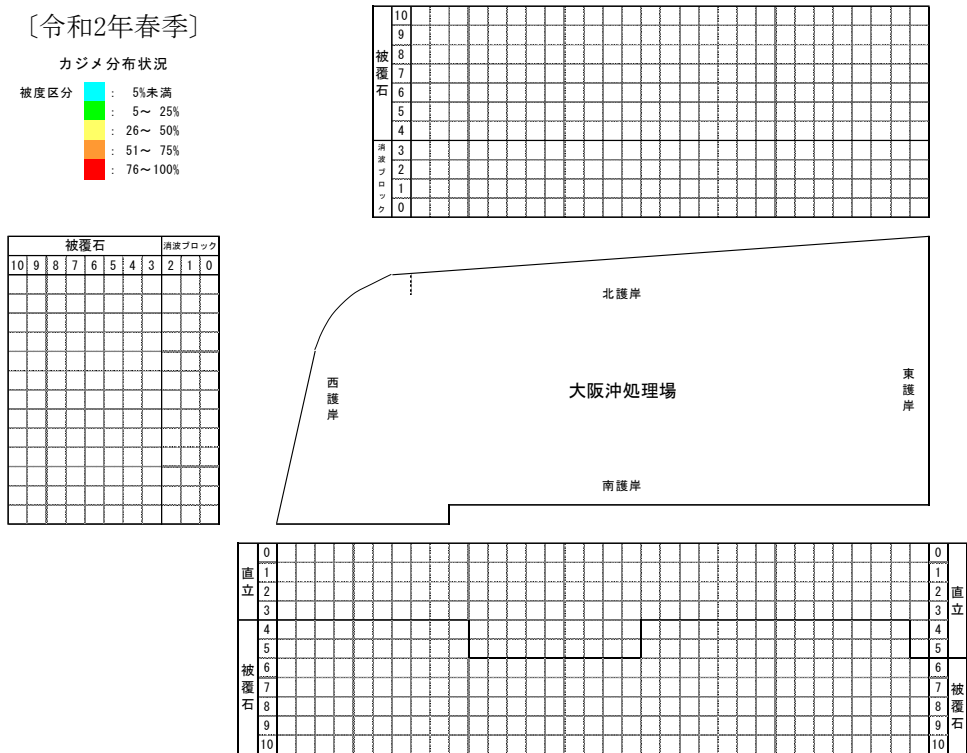
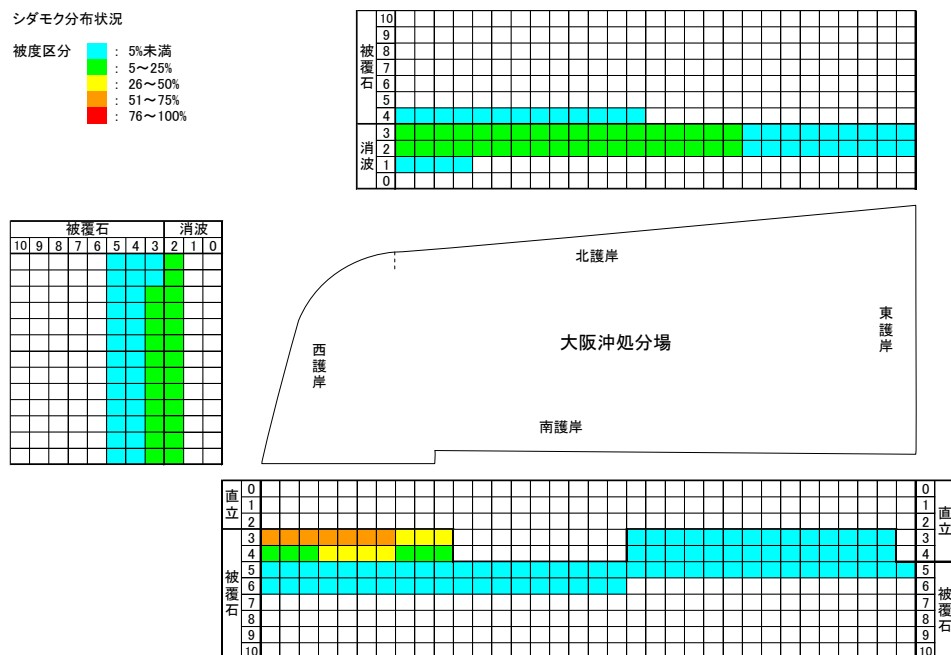


図 3-19 (4) 分布状況の推移 (カジメ) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

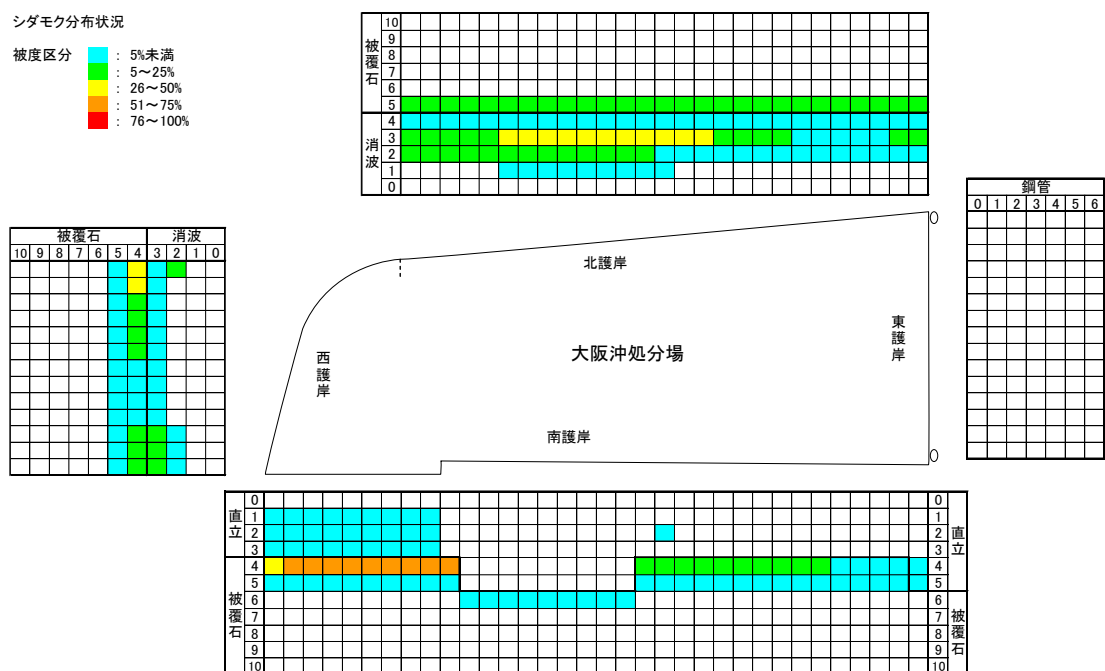
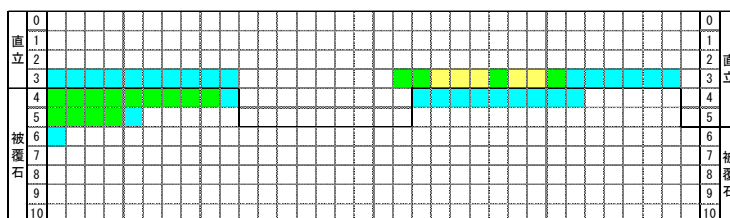
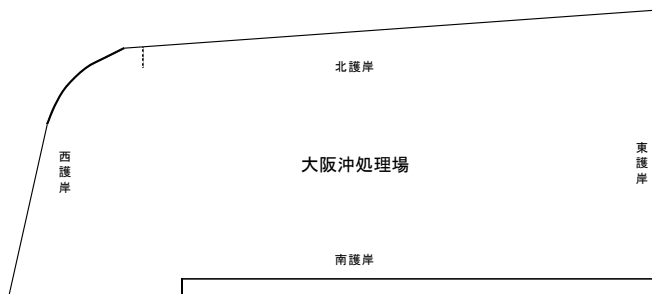
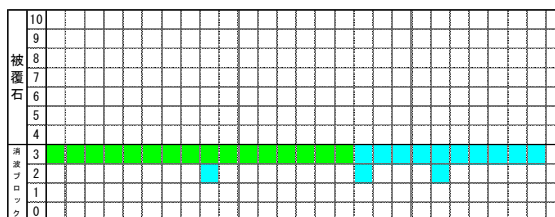
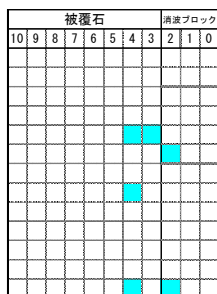


図 3-20 (1) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



〔平成26年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

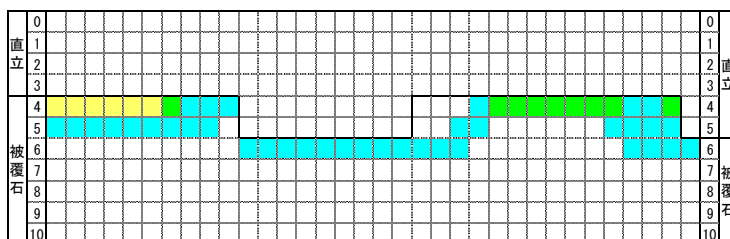
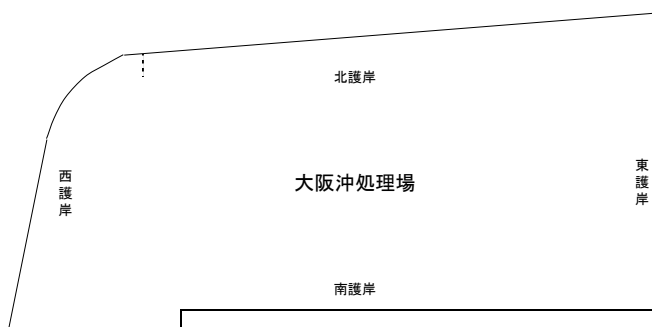
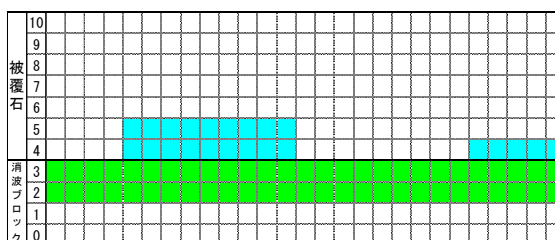
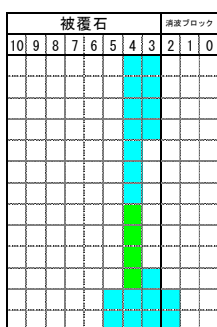
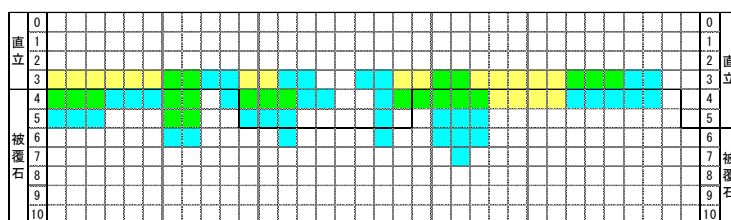
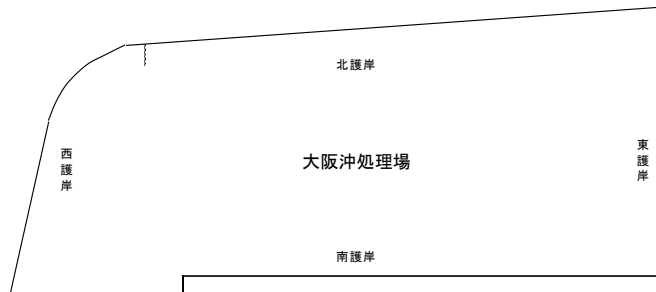
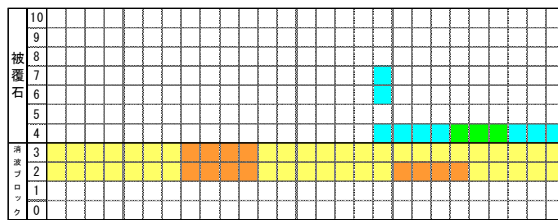
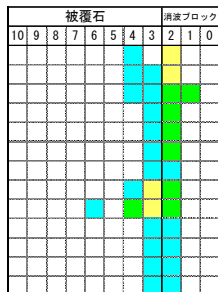


図 3-20 (2) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



〔平成30年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

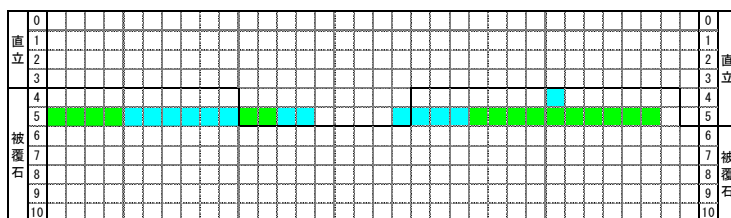
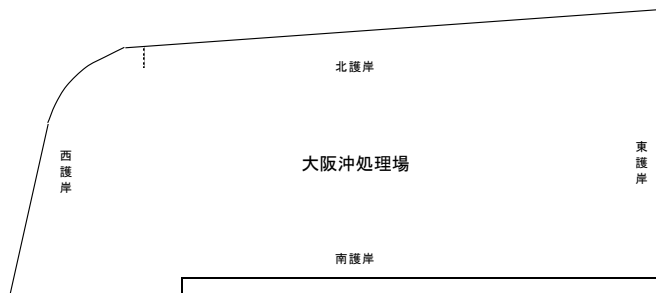
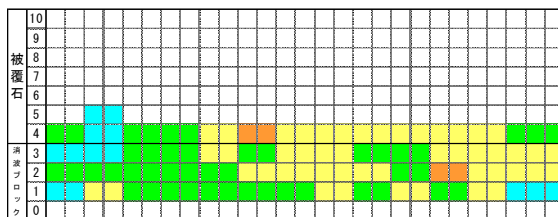
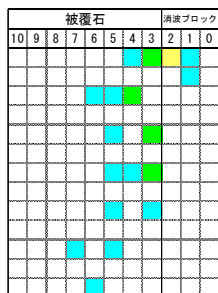


図 3-20 (3) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

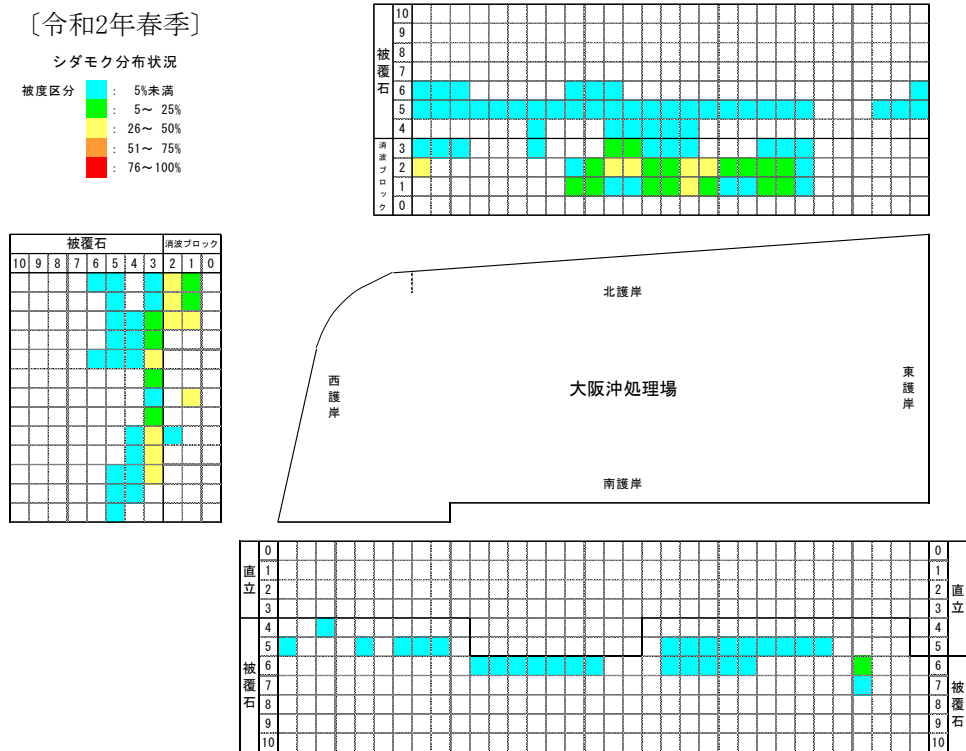
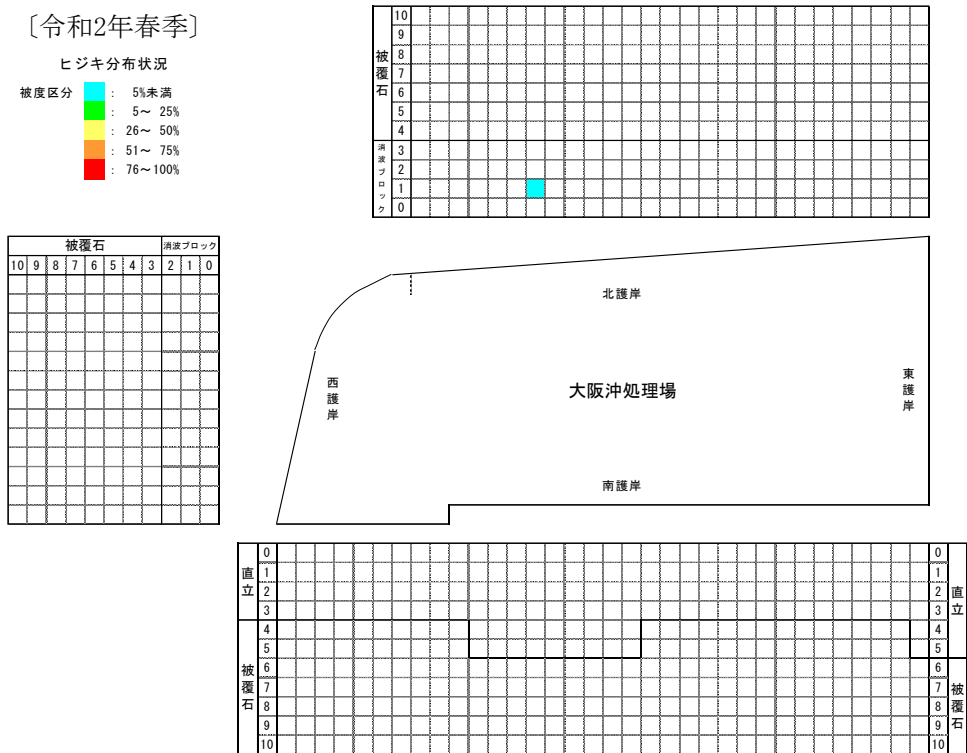


図 3-20 (4) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 令和2年度調査



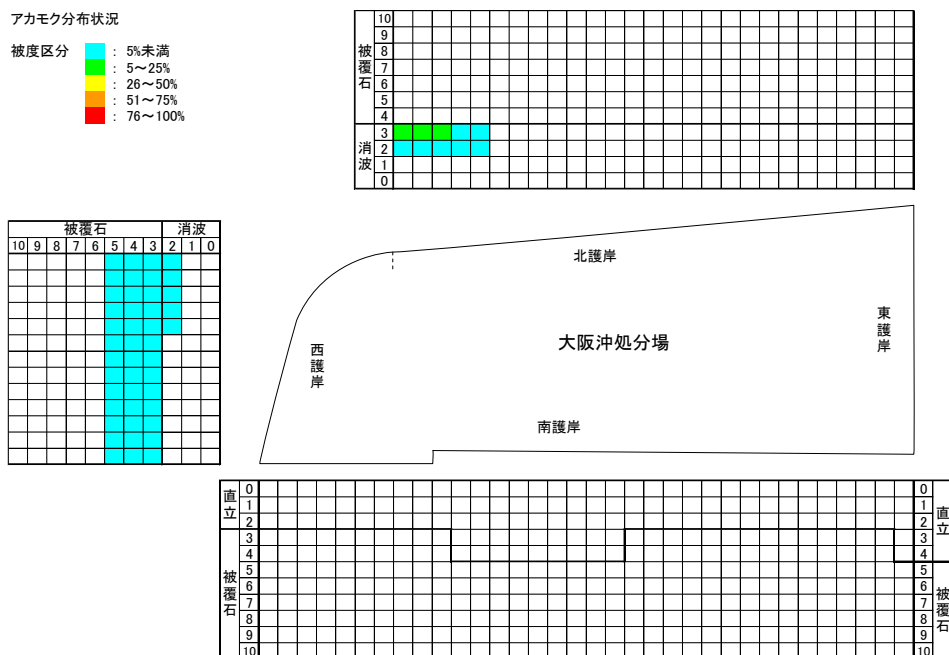
※：平成 21～30 年度の調査では、分布は確認されていない。

図 3-21 分布状況の推移（ヒジキ） 大阪沖 令和 2 年度調査

[平成 21 年春季]

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

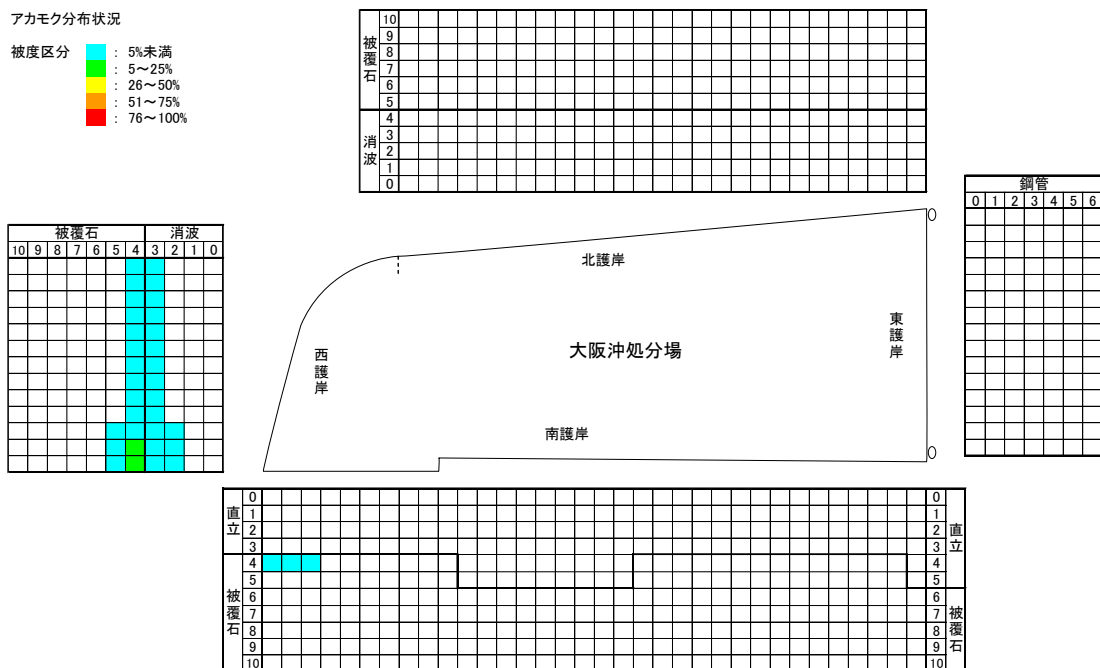
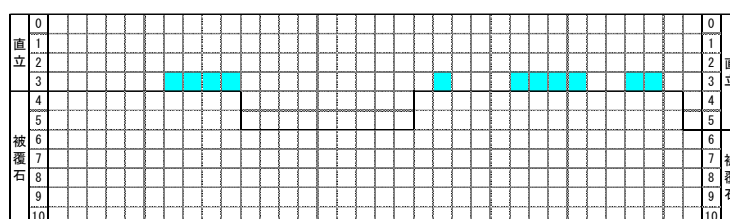
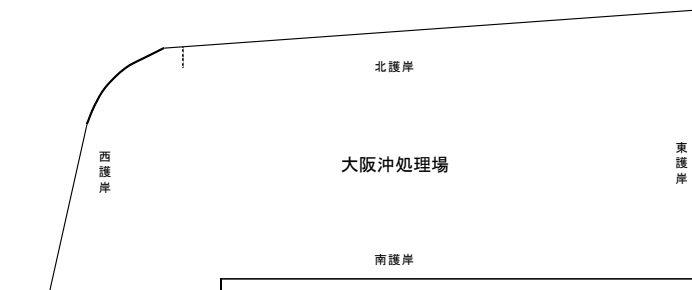
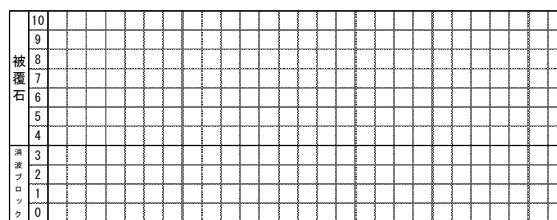
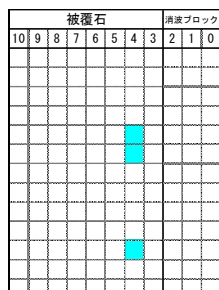


図 3-22 (1) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

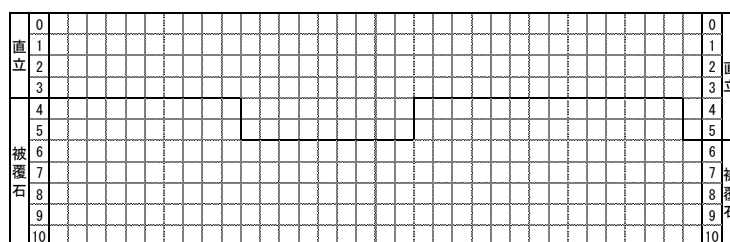
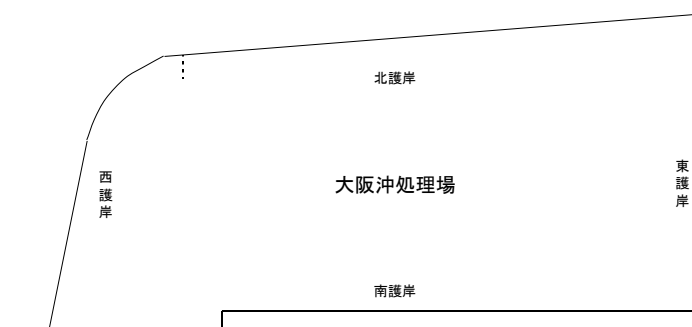
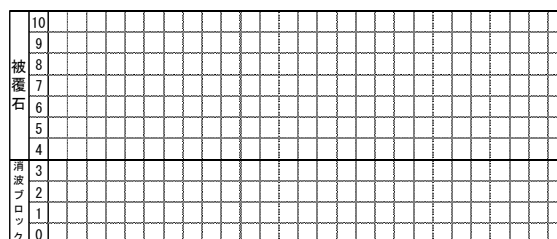
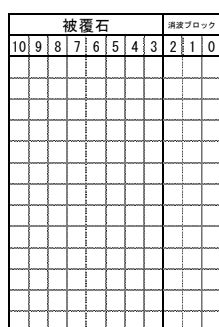
被度区分

	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～100%



被度区分

	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～100%

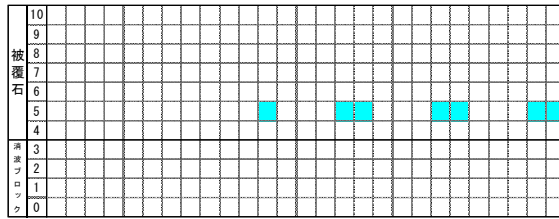


- 172 -

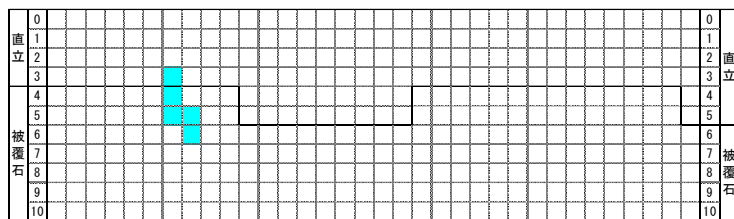
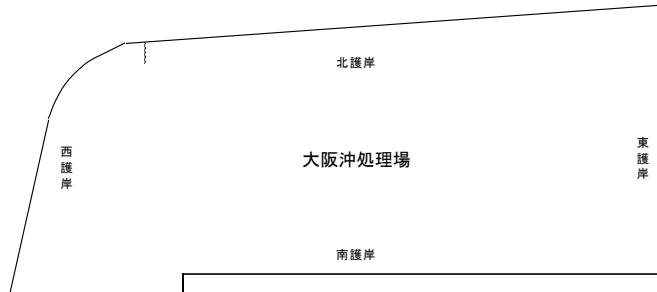
〔平成28年春季〕

アカモク分布状況

被度区分 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%



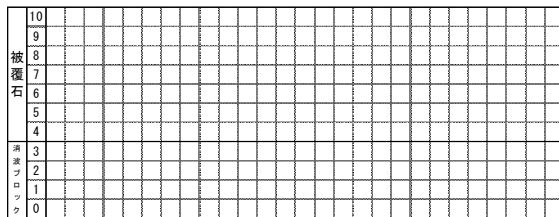
被覆石										調査ブロック	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	



〔平成30年春季〕

アカモク分布状況

被度区分 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%



被覆石										調査ブロック	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	

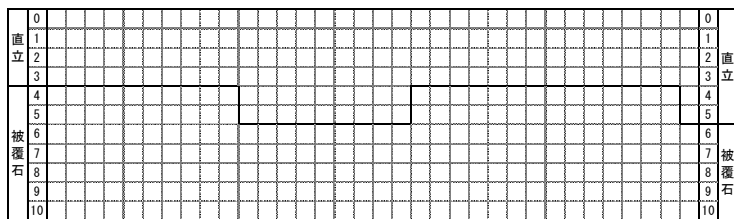
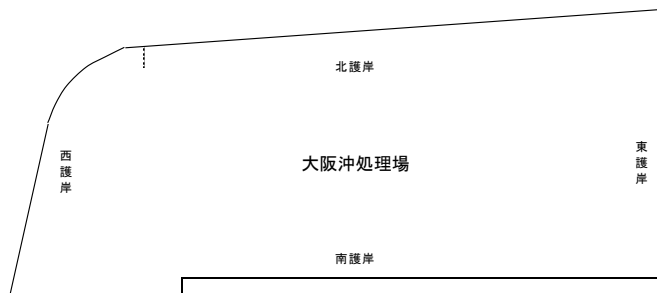


図 3-22 (3) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

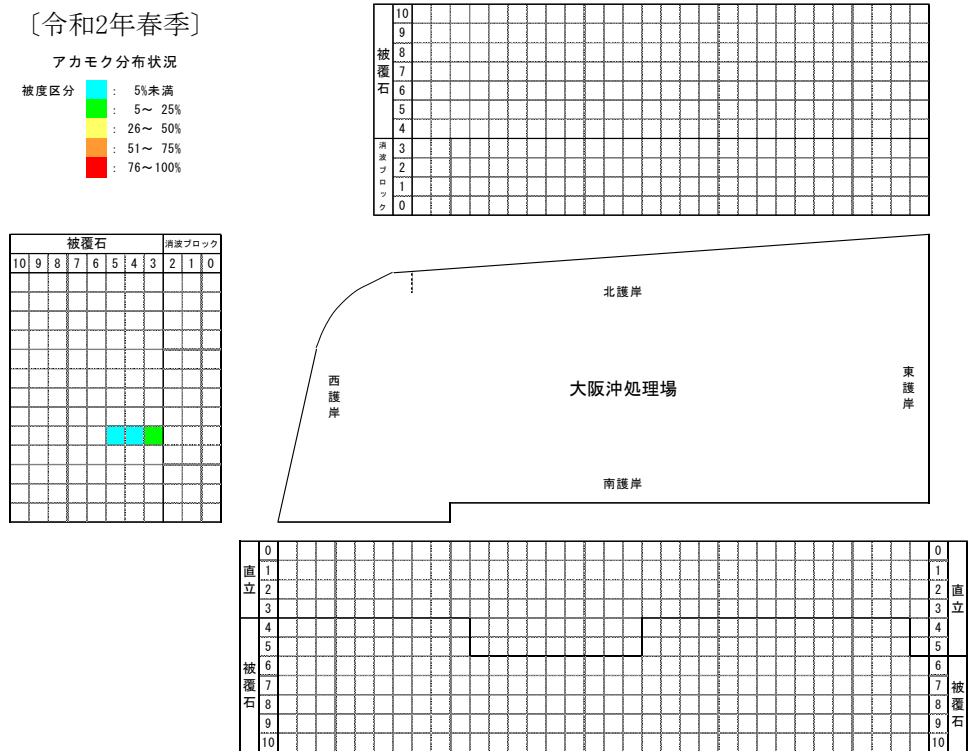
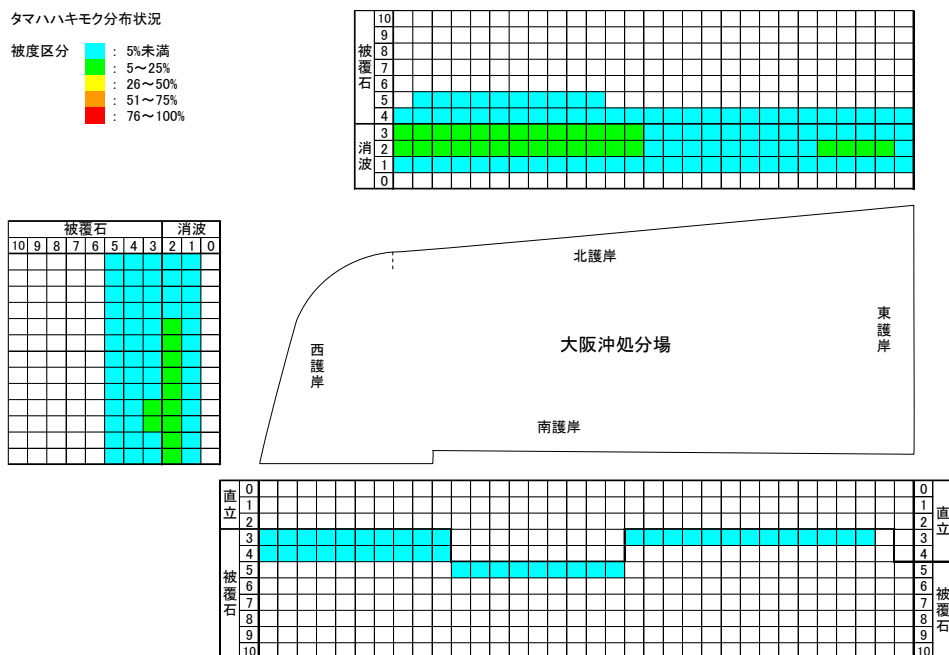


図 3-22 (4) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

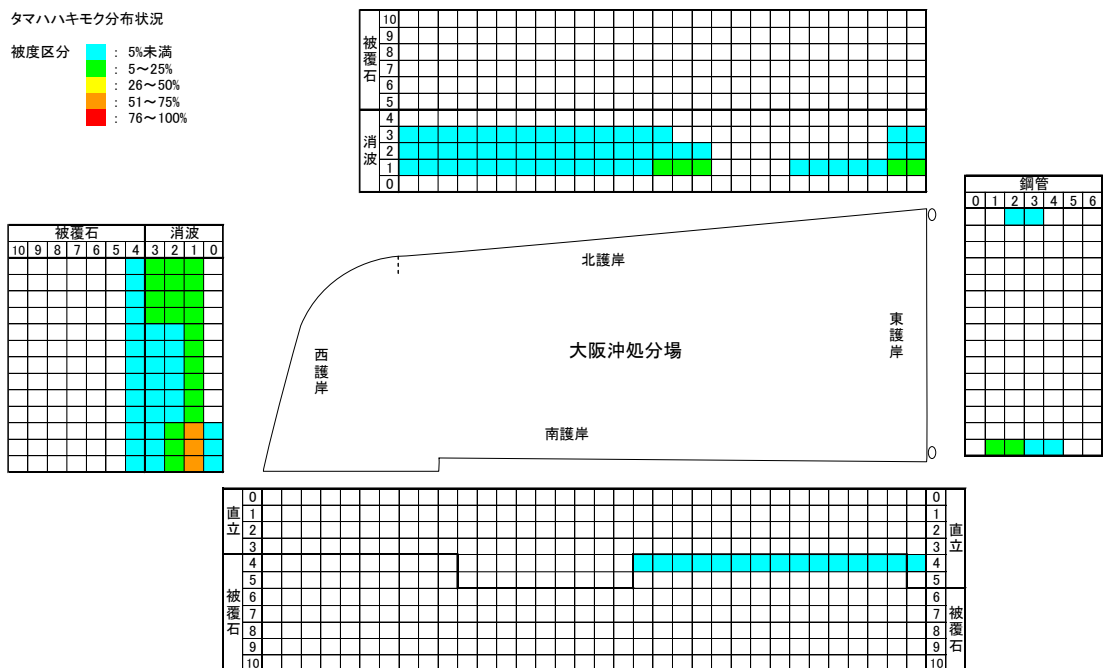
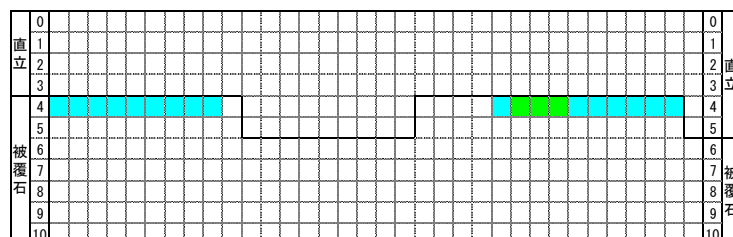
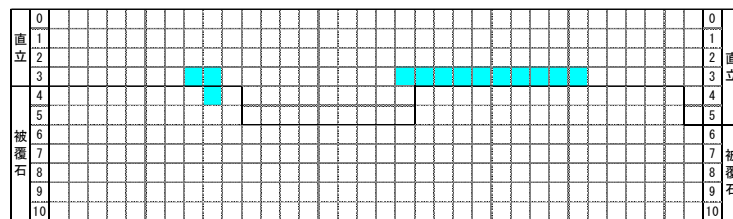
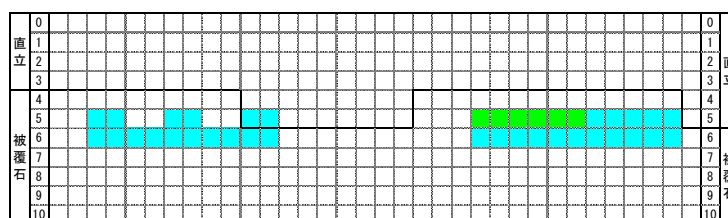
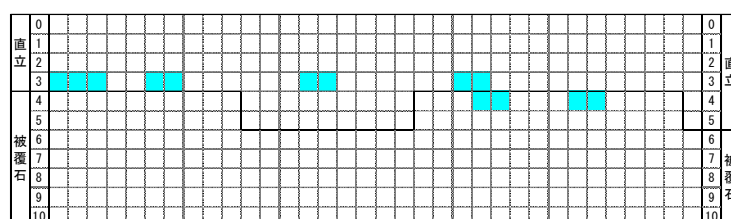
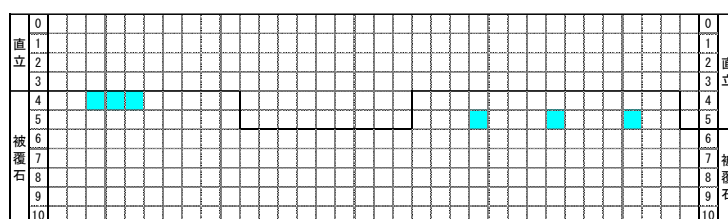


図 3-23 (1) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査



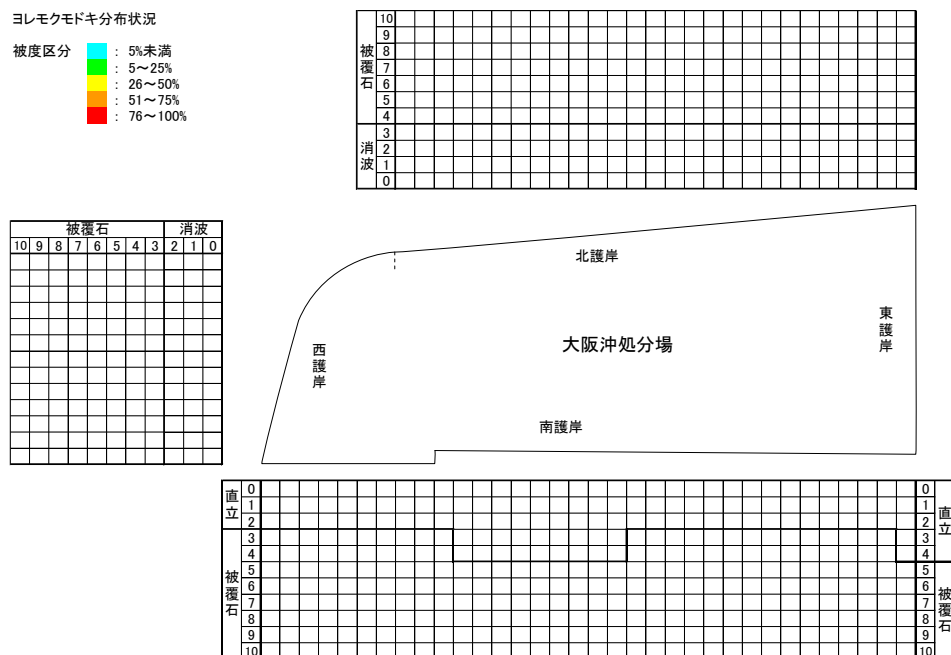




[平成 21 年春季]

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

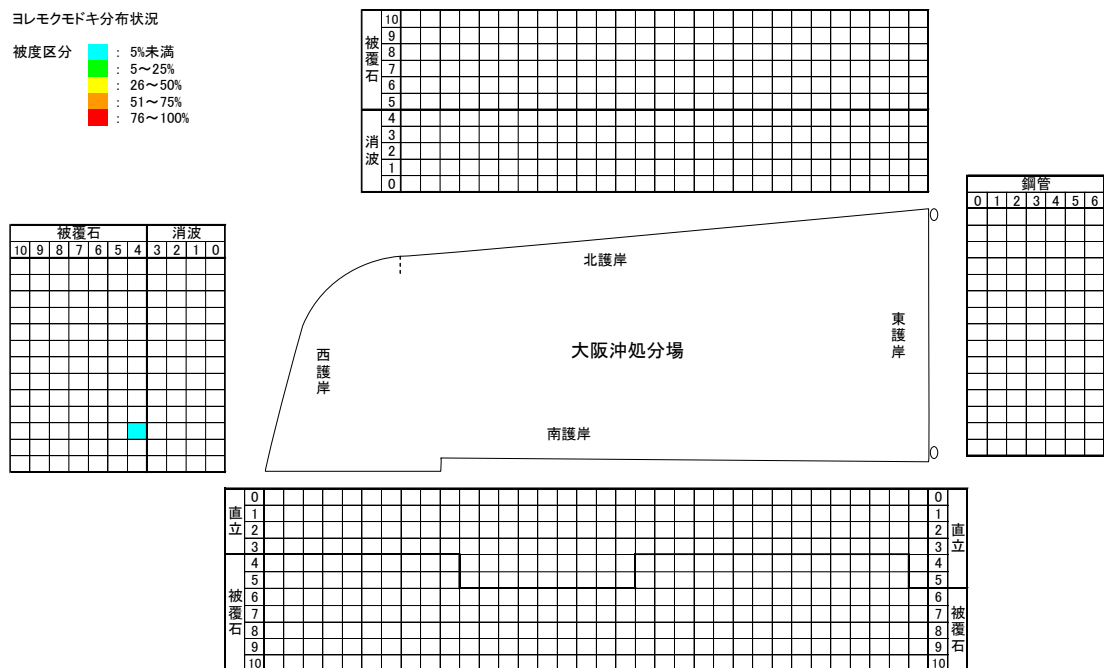
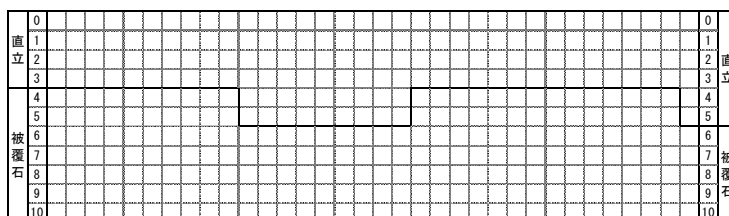
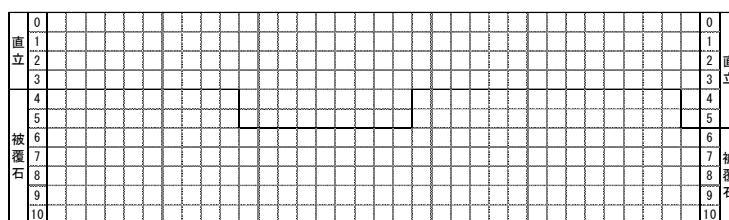


図 3-24 (1) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査



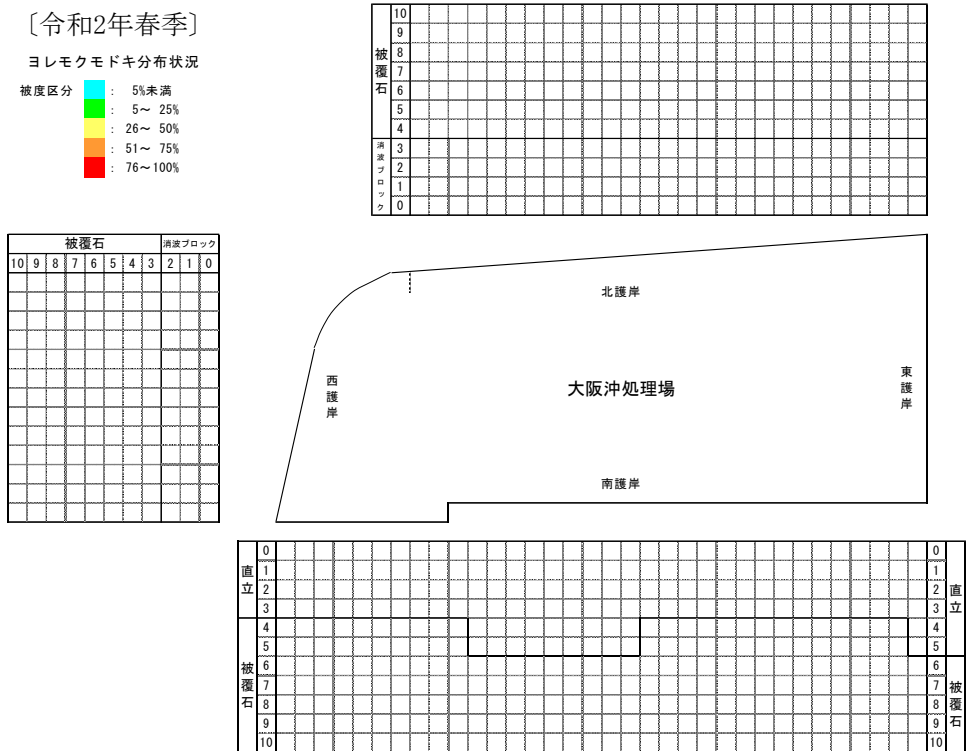


図 3-24 (4) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 大阪沖 令和2年度調査

【その他 主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 30 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリの 7 種について分布図を作成した。

① アオサ属（図 3-25）

アオサ属は、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-7m の範囲で広く分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて各護岸の分布範囲は減少傾向にあった。平成 28 年度の調査では、各護岸の±0～-4m 付近で分布が確認されたが、平成 26 年度と比較して、南護岸を中心として分布範囲の増加傾向がみられた。平成 30 年度の調査では、各護岸の±0～-7m 付近で分布が確認され、平成 28 年度と分布範囲に大きな変化はなかった。今回の調査では、平成 28～30 年度と同様の分布傾向を示したが、北護岸、西護岸で被度の増加が認められた。

② マクサ（図 3-26）

マクサは、平成 21～22 年度の調査では分布が確認されなかったが、平成 24 年度に北護岸と南護岸の各 1 箇所分布が確認された。平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。平成 28 年度の調査では、南護岸の-3m で分布を確認した。平成 30 年度の調査では、各護岸の-4～-9m 付近の狭い範囲で分布を確認した。今回の調査でも、平成 30 年度と同様に各護岸の-2～-6m 付近の狭い範囲で分布を確認した。

③ ススカケベニ（図 3-27）

ススカケベニは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-10m 付近で広く分布が確認された。平成 28 年度の調査では、各護岸の-3～-10m で広く分布が確認されたが、北護岸、南護岸では過年度と比較して分布範囲の減少がみられた。平成 30 年度の調査でも、各護岸の-4～-9m で分布が確認されたが、平成 28 年度よりもさらに分布範囲の減少が認められた。今回の調査では、各護岸の±0～-10m 付近で広く分布が確認され、平成 28 年度以降では最大の分布範囲となっていた。

④ フダラク（図 3-28）

フダラクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度、平成 28 年度および平成 30 年度に各護岸の±0～-9m 付近で広く分布が確認された。今回の調査でも、各護岸の±0～-7m 付近で分布が確認されたが、過年度に比べて、分布範囲の顕著な減少が認められた。

⑤ ツルツル (図 3-29)

ツルツルは、平成 21～22 年度の調査で分布は確認されなかった。平成 24 年度は各護岸の±0～-5m で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸に分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して南護岸、西護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の±0～-2m に分布が確認され、平成 26 年度と比較して北護岸では分布範囲の減少が、南護岸では分布範囲の増加がみられた。平成 30 年度の調査では、各護岸の-1～-5m で分布を確認し、平成 28 年度と比べて、北護岸、西護岸では分布範囲の増大が、南護岸では分布範囲の縮小が認められた。今回の調査でも、各護岸の-1～-5m に分布が確認されたが、平成 30 年度と比較して北護岸、西護岸で分布範囲が減少していた。

⑥ ベニスナゴ (図 3-30)

ベニスナゴは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度および平成 26 年度は平成 22 年度と比較して被度の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-10m で広く分布が確認されたが、平成 24 年度、平成 26 年度に比較して、北護岸では分布範囲および被度の減少が、西護岸では被度の減少がみられた。平成 30 年度の調査では、各護岸の±0～-9m で広く分布が確認され、平成 28 年度に比較して、北護岸と西護岸では被度の増大が、南護岸では被度の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の±0～-9m で広く分布が確認され、平成 30 年度と比べると、北護岸では分布範囲の拡大が、南護岸では分布範囲の縮小が認められた。

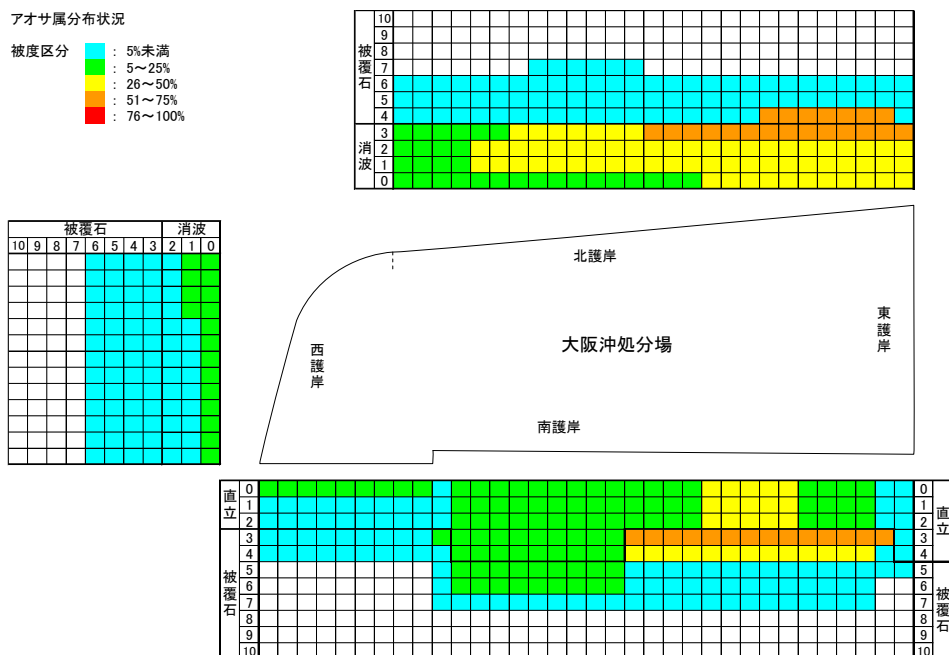
⑦ カバノリ (図 3-31)

カバノリは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度に各護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度は分布が確認されなかった。平成 26 年度、平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認された。平成 30 年度の調査では、各護岸の-1～-10m 付近で広く分布が確認され、平成 28 年度に比べて、分布範囲および被度の増大がみられた。今回の調査でも、各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認されたが、平成 30 年度に比べて西護岸、南護岸では分布範囲の縮小が認められた。

[平成 21 年春季]

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

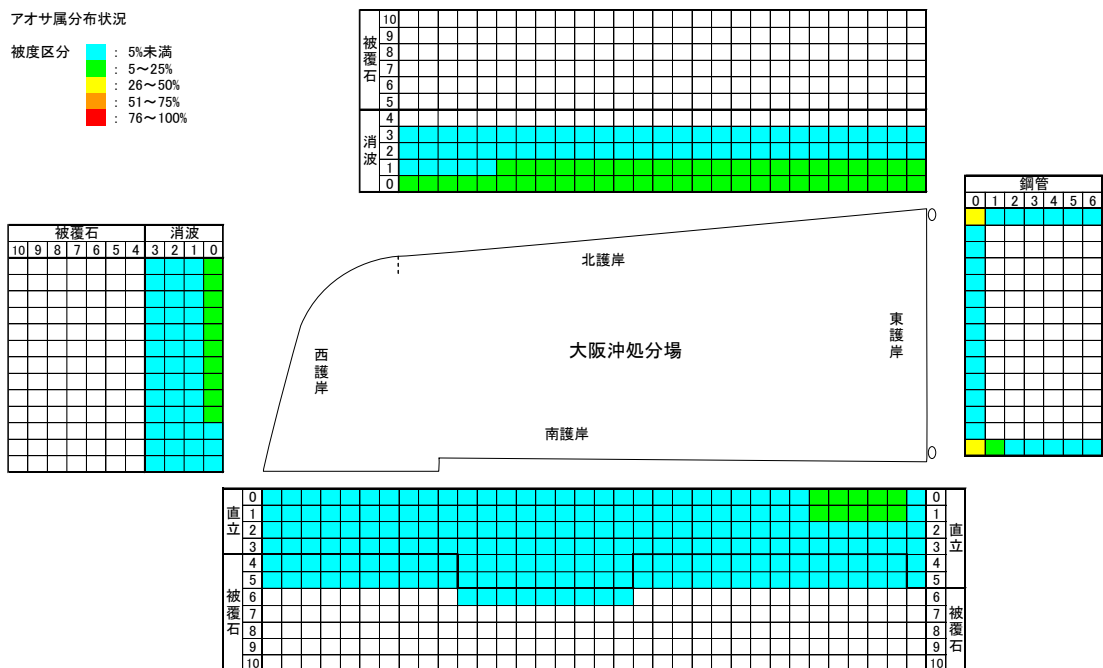
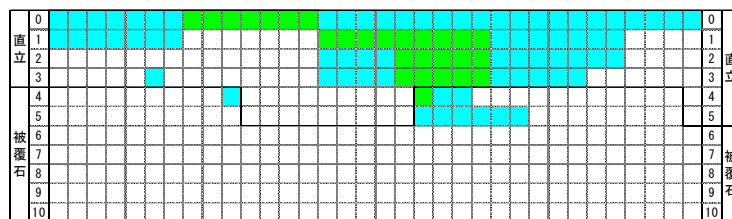
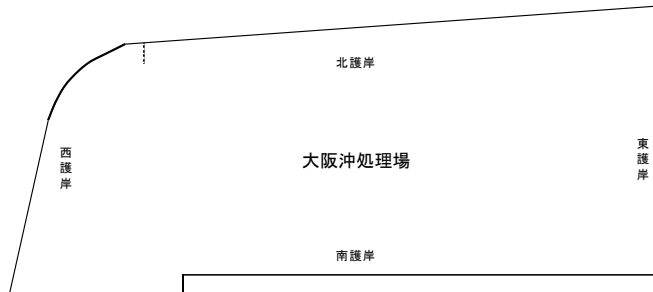
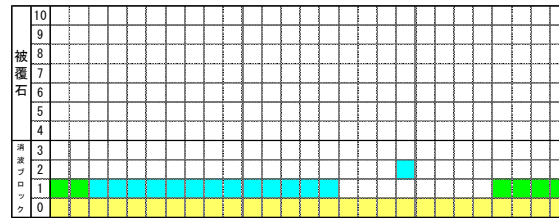
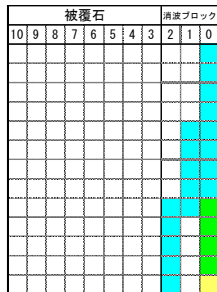


図 3-25 (1) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

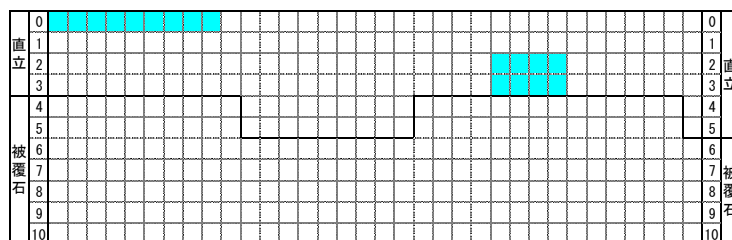
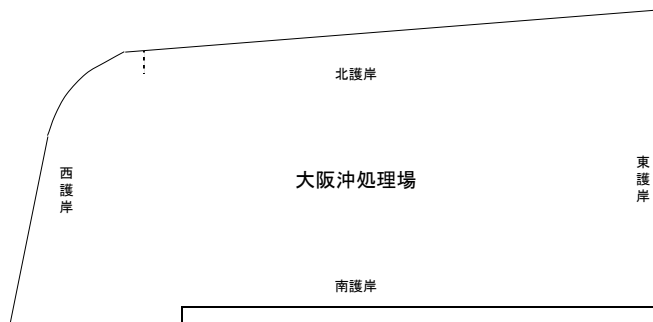
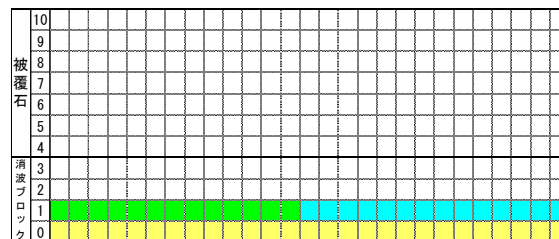
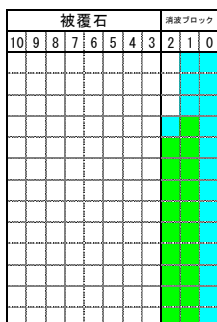
被度区分

	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～ 100%



被度区分

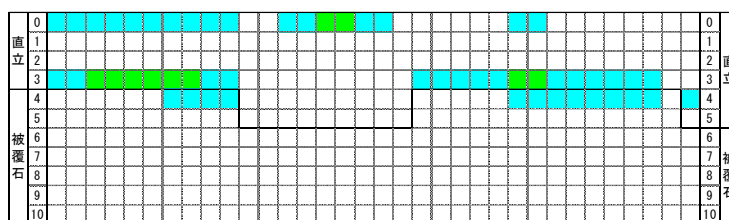
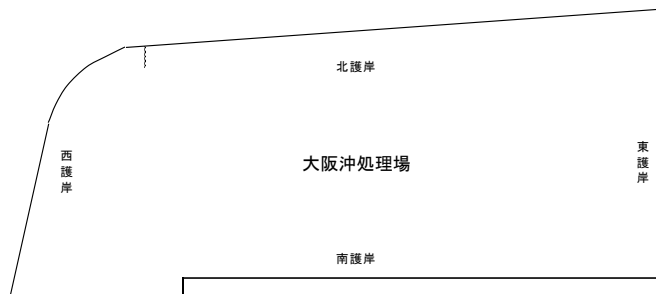
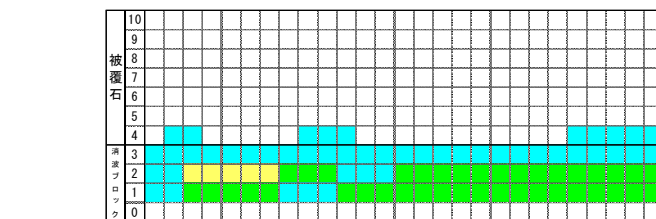
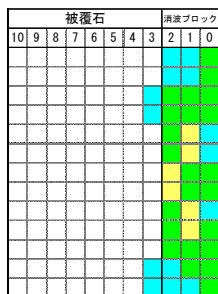
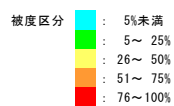
5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



- 186 -

〔平成28年春季〕

アオサ属分布状況



〔平成30年春季〕

アオサ属分布状況

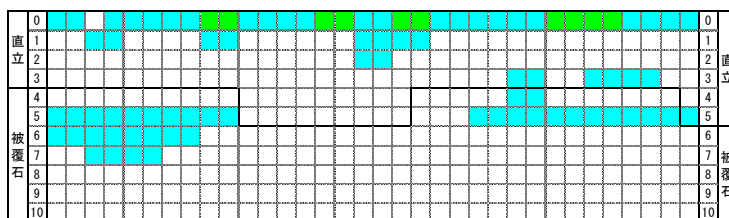
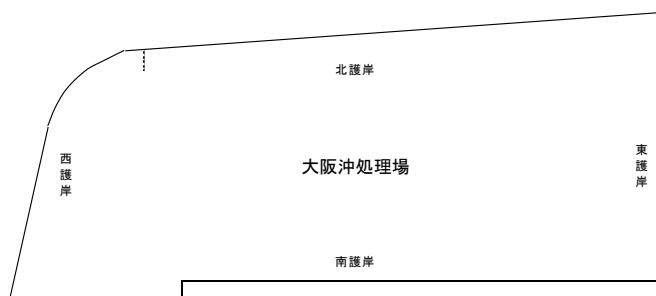
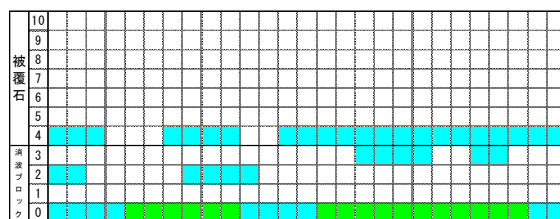
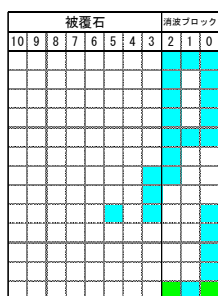
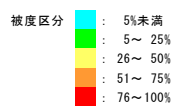


図 3-25 (3) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

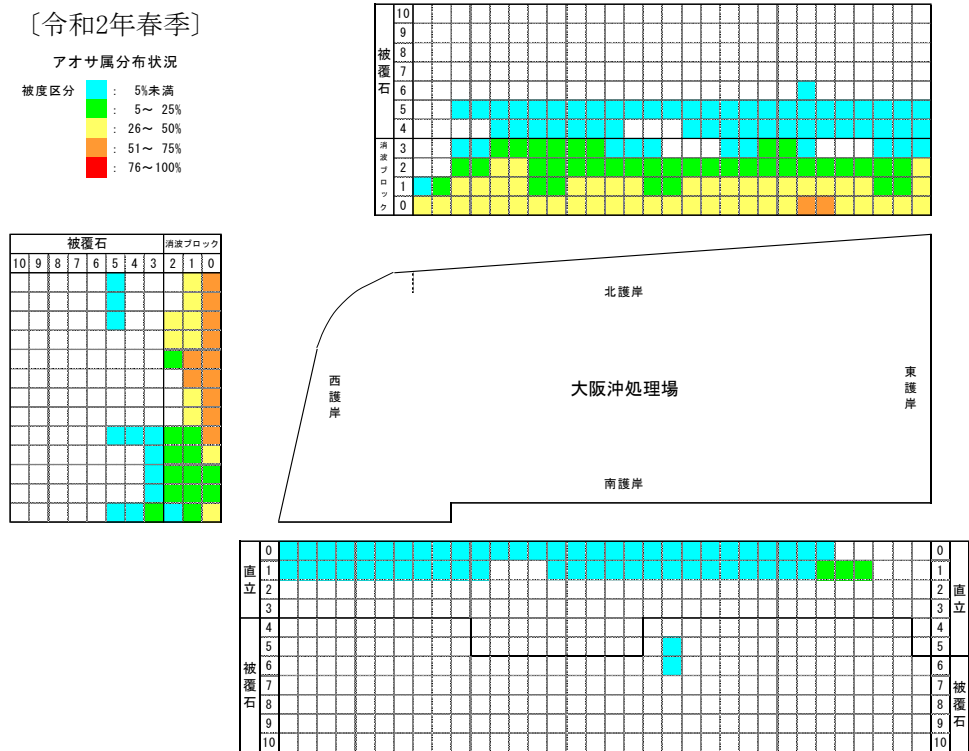
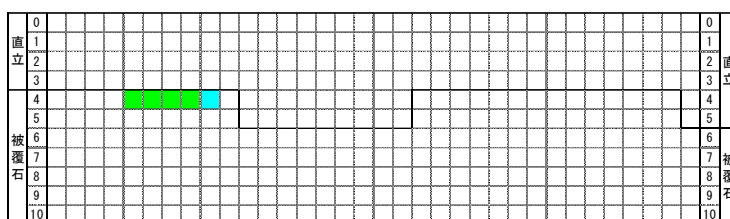
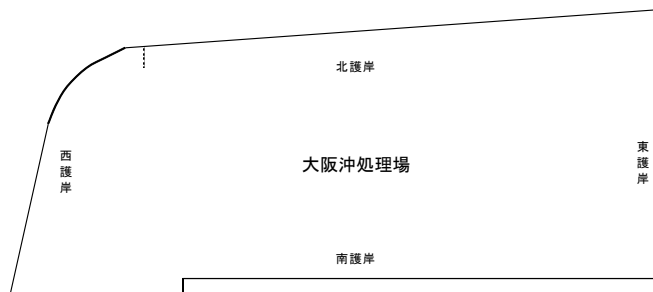
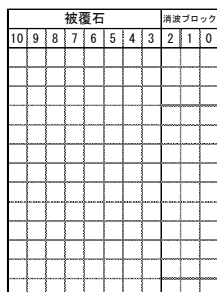
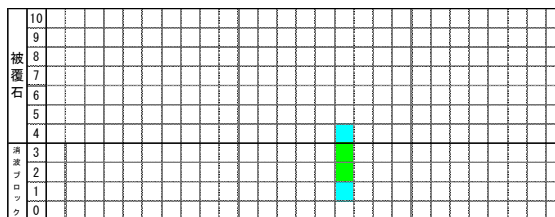


図 3-25 (4) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 令和2年度調査

〔平成24年春季〕

マクサ分布状況

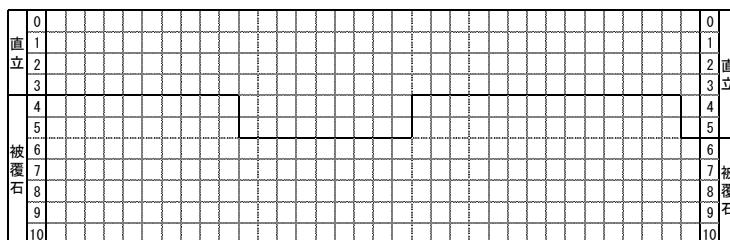
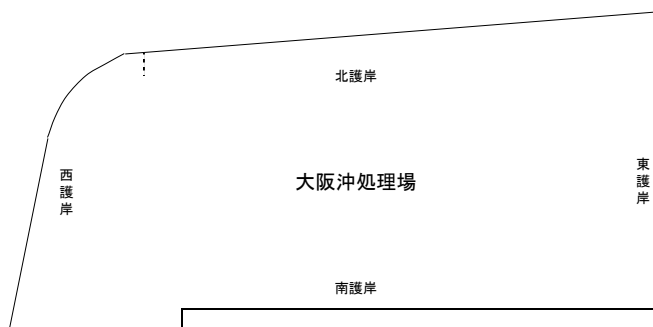
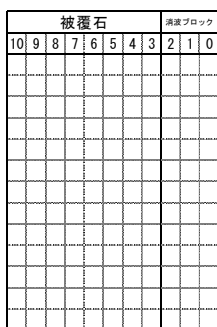
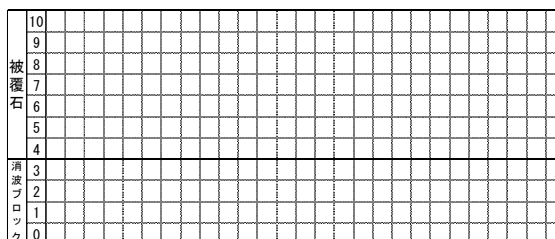
被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

マクサ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-26 (1) 分布状況の推移 (マクサ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

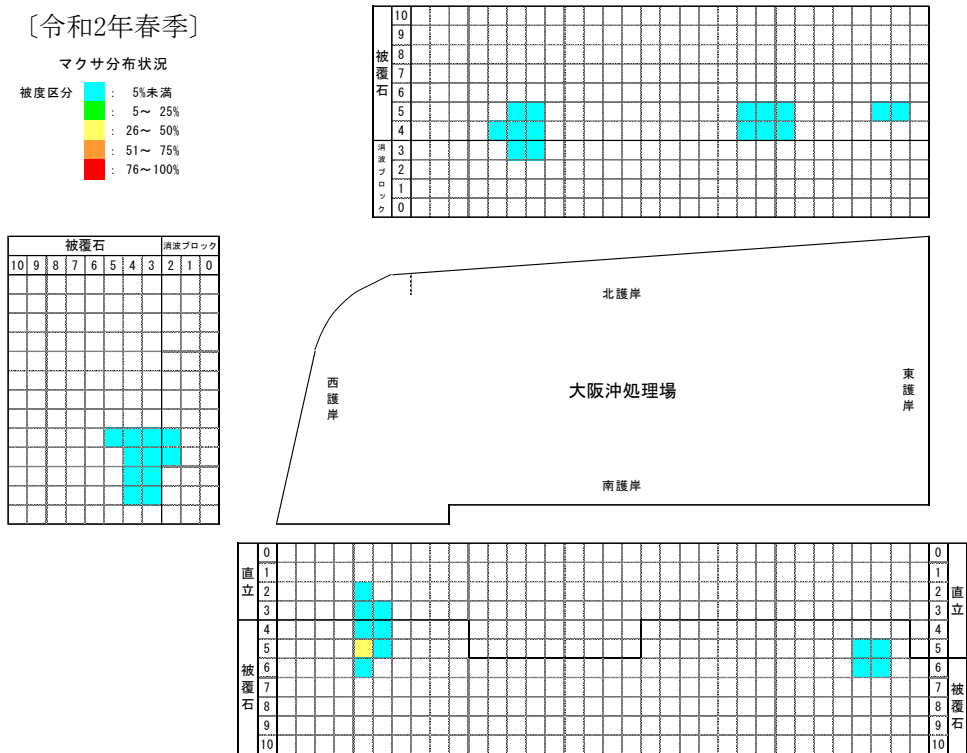
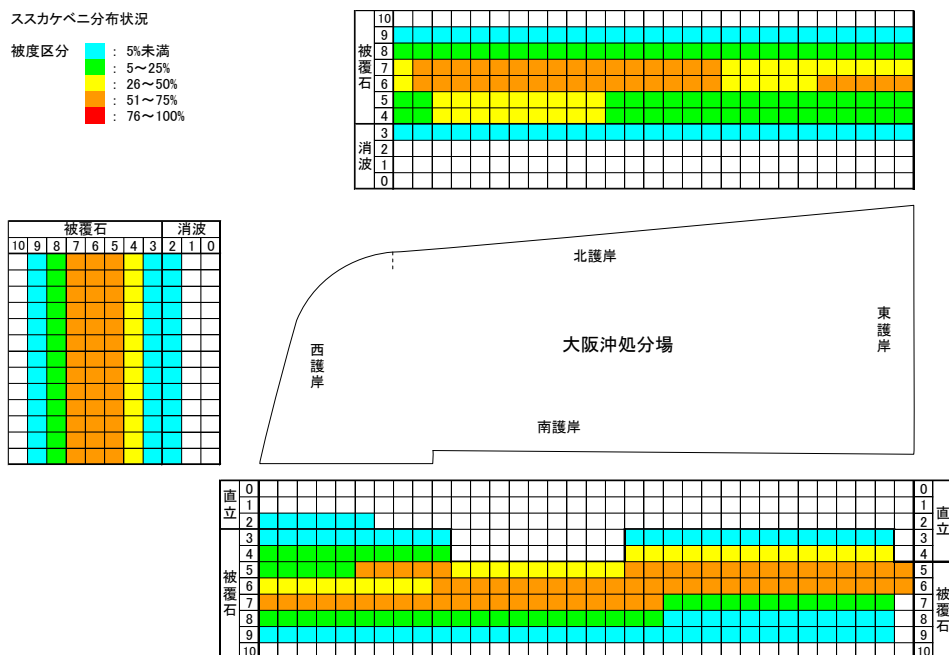


図 3-26 (3) 分布状況の推移 (マクサ) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

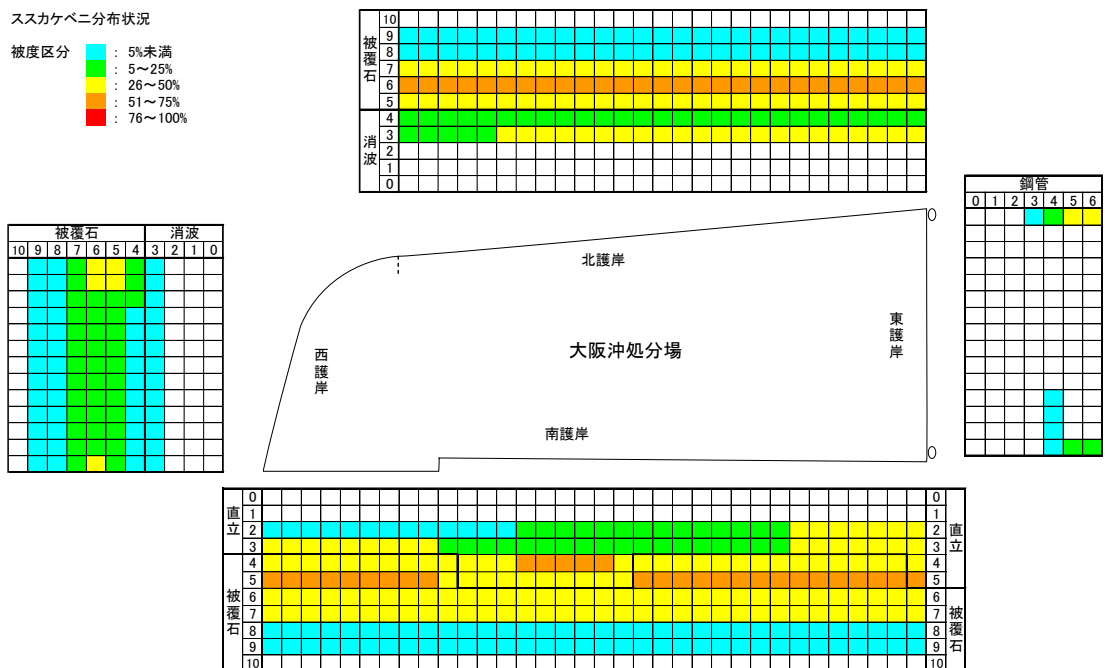
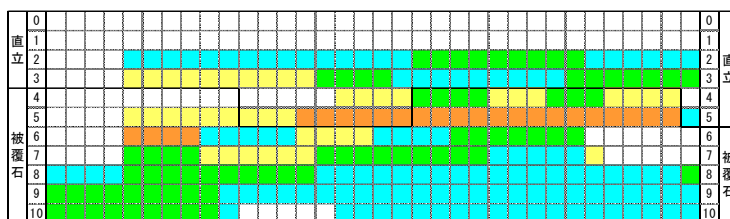
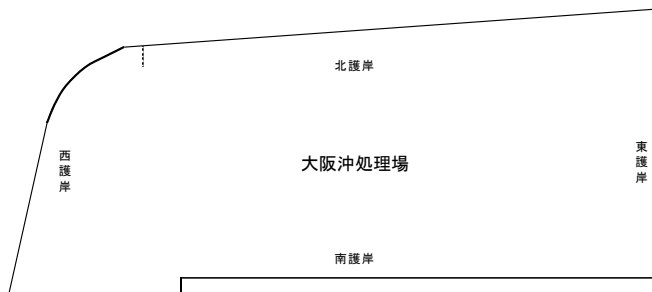
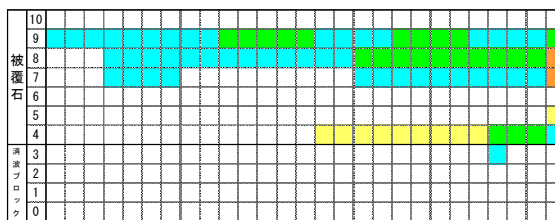
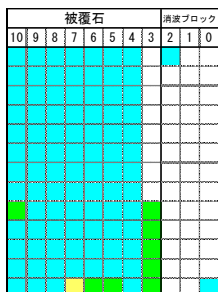


図 3-27 (1) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



〔平成26年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

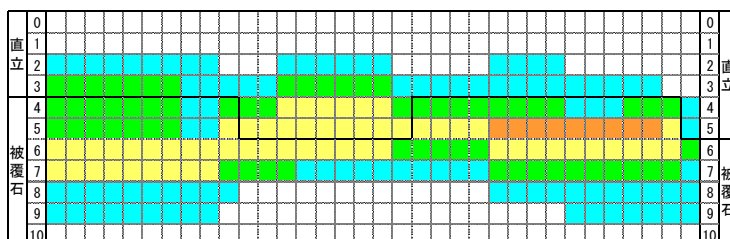
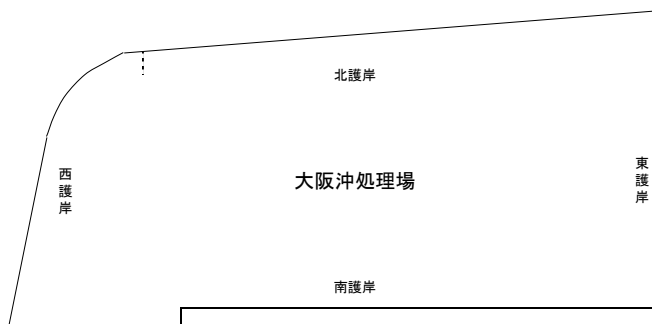
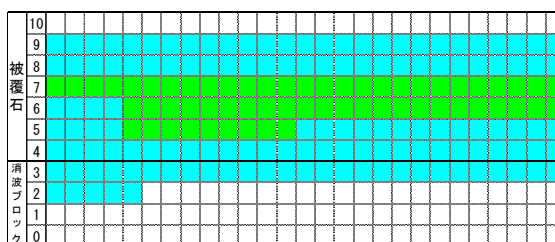
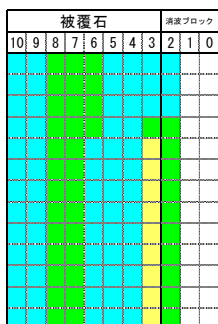
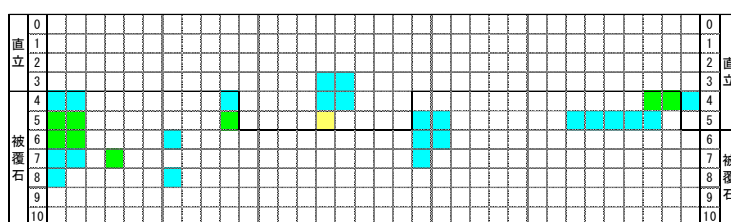
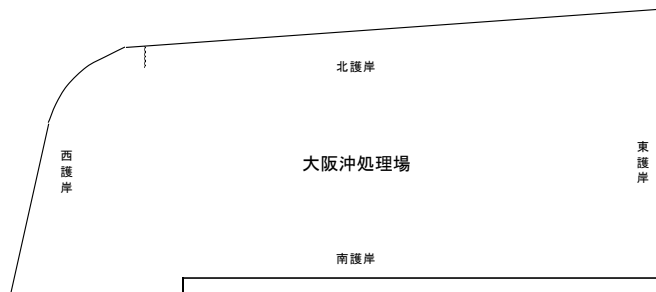
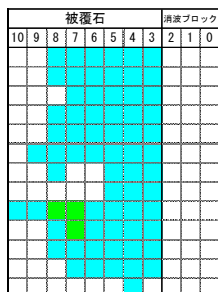
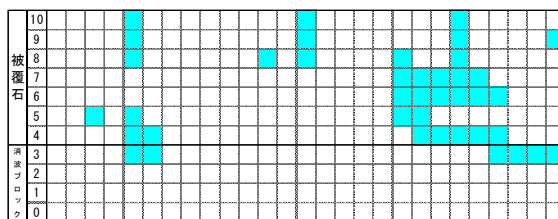
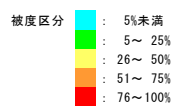


図 3-27 (2) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ススカケベニ分布状況



〔平成30年春季〕

ススカケベニ分布状況

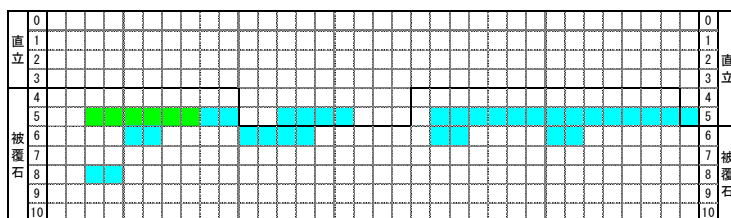
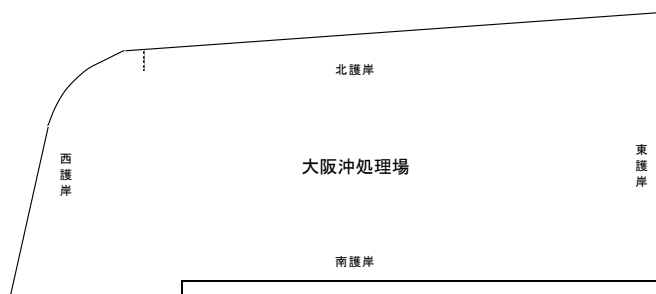
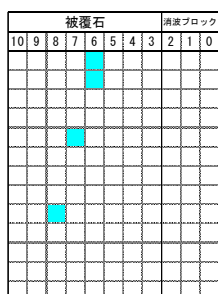
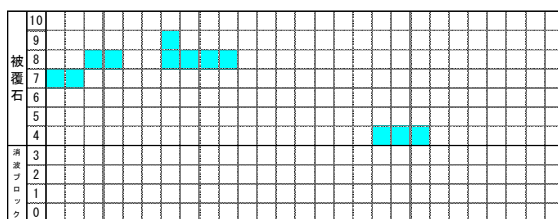
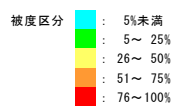


図 3-27 (3) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

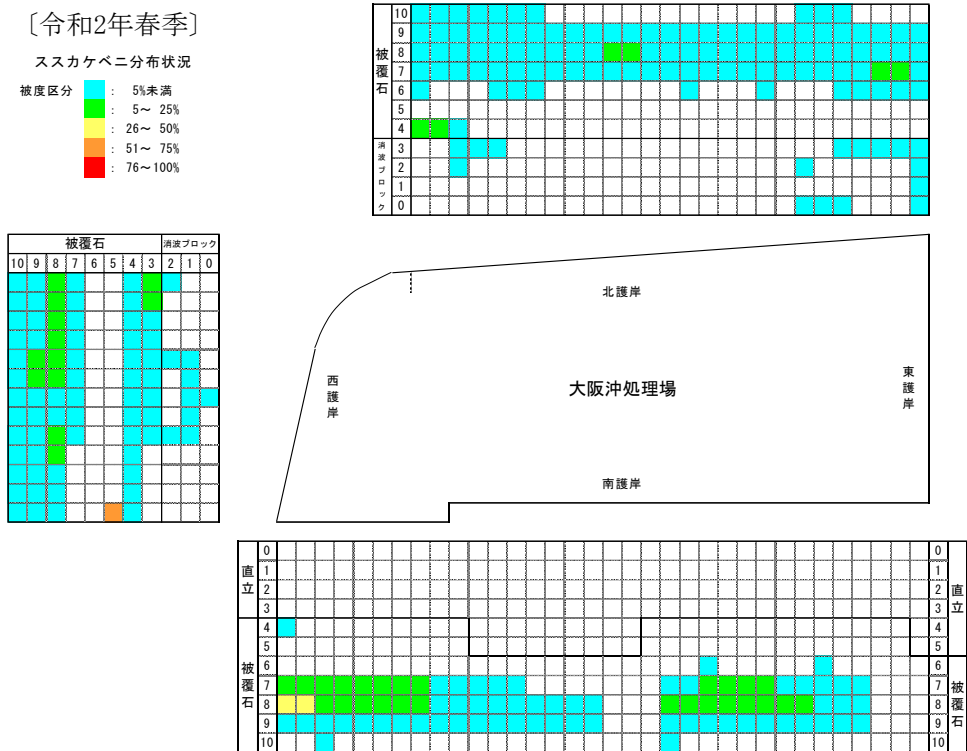
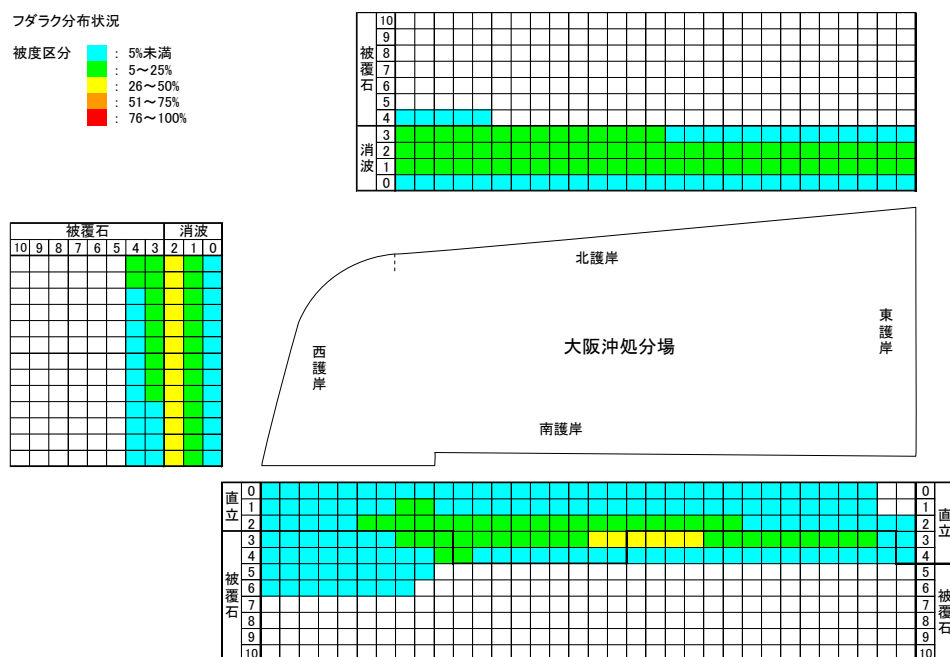


図 3-27 (4) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

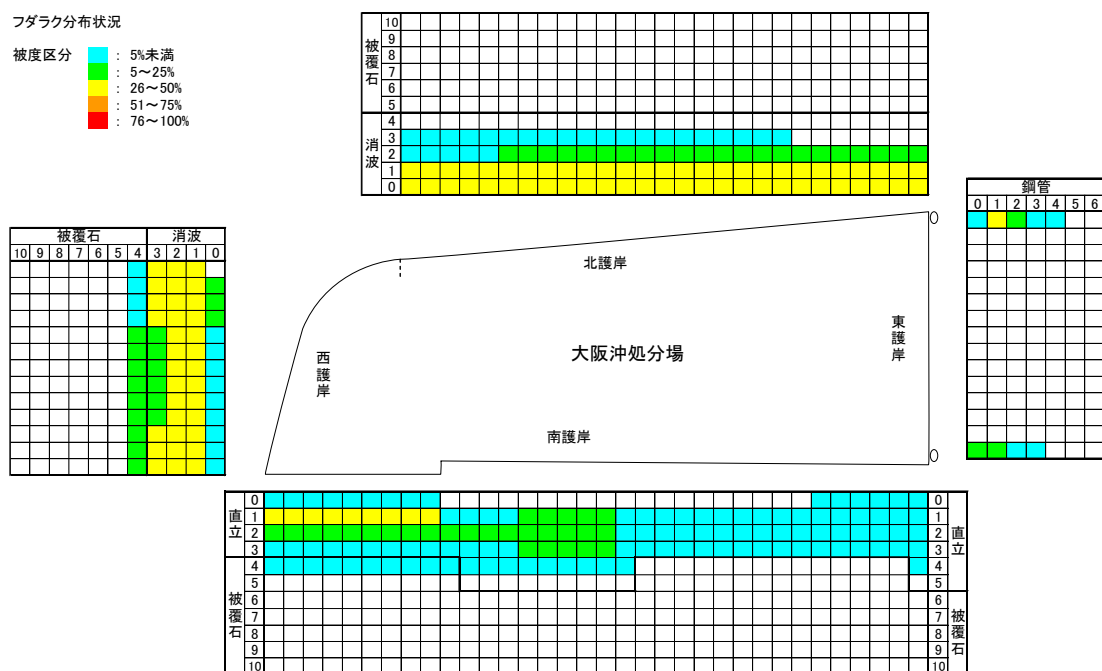
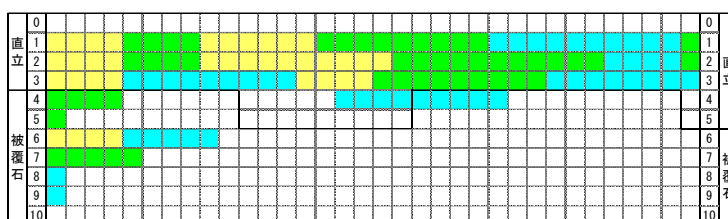
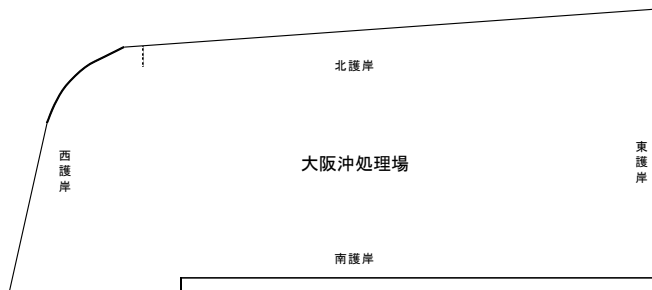
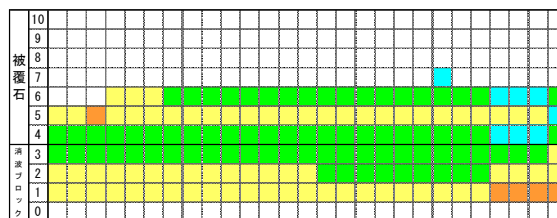
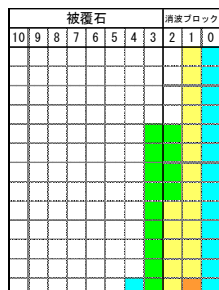


図 3-28 (1) 分布状況の推移 (フダラク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

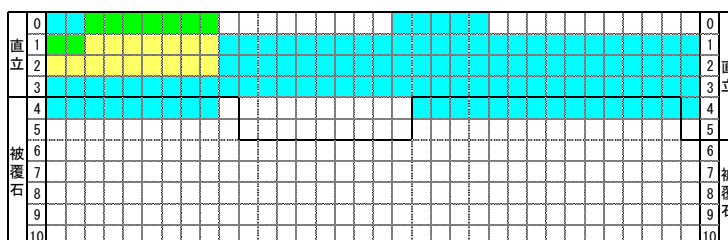
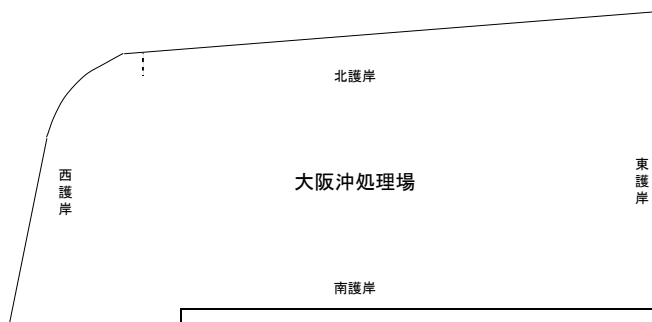
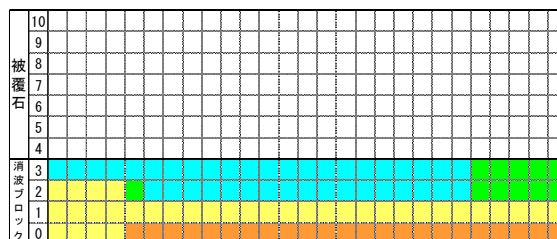
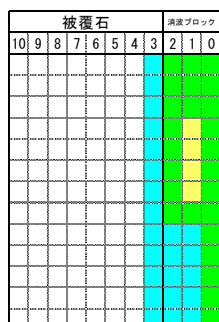
被度区分

	:	5%未満
	:	5～25%
	:	26～50%
	:	51～75%
	:	76～100%



被度区分

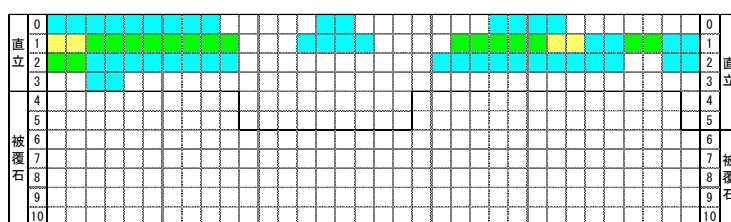
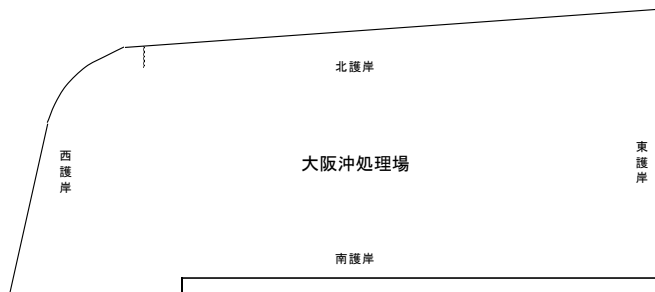
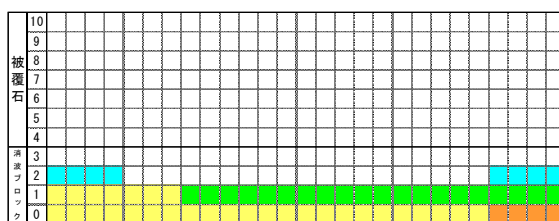
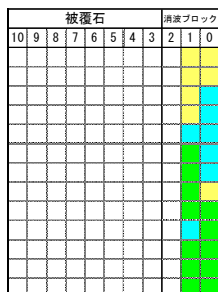
	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～100%



- 197 -

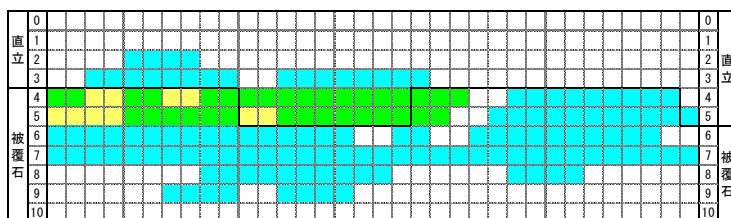
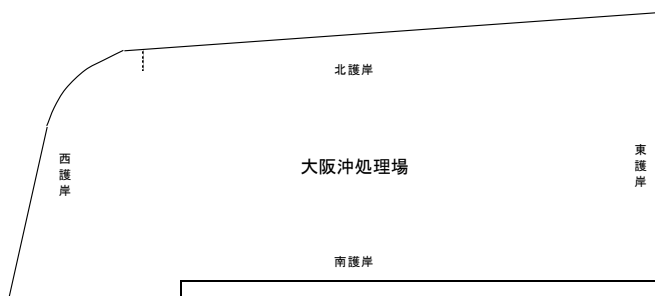
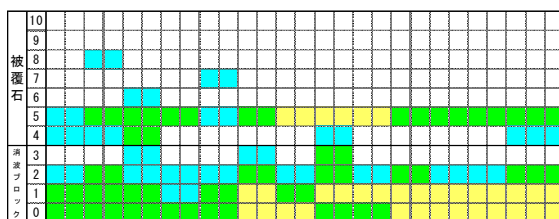
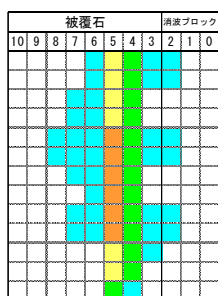
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

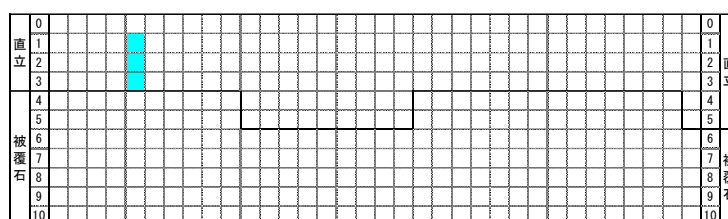


被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



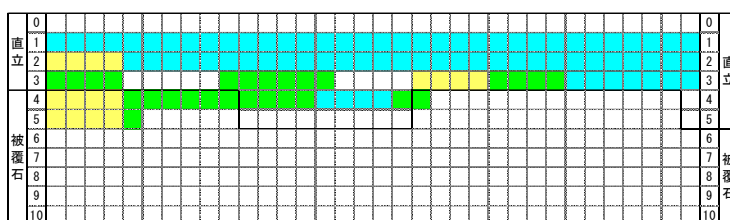
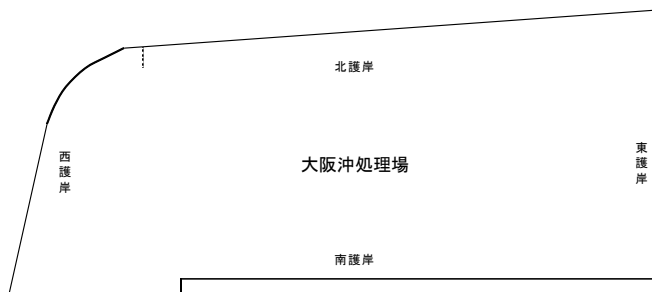
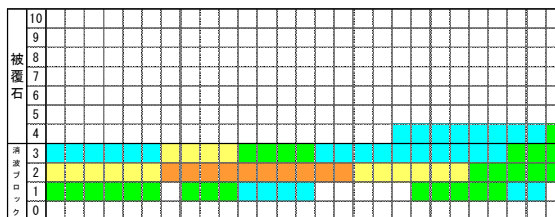
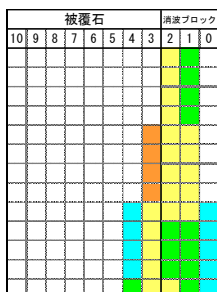
- 198 -



〔平成24年春季〕

ツルツル分布状況

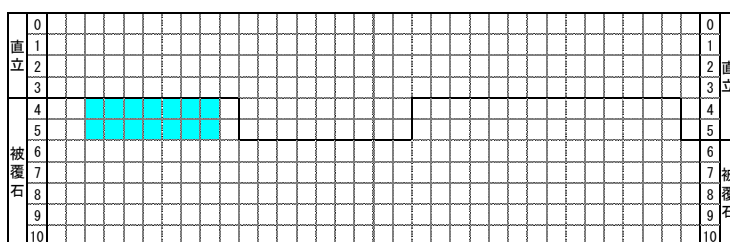
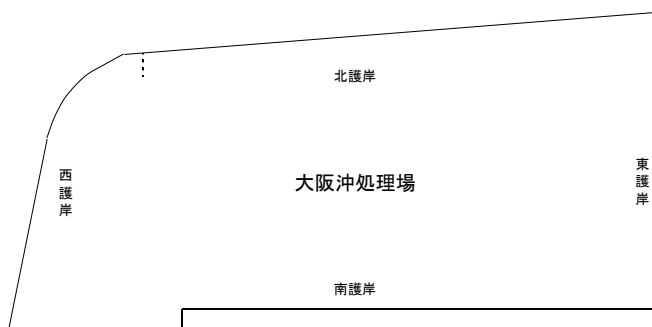
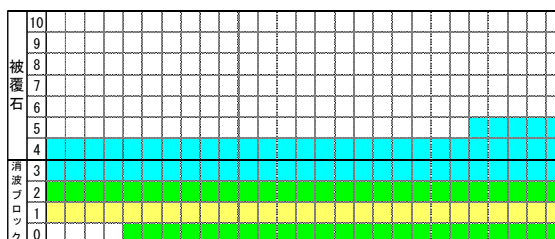
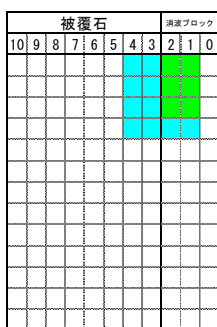
被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

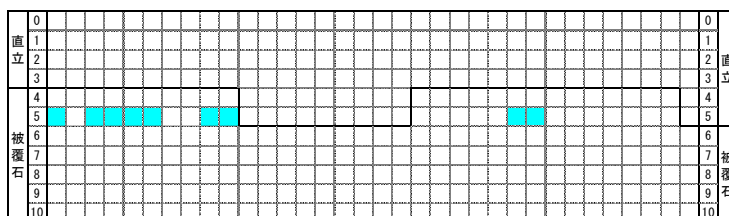
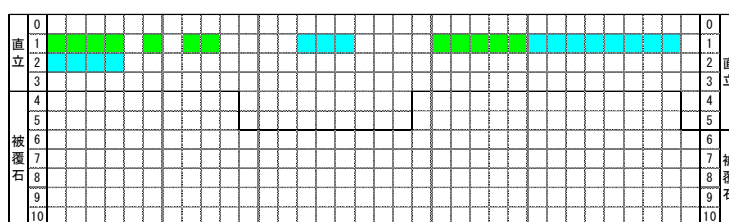
ツルツル分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-29 (1) 分布状況の推移 (ツルツル) 大阪沖 平成 24～26 年度調査



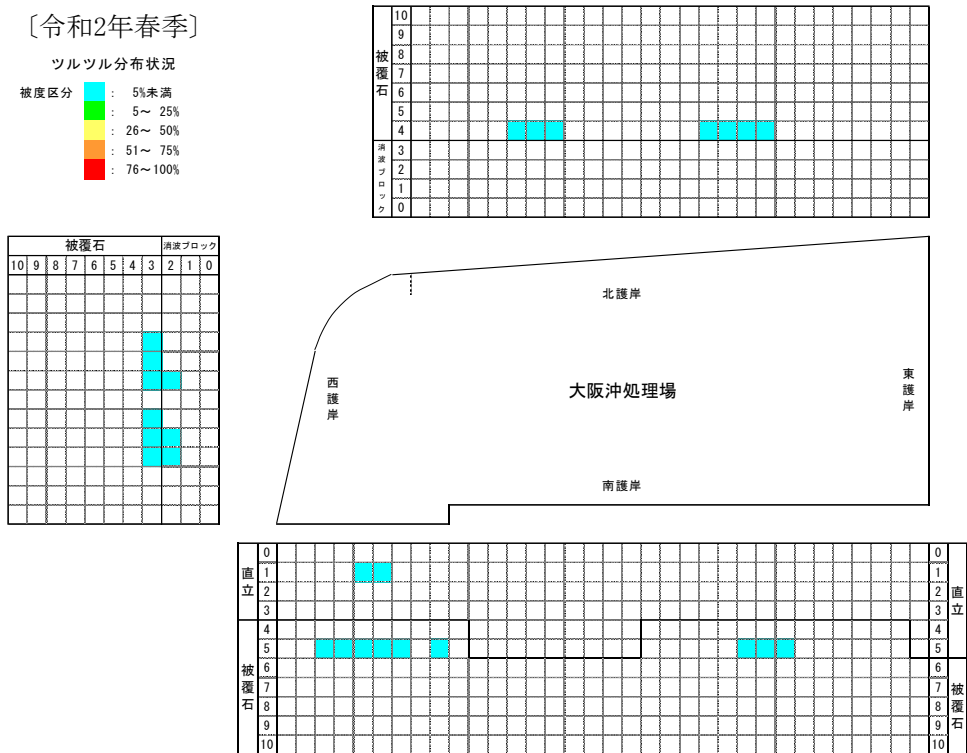
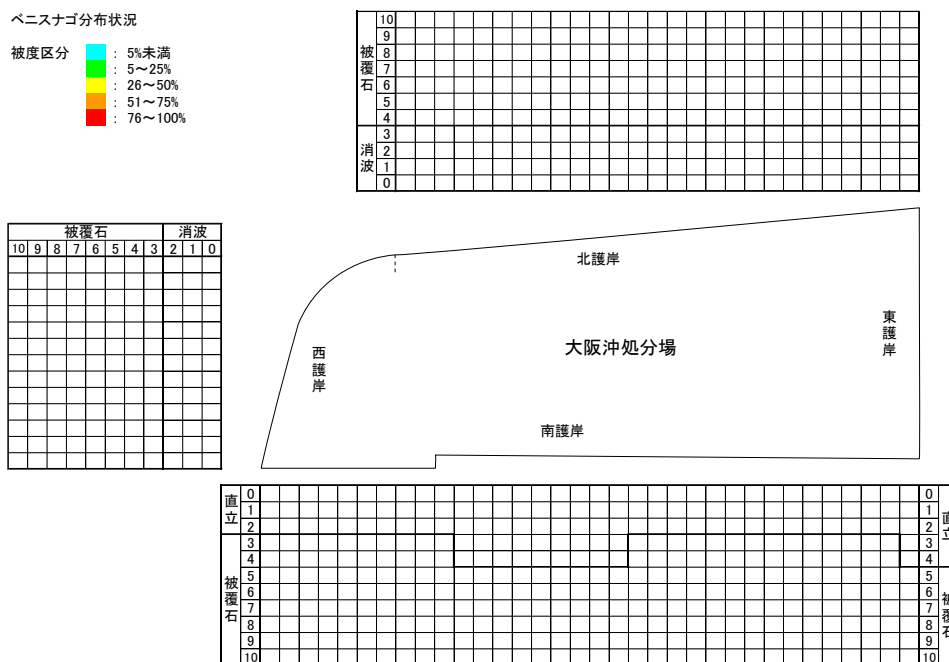


図 3-29 (3) 分布状況の推移 (ツルツル) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]

ベニスナゴ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

ベニスナゴ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

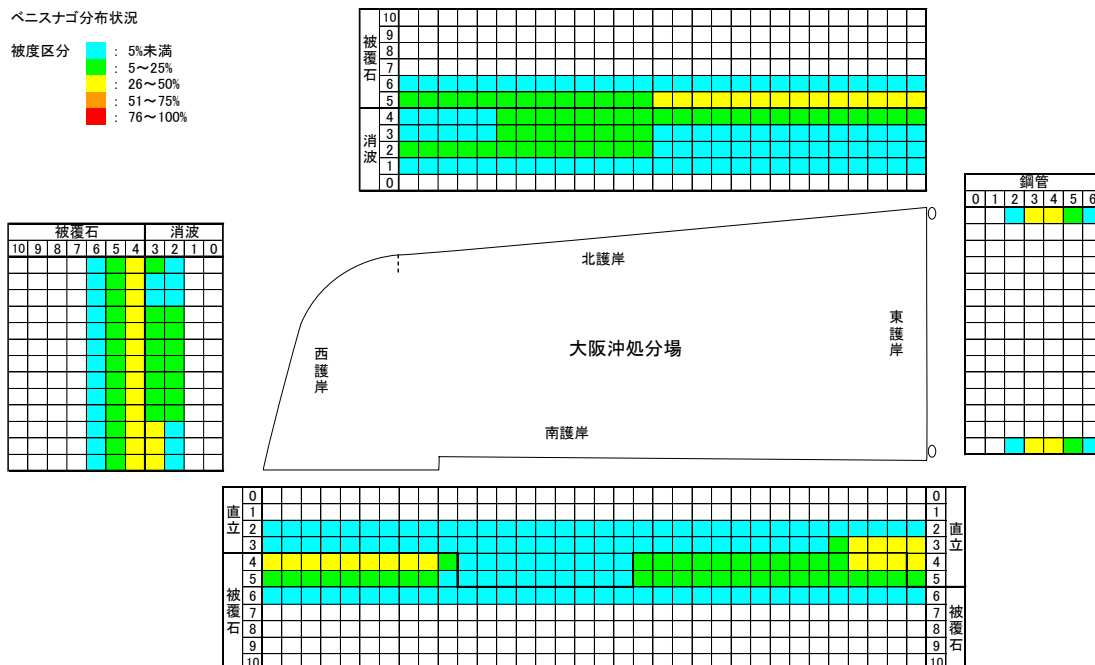
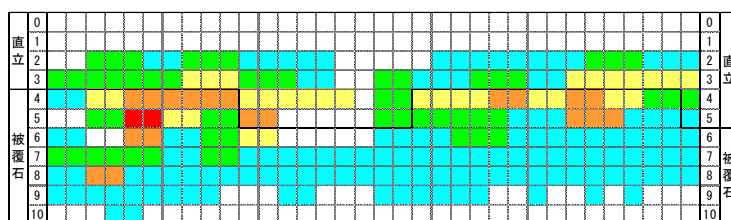
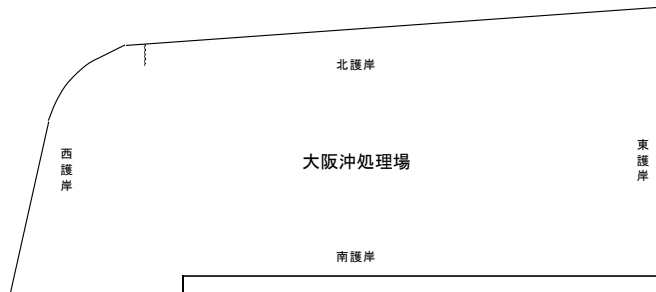
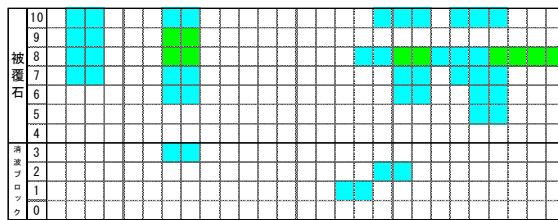
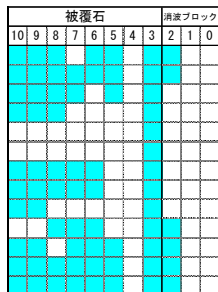


図 3-30 (1) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成28年春季〕

ベニスナゴ分布状況

被度区分 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%



〔平成30年春季〕

ベニスナゴ分布状況

被度区分 : 5%未満
 : 5～25%
 : 26～50%
 : 51～75%
 : 76～100%

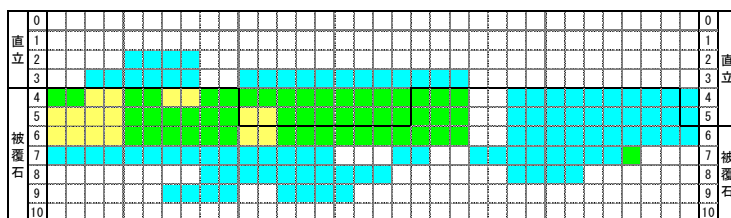
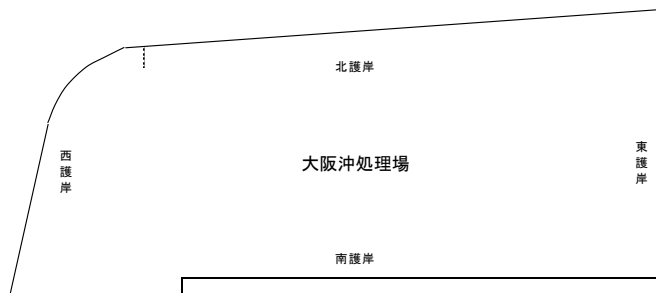
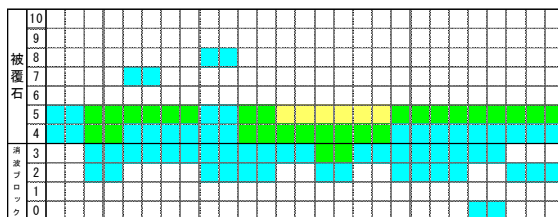
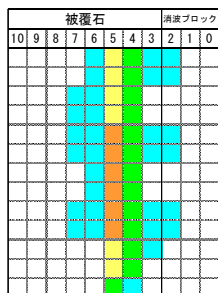


図 3-30 (3) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

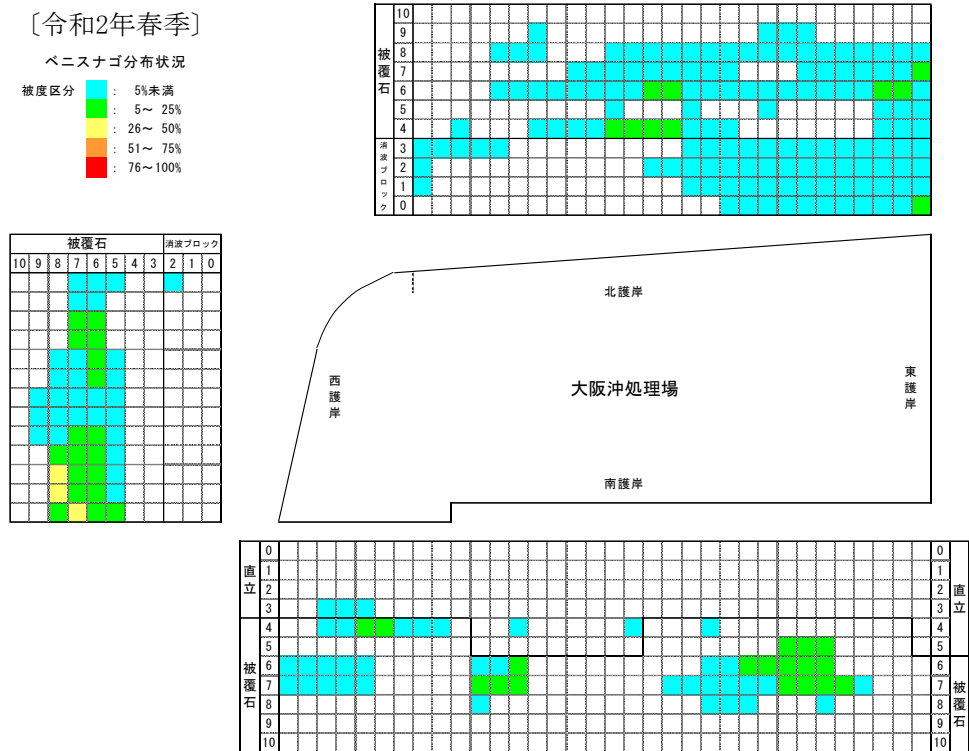
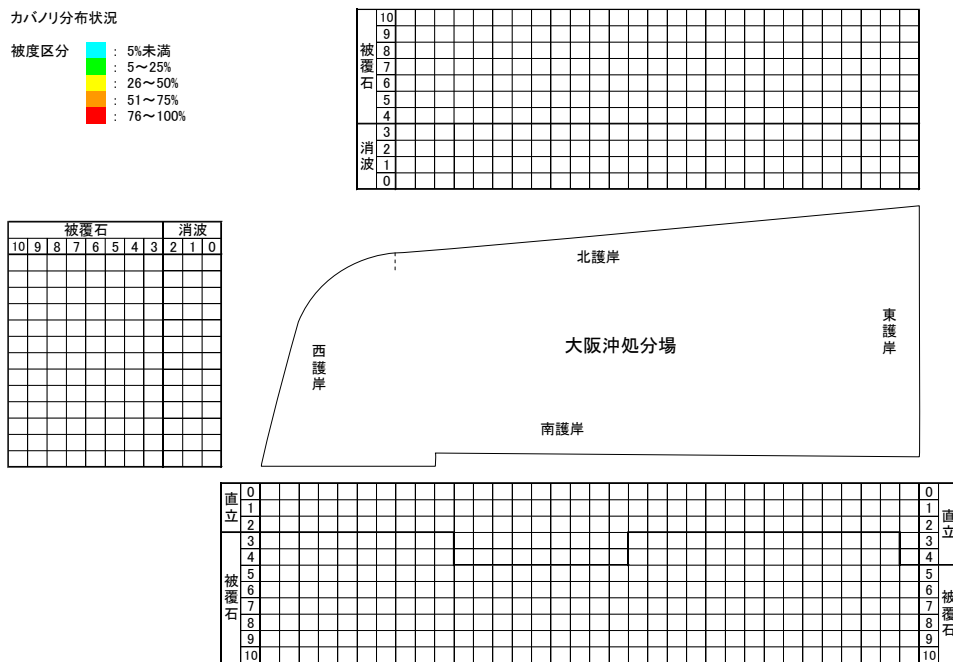


図 3-30 (4) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 令和2年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

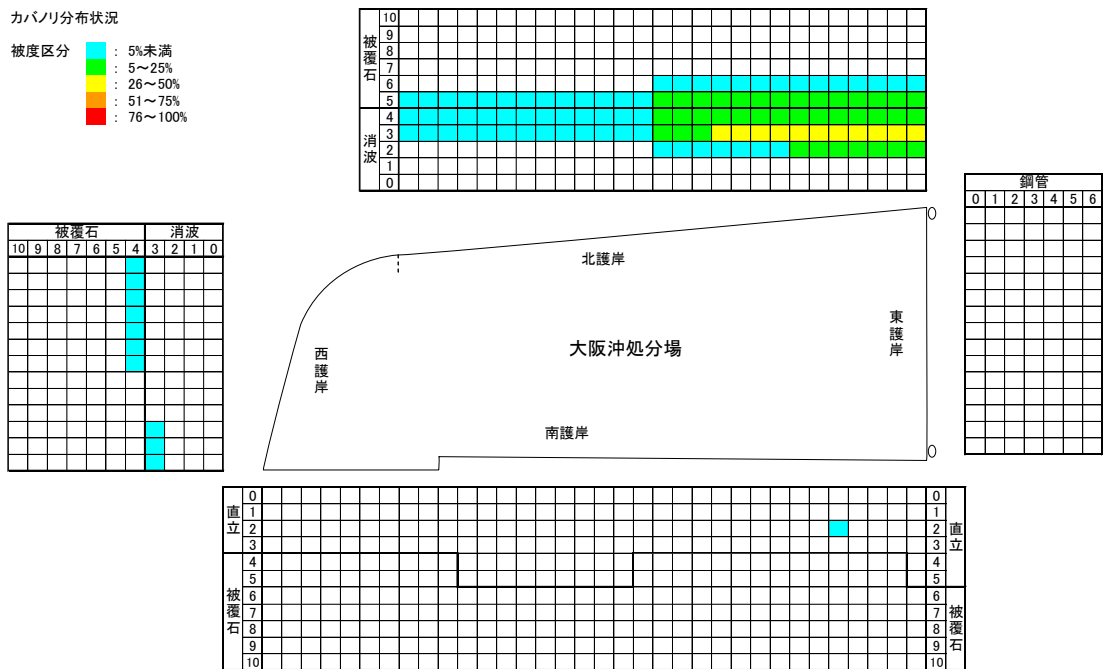
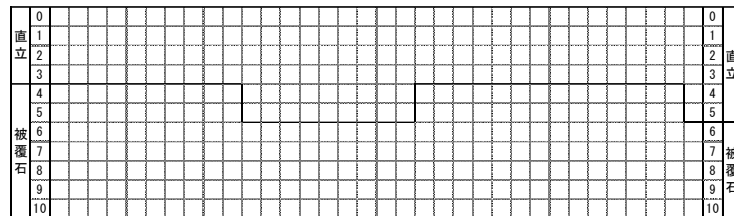
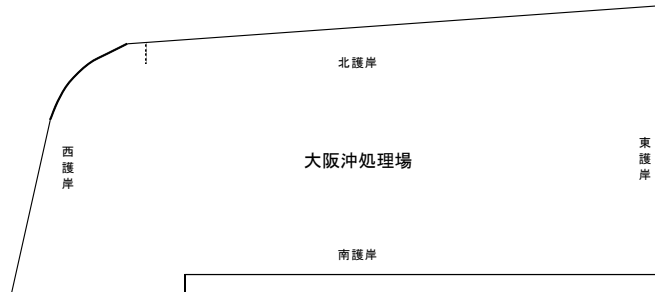
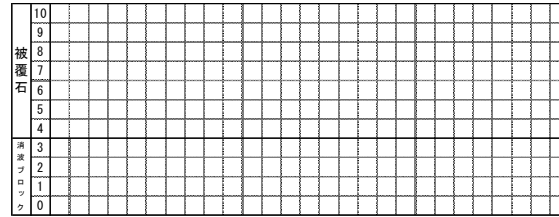
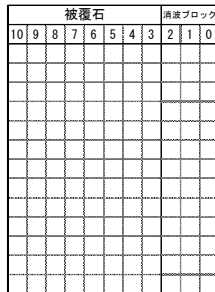


図 3-31 (1) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

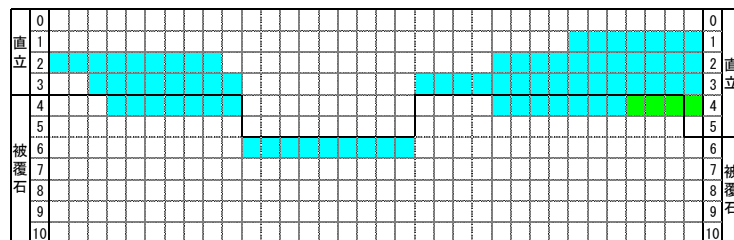
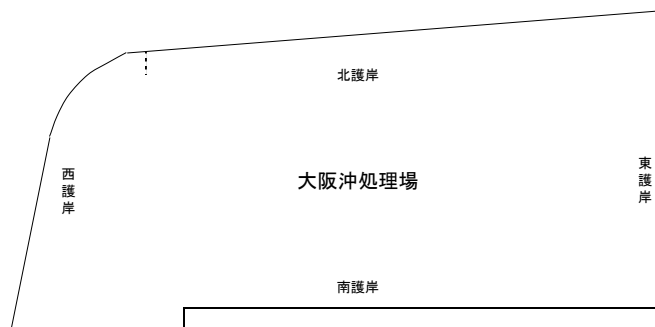
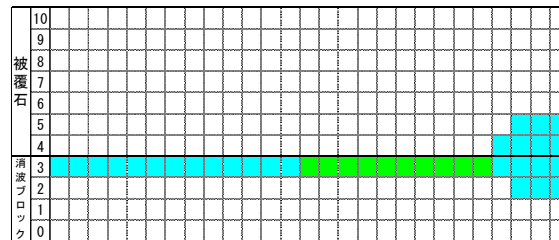
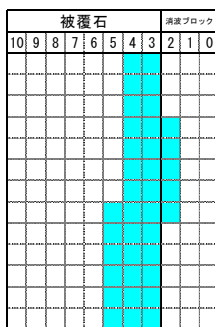
カパノリ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～25%
		:	26～50%
		:	51～75%
		:	76～100%



カバノリ分布状況

被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%

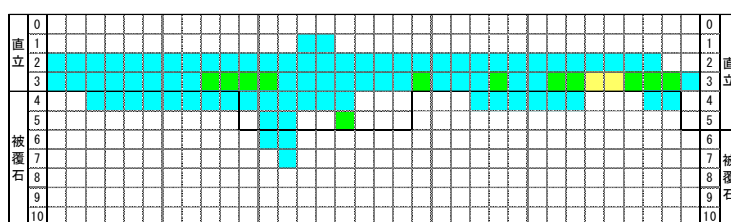
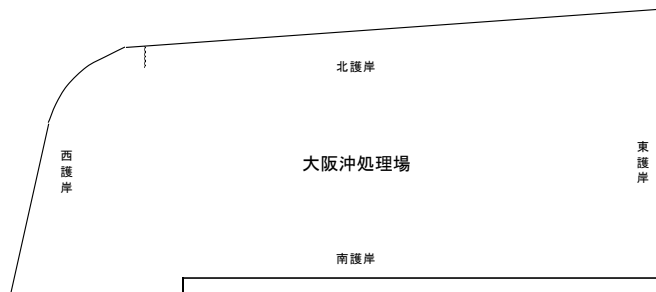
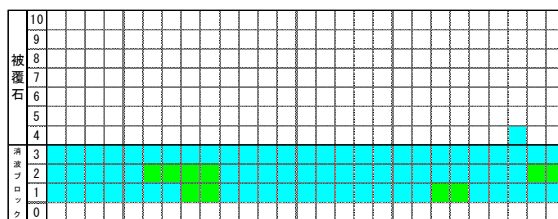
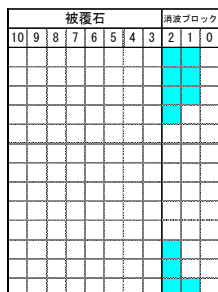


– 208 –

〔平成28年春季〕

カバノリ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



〔平成30年春季〕

カバノリ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

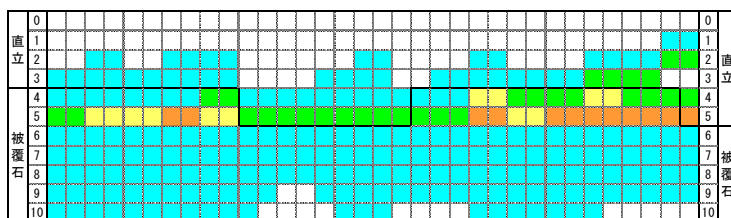
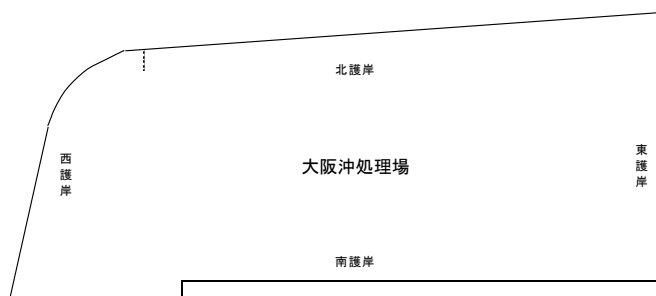
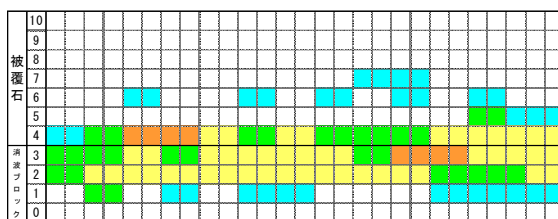
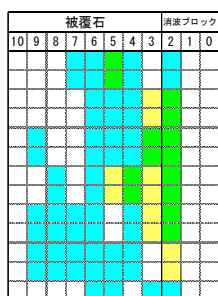


図 3-31 (3) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 平成 28～30 年度調査

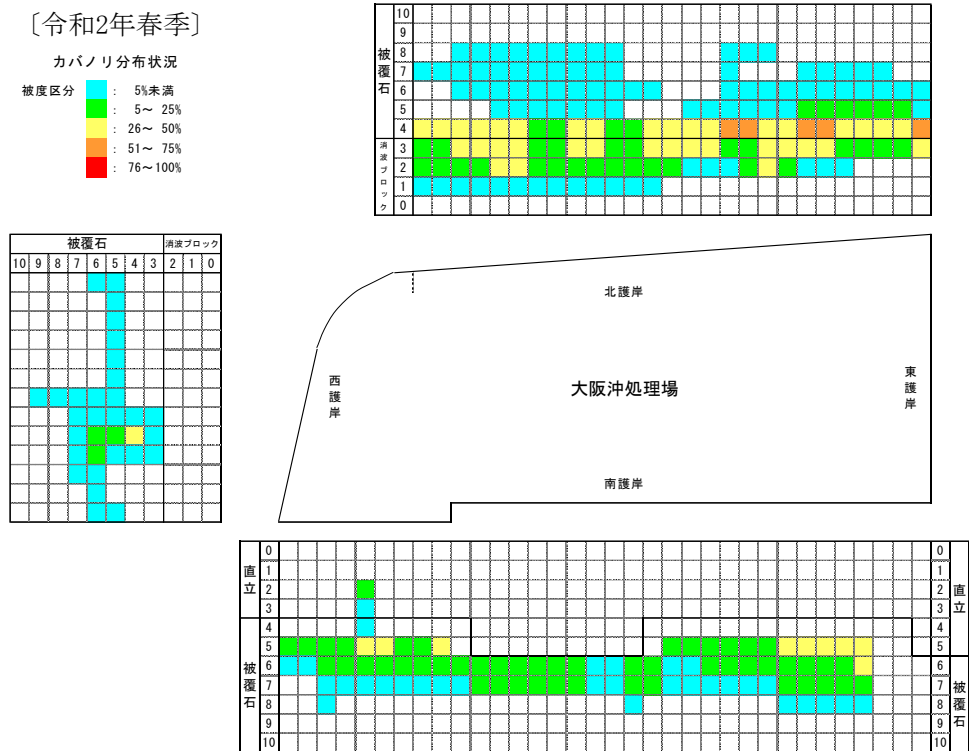


図 3-31 (4) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 令和2年度調査

4 結果のまとめ

4-1 付着動植物の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-1 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で紅藻のツノマタが湿重量の 78% を占め、中層ではタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 71% を占めていた。下層では紅藻のマクサが 61% を占め、紅藻類が優占する状況であった。

過年度の海藻の出現傾向は、平均水面付近（上層）の波当たりの大きい水深帯で緑藻のシオグサ属、アオサ属等の小型藻類が優占し、中層付近でワカメ、シダモク、タマハハキモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が出現し、下層でマクサやススカケベニやムカデノリなどの紅藻類が優占する帯状分布が認められるが、今年度は上層で紅藻のツノマタが優占していたのを除いて、同様の傾向を示した。

表 4-1 坪刈り調査結果概要（植物） 神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (M.W.L. -2m)	下層 (M.W.L. -4m)
神戸沖 A-2	平成22年 5月30日	出現種類数	11	13	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	28.96	130.83	202.92
		優占種	第1位 シオグサ属 43%	タマハハキモク 84%	マクサ 51%
			第2位 ツノマタ属 36%	イトグサ属 5%	カバノリ 22%
			第3位 アオサ属 18%	フダラク 4%	ススカケベニ 13%
	平成24年 5月26日	出現種類数	4	13	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	254.04	74.91	722.72
		優占種	第1位 アオサ属 99%	ムカデノリ 33%	ススカケベニ 55%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	タマハハキモク 30%	ベニスナゴ 26%
			第3位 アオノリ属 <0.1%	イトグサ属 22%	マクサ 14%
	平成26年 6月1日	出現種類数	4	17	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	32.53	125.78	71.83
		優占種	第1位 アオサ属 100%	ムカデノリ 60%	マクサ 38%
			第2位 シオグサ属 0.1%	タマハハキモク 30%	ムカデノリ 27%
			第3位 アオノリ属 <0.1%	フダラク 5%	カバノリ 24%
	平成28年 5月28日	出現種類数	6	14	14
		総湿重量 (g/0.25m ²)	93.09	159.32	4.7
		優占種	第1位 アオサ属 100%	ワカメ 87%	マクサ 79%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	マクサ 9%	イギス科 9%
			第3位 藍藻綱 <0.1%	カバノリ 4%	カバノリ 7%
	平成30年 6月2日	出現種類数	7	14	10
		総湿重量 (g/0.25m ²)	142.41	58.48	16.44
		優占種	第1位 アオサ属 94%	シダモク 94%	ムカデノリ 95%
			第2位 シオグサ属 5%	フダラク 3%	ツノマタ属 3%
			第3位 アオノリ属 0.5%	ムカデノリ 1%	ヨツガサネ属 0.9%
	令和2年 5月31日	出現種類数	12	16	19
		総湿重量 (g/0.25m ²)	101.41	138.94	30.58
		優占種	第1位 ツノマタ 78%	タマハハキモク 71%	マクサ 61%
			第2位 ミル 12%	マクサ 13%	カバノリ 25%
			第3位 アオサ属 3%	カバノリ 8%	アオサ属 6%

〔 動 物 〕

表 4-2 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で個体数においては二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が 68%、湿重量においては巻貝のイボニシ（移動性）が 66%で最優占していた。中層では、個体数においては甲殻類のマルエラワレカラ（移動性）が 48%、湿重量においてはキヒトデ（移動性）が 53%を占め、優占していた。下層では、個体数においては甲殻類の Caprella 属（移動性）が 16%、湿重量においては巻貝のレイシガイ（移動性）が 37%を占め、最優占していた。

これまでの調査と比較して、上層ではムラサキイガイの占める割合が高くなっており、中層～下層ではキヌマトイガイ（固着性）、環形動物（移動性）、微小甲殻類（移動性）、ヒトデ類（移動性）が優占している状況に大きな変化はみられないが、上層でイボニシ、下層でレイシガイが湿重量で最優占したことは、今までにない傾向である。

表 4-2 坪刈り調査結果概要（動物） 神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.V.L ±0m)	中層 (M.V.L -2m)	下層 (M.V.L -4m)
神戸沖 A-2	平成22年 5月30日	出現種類数	24	63	65
		総個体数 (個体/0.25m ²)	246	13662	3296
		総湿重量 (g/0.25m ²)	2.38	237.47	103.7
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 33% 第2位 ヒゲナガヨコエビ属 18% 第3位 ユスリ科幼虫 13%	マルエワレカラ 49% エゾカサネカンザシ 23% キヌマトイガイ 11%	マルエワレカラ 38% オサフレカラ 16% ムギガイ 13%
		優占種 (湿重量)	第1位 カラマツガイ 35% 第2位 ムラサキイガイ 13% 第3位 チゴケムシ 13%	イトマキヒトデ 34% エゾカサネカンザシ 32% ムギガイ 9%	イトマキヒトデ 28% レイシガイ 23% ムギガイ 17%
	平成24年 5月26日	出現種類数	20	37	48
		総個体数 (個体/0.25m ²)	2105	15472	7178
		総湿重量 (g/0.25m ²)	21.13	126.97	95.2
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 41% 第2位 ユスリ科幼虫 24% 第3位 タマキビ 7%	キヌマトイガイ 50% Zeuxo属 33% マルエワレカラ 4%	Zeuxo属 17% トゲワレカラ 17% キヌマトイガイ 13%
		優占種 (湿重量)	第1位 カラマツガイ 34% 第2位 マガキ 24% 第3位 ムラサキイガイ 18%	キヌマトイガイ 29% レイシガイ 17% イトマキヒトデ 15%	イトマキヒトデ 28% キヌマトイガイ 11% レイシガイ 10%
	平成26年 6月1日	出現種類数	17	70	92
		総個体数 (個体/0.25m ²)	3401	5434	7175
		総湿重量 (g/0.25m ²)	72.14	45.32	64.2
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 91% 第2位 ユスリ科幼虫 3% 第3位 イワフジツボ 2%	キヌマトイガイ 45% マルエワレカラ 15% トゲワレカラ 10%	Caprella属 22% キヌマトイガイ 18% Monocorophium属 11%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 88% 第2位 マガキ 6% 第3位 カラマツガイ 2%	キヌマトイガイ 56% マルエワレカラ 8% ムギガイ 7%	キヌマトイガイ 27% キヒトデ 10% Cirratulus属 9%
	平成28年 5月28日	出現種類数	24	43	41
		総個体数 (個体/0.25m ²)	21669	3197	503
		総湿重量 (g/0.25m ²)	265.77	117.25	11.47
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 98% 第2位 シロマダシリス 0.5% 第3位 シレンウミミミ 0.3%	ミズヒキゴカイ科 52% Caprella属 15% キヌマトイガイ 7%	Aoroides属 45% キヌマトイガイ 23% ムギガイ 5%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 94% 第2位 イボニシ 4% 第3位 ヒトツブゴカイ 1%	ミズヒキゴカイ科 75% イトマキヒトデ 8% Thelepus属 4%	イトマキヒトデ 40% イボニシ 13% キヌマトイガイ 11%
	平成30年 6月2日	出現種類数	25	61	41
		総個体数 (個体/0.25m ²)	22706	5248	309
		総湿重量 (g/0.25m ²)	608.77	35.79	35.68
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 66% 第2位 イワフジツボ 18% 第3位 ホトトギスガイ 5%	マルエワレカラ 44% クマノアシツキ 17% Caprella属 7%	Cirratulus属 39% ミズヒキゴカイ科 11% クマノアシツキ 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 75% 第2位 イワフジツボ 18% 第3位 ヒトツブゴカイ 3%	マルエワレカラ 18% エゾカサネカンザシ 11% キヒトデ 9%	尋常海綿綱 24% Cirratulus属 22% キヒトデ 16%
	令和2年 5月31日	出現種類数	39	53	69
		総個体数 (個体/0.25m ²)	8027	3283	1140
		総湿重量 (g/0.25m ²)	211.76	58.46	30.08
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 68% 第2位 マルエワレカラ 13% 第3位 Ampithoe属 6%	マルエワレカラ 48% キヌマトイガイ 9% Phoronis属 9%	Caprella属 16% マルエワレカラ 13% キヌマトイガイ 8% カマテワレカラ 8%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 66% 第2位 レイシガイ 15% 第3位 ムラサキイガイ 12%	キヒトデ 53% エゾカサネカンザシ 16% キヌマトイガイ 6%	レイシガイ 37% Cirratulus属 10% エゾカサネカンザシ 8%

・目視観察による調査結果

〔植 物〕

表 4-3 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点では、平均水面付近の主要種は経年的にアオサ属、アオノリ属などの小型の緑藻類であった。また、-1m 以深ではマクサ、ススカケベニ、ツルツル、カバノリ、イギス目などの紅藻、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるタマハハキモクが多くみられた。今回の調査では、平均水面付近においてアオノリ属、アオサ属が、-1 m 以深においては、紅藻のハイテングサ、マクサ、ムカデノリ、イワノカワ科、カバノリ、イギス目が主要種となり、過年度と同様の傾向を示した。

A-4 の地点のこれまでの調査では、平均水面付近の主要種は緑藻のアオサ属やシオグサ属などであった。また、-1m 以深ではススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリ、イギス目などの紅藻、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやタマハハキモクが多くみられた。今回の調査では、平均水面付近でアオノリ属が、-3m 付近で紅藻のマクサが、-5～-6 m 付近で紅藻のマサゴシバリが、-4m 付近でワカメが主要種となっており、過年度と大きな差異は認められなかった。

A-5 の地点では、これまでの調査では-1m 付近でアオサ属が確認され、-2m 以深でベニスナゴ、サビ亜科、イギス目などの紅藻が多くみられた。今回の調査では、海藻の生育は全体的に少なかった。

表 4-3 目視調査結果概要（植物） 神戸沖埋立処分場

A-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	藍藻綱	アオサ属 珪藻綱	タマハハキモク ツルツル フダク	ムカデノリ属 イギス科 マクサ ベニスナゴ	シダモク イギス科 マクサ ベニスナゴ	マクサ ベニスナゴ カバノリ	イギス科 マクサ ベニスナゴ ススカケベニ	イギス科 タオヤギソウ ススカケベニ	イギス科 ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	アオノリ属	アオサ属	タマハハキモク	ツルツル イギス目	ツルツル	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ タオヤギソウ	-	イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	アオサ属	-	タマハハキモク ムカデノリ カバノリ	タマハハキモク マクサ カバノリ	タマハハキモク マクサ	ムカデノリ イトグサ属	イトグサ属	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	-	アオサ属	-	-	イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-	-
	平成30年6月2日	-	アオサ属	-	-	シダモク	-	-	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月31日	藍藻綱	アオノリ属 アオサ属	ハイテングサ	マクサ	カバノリ	ムカデノリ	ムカデノリ	イワノカワ科 イギス目	イワノカワ科 イギス目	-	-	-	-
	種類数	平成22年5月30日 平成24年5月26日 平成26年6月1日 平成28年5月28日 平成30年6月2日 令和2年5月31日	2 1 1 2 2 3	6 8 2 3 3 9	8 11 7 6 8 14	8 10 10 9 12 14	7 8 9 7 6 9	8 6 7 8 5 12	7 8 6 6 4 9	6 7 4 4 4 10	3 7 1 4 2 6	2 3 1 1 2 5	1 2 2 1 1 2	0 - 1 - - -
A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫
	平成22年5月30日	-	シオグサ属 ツノマタ属 フダク	シオグサ属 フダク	アオサ属 タマハハキモク フダク	アオサ属 フダク ベニスナゴ イギス科 カバノリ	ベニスナゴ イギス科	ベニスナゴ サンゴモ目 ススカケベニ	サンゴモ目 ススカケベニ	ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	アオサ属	ツルツル	ツルツル イギス目	ツルツル カバノリ イギス目	フダク ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	-	フダク	アオサ属 タマハハキモク フダク ツノマタ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	-	マクサ	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	-	アオサ属	-	-	-	カバノリ イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-
	平成30年6月2日	-	-	-	ワカメ	ワカメ	-	-	-	-	-	-	-	-
主要種※	令和2年5月31日	-	アオノリ属 藍藻綱	-	-	アオサ属 マクサ	ワカメ	マサゴシハリ	マサゴシハリ	-	-	-	-	-
	種類数	平成22年5月30日 平成24年5月26日 平成26年6月1日 平成28年5月28日 平成30年6月2日 令和2年5月31日	0 0 0 0 0 0	5 5 2 5 3 5	7 8 5 6 8 10	11 9 9 7 6 7	11 8 8 6 6 9	6 12 7 4 5 12	6 6 11 3 4 12	5 5 6 5 3 10	2 5 4 4 3 0	2 5 4 4 3 0	0 1 2 1 0 0	0 - 1 - 0 -
A-5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	砂泥
	平成22年5月30日	-	アオノリ属 珪藻綱	アオサ属 珪藻綱	アオサ属 シオグサ属	-	サンゴモ目 イワノカワ科	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	-	-	-
	平成24年5月26日	-	-	アオサ属	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	イギス目	イギス目	-	-
	平成26年6月1日	-	-	アオサ属 フダク	ベニスナゴ	ベニスナゴ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	サビ亜科	ススカケベニ	-
	平成28年5月28日	-	-	-	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-	-	-	-
	平成30年6月2日	-	-	-	-	-	-	-	イギス目	-	-	-	-	-
主要種※	令和2年5月31日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種類数	平成22年5月30日 平成24年5月26日 平成26年6月1日 平成28年5月28日 平成30年6月2日 令和2年5月31日	0 0 0 0 0 0	3 0 0 0 0 0	7 5 6 2 4 5	5 6 3 4 7 5	2 5 6 4 8 5	4 6 8 3 9 9	3 6 8 4 5 8	2 8 6 4 4 6	3 7 5 2 2 8	2 4 3 2 2 4	1 3 3 2 2 4	0 4 2 2 2 3

※主要種：観察時の出現被度が10%以上の種を抽出

[動 物]

表 4-4 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ、タマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面付近では二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）、以深では環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）が多く出現した。今回の調査も同様の傾向であるが、これまでの調査と比較して、カンザシゴカイ科があまりみられなかった。

A-4 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビ、タマキビやイワフジツボ（固着性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のイボニシ、コモレビコガモガイ、キクノハナガイ（移動性）やムラサキイガイが、平均水面以深では巻貝類のレイシガイ（移動性）やカンザシゴカイ科やキヒトデ（移動性）が多く出現した。今回の調査では、アラレタマキビ、コモレビコガモガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

A-5 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではイワフジツボやムラサキイガイが、平均水面以深ではレイシガイ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデが多くみられた。今回の調査では、アラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

表 4-4 目視調査結果概要（動物） 神戸沖埋立処分場

A-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
調査日	基質	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ	-	カンザシゴカイ科 レイシガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ	イボニシ カラマツガイ	イボニシ	イボニシ	イボニシ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	ムギガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	カラマツガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱	-	キヒトデ	-	-	-	-
	平成28年5月28日	タマキビ アラレタマキビ	ムラサキイガイ	-	-	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
	平成30年6月2日	タマキビ アラレタマキビ	ムラサキイガイ	キヒトデ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月31日	アラレタマキビ タマキビ	イボニシ カラマツガイ	イボニシ キヒトデ	イトマキヒトデ	キヒトデ	カンザシゴカイ科	キヒトデ	キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	7	5	3	4	4	4	5	3	1	2	0	-
	平成24年5月26日	4	4	5	4	4	11	7	11	6	4	4	3	-
	平成26年6月1日	3	5	5	6	7	7	8	6	5	5	4	5	0
	平成28年5月28日	3	5	6	4	5	6	9	9	4	3	2	0	-
	平成30年6月2日	3	5	5	6	7	8	9	5	4	5	2	1	-
	令和2年5月31日	4	8	7	9	8	10	10	11	6	5	2	4	-

A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
調査日	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 イボニシ	キモレイシゴカイ科 カンザシゴカイ科 コケムシ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ イワフジツボ	レイシガイ イボニシ キクノハナガイ	レイシガイ サンカクフジツボ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科	-	レイシガイ	-	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	タマキビ アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	海綿動物門 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ ムラサキイガイ イタボガキ科	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 キヒトデ	裸鰓目 キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-	-
	平成30年6月2日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	-	-	-	-	-
	令和2年5月31日	アラレタマキビ タマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ	-	ヒドロ虫綱 Phoronis属	カンザシゴカイ科 Phoronis属	ミズヒキゴカイ科 キヒトデ	キヒトデ	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	8	7	5	3	5	1	2	1	0	0	1	-
	平成24年5月26日	4	5	9	9	6	9	11	7	7	4	4	1	-
	平成26年6月1日	3	8	6	7	8	8	5	4	4	2	2	1	1
	平成28年5月28日	2	7	7	7	11	10	8	7	7	4	4	2	-
	平成30年6月2日	2	8	6	8	9	8	9	7	5	6	4	2	-
	令和2年5月31日	6	15	9	10	11	11	7	8	4	4	1	0	-

A-5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
調査日	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	大礫円礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	タマキビ アラレタマキビ	-	レイシガイ イトマキヒトデ	レイシガイ ヨロロツバフツボ	ヨロロツバフツボ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	イワフジツボ クロフジツボ	レイシガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	レイシガイ サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 サンカクフジツボ イトマキヒトデ	サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	サンカクフジツボ	カゴメガイ イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	ヨメガサガイ コモレビコガモガイ カラマツガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	苔虫綱	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	マナマコ	-	-	-	-	-	-
	平成30年6月2日	-	アラレタマキビ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	キヒトデ	-	-	-	苔虫綱	-	-
	令和2年5月31日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ ムラサキイガイ イタボガキ科	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 Phoronis属 ホヤ綱(群生性)	ヒドロ虫綱 カンザシゴカイ科 Phoronis属 ホヤ綱(群生性)	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	4	6	5	3	6	6	6	4	5	2	1	0	-
	平成24年5月26日	1	5	7	9	8	5	5	8	8	5	6	0	0
	平成26年6月1日	1	9	8	12	13	13	13	10	6	6	6	6	1
	平成28年5月28日	2	7	8	9	12	9	10	6	6	7	7	5	0
	平成30年6月2日	0	6	5	8	10	8	6	8	7	7	7	4	0
	令和2年5月31日	2	6	7	11	10	8	10	9	10	6	6	3	4

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

(2) 大阪沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-5 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 93%、下層でもワカメが 67%を占め、最優占していた。中層では紅藻類のオオバツノマタが 43%で、次いでワカメが 39%と、全体的には、ワカメの優占度が高い状態となっていた。

これまでの調査と比較すると、上層では前回以前の緑藻のアオサ属や紅藻のフダラクに代わってワカメが優占していた。中層では前回調査の藻場を構成するワカメやタマハハキモクといった大型褐藻類、または紅藻類が優占する状況に変化はなかった。また、下層では前々回以前の紅藻類や小型褐藻類のフクロノリが優占する状況から前回と同様にワカメが最優占する状況に変化している。

表 4-5 坪刈り調査結果概要（植物） 大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
大阪沖 C-2	平成22年 5月29日	出現種類数	6	17	16
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.98	132.22	368.18
		優占種	第1位 アオサ属 89%	ススカケベニ 51%	ススカケベニ 93%
			第2位 アオノリ属 8%	ベニスナゴ 15%	フダラク 7%
			第3位 シオグサ属 3%	フダラク 14%	ツノマタ属 <0.1%
	平成24年 6月3日	出現種類数	5	14	16
		総湿重量 (g/0.25m ²)	7.46	1819.04	849.48
		優占種	第1位 アオサ属 95%	フダラク 89%	ベニスナゴ 61%
			第2位 ツノマタ属 2%	オオバツノマタ 8%	ワカメ 21%
			第3位 コシジフシツナギ 1%	タマハハキモク 3%	オオバツノマタ 3%
	平成26年 5月31日	出現種類数	3	14	15
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1.45	626.89	362.29
		優占種	第1位 アオサ属 98%	ワカメ 42%	ベニスナゴ 81%
			第2位 藍藻綱 2%	タマハハキモク 40%	ツルツル 13%
			第3位 シオグサ属 <0.1%	ムカデノリ属 6%	ワカメ 4%
	平成28年 5月29日	出現種類数	10	12	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	12.6	465.33	4.69
		優占種	第1位 アオサ属 78%	ツノマタ 57%	フクロノリ 61%
			第2位 シオグサ属 16%	オオバツノマタ 15%	アオサ属 14%
			第3位 ツノマタ 4%	フダラク 14%	ワカメ 14%
	平成30年 6月3日	出現種類数	10	19	15
		総湿重量 (g/0.25m ²)	158.89	1210.95	90.94
		優占種	第1位 フダラク 66%	ワカメ 76%	ワカメ 67%
			第2位 ツルツル 21%	フダラク 19%	フダラク 26%
			第3位 カバノリ 11%	カバノリ 2%	カバノリ 4%
	令和2年 5月24日	出現種類数	6	14	17
		総湿重量 (g/0.25m ²)	42.2	617.58	1007.19
		優占種	第1位 ワカメ 93%	オオバツノマタ 43%	ワカメ 67%
			第2位 アオサ属 7%	ワカメ 39%	シダモク 20%
			第3位 シオグサ属 0.3%	フダラク 10%	カバノリ 6%

〔 動 物 〕

表 4-6 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 72%、湿重量において 56% で優占的であった。中層では、甲殻類のマルエラワレカラ（移動性）が個体数において 63%、ムラサキイガイが湿重量において 32% を占め、最優占していた。下層では、マルエラワレカラが個体数において 36%、ウスボヤ科（固着性）が湿重量において 20% を占め、優占していた。

これまでの調査と比較して、上層でムラサキイガイが優占種となっている状況に大きな変化はみられず、中層では過年度に最優占種となったことのあるマルエラワレカラ、ムラサキイガイが優占していた。また、下層についても過去に優占していた尋常海綿綱、シマメノウフネガイやコシダカガンガラなどの小型の巻貝類（移動性）、ワレカラ類（移動性）、ホヤ類（固着性）が優占している状況に大きな変化はみられなかった。

表 4-6 坪刈り調査結果概要（動物） 大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
大阪沖 C-2	平成22年 5月29日	出現種類数	18	60	56
		総個体数 (個体/0.25m ²)	11998	5541	348
		総湿重量 (g/0.25m ²)	201.84	127.1	72.77
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99% 第2位 クマドリゴカイ <0.1% 第3位 ユンボノコエビ属 <0.1%	キヌマトイガイ 16% マルエワレカラ 15% アリアカドロケムシ 14%	ムギガイ 14% オサデレカラ 14% Thelepus属 11%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 100% 第2位 クマドリゴカイ <0.1% 第3位 シロマダラシリス <0.1% キクノハナガイ <0.1%	Thelepus属 38% エゾカサネカンザシ 17% キヌマトイガイ 8%	ゴダカカンガウ 53% コベルトフネガイ 13% Thelepus属 8%
	平成24年 6月3日	出現種類数	15	35	49
		総個体数 (個体/0.25m ²)	788	7094	179
		総湿重量 (g/0.25m ²)	72.06	55.73	7.97
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 77% 第2位 Amphioe 属 7% 第3位 イボニシ 4%	Monocorophium属 42% エゾカサネカンザシゴカイ 36% マルエワレカラ 9%	Caprella属 20% トゲワレカラ 13% Melita属 4%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 62% 第2位 ヨメガカサ 23% 第3位 ムラサキイガイ 3%	エゾカサネカンザシゴカイ 40% Thelepus属 10% マサゴゴカイ 9%	ゴダカカンガウ 30% レイシガイ 26% ムギガイ 8%
	平成26年 5月31日	出現種類数	23	59	54
		総個体数 (個体/0.25m ²)	11802	6437	784
		総湿重量 (g/0.25m ²)	653.98	53.08	22.98
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 94% 第2位 イワフジツボ 5% 第3位 キクノハナガイ 0.2%	マルエワレカラ 40% ムラサキイガイ 25% キヌマトイガイ 13%	Caprella属 42% トゲワレカラ 11% ユンボノコエビ科 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 96% 第2位 ヒザラガイ 1% 第3位 キクノハナガイ 1%	ムラサキイガイ 36% マルエワレカラ 16% キヌマトイガイ 11%	シマメノウナギ 52% ゴダカカンガウ 19% ムギガイ 10%
	平成28年 5月29日	出現種類数	26	57	52
		総個体数 (個体/0.25m ²)	14125	5863	1655
		総湿重量 (g/0.25m ²)	6579.56	67.31	56.82
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 83% 第2位 マルエワレカラ 14% 第3位 Hyale属 0.7%	マルエワレカラ 57% ムラサキイガイ 11% Aoroides属 10%	Aoroides属 37% Caprella属 22% Syllinae亜科 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 91% 第2位 マガキ 5% 第3位 イタボガキ科 3%	マガキ 41% マルエワレカラ 19% ムギガイ 7%	尋常海綿綱 40% オオヘビガイ 22% ミスヒキゴカイ科 10%
	平成30年 6月3日	出現種類数	46	71	68
		総個体数 (個体/0.25m ²)	90351	9489	10194
		総湿重量 (g/0.25m ²)	9252.9	171.06	591.04
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 89% 第2位 ユスリカ科 4% 第3位 ヨーロッパフジツボ 4%	キヌマトイガイ 22% マルエワレカラ 20% Caprella属 15%	クマノアシツキ 52% キヌマトイガイ 17% Caprella属 5%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 98% 第2位 ヒザラガイ 0.8% 第3位 ヨーロッパフジツボ 0.3%	キヌマトイガイ 26% Thelepus属 14% レイシガイ 12%	シロボヤ科 71% クマノアシツキ 8% キヌマトイガイ 5%
	令和2年 5月24日	出現種類数	30	49	62
		総個体数 (個体/0.25m ²)	2719	6231	7583
		総湿重量 (g/0.25m ²)	82.37	95.32	86.5
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 72% 第2位 マルエワレカラ 17% 第3位 Hyale属 4%	マルエワレカラ 63% ムラサキイガイ 26% Syllinae亜科 1%	マルエワレカラ 36% Dodecaceria属 26% Jassa属 19%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 56% 第2位 レイシガイ 24% 第3位 イボニシ 10%	ムラサキイガイ 32% マルエワレカラ 22% イボニシ 14%	ウスボヤ科 20% 尋常海綿綱 17% Cirratulus属 13%

・ 目視観察による調査結果

〔 植 物 〕

表 4-7 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点のこれまでの調査では、-1m 以深ではススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやシダモクが多くみられた。今回の調査では、-2~-7m でイワノカワ科、カバノリ、マサゴシバリ、ダジア属、イギス目といった紅藻類が主要種となっており、紅藻が主体の植物相に変化はなかった。

C-2 の地点のこれまでの調査では、±0~-1m で緑藻のアオサ属が、-1m 以深ではサンゴモ科、ススカケベニ、ツノマタ属、フダラク、ベニスナゴなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメが多くみられた。今回の調査でも、-1~-2m でアオサ属が、-1m 以深ではサンゴモ科、ススカケベニ、ツノマタ属、フダラクなどの紅藻類、-2~-4m ではワカメが多くみられた。

C-3 の地点のこれまでの調査では、±0~-3m で緑藻のアオサ属やシオグサ属が、-1m 以深ではサンゴモ科、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、イワノカワ科、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやシダモクやタマハハキモクが主要種となっていた。今回の調査では、+1~±0m でアオサ属、-1m でタマハハキモク、-2m でワカメ、-1~-9m でウスカワカニノテ、サンゴモ科、フダラク、イワノカワ科、オキツノリ、カバノリといった紅藻類が主要種となっていた。

表 4-7 目視調査結果概要（植物） 大阪沖埋立処分場

C-1	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	-	フダラク	フダラク	イギス科 ススカケベニ	シダモク ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	-	-	-
	平成24年6月3日	-	-	イギス目	ムカデノリ	ムカデノリ	シダモク ツルツル	ツルツル ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
	平成26年5月31日	-	-	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ フダラク	シダモク フダラク ツルツル ベニスナゴ	ワカメ サビ垂科 フダラク ベニスナゴ イトグサ属	ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
	平成28年5月29日	-	-	-	-	-	-	ツルツル	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ススカケベニ	-	-
	平成30年6月3日	-	-	-	ワカメ	-	-	-	ベニスナゴ	ベニスナゴ	-	-	-
	令和2年5月24日	-	-	-	カハノリ イギス目	イギス目	マサゴシハリ ダジア属	マサゴシハリ ダジア属 イギス目	ダジア属 イギス目	イワノカワ科 カハノリ イギス目	-	-	-
	令和2年5月24日	-	-	-	カハノリ イギス目	イギス目	マサゴシハリ ダジア属	マサゴシハリ ダジア属 イギス目	ダジア属 イギス目	イワノカワ科 カハノリ イギス目	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	4	2	5	5	3	3	2	1	1
	平成24年5月26日	0	2	5	6	5	12	6	5	4	4	1	1
	平成26年5月31日	0	3	3	4	4	8	12	10	10	6	3	3
	平成28年5月29日	0	2	5	5	1	8	8	6	6	3	3	0
	平成30年6月3日	0	1	3	5	4	4	9	8	7	4	3	2
	令和2年5月24日	0	1	3	5	8	9	9	11	11	7	6	1
C-2	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	ススカケベニ イギス科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科 ススカケベニ サンゴモ目	イワノカワ科 ススカケベニ	イワノカワ科 ススカケベニ	-	-
	平成24年6月3日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク ツルツル	ツノマタ属 フダラク	ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツルツル ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ カハノリ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ススカケベニ	サンゴモ科
	平成26年5月31日	-	-	ワカメ フダラク オオハハキモク ツノマタ	ワカメ タマハハキモク フダラク	ワカメ フダラク オオハハキモク ツノマタ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ カハノリ	シダモク サビ垂科 ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ垂科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ垂科
	平成28年5月29日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツノマタ属	アオサ属	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	-	-
	平成30年6月3日	-	-	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ ツノマタ属 フダラク	-	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科	-	-
	令和2年5月24日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	アオサ属 ワカメ ツノマタ属 フダラク	ヤハズグサ コモングサ ワカメ アカモク ツノマタ属	ワカメ カハノリ	ヤハズグサ ツノマタ属	コモングサ サンゴモ科	ヤハズグサ ススカケベニ カハノリ	ススカケベニ	-	-
	令和2年5月24日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	アオサ属 ワカメ ツノマタ属 フダラク	ヤハズグサ コモングサ ワカメ アカモク ツノマタ属	ワカメ カハノリ	ヤハズグサ ツノマタ属	コモングサ サンゴモ科	ヤハズグサ ススカケベニ カハノリ	ススカケベニ	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	7	6	5	7	5	5	4	3	1	0
	平成24年5月26日	0	0	6	7	7	8	7	4	3	4	5	2
	平成26年5月31日	0	2	8	9	7	7	7	11	7	5	5	3
	平成28年5月29日	0	1	5	7	5	5	4	1	1	1	3	2
	平成30年6月3日	0	3	7	7	7	7	5	5	5	3	3	1
	令和2年5月24日	0	1	6	6	14	7	12	14	13	10	6	4
C-3	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	アオサ属 シオグサ属 フダラク	フダラク ベニスナゴ	シダモク ベニスナゴ	イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	-
	平成24年6月3日	-	アオサ属	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル カハノリ	ツルツル フダラク ベニスナゴ カハノリ	ベニスナゴ	ベニスナゴ	サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科	サビ垂科 ススカケベニ
	平成26年5月31日	-	アオサ属	フダラク ツルツル	シオグサ属 フダラク ツルツル	タマハハキモク フダラク ツルツル ベニスナゴ カハノリ	ワカメ シダモク ツルツル ベニスナゴ カハノリ	サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科	-
	平成28年5月29日	-	シオグサ属	シオグサ属 フダラク	シオグサ属	アオサ属	-	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科
	平成30年6月3日	-	-	タマハハキモク	-	ワカメ	-	イワノカワ科 ベニスナゴ	サンゴモ科	サンゴモ科 ベニスナゴ	-	-	-
	令和2年5月24日	アオサ属	アオサ属	シオモドロ科 タマハハキモク ウスカワカニチ フダラク	ワカメ ウスカワカニチ フダラク	カハノリ	-	サンゴモ科 オキツリ	イワノカワ科	イワノカワ科	イワノカワ科	イワノカワ科	-
	令和2年5月24日	アオサ属	アオサ属	シオモドロ科 タマハハキモク ウスカワカニチ フダラク	ワカメ ウスカワカニチ フダラク	カハノリ	-	サンゴモ科 オキツリ	イワノカワ科	イワノカワ科	イワノカワ科	イワノカワ科	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	6	4	4	2	4	5	4	3	1
	平成24年5月26日	0	2	6	7	9	7	3	3	3	4	4	2
	平成26年5月31日	0	2	5	6	7	10	6	6	5	5	5	3
	平成28年5月29日	0	4	8	7	8	8	3	2	3	3	3	1
	平成30年6月3日	0	2	9	9	10	5	6	4	4	4	4	2
	令和2年5月24日	1	2	9	9	8	12	8	9	4	6	5	4

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

〔 動 物 〕

表 4-8 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1～±0m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のコモレビコガモガイ、イボニシ、カラマツガイ（移動性）や二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）やイワフジツボ（固着性）が、平均水面以深ではムラサキイガイ、環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）、キヒトデ（移動性）、ホヤ綱（固着性）などが多く出現した。今回の調査でも、アラレタマキビ、コモレビコガモガイ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデ、ホヤ綱などが主要種となり、同様の出現傾向を示した。

C-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではコモレビコガモガイ、イボニシ、巻貝類のキクノハナガイ（移動性）、ムラサキイガイ、イワフジツボなどが、平均水面以深では尋常海綿綱（固着性）やカンザシゴカイ科が多く出現した。今回の調査でも、アラレタマキビ、コモレビコガモガイ、キクノハナガイ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

C-3 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではイボニシ、キクノハナガイ、ムラサキイガイなどが、平均水面以深ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱（固着性）などが主要種となっていた。今回の調査でも、アラレタマキビ、イボニシ、カンザシゴカイ科、苔虫綱が主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

表 4-8 目視調査結果概要（動物） 大阪沖埋立処分場

C-1	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 レイシガイ ホヤ綱	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 ホヤ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	-	-	-	コケムシ綱	コケムシ綱	コケムシ綱
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	ホヤ綱	-	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	アラレタマキビ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群集性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群集性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群集性)	-	-	-	-	-	キヒトデ	-
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コメレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ マガキ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	コメレビコガモガイ カラマツガイ ムラサキイガイ イタボガキ科 イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	-	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ
	令和2年5月24日	アラレタマキビ タマキビ	コメレビコガモガイ ムラサキイガイ マガキ	ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群集性)	尋常海綿綱 ミズヒメゴカイ科 ホヤ綱(群集性)	キヒトデ	キヒトデ	-	イトマキヒトデ属	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	3	8	5	8	5	3	3	4	6	2	2
	平成24年5月26日	2	11	8	6	5	7	6	7	4	3	3	3
	平成26年5月31日	3	8	8	8	9	5	6	3	3	4	3	2
	平成28年5月29日	2	8	6	7	9	6	5	4	3	3	2	2
	平成30年6月3日	1	7	4	8	10	8	5	6	5	5	3	4
	令和2年5月24日	2	5	7	10	10	10	9	6	10	6	8	4

C-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	コシダカガンガラ イトマキヒトデ	コシダカガンガラ サンカクフジツボ	-	-	-	-	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ イワフジツボ	イボニシ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	ヨメガカサ ウノアシ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ	ムギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コメレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ イタボガキ科	-	-	カンザシゴカイ科	-	尋常海綿綱	苔虫綱	-	-	-	-
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	コメレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月24日	マツバガイ アラレタマキビ タマキビ ムラサキイガイ	ヒザラガイ コメレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ	キヒトデ	-	カンザシゴカイ科	Phoronis属	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	2	3	8	5	4	6	4	5	6	5	2
	平成24年5月26日	2	10	4	7	7	6	7	6	4	3	7	4
	平成26年5月31日	3	10	7	7	10	4	4	2	3	2	1	3
	平成28年5月29日	2	10	6	6	6	4	5	5	3	4	3	2
	平成30年6月3日	2	6	4	5	8	8	6	5	3	5	3	2
	令和2年5月24日	4	7	7	8	8	8	9	7	8	4	6	4

C-3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ヤドカリ科	カンザシゴカイ科	コケムシ綱	-	コケムシ綱	コケムシ綱	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 苔虫綱 ムギガイ	コシダカガンガラ	イトマキヒトデ	-	-	-	-
	平成26年5月31日	-	イボニシ ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科	-	-	-	苔虫綱	苔虫綱	アミコケムシ科
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ	イボニシ ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	苔虫綱	苔虫綱	-	-	-
	令和2年5月24日	アラレタマキビ	コメレビコガモガイ イボニシ	尋常海綿綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 Phoronis属	-	苔虫綱	キヒトデ	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	5	1	3	5	6	4	6	5	5	3	3
	平成24年5月26日	1	7	3	6	4	5	4	4	3	4	2	3
	平成26年5月31日	3	6	6	9	8	7	7	5	3	3	3	3
	平成28年5月29日	1	4	3	7	7	7	4	4	2	2	1	0
	平成30年6月3日	1	3	3	6	7	6	5	5	4	2	3	3
	令和2年5月24日	2	4	4	8	8	8	5	8	9	7	4	8

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

(3) 泉大津沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-9 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 では、上層で緑藻のアオサ属が 94%を占め、中層でもアオサ属が 82%を占めていた。下層では紅藻のシキンノリが 93%を占めていた。これまでの調査と比較すると、下層でフダラク、ムカデノリ属、ベニスナゴ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻やワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が優占的であった点で変化がないが、上層と中層については、紅藻やワカメに代わってアオサ属が最優占している点で変化が認められる。

D-3 では、上層で紅藻のムカデノリが 52%を占め、優占的であった。中層ではワカメが 84%を占め、下層でもワカメが 72%を占めていた。これまでの調査では、上層で緑藻のシオグサ属やミル、紅藻のコスジフシツナギが、中層でミルやワカメが、下層でワカメやタオヤギソウが優占する状況であり、今年度も同様の分布傾向を示した。

D-7 では、Co 製パネル、鋼製パネル、護岸壁ともに上層でアオサ属が 100%を占めていた。中層では、アオサ属が Co 製パネルで 48%、鋼製パネルで 98%を占め、最優占していた。護岸壁の中層のみ、ムカデノリが 92%で優占的であった。

表 4-9 (1) 坪刈り調査結果概要 (植物) 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
泉大津沖 D-2	平成22年 5月21日	出現種類数	7	7	13
		総湿重量 (g/0.25m ²)	7.77	4662.46	960.24
		優占種	第1位 ベニスナゴ 40%	ワカメ 100%	タオヤギソウ 65%
			第2位 イトグサ属 26%	ベニスナゴ <0.1%	ワカメ 25%
			第3位 フダラク 19%	ツノマタ属 <0.1%	ツノマタ属 5%
	平成26年 6月2日	出現種類数	11	17	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	19.88	242.82	475.51
		優占種	第1位 ムカデノリ属 50%	ワカメ 85%	カバノリ 46%
			第2位 フダラク 34%	ムカデノリ 5%	ワカメ 33%
			第3位 アオサ属 12%	アオサ属 3%	タオヤギソウ 17%
	平成28年 6月4日	出現種類数	18	19	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	592.1	1080.39	391.83
		優占種	第1位 ワカメ 74%	ワカメ 99%	ワカメ 85%
			第2位 フダラク 15%	フダラク 0.8%	カバノリ 8%
			第3位 ツルツル 5%	ムカデノリ属 0.2%	タオヤギソウ 6%
	平成30年 5月26日	出現種類数	15	10	14
		総湿重量 (g/0.25m ²)	72.16	856.91	488.27
		優占種	第1位 フダラク 90%	ワカメ 95%	タオヤギソウ 45%
			第2位 カバノリ 4%	カバノリ 4%	ワカメ 33%
			第3位 ツルツル 3%	ムカデノリ 0.9%	カバノリ 12%
	令和2年 5月30日	出現種類数	6	10	9
		総湿重量 (g/0.25m ²)	8.87	84.48	312.9
		優占種	第1位 アオサ属 94%	アオサ属 82%	シキンノリ 93%
			第2位 カヤモノリ 6%	ムカデノリ 12%	カバノリ 4%
			第3位 シオミドロ科 0.2%	フダラク 5%	ダリア属 1%
泉大津沖 D-3	平成22年 5月21日	出現種類数	3	4	8
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.13	0.40	1.82
		優占種	第1位 シオグサ属 100%	ミル 70%	ワカメ 84%
			第2位 アオノリ属 <0.1%	ダリア属 28%	アオサ属 15%
			第3位 アオサ属 <0.1%		
	平成26年 6月2日	出現種類数	2	8	6
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.04	475.27	99.13
		優占種	第1位 ユシヅシツナギ 100%	ワカメ 94%	タオヤギソウ 97%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	タオヤギソウ 6%	ススカケベニ 3%
			第3位 出現なし	ススカケベニ 0.2%	イギス科 0.3%
	平成28年 6月4日	出現種類数	2	11	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.49	45.8	136.19
		優占種	第1位 シオグサ属 100%	ワカメ 98%	ワカメ 44%
			第2位 アオノリ属 <0.1%	ベニスナゴ 1%	タオヤギソウ 28%
			第3位 出現なし	藍藻綱 1%	ススカケベニ 23%
	平成30年 5月26日	出現種類数	4	9	5
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.45	122.66	89.61
		優占種	第1位 ミル 82%	ワカメ 98%	タオヤギソウ 79%
			第2位 シオグサ属 18%	ミル 1%	ワカメ 13%
			第3位 アオノリ属 <0.1%	オオバツノマタ 0.8%	ススカケベニ 8%
	令和2年 5月30日	出現種類数	9	8	7
		総湿重量 (g/0.25m ²)	4.88	47.82	5.00
		優占種	第1位 ムカデノリ 52%	ワカメ 84%	ワカメ 72%
			第2位 マクサ 44%	マクサ 15%	ススカケベニ 19%
			第3位 アオサ属 3%	ツルツル 0.6%	カバノリ 7%

表 4-9 (2) 坪刈り調査結果概要 (植物) 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目		Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁	
				上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)
泉大津沖 D-7	令和2年 5月30日	出現種類数		2	3	1	5	2	6
		総湿重量 (g/0.01m ²)		0.02	0.21	0.01	0.49	0.01	3.23
		優占種	第1位	アオサ属 100%	アオサ属 48%	アオサ属 100%	アオサ属 98%	アオサ属 100%	ムカデノリ 92%
			第2位	アオノリ属 <0.1%	シオミドロ科 38%	出現なし	シオグサ属 2%	アオノリ属 <0.1%	アオサ属 7%
			第3位	出現なし	アオノリ属 14%	出現なし	アオノリ属 <0.1% シオミドロ科 <0.1% 藍藻綱 <0.1%	出現なし	シオグサ属 0.3% フクロノリ 0.3%

[動 物]

表 4-10 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点では、上層で個体数においては甲殻類のマルエラワレカラ（移動性）が 70%と大半を占め、湿重量においては巻貝のイボニシ（移動性）が 66%と大半を占めていた。中層では個体数においては甲殻類の Ampithoe 属（移動性）が 50%で半数を占め、湿重量においては巻貝のレイシガイ（移動性）が 35%、イボニシが 22%の順であった。下層では個体数においてはマルエラワレカラが 50%で半数を占め、湿重量においては環形動物のエゾカサネカンザシゴカイ（固着性）が 44%、マルエラワレカラが 14%の順であった。これまでの調査と比較すると、上層でイボニシ、二枚貝のムラサキイガイ（固着性）、マルエラワレカラが優占的である点は同様であった。下層で巻貝のコシダカガンガラ（移動性）、二枚貝のキヌマトイガイ（固着性）、エゾカサネカンザシゴカイ、ヨーロッパフジツボ（固着性）が優占的であったが、湿重量についてはエゾカサネカンザシゴカイが優占的である点は同様であったが、個体数ではマルエラワレカラが最優占種となっていた。中層では各年度で優占種が変化する傾向がみられた。

D-3 の地点では、上層では個体数においてはムラサキイガイが 24%、次いでマルエラワレカラが 19%を占め、湿重量においてはムラサキイガイが 74%で大半を占めていた。中層では、箒虫動物の Phoronis 属（固着性）が個体数において 72%と大半を占め、湿重量においては Phoronis 属が 32%、ホヤ綱のウスボヤ科（固着性）が 30%の順であった。下層では個体数において甲殻類の Caprella 属（移動性）が 34%、次いで Phoronis 属が 17%を占め、湿重量においてはウスボヤ科が 59%で大半を占めていた。これまでの調査と比較すると、全体的にはムラサキイガイ、キヌマトイガイ、エゾカサネカンザシゴカイ、Phoronis 属が優占的である点で同様の傾向を示したが、最優占種については下層の湿重量におけるウスボヤ科については過去に優占種になったことのない種である。

D-7 の地点の Co 製パネルの上層ではイワフジツボ（固着性）が個体数において 91%、湿重量において 55%と大半を占めていた。Co 製パネルの中層では環形動物のカサネカンザシゴカイ（固着性）が 61%で大半を占め、湿重量においてはホヤ綱のマボヤ科（固着性）が 27%、次いでエゾカサネカンザシゴカイが 19%を占めていた。鋼製パネルの上層ではヨーロッパフジツボが個体数において 60%、湿重量において 93%と大半を占めていた。鋼製パネルの中層ではカサネカンザシゴカイが 63%で大半を占め、湿重量においてはムラサキイガイが 60%と大半を占めていた。護岸壁の上層ではイワフジツボが個体数において 77%と大半を占め、湿重量においてはイボニシが 44%、二枚貝のイタボガキ科（固着性）が 38%の順であった。護岸壁の中層ではイワフジツボ（固着性）が個体数において 93%、湿重量において 83%と大半を占めていた。

表 4-10 (1) 坪刈り調査結果概要 (動物) 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
泉大津沖 D-2	平成22年 5月21日	出現種類数	22	53	52
		総個体数 (個体/0.25m ²)	18592	1929	1131
		総湿重量 (g/0.25m ²)	807.48	24.63	21.44
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	Zeuxo属 23%	Polydora属 24%
			第2位 マサゴコカイ 0.3%	Jassa属 20%	アリアゲ'ロダムシ 19%
			第3位 シロダラシリス 0.2%	ムラサキイガイ 15%	マルエワレカラ 10%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 97%	ネンエキボヤ 30%	ゴダカ'ンガラ 60%
			第2位 レイシガイ 2%	ゴダカ'ンガラ 20%	コブコケムシ科 6%
			第3位 マサゴコカイ 0.2%	レイシガイ 16%	ヒラコケムシ科 6%
	平成26年 6月2日	出現種類数	31	53	54
		総個体数 (個体/0.25m ²)	16584	2425	432
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1242.48	37.92	30.13
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 49%	キヌマトイガイ 24%
			第2位 イボニシ 0.3%	キヌマトイガイ 20%	ヨーロッパ'ンツホ' 12%
			第3位 Acanthochitona属 0.2%	ヨーロッパ'ンツホ' 6%	Jassa属 8%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 94%	ムラサキイガイ 68%	ゴダカ'ンガラ 40%
			第2位 イボニシ 5%	キヌマトイガイ 10%	ヒラコケムシ科 27%
			第3位 Acanthochitona属 1%	レイシガイ 8%	レイシガイ 6%
	平成28年 6月4日	出現種類数	41	59	74
		総個体数 (個体/0.25m ²)	10321	1627	1064
		総湿重量 (g/0.25m ²)	202.8	43.28	31.24
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 92%	マルエワレカラ 29%	キヌマトイガイ 51%
			第2位 マルエワレカラ 5%	キヌマトイガイ 15%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 8%
			第3位 キヌマトイガイ 0.9%	ムラサキイガイ 13%	Zeuxo属 4%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 48%	裸鰓目 53%	キヌマトイガイ 18%
			第2位 ムラサキイガイ 38%	ヒラコケムシ科 7%	ゴダカ'ンガラ 12%
			第3位 レイシガイ 5%	尋常海綿綱 5%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 12%
	平成30年 5月26日	出現種類数	29	69	61
		総個体数 (個体/0.25m ²)	334	3833	1182
		総湿重量 (g/0.25m ²)	27.46	119.74	71.6
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 33%	キヌマトイガイ 24%	ヨーロッパ'ンツホ' 31%
			第2位 マルエワレカラ 23%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 10%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 27%
			第3位 Jassa属 6%	Caprella属 9%	キヌマトイガイ 10%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 34%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 19%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 25%
			第2位 ゴダカ'ンガラ 15%	ゴダカ'ンガラ 18%	レイシガイ 11%
			第3位 ヨメガカサ 12%	キヌマトイガイ 13%	イトマキヒトデ 10%
	令和2年 5月30日	出現種類数	25	34	66
		総個体数 (個体/0.25m ²)	479	1015	6128
		総湿重量 (g/0.25m ²)	19.15	12.2	68.14
		優占種 (個体数)	第1位 マルエワレカラ 70%	Ampithoe属 50%	マルエワレカラ 50%
			第2位 Aoroides属 10%	Aoroides属 15%	トゲワレカラ 19%
			第3位 ムラサキイガイ 5%	マルエワレカラ 9%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 12%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 66%	レイシガイ 35%	エ'ガサネカンザ'ンゴカイ 44%
			第2位 キクノハナガイ 20%	イボニシ 22%	マルエワレカラ 14%
			第3位 ヨメガカサ 5%	Ampithoe属 14%	ムギガイ 9%

表 4-10 (2) 坪刈り調査結果概要 (動物) 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
泉大津沖 D-3	平成22年 5月21日	出現種類数	24	60	74
		総個体数 (個体/0.25m ²)	38331	14785	3401
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1719.05	972.33	216.93
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 71%	エゾササカサシゴカイ 23%
			第2位 Typosyllis属 0.2%	エゾササカサシゴカイ 18%	アリアケトノダムシ 19%
			第3位 タマキビ 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ドロクダムシ属 8%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 98%	ムラサキイガイ 75%	エゾササカサシゴカイ 16%
			第2位 カラマツガイ 1%	エゾササカサシゴカイ 10%	アミコケムシ科 15%
			第3位 マガキ 1%	レイシガイ 3%	キクザル属 14%
	平成26年 6月2日	出現種類数	35	89	92
		総個体数 (個体/0.25m ²)	38999	13938	7910
		総湿重量 (g/0.25m ²)	3736.04	216.08	178.95
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	Phoronis属 58%	Pugettia属 25%
			第2位 キヌマトイガイ 0.4%	キヌマトイガイ 22%	キヌマトイガイ 16%
			第3位 紐形動物門 0.1%	Dodecaceria属 7%	Caprella属 10%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 20%	フサコケムシ科 33%
			第2位 イボニシ 1%	キヌマトイガイ 18%	ムラサキイガイ 15%
			第3位 Ostrea属 1%	フサコケムシ科 13%	ハクテコケムシ科 13%
	平成28年 6月4日	出現種類数	30	68	89
		総個体数 (個体/0.25m ²)	60745	17276	2069
		総湿重量 (g/0.25m ²)	5408.33	1332.02	168.55
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 59%	キヌマトイガイ 25%
			第2位 Syllinae亜科 0.6%	ムラサキイガイ 30%	マルエワレカラ 12%
			第3位 紐形動物門 0.5%	キヌマトイガイ 4%	ムラサキイガイ 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 89%	ムラサキイガイ 85%	フサコケムシ科 24%
			第2位 マガキ 10%	Phoronis属 6%	アミコケムシ科 18%
			第3位 紐形動物門 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ムラサキイガイ 9%
	平成30年 5月26日	出現種類数	43	50	49
		総個体数 (個体/0.25m ²)	1312	23213	1644
		総湿重量 (g/0.25m ²)	67.69	400.08	191.36
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 43%	クマノアシツキ 78%	キヌマトイガイ 29%
			第2位 イワフジツボ 12%	エゾササカサシゴカイ 7%	エゾササカサシゴカイ 25%
			第3位 シケンウミゼミ 11%	マサゴコカイ 5%	ケヤリムシ科 6%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 30%	エゾササカサシゴカイ 28%	カモノアシエガイ科 20%
			第2位 マガキ 21%	クマノアシツキ 18%	エゾササカサシゴカイ 17%
			第3位 ヨメガカサ 21%	ムラサキイガイ 15%	キヒトデ 15%
	令和2年 5月30日	出現種類数	65	61	77
		総個体数 (個体/0.25m ²)	3078	11730	6547
		総湿重量 (g/0.25m ²)	358.79	122.63	372.05
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 24%	Phoronis属 72%	Caprella属 34%
			第2位 マルエワレカラ 19%	Aoroides属 6%	Phoronis属 17%
			第3位 Dodecaceria属 11%	マルエワレカラ 4%	Monocorophium属 14%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 74%	Phoronis属 32%	ウスボヤ科 59%
			第2位 マボヤ科 5%	ウスボヤ科 30%	サンショウウニ 9%
			第3位 レイシガイ 4%	尋常海綿綱 6%	エゾササカサシゴカイ 8%

表 4-10 (3) 坪刈り調査結果概要 (植物) 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁	
			上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (L.W.L. +0.25m)
泉大津沖 D-7	令和2年 5月30日	出現種類数	11	41	17	40	23	12
		総個体数 (個体/0.01m ²)	723	783	77	584	890	494
		総湿重量 (g/0.01m ²)	6.1	14.68	0.88	11.15	37.94	0.92
		優占種 (個体数)	第1位	イワフジツボ 91%	カサネカンザシゴカイ 61%	ヨーロパフジツボ 60%	カサネカンザシゴカイ 63%	イワフジツボ 77%
			第2位	Dynoides属 6%	エゾカサネカンザシゴカイ 8%	Zeuxo属 13%	ムラサキイガイ 14%	Dynoides属 13%
			第3位	イタボガキ科 2%	マサゴゴカイ 5%	Jassa属 4%	マサゴゴカイ 3%	好ジマフジツボ 1%
		優占種 (湿重量)	第1位	イワフジツボ 55%	マボヤ科 27%	ヨーロパフジツボ 93%	ムラサキイガイ 60%	イボニシ 44%
			第2位	イタボガキ科 43%	エゾカサネカンザシゴカイ 19%	サンカクフジツボ 3%	カサネカンザシゴカイ 11%	イタボガキ科 38%
			第3位	Dynoides属 1%	ムラサキイガイ 15%	Ampithoe属 1%	ウスボヤ科 4%	イワフジツボ 16%
					Zeuxo属 1%			好ジマフジツボ 3%
					モンゴチカムシ科 1%			

・目視観察による調査結果

〔植 物〕

表 4-11 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点でのこれまでの調査では、-1～-2m で緑藻類のアオサ属が、±0～-5m では藻場を構成する一年生の大型褐藻類であるワカメが、±0m 以深ではムカデノリ、フダラク、ツルツル、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。今回の調査でも、-1～-2m でアオサ属が、-2～-9m でムカデノリ、カバノリ、タオヤギソウなどが多くみられ、同様の出現傾向を示していたが、ワカメの被度は低かった。

D-3 の地点でのこれまでの調査では、-1～-5m ではワカメが、-3m 以深ではススカケベニ、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。今回の調査では、-2～-3m でワカメが、-6～-9m でススカケベニが主要種となっており、過年度と同様の傾向を示した。

D-5 の地点では、平成 26 年度調査では+1m で藍藻が主要種となっていた。その他の年度では今回の調査も含めて、壁面、遊水室ともに海藻がみられなかった。

D-6 の地点でのこれまでの調査では、壁面の+1～-1m で緑藻類のアオノリ属、アオサ属が、±0～-4m ではワカメが、±0m 以深ではススカケベニ、ムカデノリ、フダラク、ツルツル、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。遊水室では藻類の生育はわずかであった。今回の調査でも、壁面では-3m でタオヤギソウが多くみられ、遊水室での藻類の繁茂がないなど過年度と同様の出現傾向を示していたが、ワカメの生育はなかった。

D-7 の地点では、Co 製パネルの M. W. L. ±0m～L. W. L+0.25m と護岸壁の L. W. L+0.25m～M. W. L. -2m でアオサ属が主要種となっていた。護岸壁では-3～-4m でタオヤギソウが主要種となっていた。鋼製パネルでは藻類の付着は少なかった。

表 4-11 (1) 目視調査結果概要 (植物) 泉大津沖埋立処分場

D-2	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	-	-	ワカメ フダラク オオバツノマタ	ワカメ ムカデノリ属 ツルツル	ワカメ ムカデノリ属 オオバツノマタ	ワカメ オオバツノマタ ベニスナゴ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	ワカメ ベニスナゴ カバノリ タオヤギソウ	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	シオグサ属	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ ムカデノリ カバノリ	ワカメ ムカデノリ タオヤギソウ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	カバノリ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ カバノリ イトグサ属	イトグサ属	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ フダラク ツルツル	アオサ属 ワカメ	ワカメ	ワカメ カバノリ	ワカメ	カバノリ タオヤギソウ	マクサ カバノリ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	平成30年5月26日	-	-	アオサ属 ワカメ	ワカメ	ワカメ ムカデノリ カバノリ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月30日	-	-	アオサ属	アオサ属 ムカデノリ カバノリ	ムカデノリ カバノリ	ムカデノリ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	タオヤギソウ	-	ススカケベニ	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	0	4	9	7	9	8	6	7	4	3	0	0	0	0	0
	平成26年6月2日	0	4	7	7	8	6	4	4	5	4	2	3	2	1	0
	平成28年6月4日	0	2	8	8	8	2	6	7	7	5	3	2	2	0	0
	平成30年5月26日	0	4	10	7	8	5	4	7	4	4	3	2	2	0	0
	令和2年5月30日	0	2	9	7	7	7	9	7	4	4	3	2	2	0	0
D-3	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日 基質	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	ケーソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	-	-	ワカメ	-	-	-	-	-	イギス科 ベニスナゴ	イギス科 ススカケベニ	イギス科	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	-	-	ワカメ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	-	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	イトグサ属	イトグサ属	-	-
	平成28年6月4日	-	-	ワカメ	ワカメ	ワカメ ススカケベニ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	-	-	-	-	-
	平成30年5月26日	-	-	-	ワカメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月30日	-	-	-	マクサ	ワカメ	-	-	ススカケベニ	ススカケベニ	ワカメ ススカケベニ	ススカケベニ	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	0	2	3	1	2	0	0	0	5	4	3	1	0	0	0
	平成26年6月2日	0	3	1	1	3	2	2	2	4	4	2	2	1	1	0
	平成28年6月4日	0	0	3	6	2	4	3	3	4	3	2	2	1	1	0
	平成30年5月26日	0	0	4	7	6	6	5	4	5	4	2	2	1	1	0
	令和2年5月30日	0	0	5	4	7	6	3	5	4	3	2	3	3	2	0

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

表 4-11 (2) 目視調査結果概要 (植物) 泉大津沖埋立処分場

D-5		エコ岸壁							
		壁面					遊水室		
		+1 ケーソン	±0 石網	-1 ケーソン	-2 ケーソン	-3 ケーソン	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	藍藻綱	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成30年5月26日	-	-	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月30日	-	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成26年6月2日	1	0	0	0	0	0	0	0
	平成28年6月4日	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成30年5月26日	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年5月30日	0	0	0	0	0	0	0	0

D-6		エコ岸壁												
		壁面							遊水室					
		+1 ケーソン	±0 石網	-1 ケーソン	-2 ケーソン	-3 ケーソン	-4 ケーソン	-5 ケーソン	上室			下室		
主要種※	平成22年5月21日	アオリ属	アオリ属 アオサ属	アオサ属 ワカメ	アオサ属 ワカメ	ワカメ	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	アオサ属	ツルツル	-	ワカメ タオヤギソウ	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ	-	-	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	ワカメ フダラク	ムカデノリ	-	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	平成30年5月26日	-	-	ワカメ ムカデノリ	-	タオヤギソウ	タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	令和2年5月30日	-	-	-	-	タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	2	6	6	5	6	6	2	0	0	1	0	0	3
	平成26年6月2日	0	1	4	4	7	3	2	0	0	2	0	0	3
	平成28年6月4日	0	7	5	8	5	2	2	0	0	3	0	2	6
	平成30年5月26日	0	5	7	9	6	4	3	0	0	3	0	1	5
	令和2年5月30日	0	3	9	8	8	4	4	0	0	2	0	1	4

D-7		Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁							
		M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.		L.W.L.	M.W.L.				
		±0	+0.25	±0	+0.25	+1	±0	+0.25	-2	-3	-4	-5	-6
主要種※	調査日	Co		鋼		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	基質												
主要種※	令和2年5月30日	アオサ属	アオサ属	-	-	-	-	アオサ属	アオサ属	タオヤギソウ	タオヤギソウ	-	-
種類数	令和2年5月30日	1	1	1	3	0	1	4	8	8	6	6	4

※主要種：観察時の出現被度が10%以上の種を抽出

[動 物]

表 4-12 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のイボニシ（移動性）、二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）、イワフジツボ（固着性）が、平均水面以深では環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）、苔虫綱（固着性）、キヒトデ（移動性）が多く出現した。今回の調査もアラレタマキビ、イボニシ、イワフジツボ、苔虫綱、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の出現傾向を示していた。

D-3 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では巻貝類のコモレビコガモガイ（移動性）、イボニシ、カラマツガイ（移動性）、ムラサキイガイなどが、平均水面以深では尋常海綿綱（固着性）、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ（移動性）、キヒトデなどが多く出現した。今回の調査でも、コモレビコガモガイ、アラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

D-5 の地点のこれまでの調査では、壁面の平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。壁面の平均水面付近ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などが、平均水面以深では巻貝類のレイシガイ（移動性）、カンザシゴカイ科、苔虫綱が多くみられた。遊水室内ではレイシガイ、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデなどが多く生息していた。今回の調査では、壁面ではアラレタマキビ、イボニシ、カンザシゴカイ科、苔虫綱が主要種となり、これまでの調査と同様の生息状況を示していた。遊水室内ではカンザシゴカイ科、箒虫動物の Phoronis 属（固着性）、苔虫綱の固着性の動物が主要種となり、移動性のレイシガイ、イトマキヒトデ、キヒトデなどの生息数は比較的少なかった。

D-6 の地点のこれまでの調査では、壁面の平均水面+1m でアラレタマキビやイワフジツボが多くみられた。壁面の平均水面付近ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などが、平均水面以深ではムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデなどが多く生息していた。遊水室の上室、下室内では巻貝類のシマメノウフネガイ（移動性）、レイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコ（移動性）などが多く生息していた。今回の調査でも、壁面でアラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、イワフジツボが、遊水室内でレイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向を示していた。

D-7 の地点では、Co 製パネルの M. W. L. $\pm 0\text{m}$ ~ L. W. L. $+0.25\text{m}$ でイワフジツボが、L. W. L. $+0.25\text{m}$ でサンカクフジツボ（固着性）が主要種となっていた。鋼製パネルの M. W. L. $\pm 0\text{m}$ ~ L. W. L. $+0.25\text{m}$ でカンザシゴカイ科、イワフジツボが、 $\pm 0\text{m}$ でレイシガイが主要種となっていた。護岸壁の+1m ではアラレタマキビ、イワフジツボが、 $\pm 0\text{m}$ ではムラサキイガイ、二枚貝のマガキ（固着性）、イワフジツボが、L. W. L. $+0.25\text{m}$

～M. W. L. -4m ではカンザシゴカイ科や Phoronis 属が主要種となっていた。

表 4-12 (1) 目視調査結果概要 (動物) 泉大津沖埋立処分場

D-2	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
調査日	基質	アロク	アロク	アロク	アロク	アロク	アロク	アロク	鰐石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ カラマツガイ	レイシガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキガイ イワフジツボ	ムササギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	苔虫綱	-	イトマキヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	ヨメガカサ イボニシ ムラサキガイ	イボニシ ムラサキガイ	カンザシゴカイ科	苔虫綱	コシダカガシラ カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱	シマメノフネガイ	-	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	-
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ イワフジツボ	-	尋常海綿綱 ヒドロ虫綱	Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	コシダカガシラ サンショウウニ	コシダカガシラ	-	サンショウウニ	サンショウウニ	サンショウウニ	-	-
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ カラマツガイ イワフジツボ	イボニシ	ヒドロ虫綱 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ	-	-	キヒトデ	-	-	-	-
	令和2年5月30日	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ ウノアシ イワフジツボ	-	-	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱	-	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	5	5	3	3	3	6	3	4	4	4	3	4	3	2	1
	平成26年6月2日	2	4	8	6	7	9	7	10	6	5	6	8	7	4	0
	平成28年6月4日	3	9	9	7	9	7	7	8	7	6	6	6	5	2	0
	平成30年5月26日	2	13	9	7	8	7	10	9	4	6	6	7	5	0	0
	令和2年5月30日	2	13	7	5	5	5	6	3	4	6	6	3	4	0	0

D-3	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
調査日	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキガイ	ムラサキガイ	レイシガイ ムラサキガイ カンザシゴカイ科 アミコケムシ科 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 アミコケムシ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 泥集	苔虫綱 イトマキヒトデ 泥集	-	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-	-
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	クサミヤギ イボニシ カラマツガイ キクハナガイ ムラサキガイ イワフジツボ	イボニシ ムラサキガイ	海綿動物門 レイシガイ ムラサキガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	フサコケムシ科 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	フサコケムシ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 苔虫綱	イボニシ 苔虫綱 キヒトデ	-	-	キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキガイ	尋常海綿綱 ムラサキガイ	尋常海綿綱 ムラサキガイ	Phoronis属 苔虫綱 レイシガイ ムラサキガイ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	サンショウウニ	サンショウウニ	シマメノフネガイ サンショウウニ	サンショウウニ	苔虫綱 サンショウウニ	-	-
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ イワフジツボ	ウノアシ ムラサキガイ	レイシガイ ムラサキガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ ムラサキガイ 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	キヒトデ	-	キヒトデ	苔虫綱	-	苔虫綱	-
	令和2年5月30日	アラレタマキビ	ヒザラガイ ヨメガカサ コモレビコガモガイ アラレタマキビ ムラサキガイ	ムラサキガイ	イソギンチャク目 ムラサキガイ カンザシゴカイ科	イソギンチャク目 ムラサキガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	-	-	-	キヒトデ	キヒトデ	-	サンショウウニ	-
種類数	平成22年5月21日	2	4	4	11	7	8	7	8	5	3	6	3	3	1	0
	平成26年6月2日	2	7	7	12	11	12	9	14	5	5	6	6	6	7	0
	平成28年6月4日	1	8	3	8	11	9	7	10	6	5	6	4	4	3	0
	平成30年5月26日	1	9	5	8	11	9	5	6	4	5	6	6	3	4	0
	令和2年5月30日	2	11	5	5	8	8	6	5	4	6	6	5	5	4	1

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

表 4-12 (2) 目視調査結果概要 (動物) 泉大津沖埋立処分場

D-5		エコ岸壁								
		壁面					遊水室			
		+1	±0	-1	-2	-3				
調査日	基質	ケーソン	石網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	シマメノウツネガイ レイシガイ カンザシゴカイ科 アミコケムシ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキイガイ イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ マナマコ	レイシガイ イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ マナマコ	
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ	
	令和2年5月30日	アラレタマキビ	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	-	
種類数	平成26年6月2日	1	5	9	11	11	10	8	11	
	平成28年6月4日	1	3	8	9	9	10	8	10	
	平成30年5月26日	1	3	12	10	9	11	11	10	
	令和2年5月30日	3	4	6	8	6	7	6	5	

		エコ岸壁													
		壁面							遊水室						
D-6	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室			
	調査日 基質	ケーソン	石網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
主要種※	平成22年5月21日	イワフジツボ	レイシガイ イボニシ ムラサキイガイ マダギ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科	キヒトデ
	平成26年6月2日	アラレタマキビ イワフジツボ	イボニシ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	シマメノウツネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ	シマメノウツネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	
	平成28年6月4日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	サンカクフジツボ 苔虫綱 サンショウウニ ホヤ綱(単体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(単体性)	-	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ 苔虫綱	レイシガイ ムラサキイガイ ヤドリカサ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ウミフクロウ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ	カンザシゴカイ科 ウミフクロウ ヤドリカサ科 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	
	平成30年5月26日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	イソギンチャク目 ムラサキイガイ ヨロコッパフジツボ 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(単体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(単体性)	-	イソギンチャク目 レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	イソギンチャク目 レイシガイ ムラサキイガイ Phoronis属 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 キヒトデ	
	令和2年5月30日	アラレタマキビ イワフジツボ	尋常海綿綱	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 Phoronis属	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	イソギンチャク目 レイシガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ	イソギンチャク目 レイシガイ Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	イソギンチャク目 レイシガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	レイシガイ マナマコ	
種類数	平成22年5月21日	2	13	12	10	8	8	5	7	6	4	6	3	2	
	平成26年6月2日	2	4	7	7	10	8	10	11	11	13	10	10	14	
	平成28年6月4日	3	5	8	9	5	8	8	9	12	12	8	11	16	
	平成30年5月26日	3	5	9	11	6	7	7	10	12	6	9	7	5	
	令和2年5月30日	2	4	9	8	8	8	10	11	11	6	10	8	6	

D-7		Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁							
		M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.		L.W.L.		M.W.L.			
		±0	+0.25	±0	+0.25	+1	±0	+0.25	-2	-3	-4	-5	-6
調査日	基質	Co		鋼		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
主要種※	令和2年5月30日	イワフジツボ	イワフジツボ サンカクフジツボ	レイシガイ カンザシゴカイ科 イワフジツボ	カンザシゴカイ科 イワフジツボ	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ マダギ イワフジツボ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 Phoronis属	カンザシゴカイ科 Phoronis属	カンザシゴカイ科	-	-
	令和2年5月30日	2	7	11	10	2	4	7	5	5	6	8	8

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

4-2 遊泳魚類等の状況

表 4-13 に各処分場における遊泳魚類等の目視観察結果の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

(1) 神戸沖埋立処分場

今回の調査では、遊泳魚類等としてメバル、カサゴ、ウミタナゴ、キュウセン、ホシササノハベラ、ハゼ科、シリヤケイカの計 7 種が目視確認された。巨礫部分の-6～-7m 付近で種類数、個体数ともに多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類等のほとんどは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロックがこれら魚類等の良好な生息環境となっていると考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、平成 22 年度以降、7～11 種で同程度であると判断され、個体数については、平成 26 年度調査時に最大であり、その他の年度では同程度で推移していると思われる。

(2) 大阪沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてボラ、メバル、カサゴ、クジメ、クロダイ、ウミタナゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、コブダイ、ナベカ、カワハギ、ウマヅラハギの計 12 種が目視確認され、海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類のほとんどは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっており、ボラなど回遊魚にとっても餌場などとして利用されているものと考えられる。

なお、これまでの調査と比較すると、種類数については、平成 22 年度は 2 種と少なかったが、平成 24 年度以降は 8～14 種であり、10 種前後で推移している。個体数については、平成 26～30 年度は多かったが、今年度はやや少ない状況であった。

(3) 泉大津沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてメバル、カサゴ、アナハゼ、キジハタ、クロダイ、イシダイ、スズメダイ、キュウセン、ホシササノハベラ、コブダイ、アカオビシマハゼ、カワハギ、マダコの計 13 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類等のほとんどは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっていると考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、平成 28 年度に 17 種類で最大となっているが、今年度調査も含めた他の年度では同程度で推移している。個体数については、今年度は、cc:51 個体以上の出現がなく、やや魚類等の生息個体数が、少ない状況であった。

表 4-13 遊泳魚類等目視観察結果の概要

場所		神戸沖					
調査年度		H22	H24	H26	H28	H30	R2
個体数 概要	c (11～50個体) の出現頻度	0	2	4	1	1	2
	cc (51個体以上) の出現頻度	0	0	0	0	0	0
出現種類数		7	8	10	11	11	7

場所		大阪沖					
調査年度		H22	H24	H26	H28	H30	R2
個体数 概要	c (11～50個体) の出現頻度	1	3	6	8	7	2
	cc (51個体以上) の出現頻度	0	0	0	0	0	0
出現種類数		2	8	11	8	14	12

場所		泉大津沖				
調査年度		H22	H26	H28	H30	R2
個体数 概要	c (11～50個体) の出現頻度	4	6	7	2	4
	cc (51個体以上) の出現頻度	4	1	1	3	0
出現種類数		11	12	17	13	13

注 1) 個体数概要においては、各魚種ごとの観察水深帯別の c:11～50 個体または cc:51 個体以上の出現頻度を集計したものであり、神戸沖埋立処分場 3 地点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 地点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 地点 (D-2、D-3、D-5、D-6) の合計である。

注 2) 個体数の少ない rr:1～2 個体、r:3～10 個体については種類数には集計しているが、個体数の集計は割愛した。

4-3 水質等の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

表 4-14 に神戸沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（D O）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されていない。

今回の調査で相対光量が 1% 以下になる水深は 7～9m であり、それより浅い部分が概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

過年度調査と比較すると、今回の調査では A-2、A-4、A-5 の 3 地点ともに透明度が過去最低値を記録しているが、水深 2～3 m 以浅の D O 値が過飽和の状態であることから、表層域での植物プランクトンの増殖によるものと推定される。A-2、A-5 の 2 地点において D O の最低値が低い状況がみられたが、海藻の生育する水深帯である 5～6 m 以浅では、ほぼ 5mg/L 以上となっており、今年度も過年度同様に海生生物に与える影響は少ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-14 水質等調査結果の概要（神戸沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
神戸沖	A-2	平成22年5月30日	3.0	15.7 ～ 17.6	27.1 ～ 32.1	4.6 ～ 10.6	0.1 ～ 62.5
		平成24年5月26日	4.1	15.4 ～ 19.4	25.8 ～ 32.2	3.4 ～ 10.7	0.1 ～ 29.8
		平成26年6月1日	1.8	16.0 ～ 22.0	24.1 ～ 32.2	3.8 ～ 11.7	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.3	16.6 ～ 21.0	23.1 ～ 32.0	2.6 ～ 11.3	0.2 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.7	15.6 ～ 20.5	23.4 ～ 32.3	1.5 ～ 12.0	0.3 ～ 100.0
		令和2年5月31日	1.7	16.3 ～ 20.2	24.6 ～ 32.6	1.4 ～ 11.1	0.2 ～ 100.0
	A-4	平成22年5月30日	2.8	15.8 ～ 17.3	27.6 ～ 32.1	4.7 ～ 11.2	0.1 ～ 73.3
		平成24年5月26日	3.8	15.6 ～ 19.0	25.5 ～ 32.1	3.6 ～ 10.3	0.1 ～ 31.8
		平成26年6月1日	3.0	16.5 ～ 24.5	25.5 ～ 32.2	4.3 ～ 11.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.2	16.8 ～ 20.9	22.8 ～ 32.0	2.9 ～ 10.5	0.3 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.8	16.1 ～ 20.7	21.7 ～ 32.4	2.5 ～ 8.0	0.0 ～ 100.0
		令和2年5月31日	1.7	16.7 ～ 19.9	26.4 ～ 32.7	2.9 ～ 10.4	0.1 ～ 100.0
	A-5	平成22年5月30日	2.3	16.1 ～ 16.8	29.1 ～ 31.8	5.5 ～ 10.3	0.1 ～ 59.8
		平成24年5月26日	3.5	15.7 ～ 18.2	23.4 ～ 32.1	5.1 ～ 9.6	0.1 ～ 73.5
		平成26年6月1日	5.5	16.8 ～ 21.5	29.4 ～ 32.2	4.7 ～ 9.2	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.9	17.1 ～ 20.1	27.7 ～ 32.0	3.3 ～ 8.8	0.3 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.8	16.8 ～ 18.9	27.3 ～ 32.4	3.9 ～ 7.9	0.1 ～ 100.0
		令和2年5月31日	2.1	16.7 ～ 19.9	28.6 ～ 32.6	2.0 ～ 9.6	0.1 ～ 100.0

(2) 大阪沖埋立処分場

表 4-15 に大阪沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（DO）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。

今回の調査で相対光量が 1% 以下になる水深は 6～9m であり、それより浅い部分が概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

過年度調査と比較すると、今回の調査では C-1、C-2、C-3 の 3 地点ともに透明度が過去最低値を記録しているが、水深 3～4 m 以浅の DO 値が過飽和の状態であることから、表層域での植物プランクトンの増殖によるものと推定される。C-1 で DO の最低値が低い状況がみられたが、海藻の生育する水深帯である 9m 以浅では、5mg/L 以上となっており、今年度も過年度同様に海生生物に与える影響は少ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-15 水質等調査結果の概要（大阪沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
大阪沖	C-1	平成22年5月29日	3.6	15.8 ～ 16.5	27.2 ～ 32.1	4.8 ～ 7.2	0.3 ～ 72.1
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 20.4	24.3 ～ 32.2	5.5 ～ 13.5	0.1 ～ 40.6
		平成26年5月31日	2.3	16.3 ～ 23.2	26.2 ～ 32.2	3.9 ～ 11.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月29日	4.8	17.1 ～ 20.1	26.5 ～ 32.1	3.5 ～ 8.8	0.6 ～ 100.0
		平成30年6月3日	2.5	16.3 ～ 20.3	24.5 ～ 32.5	2.9 ～ 9.5	1.2 ～ 100.0
		令和2年5月24日	1.9	16.2 ～ 20.5	26.3 ～ 32.6	2.1 ～ 12.7	0.1 ～ 100.0
	C-2	平成22年5月29日	3.3	16.2 ～ 16.6	28.5 ～ 32.0	5.6 ～ 8.0	0.4 ～ 66.5
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 19.4	17.3 ～ 32.4	5.2 ～ 10.9	0.1 ～ 61.7
		平成26年5月31日	2.5	16.5 ～ 24.5	26.5 ～ 32.0	5.0 ～ 12.4	0.2 ～ 100.0
		平成28年5月29日	6.2	18.1 ～ 20.5	22.6 ～ 32.1	5.7 ～ 8.1	4.5 ～ 100.0
		平成30年6月3日	4.8	16.6 ～ 20.7	25.9 ～ 32.5	3.8 ～ 8.8	1.5 ～ 100.0
		令和2年5月24日	1.9	16.2 ～ 20.8	27.4 ～ 32.6	4.2 ～ 13.5	0.1 ～ 100.0
	C-3	平成22年5月29日	5.3	16.0 ～ 19.0	22.4 ～ 32.1	5.3 ～ 8.6	0.1 ～ 59.9
		平成24年6月3日	5.5	16.7 ～ 18.7	30.1 ～ 32.2	6.4 ～ 9.1	0.5 ～ 67.2
		平成26年5月31日	2.5	16.1 ～ 24.4	26.8 ～ 32.2	3.4 ～ 12.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月29日	7.1	17.8 ～ 19.7	28.9 ～ 32.2	5.9 ～ 7.2	1.4 ～ 100.0
		平成30年6月3日	2.1	16.6 ～ 22.2	25.9 ～ 32.5	3.8 ～ 11.4	1.2 ～ 100.0
		令和2年5月24日	1.6	16.2 ～ 21.2	26.8 ～ 32.5	4.0 ～ 13.1	0.1 ～ 100.0

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 4-16 に泉大津沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（DO）に地点間での大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。

今回の調査で相対光量が 1%以下になる水深は 9～11m 以下であり、それより浅い部分が概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

過年度調査と比較すると、今回の調査では D-5、D-6 の 2 地点で透明度が過去最低値を記録しているが、表層域の DO 値が過飽和の状態であることから、表層域での植物プランクトンの増殖によるものと推定される。また、D-2、D-5、D-6 で DO の最低値が低い状況がみられたが、D-2 については海藻の生育する水深帯である 6m 以浅では、5mg/L 以上となっており、また、D-5、D-6 ではエコ護岸の存在する水深では 5mg/L 以上となっていることから、今年度も過年度同様に海生生物に与える影響は少ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-16 水質等調査結果の概要（泉大津沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
泉大津沖	D-2	平成22年5月21日	7.5	14.7 ～ 19.6	29.4 ～ 32.0	3.8 ～ 9.9	1.5 ～ 62.4
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.2	17.8 ～ 19.9	30.9 ～ 32.1	2.9 ～ 13.1	0.2 ～ 100.0
		平成30年5月26日	4.0	15.6 ～ 21.1	28.5 ～ 32.1	2.9 ～ 10.9	2.4 ～ 100.0
		令和2年5月30日	2.6	16.2 ～ 20.9	29.3 ～ 32.5	0.9 ～ 9.8	0.6 ～ 100.0
	D-5	平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.3	17.0 ～ 20.1	30.6 ～ 32.1	3.0 ～ 11.2	0.2 ～ 100.0
		平成30年5月26日	3.1	15.6 ～ 21.2	22.8 ～ 32.0	2.2 ～ 8.8	1.4 ～ 100.0
		令和2年5月30日	1.8	16.4 ～ 21.2	29.2 ～ 32.4	1.2 ～ 11.7	0.4 ～ 100.0
	D-6	平成22年5月21日	7.3	14.6 ～ 22.0	24.4 ～ 32.0	2.8 ～ 10.3	1.4 ～ 56.9
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	3.0	17.8 ～ 20.2	27.2 ～ 32.1	2.8 ～ 9.7	0.7 ～ 100.0
		平成30年5月26日	3.5	16.0 ～ 20.4	29.1 ～ 31.9	4.8 ～ 8.5	3.5 ～ 100.0
		令和2年5月30日	2.6	16.4 ～ 20.3	30.0 ～ 32.4	1.9 ～ 9.3	2.2 ～ 100.0

4-4 藻場分布の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（6点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、タマハハキモクおよび多年生のヒジキ、ヨレモクモドキからなる藻場の分布が確認された。

表 4-17 に確認された藻場構成種および藻場構成種以外の主要海藻ごとに平成 30 年度調査からの変化状況について整理した。なお、護岸配置の状況は図 4-1 のとおりである。

前回と比較してワカメ、シダモク、タマハハキモクは藻場が減少する傾向がみられた。ヨレモクモドキは前回とほぼ同程度の生育状況であった。ヒジキについては、今回再確認である。

その他主要海藻については、緑藻のアオサ属で被度の増大傾向が、紅藻のマクサで分布域および被度の増大傾向が、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻で分布域および被度の縮小傾向がみられた。

表 4-17 確認された藻場構成種等の分布状況の変化 神戸沖埋立処分場

区 分	種 類	分布域の変化	被度の変化 (生育密度)	備 考
藻場 構成種	ワカメ	前回より減少	前回より減少	分布域は各護岸とも減少、西護岸では未確認 被度 51%以上の濃密域が消滅
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ南護岸の 1 箇所を確認
	シダモク	前回よりやや減少	前回より減少	分布域は東護岸で減少 被度 51%以上の濃密域が消滅
	ヒジキ	今回再確認	今回再確認	H21 年、H22 年と同じ西護岸の 1 箇所を確認
	アカモク	今回未確認	今回未確認	H30 年のみ西護岸の 1 箇所を確認
	タマハハキモク	前回より減少	前回より減少	分布域は西護岸と東護岸で減少 被度 51%以上の濃密域が消滅
	ヨレモクモドキ	前回よりやや増加	前回と同程度	分布域は西護岸で増加
その他 主要海藻	アオサ属	前回と同程度	前回より増加	被度 51%以上の濃密域が出現
	マクサ	前回よりやや増加	前回よりやや増加	分布域は南護岸で増加
	ススカケベニ	前回より増加	前回と同程度	分布域は各護岸で増加、東護岸で再確認
	フダラク	前回より減少	前回よりやや減少	分布域は南護岸で減少、東護岸では未確認、西護岸では再確認、
	ツルツル	前回より減少	前回と同程度	南護岸の 1 箇所でのみ確認
	ベニスナゴ	前回より減少	前回よりやや減少	分布域は西護岸と東護岸で減少
	カバノリ	前回よりやや減少	前回と同程度	分布域は西護岸、東護岸で減少

※：カジメ、ヒジキ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

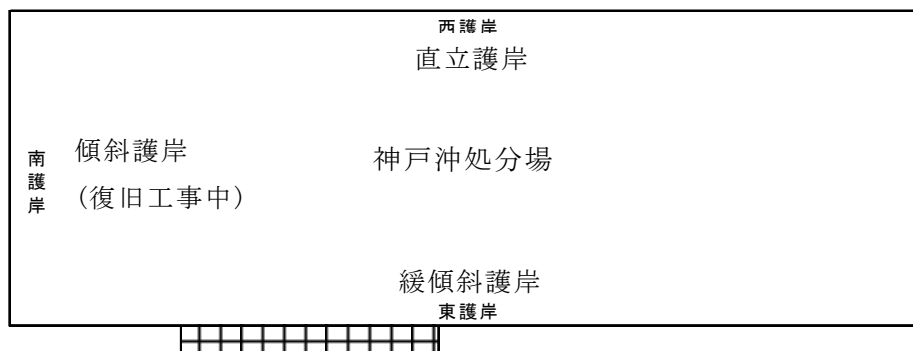


図 4-1 神戸沖埋立処分場 護岸配置

(2) 大阪沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（6 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモクおよび多年生のヒジキからなる藻場の分布が確認された。

表 4-18 に確認された藻場構成種および藻場構成種以外の主要海藻ごとに平成 30 年度調査からの変化状況について整理した。なお、護岸配置の状況は図 4-2 のとおりである。

前回と比較してワカメ、タマハハキモクについては分布域の縮小が認められ、シダモクについては被度の減少が確認された。今回、アカモクについては再確認、ヒジキについては初確認となった。

その他主要海藻については、緑藻のアオサ属、紅藻のマクサ、ススカケベニで分布域および被度の増大が、紅藻のフダラク、ツルツルで分布域および被度の縮小の傾向がみられた。

表 4-18 確認された藻場構成種等の分布状況の変化 大阪沖埋立処分場

区 分	種 類	分布域の変化	被度の変化 (生育密度)	備 考
藻場 構成種	ワカメ	前回より減少	前回と同程度	分布域は各護岸で減少
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H22、H24 にわずかに確認
	シダモク	前回と同程度	前回より減少	被度は北護岸で減少
	ヒジキ	今回初確認	今回初確認	北護岸の 1 箇所を確認
	アカモク	前回より増加	前回より増加	今回西護岸で再確認
	タマハハキモク	前回より減少	前回と同程度	分布域は各護岸で減少
	ヨレモクモドキ	今回未確認	今回未確認	H22 に 1 箇所でのみ確認
その他 主要海藻	アオサ属	前回より増加	前回より増加	分布域は各護岸で増加 被度 51%以上の濃密域が出現
	マクサ	前回よりやや増加	前回よりやや増加	分布域は各護岸で増加
	ススカケベニ	前回より増加	前回より増加	分布域は各護岸で増加 被度 51%以上の濃密域が出現
	フダラク	前回より減少	前回より減少	分布域、被度ともに各護岸で減少
	ツルツル	前回より減少	前回より減少	分布域、被度ともに北護岸、西護岸で減少
	ベニスナゴ	前回と同程度	前回よりやや減少	分布は北護岸で増加、南護岸で減少 被度 51%以上の濃密域が消滅
	カバノリ	前回よりやや減少	前回と同程度	分布域は西護岸、南護岸で減少

※：カジメ、ヒジキ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

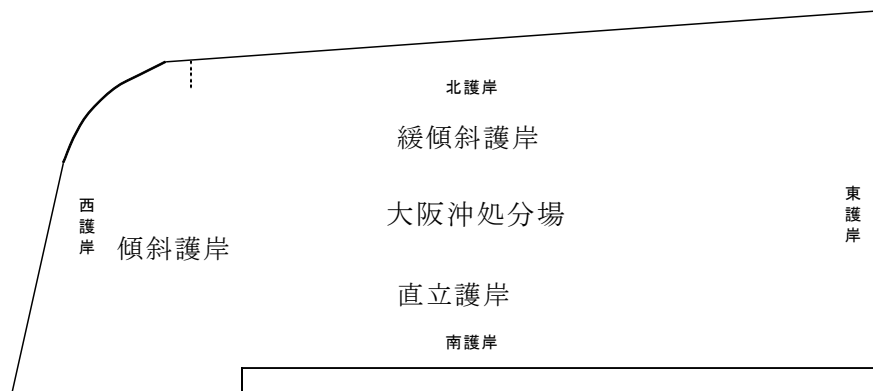


図 4-2 大阪沖埋立処分場 護岸配置

4-5 まとめ(要約)

フェニックス埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として、神戸沖埋立処分場・大阪沖埋立処分場において、坪刈りと目視による付着動植物調査、遊泳魚類等調査、水質調査、藻場分布調査を令和2年春季に実施した。

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として緩傾斜護岸の平均水面付近では緑藻のアオサ属が多くみられた。傾斜護岸の-3m付近では紅藻のマクサが繁茂していた。直立護岸では藻類の付着は少なかった。藻場構成種となる大型褐藻では-2～-3m付近の緩傾斜護岸でシダモクとタマハハキモクが、傾斜護岸の-4～-6m付近でワカメ、シダモク、タマハハキモクが確認された。

付着動物は平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキイガイや移動性の巻貝であるコモレビコガモガイが多くみられた。-1～-3mでは、固着性のカンザシゴカイ科や固着性の筍虫動物である Phoronis 属が多くみられた。-1m以深では移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどがみられた。

魚類ではメバル、カサゴ、ウミタナゴ、キュウセン、ホシササノハベラ、ハゼ科などの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m付近で確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸の水深帯4～6m以浅では何れも5mg/L以上であり、5mg/L以下の水深帯でも生物の生息・生育は確認された。海藻類の生育制限因子となる光量については、7～9m以浅の概ね海藻類の生育水深帯では相対光量が1.0%以上となっていた。また、植物プランクトンの表層域での増殖のためと考えられる透明度の低下した地点もみられたが、処分場周辺の水質は動植物の生息・生育環境として問題のない状況であると言えた。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモク、多年生のヒジキ、ヨレモクモドキの分布が確認された。中でもワカメ、シダモク、タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認された。ヒジキは西護岸の1箇所、ヨレモクモドキは西護岸と東護岸で小規模に生育していた。

前回平成30年度調査と比較すると、ワカメ、シダモク、タマハハキモクの分布域の縮小、被度の減少など藻場の減少が確認された。平成30年度には藻場の増大、平成28年度には藻場の縮小がうかがわれており、今後の継続調査でこうした状況の推移を確認して行く必要がある。

なお、神戸沖埋立処分場の傾斜護岸（南護岸）は令和2年5月31日時点では復旧

工事中であり、被覆石の設置が完了した状態で本調査を行っているが、平成 30 年度調査と比較しても消波ブロック、被覆石の状態等、護岸の周辺環境が大きく変化している様子は見受けられなかった。藻場分布においては分布域、被度が南護岸のみで大きく縮小した藻類はなく、南護岸で縮小している場合は西護岸、東護岸でも縮小を確認した。また、魚類についても過年度の出現状態状況からの著しい変化は認められなかった。以上より、調査時においては、南護岸周辺に生息する海生生物に対する復旧工事の影響はほぼなかったと推測される。

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として、藻場構成種となる大型褐藻類では、各護岸の-1~-6m 付近でワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモクなどが確認された。この他、平均水面より上部の緩傾斜護岸ではアオサ属の繁茂が確認され、-5~-6m 付近の傾斜護岸では褐藻類のコモングサや紅藻類のツノマタ属が多く、-5m 以深の各護岸ではサンゴモ科、ススカケベニ、イワノカワ科などの紅藻類が生育していた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では移動性の巻貝であるコモレビコガモガイ、カラマツガイ、イボニシなどが多く生息していた。さらに、直立護岸の平均水面付近では固着性二枚貝のムラサキイガイやマガキが多く付着しており、緩傾斜護岸の-3~-5m では固着性のカンザシゴカイ科や苔虫綱などの被度が高かった。各護岸の-4m 以深では移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが生息していた。

魚類ではメバル、カサゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、コブダイなどの定住性の魚類が各護岸の-2~-9m 付近で多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸の設置水深帯にほぼ等しい 9~11m 以浅では何れも 5mg/L 以上であった。海藻類の生育制限因子となる光量については、5~8m 以浅の概ね海藻類の生育水深帯では相対光量が 1.0%以上となっていた。また、植物プランクトンの表層域での増殖のためと考えられる透明度の低下した地点もみられたが、処分場周辺の水質は動植物の生息・生育環境として問題のない状況であると言えた。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモク、多年生のヒジキの分布が確認された。ワカメ、シダモク、タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認され、前回調査と比較して、ワカメとタマハハキモクについては分布域の縮小が、シダモクについては被度の減少がみられた。なお、今回調査ではヒジキが初めて確認された。

大阪沖埋立処分場は、平成 21 年 7 月の護岸概成以降 11 年近くが経過した。平成 30 年度は藻場の増大、遊泳魚類等の個体数の増加傾向が認められたが、今回の調査では平成 30 年度から藻場の縮小、魚類の個体数の減少が確認された。この事象が、突発的なものか、経年的なものか、あるいは他の要因によるものなのかの判断材料として、今後の調査を通じて、長期的な処分場護岸周辺の生物相の量的かつ質的な推移を確認しておく必要があると考える。

(3) 泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として、藻場構成種となる大型褐藻では-1～-8m でワカメが多く確認された。この他、傾斜護岸の-1～-2m 付近では緑藻のアオサ属が、各護岸の-2m 以深ではススカケベニ、ムカデノリ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻が多くみられ、エコ岸壁のケーソン部分や遊水室内では、海藻の着生はないか、少なかった。エコパネルの内、Co 製パネルでは、L. W. L. +0.25m 付近でのアオサ属の繁茂がみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキイガイ、移動性の巻貝であるコモレビコガモガイやアラレタマキビ、固着性のイワフジツボなどが多く確認された。-1m 以深のケーソンや護岸ブロック表面ではムラサキイガイ、固着性のカンザシゴカイ科、箒虫動物の Phoronis 属、苔虫綱などが多くみられ、-5m 以深では、移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、サンショウウニなどが多くみられた。遊水室内では、カンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱が多く着生し、移動性の巻貝であるレイシガイ、移動性のイトマキヒトデ、マナマコなどが生息していた。Co 製パネル、鋼製パネルの平均水面より上部ではイワフジツボが多く付着していた。

魚類ではメバル、クロダイなどの定住性の魚類が各護岸の±0～-11m 付近及び遊水室内に多く生息していた。その他、Co 製パネル周辺でメバルが多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸の設置水深帯にほぼ等しい 4～6m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、5mg/L 以下の水深帯でも生物の生息・生育は確認された。海藻類の生育制限因子となる光量について、護岸の設置されている 8～10m 以浅の水深帯において相対光量が 1.0%以上となっていた。また、植物プランクトンの表層域での増殖のためと考えられる透明度の低下した地点もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。